

令和 6 年度

出会いから結婚・子育てまでの切れ目ない
支援のための県民意識調査

報告書

令和 6 年 10 月

高 知 県

目次

I	調査の設計	1
II	調査結果の見方	5
III	調査対象者の特性	9
1	広域市町村圏別の配布・回収状況	10
2	対象者の特性	10
IV	調査結果のあらまし	15
V	調査結果（解説・グラフ）	25
1	「結婚」「妊娠・出産」「子育て」の環境について	26
問 1	高知県が『安心して「結婚」「妊娠・出産」「子育て」できるような社会』になっていると思うか	24
問 2	高知県が『こどもまんなか社会の実現』に向かっていると思うか	34
2	「結婚」「妊娠・出産」「子育て」への支援の取組について	38
問 3	『安心して「結婚」「妊娠・出産」「子育て」できるような社会』を実現するために特に力を入れるべき施策	38
問 4	高知県が少子化対策の取り組みとして行っている各事業に対する認知度・関心度	42
問 5	「高知で恋しよ！！マッチング」に関心のない理由	66
3	出会い・結婚について	68
問 6	将来結婚したいと思うか	68
問 7	どのようなきっかけで知り合いたと思うか （もしくは、どのようなきっかけで知り合ったか。）	70
問 8	現在結婚していない理由	74
問 9	結婚相手に求める年収	78
問 10	出会いや結婚に関する必要な行政支援	80
4	子育てについて	84
問 11	第 1 子を産みたい（欲しい）と思う年齢	84
問 12	理想的な子どもの人数	86
問 13	現実的に持ちたいと考えている子どもの人数	88
問 14	理想の数だけ子どもを持たない理由	90
問 15	理想の数だけ子どもを持てる環境	94
問 16	理想的な人数の子どもを持つための自身の労働時間	98
問 17	保育所・幼稚園・認定こども園など子育てを支える施設の充実度	100
問 18	子育てを支えるために施設に力を入れてほしいこと	102
問 19	妊娠期から乳幼児期の子育て支援に関して充実してほしい取り組み	106

5	女性の活躍とワークライフバランスについて	110
問 20	女性が職場で活躍するために必要なもの	110
問 21	働きながら子育てしやすい職場環境づくりのために必要な支援	114
問 22	男性の育児休業取得率の向上のために必要な支援	118
問 23	性別役割分担に関する経験	120
問 24	1日あたりの家事・育児にかかる時間	140
VI	調査結果（統計表）	155
VII	自由回答（少子化対策等に関する意見・感想）	225
VIII	自由回答（各設問【その他】の内容）	255
IX	調査結果（単純集計結果）	269
X	参考資料（調査票）	289



I 調査の設計

1 調査の目的

この調査は、県民の皆様のお考えをお聞きし、出会いから結婚、子育てまでの切れ目のない支援を推進していくうえでの基礎資料としていくことを目的として行ったものです。

2 調査の事項

【1 「結婚」「妊娠・出産」「子育て」等の環境について】

高知県が『安心して「結婚」「妊娠・出産」「子育て」できるような社会』になっていると思うか／高知県が『こどもまんなか社会※の実現』に向かっていると思うか

【2 「結婚」「妊娠・出産」「子育て」への支援の取組について】

『安心して「結婚」「妊娠・出産」「子育て」できるような社会』を実現するために特に力を入れるべき施策／高知県が少子化対策の取り組みとして行っている各事業に対する認知度・関心度／「高知で恋しよ！！マッチング」に関心のない理由

【3 出会い・結婚について】

将来の結婚願望／結婚に向けた出会いを求める場合のきっかけ／現在結婚していない理由／結婚相手に求める年収／出会いや結婚に関して必要な行政支援

【4 子育てについて】

第1子を産みたい年齢／理想的な子どもの人数／現実的に持ちたいと考えている子どもの人数／理想的な人数の子どもを持たない理由／理想的な人数の子どもを持てる環境／理想的な人数の子どもを持つための労働時間／子育てを支える施設の充実度／子育てを支えるために施設に力を入れて欲しいこと／妊娠期から乳幼児期の子育て支援に関して充実してほしい取組

【5 女性の活躍とワークライフバランスについて】

女性が職場で活躍するのに必要なもの／働きながら子育てしやすい職場環境づくりのために必要な支援／男性の育児休業取得率向上のために必要な支援／性別役割分担意識に関する経験／1日あたりの家事・育児にかかる時間

3 調査の対象

◇高知県内全域の18歳以上39歳以下の県民4,000人（各市町村の「選挙人名簿」より抽出）

4 対象者の抽出方法

◇層化二段無作為抽出法

5 調査の方法

◇郵送法

6 調査の期間

◇令和6年8月28日（水）～9月11日（水）[15日間]

※ 全てのこども・若者が身体的、精神的、社会的に幸福な生活を送ることができる社会。

7 調査票配布数と回収状況

◇配布数：4,000 部

◇有効回収数：1,514 部（郵送回答：1,110 部、WEB：404 部）

◇有効回収率：37.9%

8 実査及び集計

◇株式会社 西日本科学技術研究所

Ⅱ 調査結果の見方

- 1 「Ⅴ 調査結果（解説・グラフ）」は「Ⅵ 調査結果（統計表）」に基づき、要点のみを記述しているので、あわせて参照すること。
- 2 「Ⅵ 調査結果（統計表）」の「サンプル」は有効調査人数を示し、比率（％）算出の基礎となっている。
- 3 「Ⅵ 調査結果（統計表）」に記入してある数値は、回答人数又は各回答項目に対する回答率であり、回答率は下記の式により求めている。

$$\text{回答率（％）} = \frac{\text{回答人数}}{\text{サンプル（有効調査人数）}} \times 100$$

- 4 質問への回答方法は「1 つだけ○印」、「あてはまるもの全てに○印」などの方法を採用している。単数回答の場合は、本文及び図表の比率は全て小数点第 2 位以下を四捨五入し、小数点第 1 位までを表記している。このため、比率の合計が 100.0%とにならない場合がある。また、複数回答の場合は、比率を合計すると 100.0%以上になる。
- 5 設問によっては、該当者の人数を母数として回答率を算出している。
- 6 設問によっては、同じ傾向の 2 つの選択肢の回答を合わせた分析を行っている。この場合、それぞれの回答数の和を母数で除して比率を算出している。したがって、図表の個別の比率の和とは若干異なる場合がある。
- 7 各質問に対する集計は、対象者の特性別（階層別）及び回答者別（質問間クロス）で分析している。

F1 性 別：男性、女性、その他の 3 種類の分類

F2 年 代 別：18 歳～24 歳、25 歳～29 歳、30 歳～34 歳、35 歳～39 歳の 4 階層に分類

F3 最 終 学 歴 別：中学校、高校、短大・専門学校・高専、大学、大学院の 5 種類に分類

F4 職 業 別：管理的職業、研究・技術の職業、法務・経営・文化芸術等の専門的職業、医療・看護・保健の職業、保育・教育の職業、事務的職業、販売・営業の職業、福祉・介護の職業、サービスの職業、警備・保安の職業、農林漁業の職業、製造・修理・塗装・製図等の職業、配送・輸送・機械運転の職業、建設・土木・電気工事の職業、運搬・清掃・包装・選別等の職業、主婦・主夫、学生、無職、無職（求職活動中）、その他の 20 種類に分類

F5 雇 用 形 態 等 別：雇用者（正規の職員（公務員））、雇用者（正規の雇用者（公務員以外））、雇用者（非正規の職員（公務員））、雇用者（非正規の職員（公務員以外））、雇用者（労働者派遣事業所の派遣社員）、使用者（役員・自営業主）、フリーランス、無職（主婦・主夫・学生を含む）、その他の 9 種類に分類

- F6 個人年収別：100万円未満、100万円～200万円未満、200万円～300万円未満、300万円～400万円未満、400万円～500万円未満、500万円～600万円未満、600万円～700万円未満、700万円～800万円未満、800万円以上の9種類に分類
- F7 世帯別：単身世帯（一人住まい）、夫婦（事実婚を含む）のみの世帯、親と子の世帯（二世代世帯）、三世代世帯（親、子、孫の世帯）、その他の5種類に分類
- F8 結婚の有無：結婚している（事実婚を含む）、未婚で交際中、未婚で交際している人はいない、交際未経験、離別・死別で交際中、離別・死別で交際している人はいないの6種類に分類
- F9 夫婦共働きの有無：はい・いいえの別
- F10 配偶者個人年収別：100万円未満、100万円～200万円未満、200万円～300万円未満、300万円～400万円未満、400万円～500万円未満、500万円～600万円未満、600万円～700万円未満、700万円～800万円未満、800万円以上、わからないの10種類に分類
- F11 子どもの数別：子どもなし、1人、2人、3人、4人、5人以上の6種類に分類
- F12 末子の状況別：乳児（1歳未満）、幼児（1歳～小学校入学前）、小学生、中学生以上の4種類に分類
- F13 広域市町村圏別：高知市、安芸広域圏、南国・香美広域圏、嶺北広域圏、仁淀川広域圏、高吾北広域圏、高幡広域圏、幡多広域圏の1市7広域圏に分類

※広域市町村圏別の市町村内訳は以下のとおりである。

高 知 市

安 芸 広 域 圏：室戸市、安芸市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村、芸西村

南国・香美広域圏：南国市、香南市、香美市

嶺 北 広 域 圏：本山町、大豊町、土佐町、大川村

仁 淀 川 広 域 圏：土佐市、いの町、日高村

高 吾 北 広 域 圏：佐川町、越知町、仁淀川町

高 幡 広 域 圏：須崎市、中土佐町、梶原町、津野町、四万十町

幡 多 広 域 圏：宿毛市、土佐清水市、四万十市、大月町、三原村、黒潮町



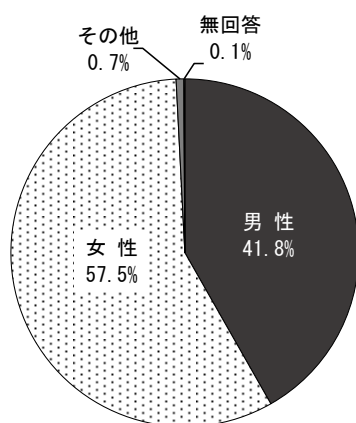
Ⅲ 調査対象者の特性

1 広域市町村圏別の配布・回収状況

広域市町村圏	配布数 (人)	有効回収状況		
		回答数 (人)	回収率 (%)	構成比 (%)
高知市	1,969	768	39.0	50.7
安芸広域圏	228	63	27.6	4.2
南国・香美広域圏	674	234	34.7	15.5
嶺北広域圏	45	14	31.1	0.9
仁淀川広域圏	310	104	33.5	6.9
高吾北広域圏	108	40	37.0	2.6
高幡広域圏	259	95	36.7	6.3
幡多広域圏	407	143	35.1	9.4
無回答		53		3.5
合 計	4,000	1,514	37.9	100.0

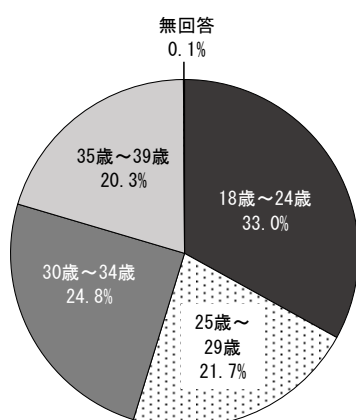
2 対象者の特性

F1 性別



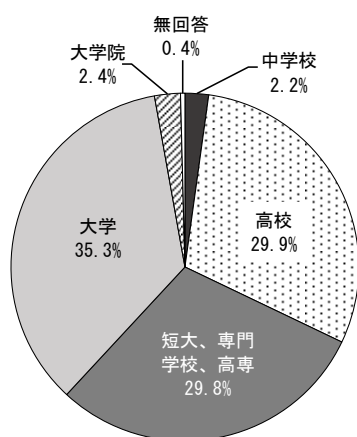
区 分	回答数 (人)	構成比 (%)
男 性	633	41.8
女 性	870	57.5
その他	10	0.7
無回答	1	0.1
合 計	1,514	100.0

F2 年代別



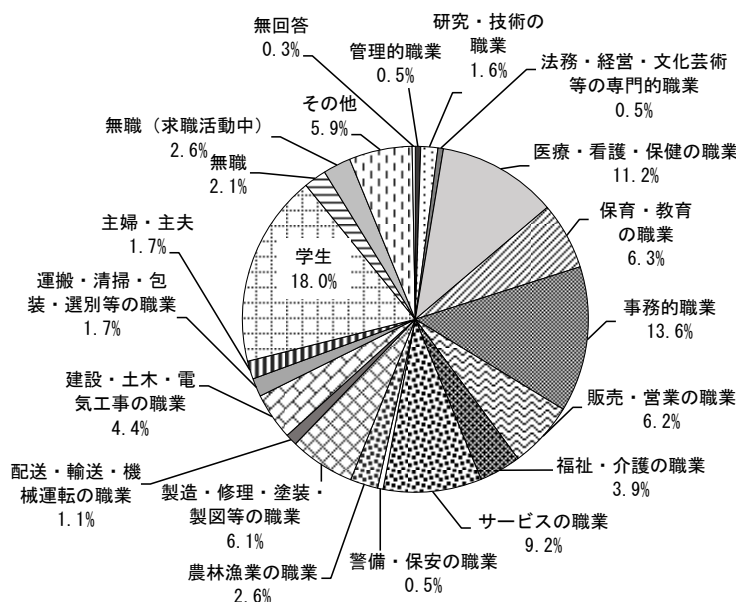
区 分	回答数 (人)	構成比 (%)
18歳～24歳	499	33.0
25歳～29歳	329	21.7
30歳～34歳	376	24.8
35歳～39歳	308	20.3
無回答	2	0.1
合 計	1,514	100.0

F3 最終学歴別



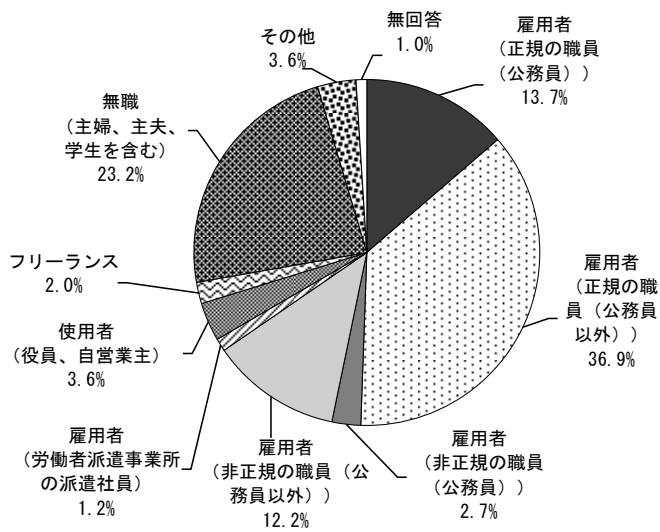
区 分	回答数 (人)	構成比 (%)
中学校	34	2.2
高校	452	29.9
短大、専門学校、高専	451	29.8
大学	534	35.3
大学院	37	2.4
無回答	6	0.4
合 計	1,514	100.0

F4 職業別



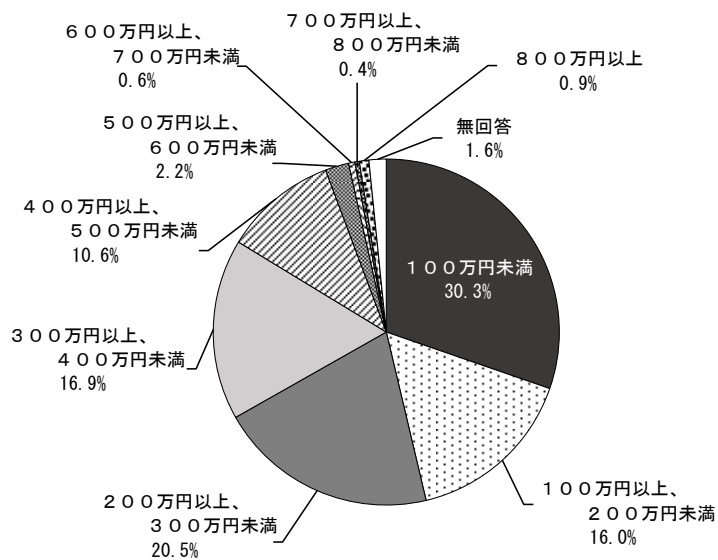
区 分	回答数 (人)	構成比 (%)
管理的職業	8	0.5
研究・技術の職業	24	1.6
法務・経営・文化芸術等の専門的職業	7	0.5
医療・看護・保健の職業	170	11.2
保育・教育の職業	96	6.3
事務的職業	206	13.6
販売・営業の職業	94	6.2
福祉・介護の職業	59	3.9
サービスの職業	140	9.2
警備・保安の職業	7	0.5
農林漁業の職業	40	2.6
製造・修理・塗装・製図等の職業	92	6.1
配送・輸送・機械運転の職業	16	1.1
建設・土木・電気工事の職業	66	4.4
運搬・清掃・包装・選別等の職業	26	1.7
主婦・主夫	26	1.7
学生	272	18.0
無職	32	2.1
無職（求職活動中）	39	2.6
その他	90	5.9
無回答	4	0.3
合 計	1,514	100.0

F5 職業の種別



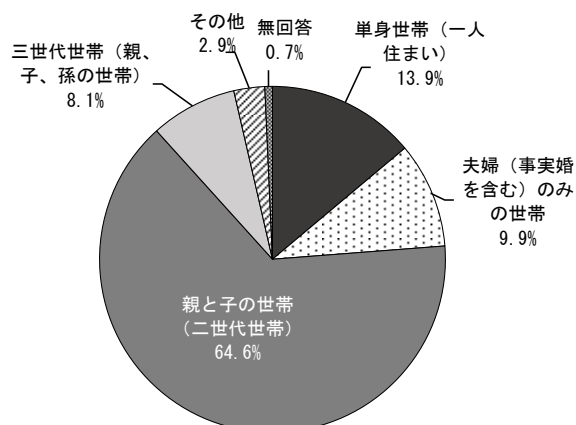
区 分	回答数 (人)	構成比 (%)
雇用者 (正規の職員 (公務員))	207	13.7
雇用者 (正規の職員 (公務員以外))	558	36.9
雇用者 (非正規の職員 (公務員))	41	2.7
雇用者 (非正規の職員 (公務員以外))	184	12.2
雇用者 (労働者派遣事業所の派遣社員)	18	1.2
使用者 (役員、自営業主)	54	3.6
フリーランス	31	2.0
無職 (主婦、主夫、学生を含む)	352	23.2
その他	54	3.6
無回答	15	1.0
合 計	1,514	100.0

F6 個人年収別



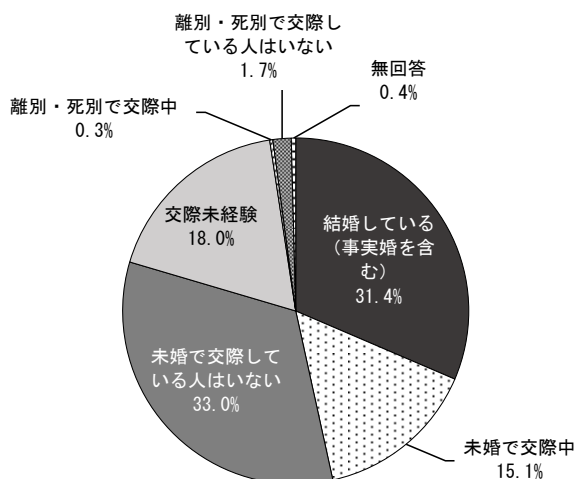
区 分	回答数 (人)	構成比 (%)
100万円未満	458	30.3
100万円以上、 200万円未満	242	16.0
200万円以上、 300万円未満	311	20.5
300万円以上、 400万円未満	256	16.9
400万円以上、 500万円未満	161	10.6
500万円以上、 600万円未満	34	2.2
600万円以上、 700万円未満	9	0.6
700万円以上、 800万円未満	6	0.4
800万円以上	13	0.9
無回答	24	1.6
合 計	1,514	100.0

F7 世帯別



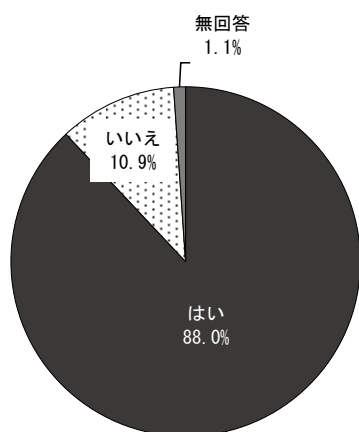
区 分	回答数 (人)	構成比 (%)
単身世帯（一人住まい）	210	13.9
夫婦（事実婚を含む）のみの世帯	150	9.9
親と子の世帯（二世帯世帯）	978	64.6
三世帯世帯（親、子、孫の世帯）	122	8.1
その他	44	2.9
無回答	10	0.7
合 計	1,514	100.0

F8 結婚の有無



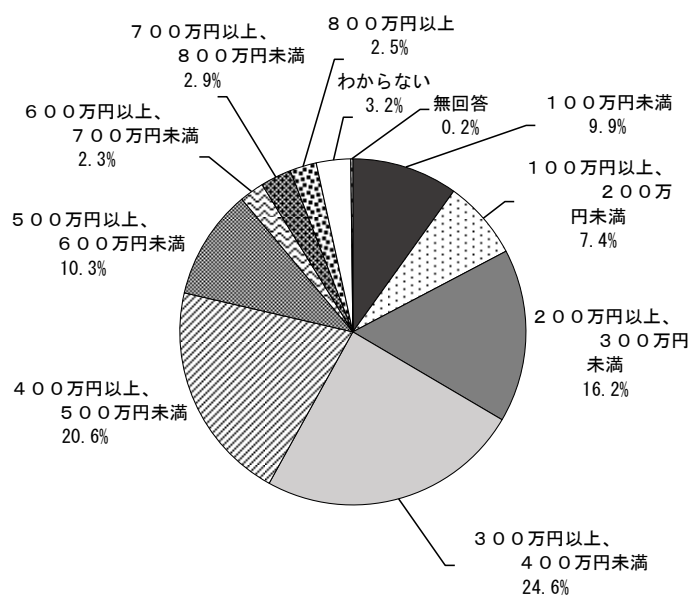
区 分	回答数 (人)	構成比 (%)
結婚している（事実婚を含む）	476	31.4
未婚で交際中	229	15.1
未婚で交際している人はいない	499	33.0
交際未経験	273	18.0
離別・死別で交際中	5	0.3
離別・死別で交際している人はいない	26	1.7
無回答	6	0.4
合 計	1,514	100.0

F9 夫婦共働きの有無



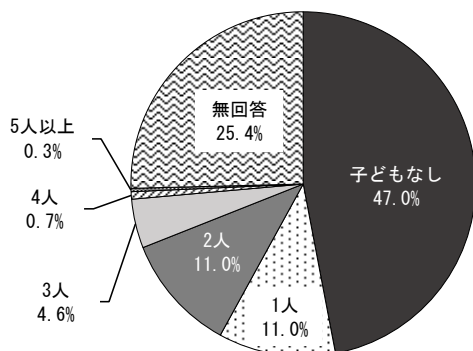
区 分	回答数 (人)	構成比 (%)
はい	419	88.0
いいえ	52	10.9
無回答	5	1.1
合 計	476	100.0

F10 配偶者の年収



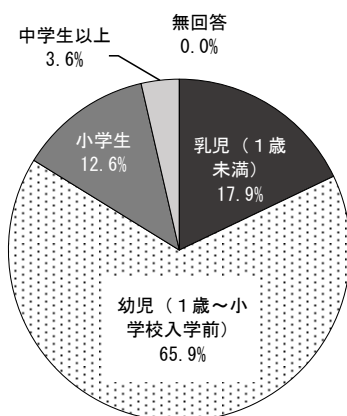
区 分	回答数 (人)	構成比 (%)
100万円未満	47	9.9
100万円以上、200万円未満	35	7.4
200万円以上、300万円未満	77	16.2
300万円以上、400万円未満	117	24.6
400万円以上、500万円未満	98	20.6
500万円以上、600万円未満	49	10.3
600万円以上、700万円未満	11	2.3
700万円以上、800万円未満	14	2.9
800万円以上	12	2.5
わからない	15	3.2
無回答	1	0.2
合 計	476	100.0

F11 子どもの数別



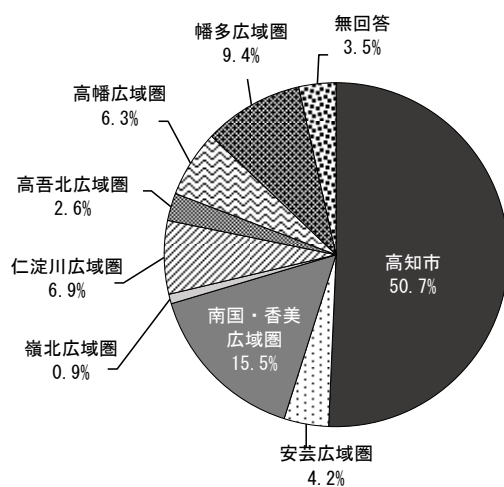
区 分	回答数 (人)	構成比 (%)
子どもなし	711	47.0
1人	167	11.0
2人	167	11.0
3人	70	4.6
4人	11	0.7
5人以上	4	0.3
無回答	384	25.4
合 計	1,514	100.0

F12 末子の状況



区 分	回答数 (人)	構成比 (%)
乳児 (1歳未満)	75	17.9
幼児 (1歳～小学校入学前)	276	65.9
小学生	53	12.6
中学生以上	15	3.6
無回答	0	0.0
合 計	419	100.0

F13 広域市町村圏別



区 分	回答数 (人)	構成比 (%)
高知市	768	50.7
安芸広域圏	63	4.2
南国・香美広域圏	234	15.5
嶺北広域圏	14	0.9
仁淀川広域圏	104	6.9
高吾北広域圏	40	2.6
高幡広域圏	95	6.3
幡多広域圏	143	9.4
無回答	53	3.5
合 計	1,514	100.0

※構成比は小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

IV 調査結果のあらまし

1 「結婚」「妊娠・出産」「子育て」等の環境について

【問1】 高知県が『安心して「結婚」「妊娠・出産」「子育て」できるような社会』になっていると思うか

① 高知県が『安心して「結婚」「妊娠・出産」「子育て」できるような社会か

- 「どちらともいえない」が35.8%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」(26.5%)、「ややそう思う」(18.8%)、と続いている。
- “思う”(「そう思う」または「ややそう思う」と回答した方)の割合は23.7%、“思わない”(「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した方)の割合は39.9%となっている。

② 安心して「結婚」できる社会か

- 「どちらともいえない」が31.6%と最も高く、次いで「ややそう思う」(25.2%)、「あまりそう思わない」(21.5%)と続いている。
- “思う”(「そう思う」または「ややそう思う」と回答した方)の割合は33.9%、“思わない”(「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した方)は33.7%となっており、拮抗している。

③ 安心して「妊娠・出産」できる社会か

- 「どちらともいえない」が30.4%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」(29.1%)、「ややそう思う」(18.0%)と続いている。
- “思う”(「そう思う」または「ややそう思う」と回答した方)の割合は、23.3%、“思わない”(「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した方)の割合は、45.4%となっている。

④ 安心して「子育て」できる社会か

- 「どちらともいえない」が32.2%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」(26.4%)、「ややそう思う」(19.6%)と続いている。
- “思う”(「そう思う」または「ややそう思う」と回答した方)の割合は、25.3%、“思わない”(「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した方)の割合は、41.8%となっている。

【問2】 高知県が『こどもまんなか社会の実現』に向かっていると思うか

① 『こどもまんなか社会の実現』に向かっているか

- 「どちらともいえない」が41.7%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」(28.2%)、「そう思わない」(15.1%)と続いている。
- “思う”(「そう思う」または「ややそう思う」と回答した方)の割合は、14.6%、“思わない”(「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した方)の割合は、43.3%となっている。

② こども政策が、こども・若者の意見を反映させたものになっているか

- 「どちらともいえない」が 44.5%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」(27.2%)、「そう思わない」(17.3%)と続いている。
- “思う”(「そう思う」または「ややそう思う」と回答した方)の割合は、10.0%、“思わない”(「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した方)の割合は、44.5%となっている。

2 「結婚」「妊娠・出産」「子育て」への支援の取組について

【問3】 『安心して「結婚」「妊娠・出産」「子育て」できるような社会』を実現するために、特に力を入れるべき施策

- 「若者・子育て世代の所得向上」が73.2%と最も高く、次いで「子どもの預かりや保育サービス等の子育て支援策の充実」(42.7%)、「ワークライフバランスの推進」(33.1%)と続いている。

【問4】 高知県が少子化対策の取り組みとして行っている各事業に対する認知度・関心度

① こうち出会いサポートセンター

- 本事業の認知度は、“知っている”が31.6%、“知らない”が67.2%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が57.7%と最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がない）」(23.6%)、「知らない（関心がある）」(9.6%)と続いている。

② 高知で恋しよ！！マッチング（県が運営する会員制のお引き合わせシステム）

- 本事業の認知度は、“知っている”が30.8%、“知らない”が67.9%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が59.4%と最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がない）」(22.3%)、「知らない（関心がある）」(8.5%)と続いている。

③ 高知で恋しよ！！イベント（県が運営する出会いイベント）

- 本事業の認知度は、“知っている”が30.0%、“知らない”が68.6%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が59.4%と最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がない）」(20.5%)、「知らない（関心がある）」(9.1%)と続いている。

④ 婚活サポーター（地域で独身男女のお引き合わせを行うボランティア）

- 本事業の認知度は、“知っている”が20.0%、“知らない”が78.3%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が67.8%と最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がない）」(15.3%)、「知らない（関心がある）」(10.4%)と続いている。

⑤ こうち子育て応援の店

- 本事業の認知度は、“知っている”が32.4%、“知らない”が66.2%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が43.6%と最も高く、次いで「知らない（関心がある）」(22.6%)、「知っている（活用したことがない：関心がある）」(13.8%)と続いている。

⑥ 高知の子育て応援サイト「こうちプレマnet」

- 本事業の認知度は、“知っている”が22.9%、“知らない”が75.3%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が51.5%と最も高く、次いで「知らない（関心がある）」(23.8%)、「知っている（活用したことがない：関心がある）」(9.4%)と続いている。

⑦ 高知家子育て応援パスポートアプリ「おでかけるんだパス」

- 本事業の認知度は、“知っている”が34.7%、“知らない”が63.5%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が44.6%と最も高く、次いで「知らない（関心がある）」（19.0%）、「知っている（活用したことがある）」（16.3%）と続いている。

⑧ 産後ケア事業（市町村事業）

- 本事業の認知度は、“知っている”が30.1%、“知らない”が68.4%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が44.6%と最も高く、次いで「知らない（関心がある）」（23.8%）、「知っている（活用したことがない：関心がある）」（15.7%）と続いている。

⑨ 地域子育て支援センター（市町村事業）

- 本事業の認知度は、“知っている”が46.8%、“知らない”が51.7%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が35.4%と最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がある）」（18.4%）、「知らない（関心がある）」（16.3%）と続いている。

⑩ ファミリー・サポート・センター（市町村事業）

- 本事業の認知度は、“知っている”が35.1%、“知らない”が63.1%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が43.6%と最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がある）」（20.7%）、「知らない（関心がある）」（19.6%）と続いている。

⑪ 子ども食堂

- 本事業の認知度は、“知っている”が67.7%、“知らない”が31.0%となっている。
- 「知っている（活用したことがない：関心がある）」が37.8%と最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がない）」（22.7%）、「知らない（関心がない）」（17.4%）と続いている。

⑫ 高知家の出会い・結婚・子育て応援団

- 本事業の認知度は、“知っている”が29.9%、“知らない”が68.7%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が51.0%と最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がない）」（18.2%）、「知らない（関心がある）」（17.7%）と続いている。

【問 5】 「高知で恋しよ！！マッチング」に関心のない理由

- 「結婚しているから」が29.3%と最も高く、次いで「結婚するつもりがないから」（16.6%）、「婚活してまで出会うことに抵抗感があるから」（16.2%）と続いている。

3 出会い・結婚について

【問 6】 将来結婚したいと思うか

- 「いずれは結婚したい」が 50.6%と最も高く、次いで「結婚するつもりがない」(26.4%)、「5 年以内に結婚したい」(15.4%)と続いている。

【問 7】 どのようなきっかけで知り合いたいと思うか（もしくは、どのようなきっかけで知り合ったか。）

- 「友人や知人、同僚等の紹介で」が 59.5%と最も高く、次いで「学校や職場、仕事の関係で」(56.3%)、「学校・職場以外のサークルやクラブ活動、習い事で」(29.7%)と続いている。

【問 8】 現在結婚していない理由

- 「適当な相手にまだめぐり会わないから」が 37.2%と最も高く、次いで「自分の収入が安定していないから」(32.2%)、「今は、趣味や娯楽を楽しみたいから」(26.1%)と続いている。

【問 9】 結婚相手に求める年収

- 「結婚相手の年収にはこだわらない」が 31.3%と最も高く、次いで「300 万円以上」(19.2%)、「400 万円以上」(18.3%)と続いている。

【問 10】 出会いや結婚に関する必要な行政支援

- 「結婚生活を始める際の金銭的な支援（引越し費用や家賃への補助、祝金支給など）」が 59.5%と最も高く、次いで「出産・子育て・教育に関する情報提供（費用等の情報含む）」(46.2%)、「出会いを直接の目的としない多職種での交流の機会の充実」(44.6%)と続いている。

4 子育てについて

【問 11】 第1子を産みたい（欲しい）と思う年齢

- 「25～29歳以下」が41.3%と最も高く、次いで「30～34歳以下」（18.9%）、「年齢の希望は特にない」（10.9%）と続いている。

【問 12】 理想的な子どもの人数

- 「2人」が50.4%と最も高く、次いで「3人」（25.8%）、「0人」（10.6%）と続いている。

【問 13】 現実的に持ちたいと考えている子どもの人数

- 「2人」が49.0%と最も高く、次いで「1人」（16.9%）、「0人」（15.4%）と続いている。

【問 14】 理想的な人数の子どもを持たない理由

- 「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が78.3%と最も高く、次いで「仕事と家庭の両立が難しいから」（45.7%）、「将来の社会に漠然とした不安があるから」（36.7%）と続いている。

【問 15】 理想的な人数の子どもを持てる環境

- 「子どもの進学における奨学金や教育費等の経済的支援が充実している」が52.7%と最も高く、次いで「子どもの医療費や保育料などへの経済的支援が充実している」（50.7%）、「仕事と家庭の両立に対する職場の理解や環境があること」（45.7%）と続いている。

【問 16】 理想的な人数の子どもを持つための自身の労働時間

- 「7～8時間未満」が26.2%と最も高く、次いで「6～7時間未満」（23.9%）、「5～6時間未満」（23.7%）と続いている。

【問 17】 保育所・幼稚園・認定こども園など子育てを支える施設の充実度

- 「どちらともいえない」が41.9%と最も高く、次いで「ややそう思う」（25.1%）、「あまりそう思わない」（16.8%）と続いている。
- “思う”（「そう思う」または「ややそう思う」と回答した方）は、33.4%、“思わない”（「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した方）は、23.6%となっている。

【問 18】 子育てを支えるために施設に力を入れてほしいこと

- 「保育士などの給料を増やしてほしい」が48.7%と最も高く、次いで「保育にかかる費用を減らしてほしい。または無料にしてほしい」（47.4%）、「子どもの年齢に応じた安全で質の高い教育・保育をしてほしい」（36.5%）と続いている。

【問 19】 妊娠期から乳幼児期の子育て支援に関して充実してほしい取り組み

- 「子育ての負担を軽減する家事支援」が 42.5%と最も高く、次いで「子育ての仲間づくりや産後のリフレッシュになる産前・産後サポート事業」と「子育て支援センターの土日開所」が同率（31.0%）で続いている。

5 女性の活躍とワークライフバランスについて

【問 20】 女性が職場で活躍するために必要なもの

- 「職場に仕事と家庭を両立しやすい雇用条件が整っていること」が 76.2%と最も高く、次いで「女性の活躍と柔軟な働き方について、職場での理解・啓発が進んでいること」(48.5%)、「希望する職種に就くことができる機会を得られること」(41.7%)と続いている。

【問 21】 働きながら子育てしやすい職場環境づくりのために必要な支援

- 「育児（配偶者の出産や学校行事への参加等）を目的とした休暇制度」が 58.5%と最も高く、次いで「育児家事支援に係る福利厚生制度の充実」(52.6%)、「柔軟な勤務時間の調整（フレックスタイム制や短時間勤務、時差出勤・テレワーク等）」(51.5%)と続いている。

【問 22】 男性の育児休業取得率の向上のために必要な支援

- 「上司・管理職等から積極的な取得を促す声かけ」が 33.3%と最も高く、次いで「育児休業の取得を後押しする助成金等の支援制度の拡充」(22.3%)、「職場復帰した際の職種やキャリアの保証」(21.7%)と続いている。

【問 23】 性別役割分担意識に関する経験

① 小さい頃から食事や洗濯などの家事の手伝いをしている

- 「時々あった」が 48.4%と最も高く、次いで「なかった」(24.7%)、「よくあった」(21.5%)と続いている。
- “あった”（「よくあった」または「時々あった」と回答した方）は、69.9%となっている。

② 親や親戚などから進学先について反対されたり制限されたりする

- 「なかった」が 74.7%と最も高く、次いで「時々あった」(12.7%)、「よくあった」(5.8%)と続いている。
- “あった”（「よくあった」または「時々あった」と回答した方）は、18.5%となっている。

③ 親戚や地域の宴会で食事の支度やお酌をする

- 「なかった」が 56.3%と最も高く、次いで「時々あった」(23.5%)、「よくあった」(9.8%)と続いている。
- “あった”（「よくあった」または「時々あった」と回答した方）は、33.3%となっている。

④ 恋人とのデート代を相手の分も負担する

- 「なかった」が 40.0%と最も高く、次いで「時々あった」(26.6%)、「わからない又は該当しない」(19.7%)と続いている。
- “あった”（「よくあった」または「時々あった」と回答した方）は、38.8%となっている。

⑤ 職場の飲み会で料理の取り分けやお酌をする

- 「時々あった」が 35.4%と最も高く、次いで「なかった」(27.7%)、「わからない又は該当しない」(20.3%)と続いている。
- “あった”(「よくあった」または「時々あった」と回答した方)は、50.3%となっている。

⑥ 職場で社員の食器類の片付けをする

- 「なかった」が 43.3%と最も高く、次いで「わからない又は該当しない」(23.2%)、「時々あった」(21.3%)と続いている。
- “あった”(「よくあった」または「時々あった」と回答した方)は、31.9%となっている。

⑦ 職場で来客にお茶を出す

- 「なかった」が 45.6%と最も高く、次いで「わからない又は該当しない」(25.7%)、「時々あった」(16.2%)と続いている。
- “あった”(「よくあった」または「時々あった」と回答した方)は、26.9%となっている。

⑧ 職場の掃除をする

- 「よくあった」が 31.4%と最も高く、次いで「時々あった」(25.2%)、「なかった」(21.9%)と続いている。
- “あった”(「よくあった」または「時々あった」と回答した方)は、56.7%となっている。

⑨ 職場で、育児中であることを理由に早く帰宅した方が良いと言われる

- 「わからない又は該当しない」が 53.8%と最も高く、次いで「なかった」(30.3%)、「時々あった」(8.5%)と続いている。
- “あった”(「よくあった」または「時々あった」と回答した方)は、13.7%となっている。

⑩ 職場で成長できるような機会や助言をもらえる

- 「時々あった」が 36.3%と最も高く、次いで「わからない又は該当しない」(25.3%)、「よくあった」(19.3%)と続いている。
- “あった”(「よくあった」または「時々あった」と回答した方)は、55.6%となっている。

【問 24】 1日あたりの家事・育児にかかる時間

① 平日

- 無回答を除き、「30分未満」が 12.6%と最も高く、次いで「1時間以上～1時間半未満」(11.8%)、「2時間以上～3時間未満」(9.5%)と続いている。

② 休日

- 無回答を除き、「9時間以上」が 14.9%と最も高く、次いで「30分未満」(11.3%)、「1時間以上～1時間30分未満」(8.5%)と続いている。



V 調査結果

解説・グラフ

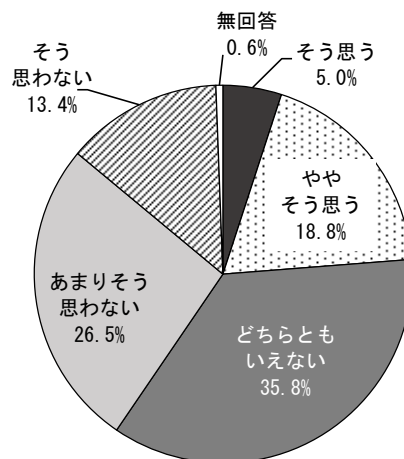
1 「結婚」「妊娠・出産」「子育て」等の環境について

問1 あなたは、高知県が『安心して「結婚」「妊娠・出産」「子育て」できるような社会』になっていると思いますか。また、それぞれについてはどう思いますか。あなたの考えに近いものをお選びください。（それぞれの項目であてはまるものに1つだけ○印）

① 高知県が『安心して「結婚」「妊娠・出産」「子育て」できるような社会か

【全体】

- 「どちらともいえない」が35.8%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」(26.5%)、「ややそう思う」(18.8%)、と続いている。
- “思う”（「そう思う」または「ややそう思う」と回答した方）の割合は23.7%、“思わない”（「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した方）の割合は39.9%となっている。



【性別】

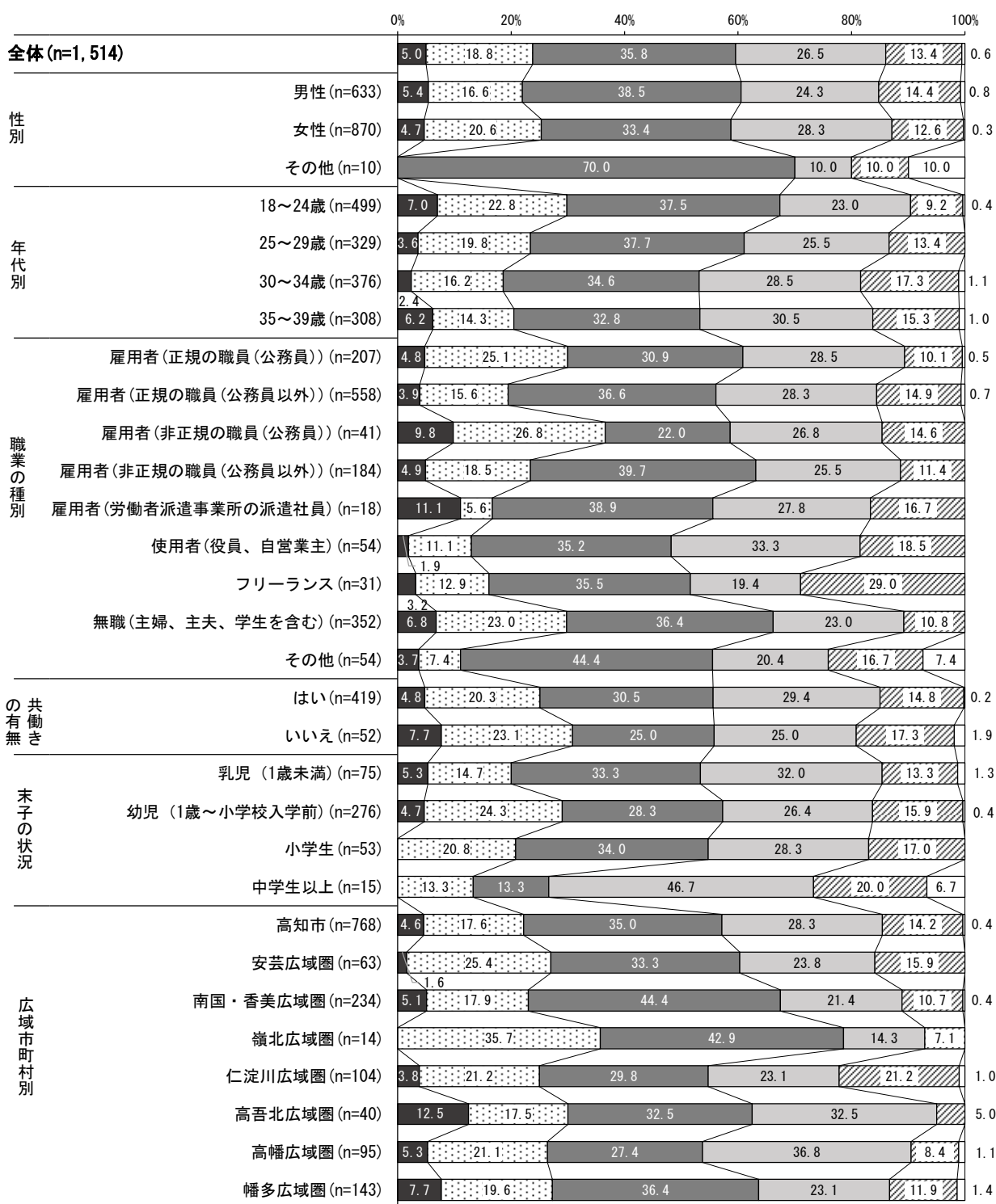
- 男女ともに、「どちらともいえない」が最も高くなっている。
- 男女ともに、“思わない”の割合が“思う”を上回り、特に女性は約4割を占めている。

【年代別】

- いずれの年代も、「どちらともいえない」が最も高くなっている。
- 年齢が上がるにつれて“思わない”の割合が高くなる傾向が見られる。

【地域別】

- 高幡広域圏及び高吾北広域圏では、「あまりそう思わない」が最も高く（高吾北広域圏は「どちらともいえない」も同率）、その他の地域では「どちらともいえない」が最も高くなっている。
- 嶺北広域圏以外の地域において、“思わない”の割合が“思う”を上回っている。

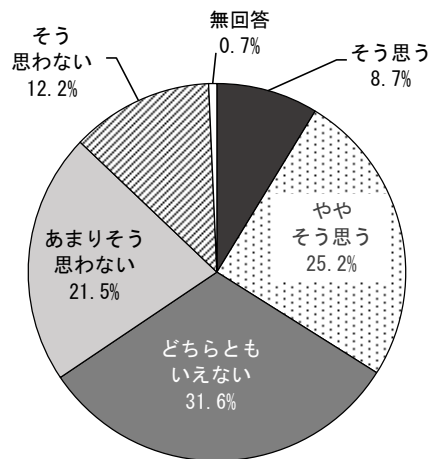


そう思う
 ややそう思う
 どちらともいえない
 あまりそう思わない
 そう思わない
 無回答

② 安心して「結婚」できる社会か

【全体】

- 「どちらともいえない」が31.6%と最も高く、次いで「ややそう思う」(25.2%)、「あまりそう思わない」(21.5%)と続いている。
- “思う”(「そう思う」または「ややそう思う」と回答した方)の割合は33.9%、“思わない”(「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した方)は33.7%となっており、拮抗している。



【性別】

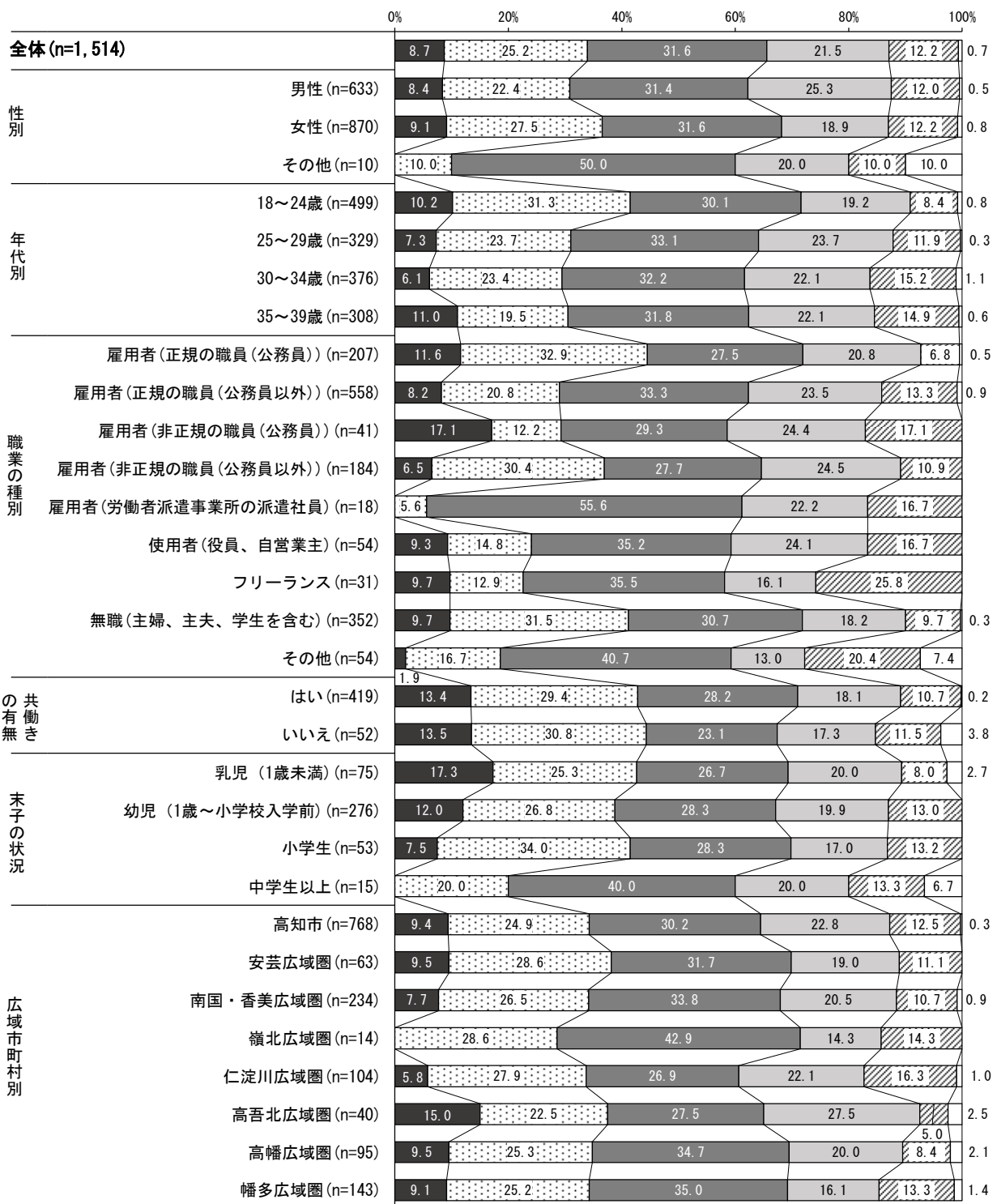
- 男女ともに、「どちらともいえない」が最も高くなっている。
- 男性は、“思わない”の割合が“思う”を上回り、女性は逆に“思う”が上回っている。

【年代別】

- 18歳～24歳で、「ややそう思う」が最も高くなっている。そのほかの年代は「どちらともいえない」が最も高い。
- 18歳～24歳で、“思う”が“思わない”を上回り、そのほかの年代は“思わない”が上回っている。

【地域別】

- 仁淀川広域圏では、「ややそう思う」が最も高く、そのほかの地域では、「どちらともいえない」が最も高くなっている(高吾北広域圏は「あまりそう思わない」も同率)。
- 高知市及び仁淀川広域圏で、“思わない”の割合が“思う”を上回り、嶺北広域圏は同率、そのほかの地域では“思う”が上回っている。



そう思う

 ややそう思う

 どちらともいえない

 あまりそう思わない

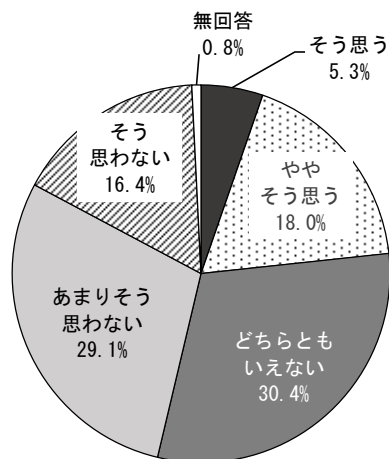
 そう思わない

 無回答

③ 安心して「妊娠・出産」できる社会か

【全体】

- 「どちらともいえない」が 30.4%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」(29.1%)、「ややそう思う」(18.0%)と続いている。
- “思う”（「そう思う」または「ややそう思う」と回答した方）の割合は、23.3%、“思わない”（「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した方）の割合は、45.4%となっている。



【性別】

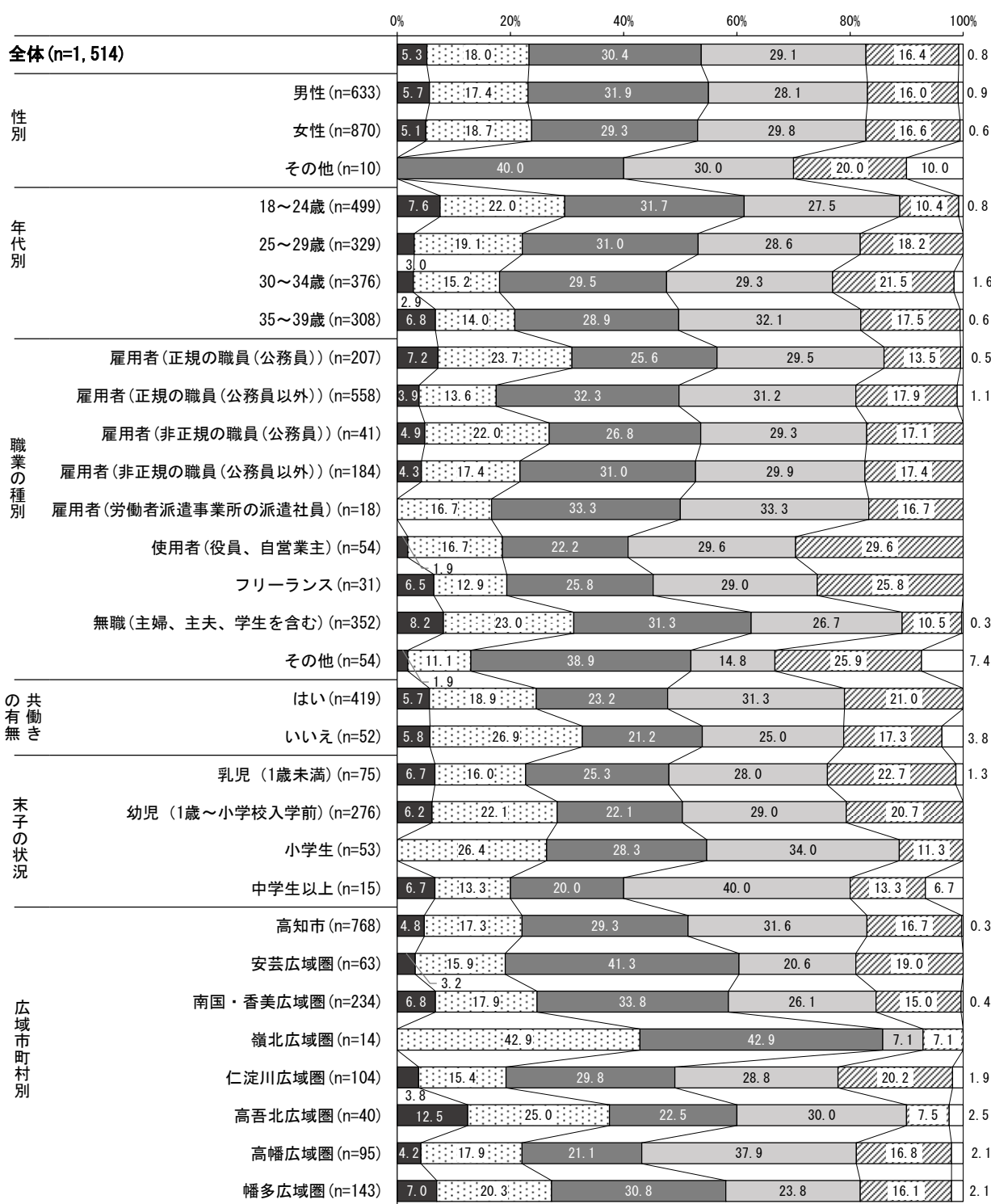
- 男性は、「どちらともいえない」、女性は、「あまりそう思わない」が最も高くなっている。
- 男女ともに、“思わない”の割合が“思う”を上回っている。

【年代別】

- 35歳～39歳は、「あまりそう思わない」が最も高く、そのほかの年代は「どちらともいえない」が最も高くなっている。
- いずれの年代も、“思わない”の割合が“思う”を上回り、特に30歳～34歳は、半数を超える結果となっている。

【地域別】

- 高知市、高吾北広域圏及び高幡広域圏では、「あまりそう思わない」が最も高く、そのほかの地域では「どちらともいえない」が最も高くなっている（嶺北広域圏は「ややそう思う」も同率）。
- 嶺北広域圏のみ“思う”の割合が“思わない”を上回り、高吾北広域圏は同率、そのほかの地域では、“思わない”が大きく上回っている。

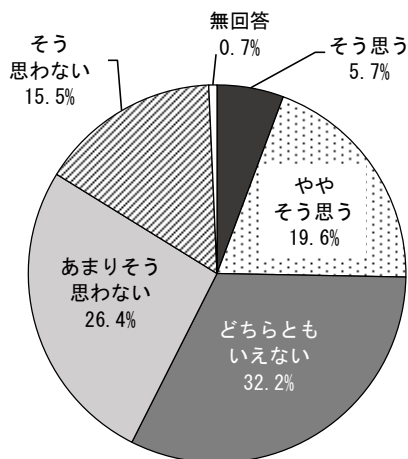


そう思う
 ややそう思う
 どちらともいえない
 あまりそう思わない
 そう思わない
 無回答

④ 安心して「子育て」できる社会か

【全体】

- 「どちらともいえない」が32.2%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」(26.4%)、「ややそう思う」(19.6%)と続いている。
- “思う”（「そう思う」または「ややそう思う」と回答した方）の割合は、25.3%、“思わない”（「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した方）の割合は、41.8%となっている。



【性別】

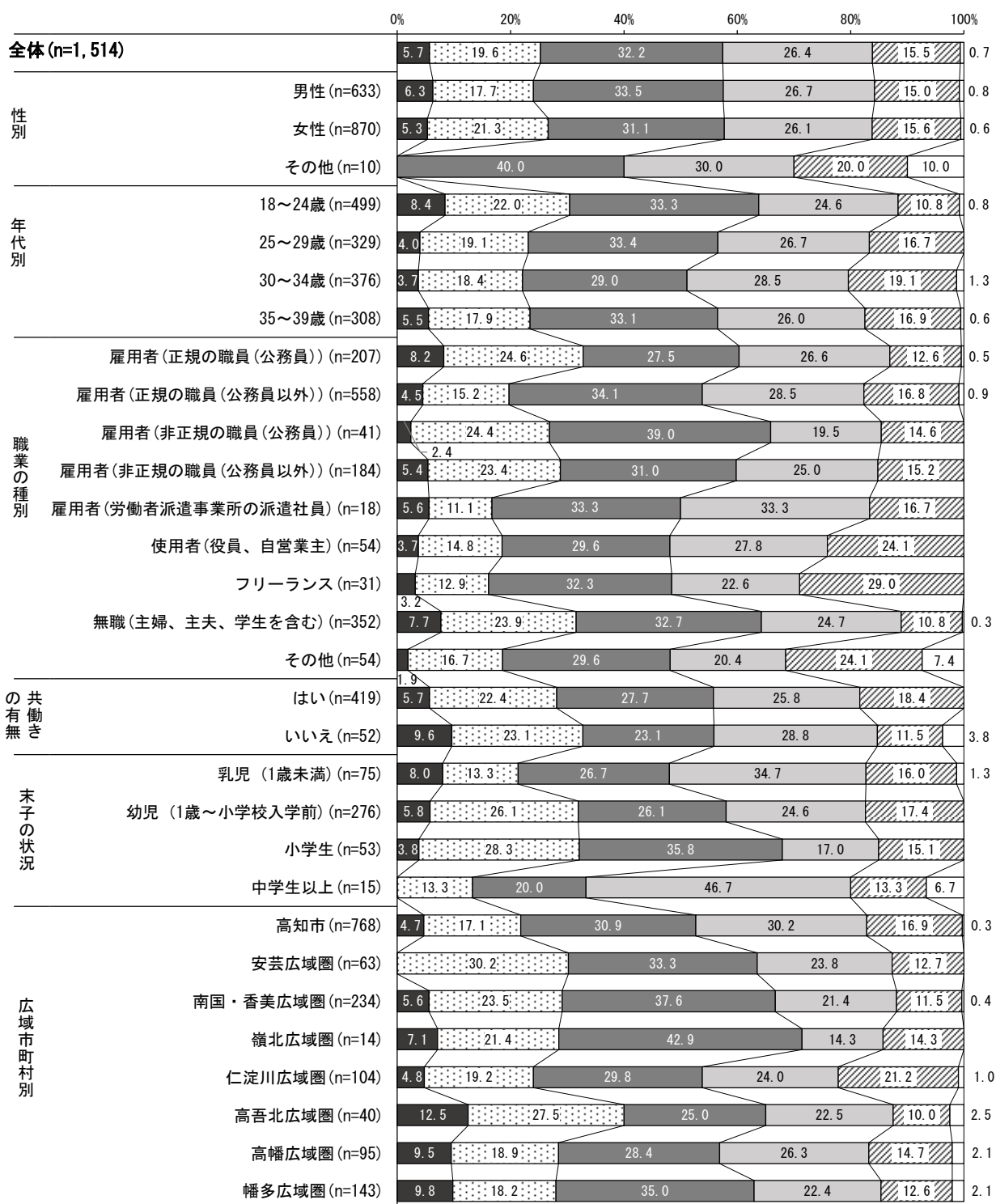
- 男女ともに、「どちらともいえない」が最も高くなっている。
- 男女ともに、“思わない”の割合が“思う”を上回っている。

【年代別】

- いずれの年代も、「どちらともいえない」が最も高くなっている。
- いずれの年代も、“思わない”の割合が“思う”を上回っている。

【地域別】

- 高吾北広域圏では、「ややそう思う」が最も高く、そのほかの地域は「どちらともいえない」が最も高くなっている。
- 高吾北広域圏のみ“思う”の割合が“思わない”を上回り、嶺北広域圏は同率、そのほかの地域では、“思わない”が上回っている。



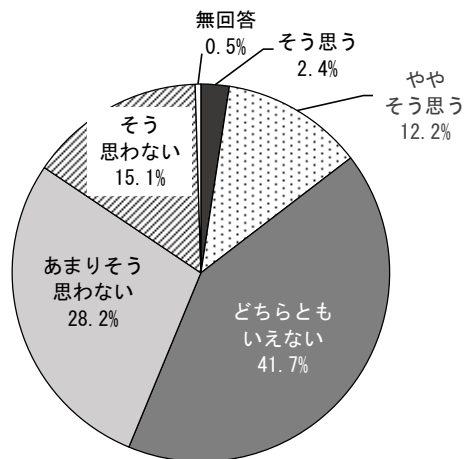
そう思う
 ややそう思う
 どちらともいえない
 あまりそう思わない
 そう思わない
 無回答

問2 あなたは、高知県が『こどもまんなか社会の実現』に向かっていると思いますか。それぞれについて、あなたの考えに近いものをお選びください。（それぞれの項目であてはまるものに1つだけ○印）

① 『こどもまんなか社会の実現』に向かっているか

【全体】

- 「どちらともいえない」が41.7%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」（28.2%）、「そう思わない」（15.1%）と続いている。
- “思う”（「そう思う」または「ややそう思う」と回答した方）の割合は、14.6%、“思わない”（「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した方）の割合は、43.3%となっている。



【性別】

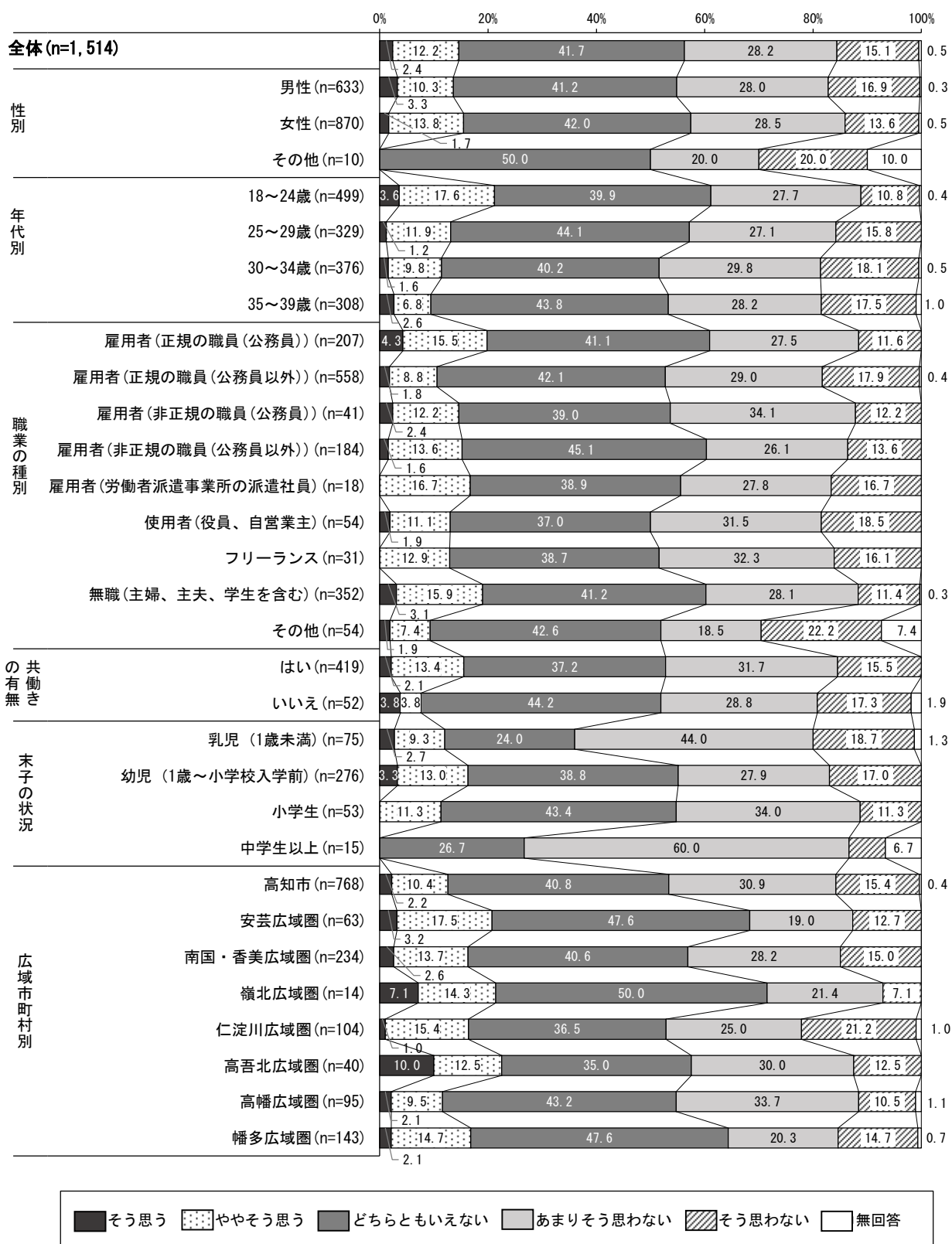
- 男女ともに、「どちらともいえない」が最も高くなっている。
- 男女ともに、“思わない”の割合が“思う”を上回っている。

【年代別】

- いずれの年代も、「どちらともいえない」が最も高くなっている。
- いずれの年代も、“思わない”の割合が“思う”を大きく上回っている。

【地域別】

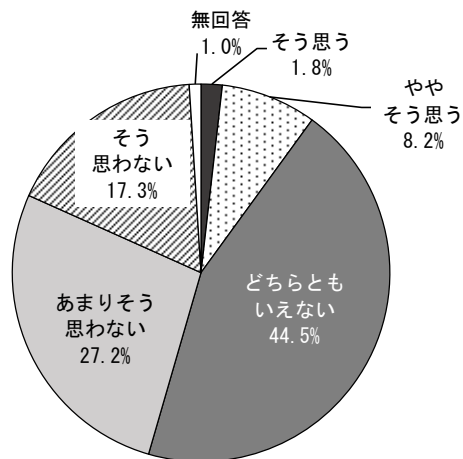
- いずれの地域も、「どちらともいえない」が最も高くなっている。
- いずれの地域も、“思わない”の割合が“思う”を上回っている。



② こども政策が、こども・若者の意見を反映させたものになっているか

【全体】

- 「どちらともいえない」が 44.5%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」(27.2%)、「そう思わない」(17.3%)と続いている。
- “思う”（「そう思う」または「ややそう思う」と回答した方）の割合は、10.0%、“思わない”（「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した方）の割合は、44.5%となっている。



【性別】

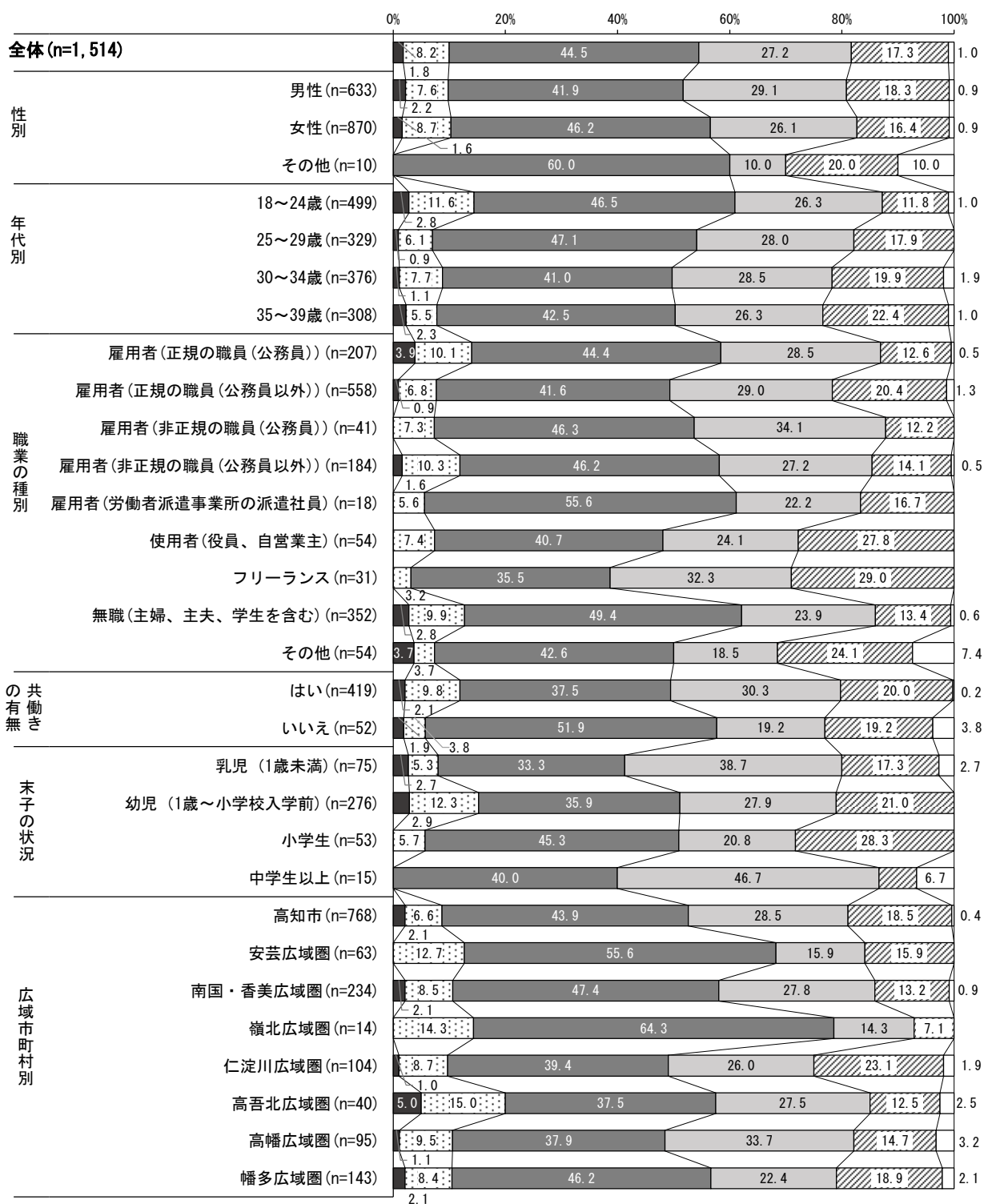
- 男女ともに、「どちらともいえない」が最も高くなっている。
- 男女ともに、“思わない”の割合が“思う”を大きく上回っている。

【年代別】

- いずれの年代も、「どちらともいえない」が最も高くなっている。
- いずれの年代も、“思わない”の割合が“思う”を大きく上回っている。

【地域別】

- いずれの地域も、「どちらともいえない」が最も高くなっている。
- いずれの地域も、“思わない”の割合が“思う”を大きく上回っている。



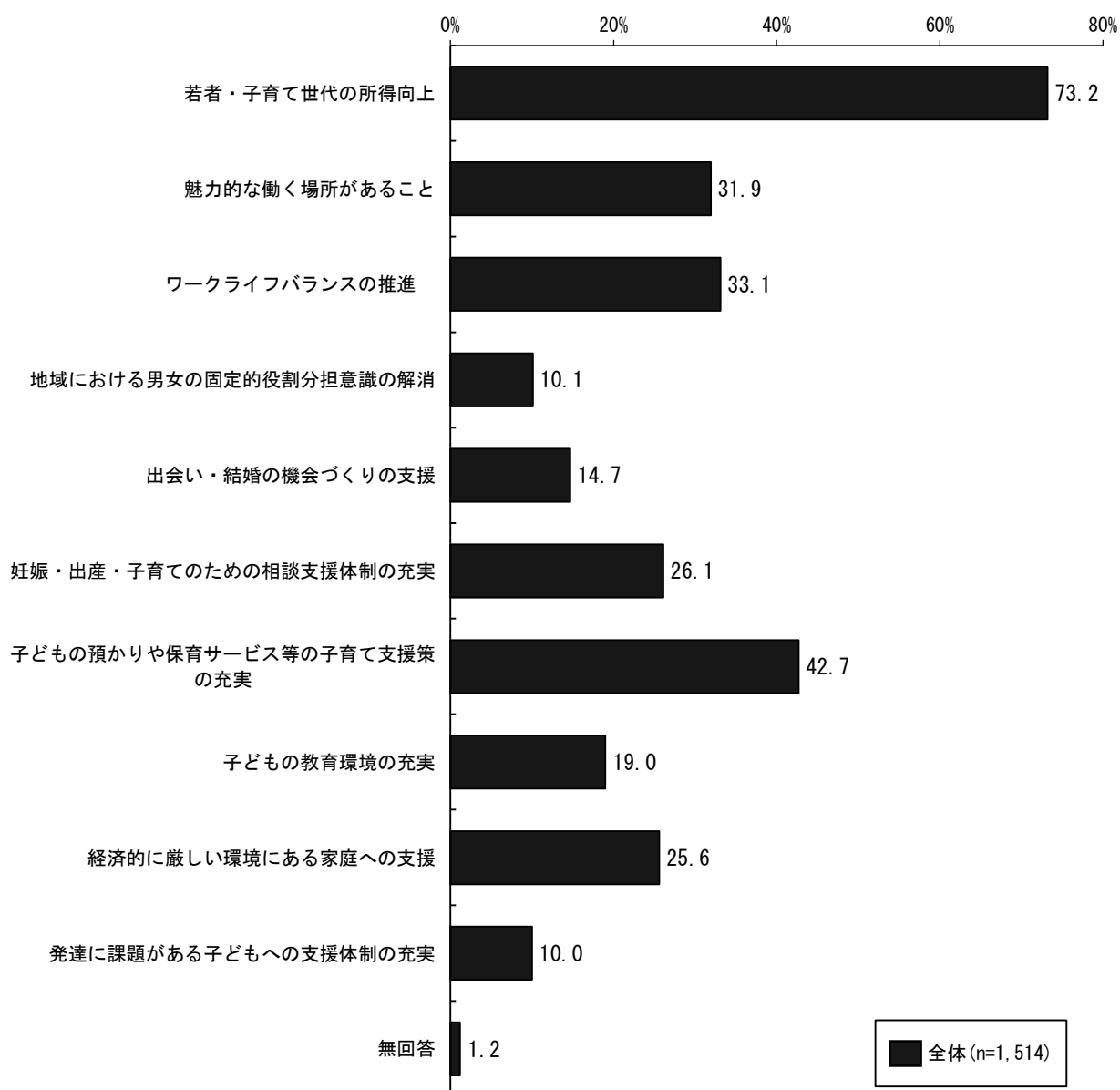
☒ そう思う
 ☐ ややそう思う
 ☐ どちらともいえない
 ☐ あまりそう思わない
 ☐ そう思わない
 ☐ 無回答

2 「結婚」「妊娠・出産」「子育て」への支援の取組について

問3 高知県が『安心して「結婚」「妊娠・出産」「子育て」できるような社会』を実現するために、特に力を入れるべき施策は何だと思われますか。あなたの考えに近いものを、3つお選びください。（○印は3つまで）

【全体】

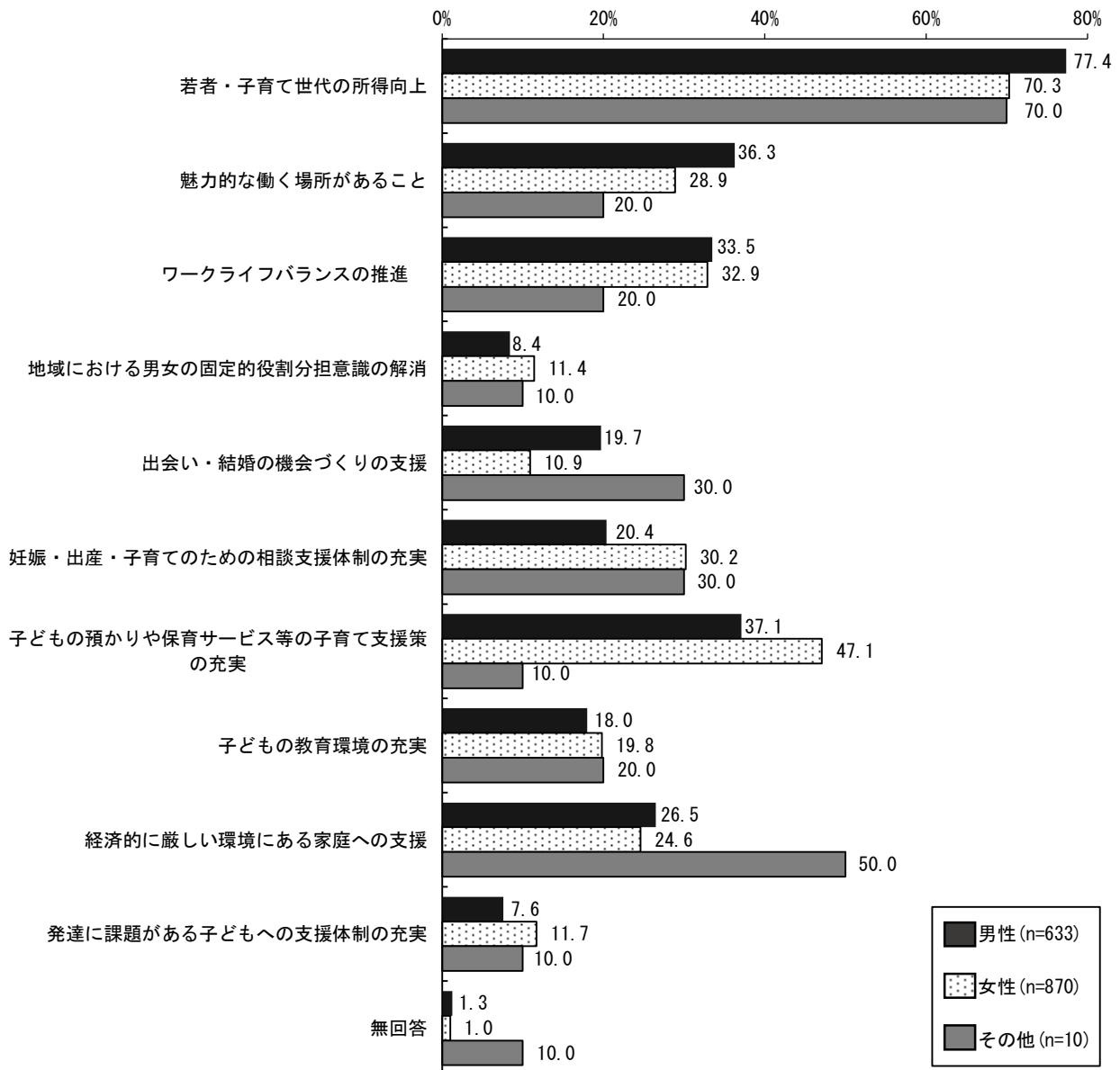
○「若者・子育て世代の所得向上」が73.2%と最も高く、次いで「子どもの預かりや保育サービス等の子育て支援策の充実」(42.7%)、「ワークライフバランスの推進」(33.1%)と続いている。



【性別】

○男女ともに、「若者・子育て世代の所得向上」が最も高くなっている。

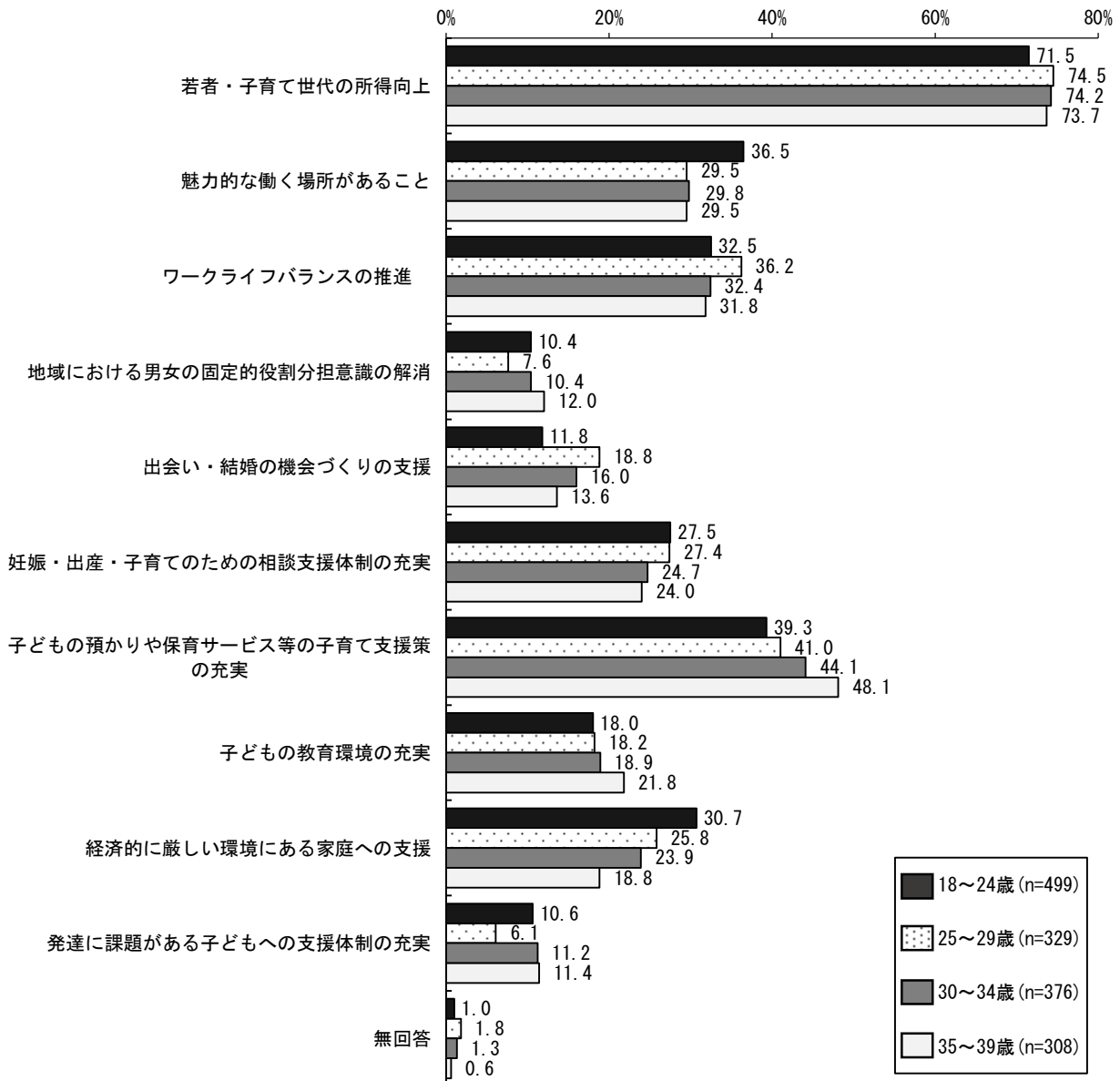
○次いで男性は、「子どもの預かりや保育サービス等の子育て支援策の充実」(37.1%)、「魅力的な働く場所があること」(36.3%)と続き、女性は、「子どもの預かりや保育サービス等の子育て支援策の充実」(47.1%)、「ワークライフバランスの推進」(32.9%)と続いている。



【年代別】

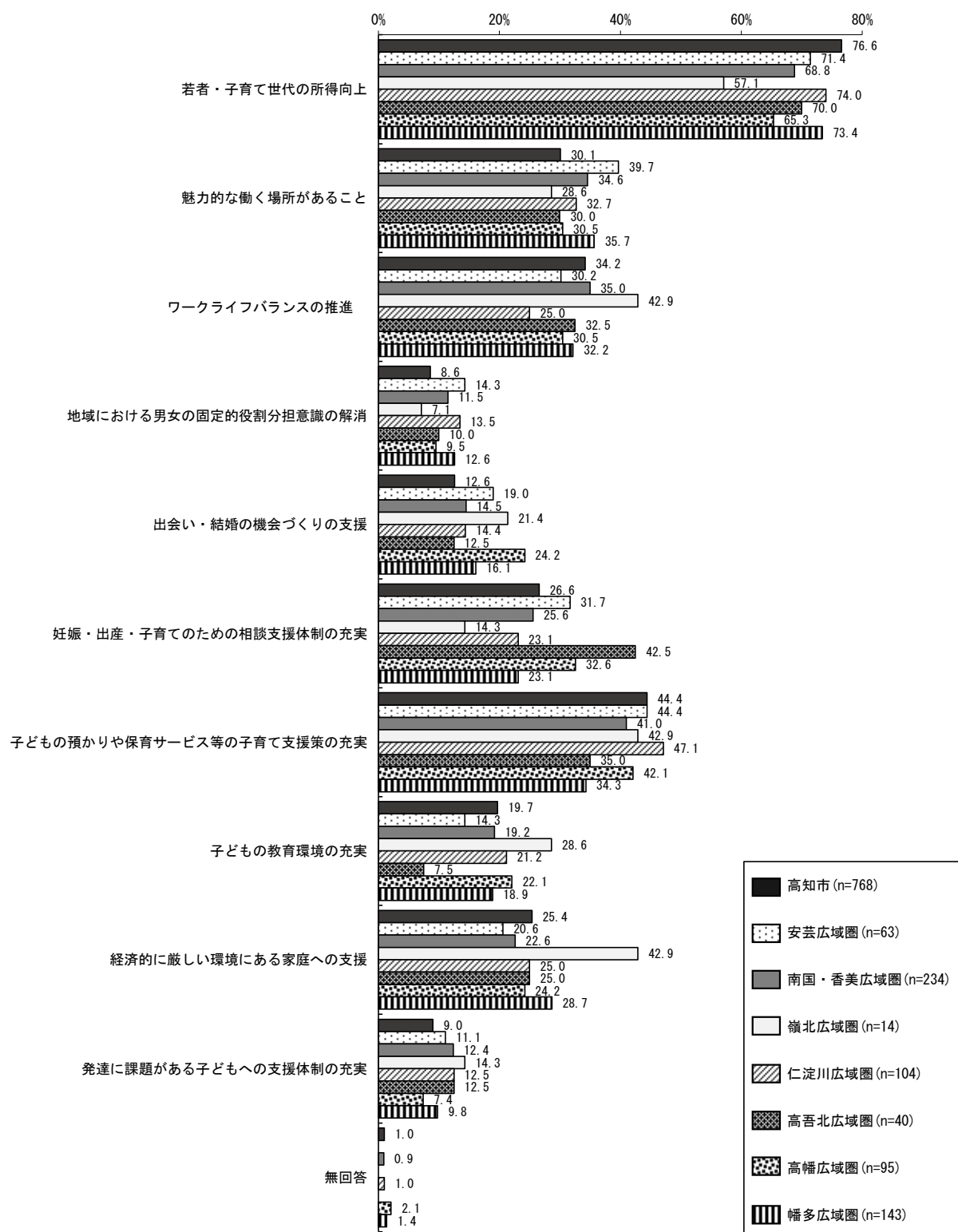
○すべての年代で「若者・子育て世代の所得向上」が最も高く、2 番目も「子どもの預かりや保育サービス等の子育て支援策の充実」で同様である。

○3 番目は、18 歳～24 歳が「魅力的な働く場所があること」、そのほかの年代は、「ワークライフバランスの推進」となっている。



【地域別】

○すべての地域で「若者・子育て世代の所得向上」が最も高くなっている。

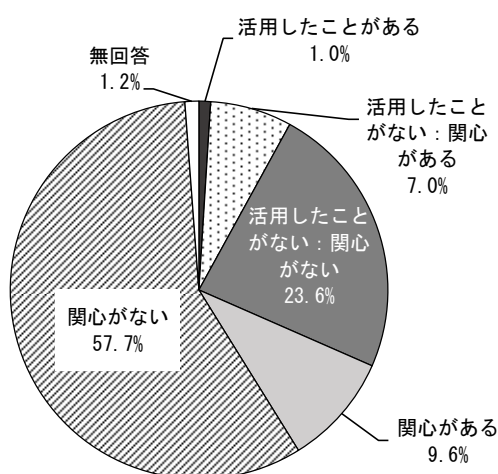


問 4 高知県が少子化対策の取り組みとして行っている下記の事業について知っていますか。また、あなたの関心度はいかがですか。各事業について、あなたの考えに近いものをお選びください。（それぞれの項目であてはまるものに1つだけ○印）

① こうち出会いサポートセンター

【全体】

- 本事業の認知度は、“知っている”が31.6%、“知らない”が67.2%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が57.7%と最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がない）」（23.6%）、「知らない（関心がある）」（9.6%）と続いている。



【性別】

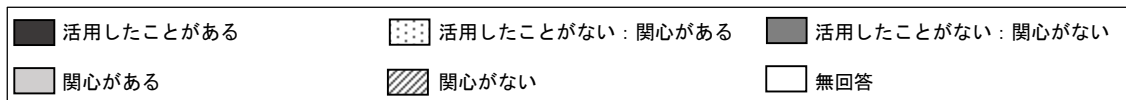
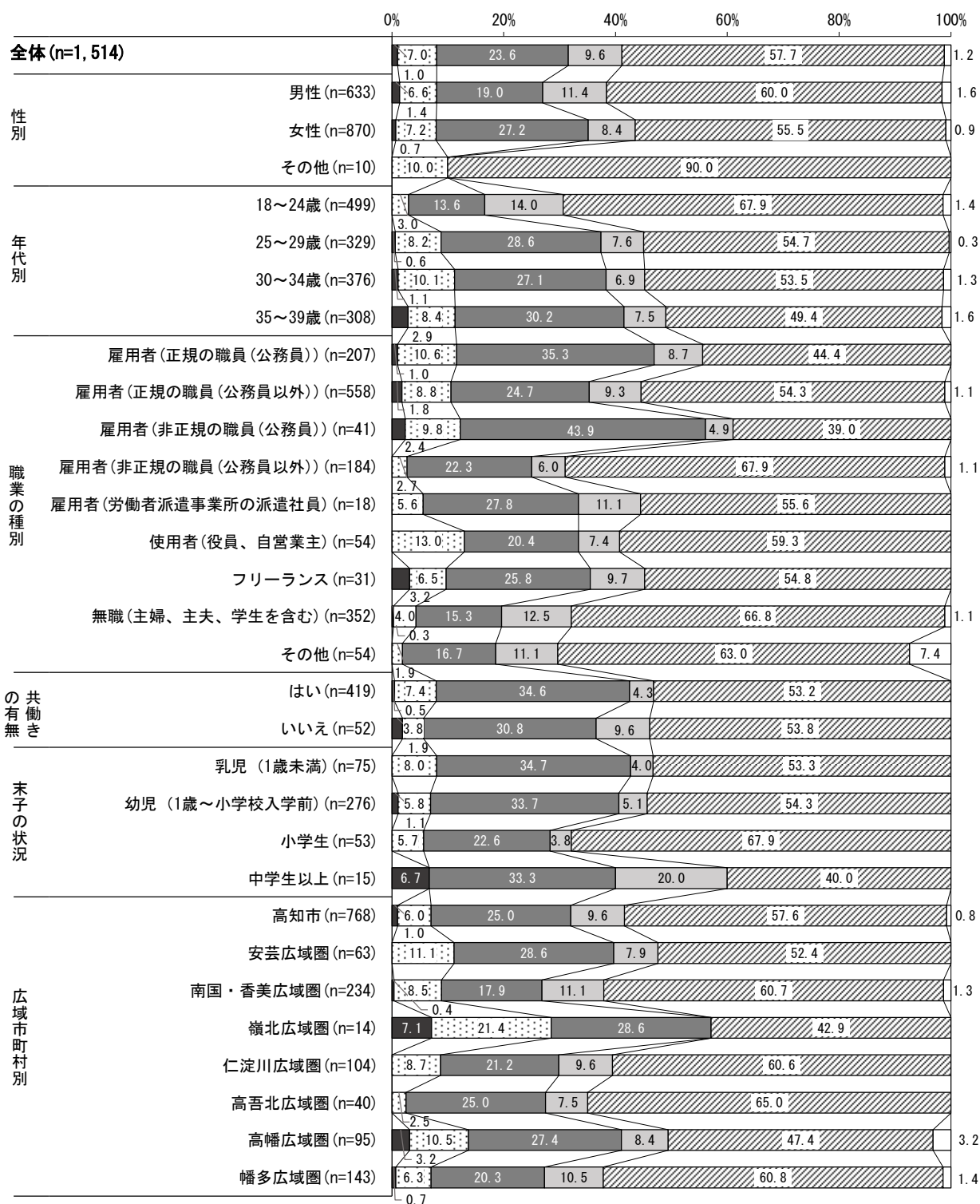
- 男女ともに、“知らない”の割合が“知っている”を上回っており、特に男性は7割以上が“知らない”という結果になっている。
- 男女ともに、「知らない（関心がない）」が最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がない）」も同様となっている。

【年代別】

- いずれの年代も、“知らない”の割合が“知っている”を上回っており、特に18歳～24歳では82.0%とそのほかの年代に比べて突出している。
- いずれの年代も、「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。

【地域別】

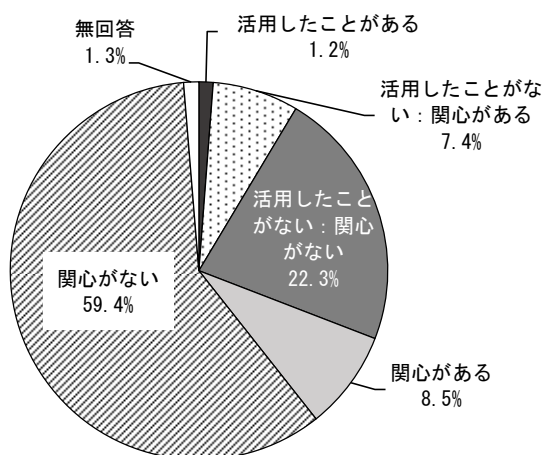
- 嶺北広域圏のみ“知っている”が“知らない”の割合を上回っているが、そのほかの地域は“知らない”が上回る結果となっている。
- いずれの地域も「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。



② 高知で恋しよ！！マッチング（県が運営する会員制のお引き合わせシステム）

【全体】

- 本事業の認知度は、“知っている”が30.8%、“知らない”が67.9%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が59.4%と最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がない）」（22.3%）、「知らない（関心がある）」（8.5%）と続いている。



【性別】

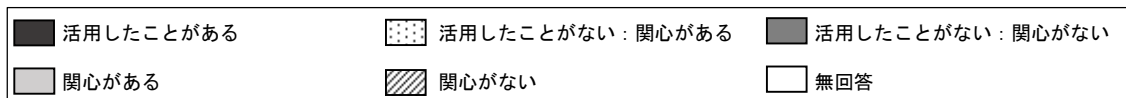
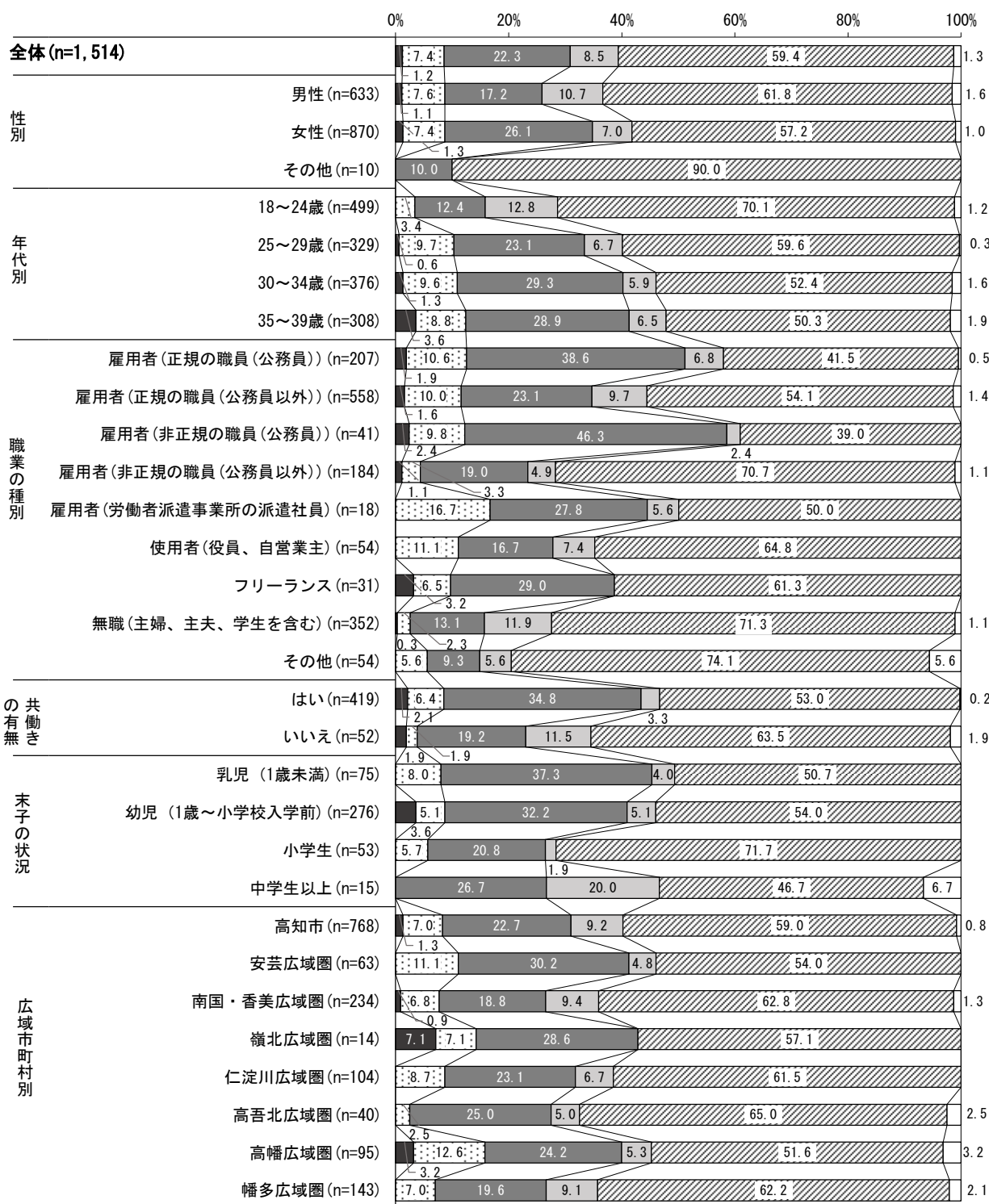
- 男女ともに、“知らない”の割合が“知っている”を上回っており、特に男性は7割以上が“知らない”という結果になっている。
- 男女ともに、「知らない（関心がない）」が最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がない）」も同様となっている。

【年代別】

- いずれの年代も、“知らない”の割合が“知っている”を上回っており、特に18歳～24歳では83.0%と突出している。
- いずれの年代も、「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。

【地域別】

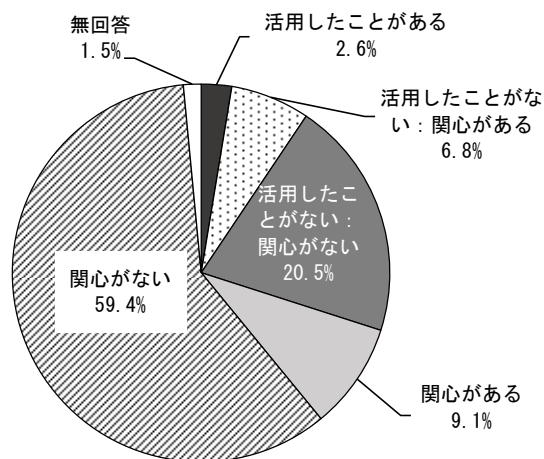
- すべての地域で、“知らない”の割合が“知っている”を上回っており、そのなかでいずれの地域も「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。



③ 高知で恋しよ！！イベント（県が運営する出会いイベント）

【全体】

- 本事業の認知度は、“知っている”が30.0%、“知らない”が68.6%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が59.4%と最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がない）」（20.5%）、「知らない（関心がある）」（9.1%）と続いている。



【性別】

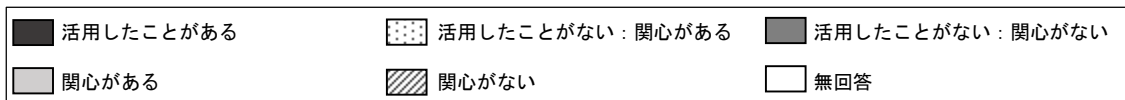
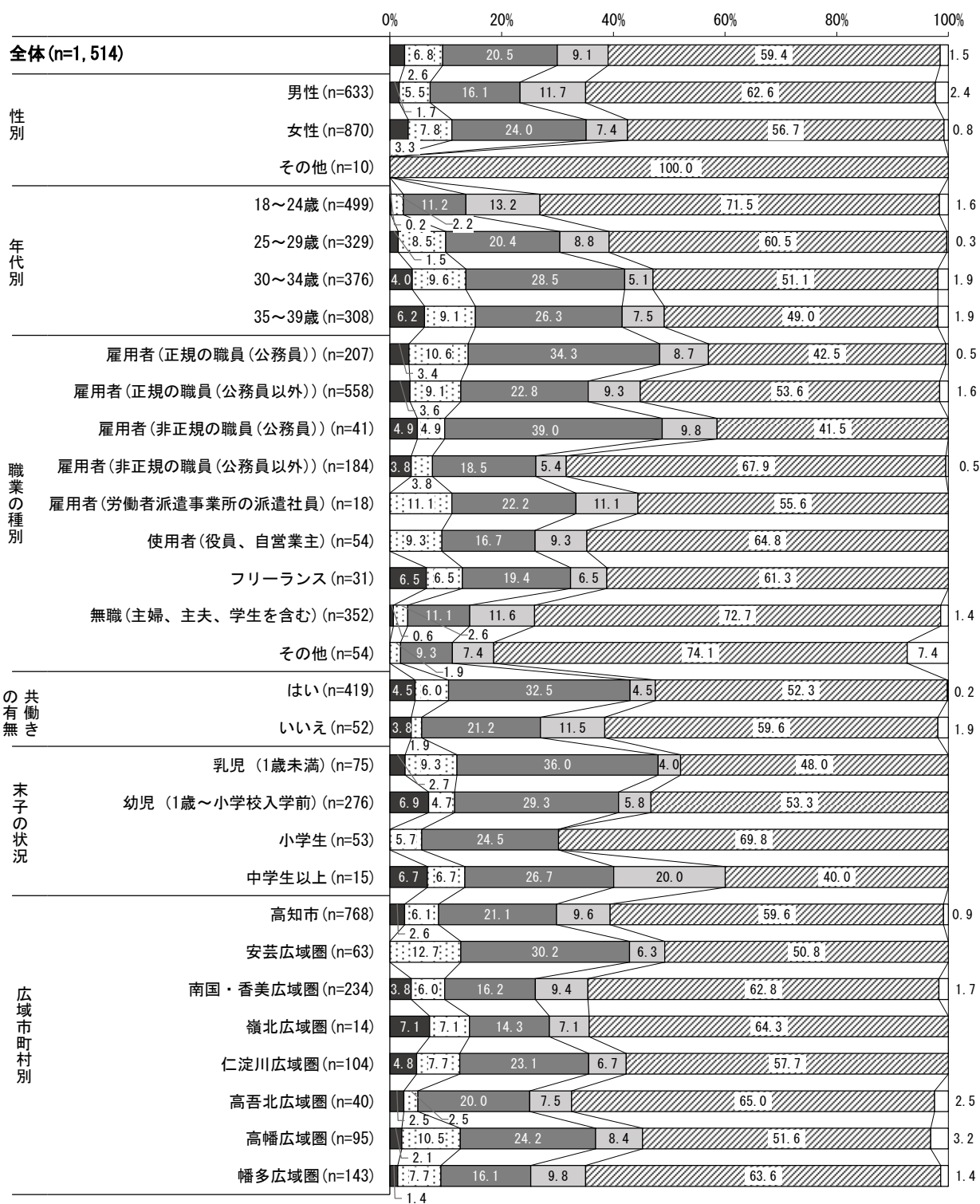
- 男女ともに、“知らない”の割合が“知っている”を上回っており、特に男性は7割以上が“知らない”という結果になっている。
- 男女ともに、「知らない（関心がない）」が最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がない）」も同様となっている。

【年代別】

- いずれの年代も、“知らない”の割合が“知っている”を上回っており、特に18歳～24歳では84.8%が“知らない”という結果になっている。
- いずれの年代も、「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。

【地域別】

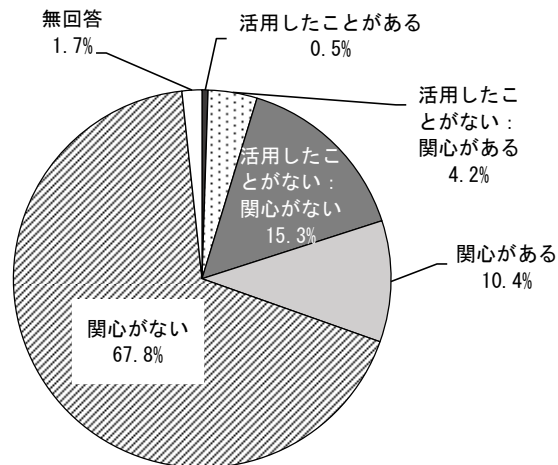
- すべての地域で、“知らない”の割合が“知っている”を上回っており、そのなかでいずれの地域も「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。



④ 婚活サポーター（地域で独身男女のお引き合わせを行うボランティア）

【全体】

- 本事業の認知度は、“知っている”が20.0%、“知らない”が78.3%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が67.8%と最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がない）」（15.3%）、「知らない（関心がある）」（10.4%）と続いている。



【性別】

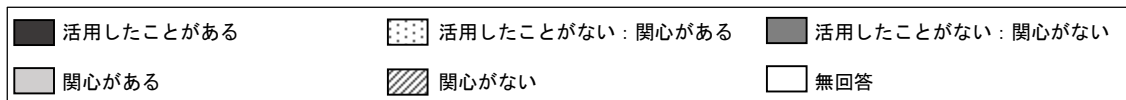
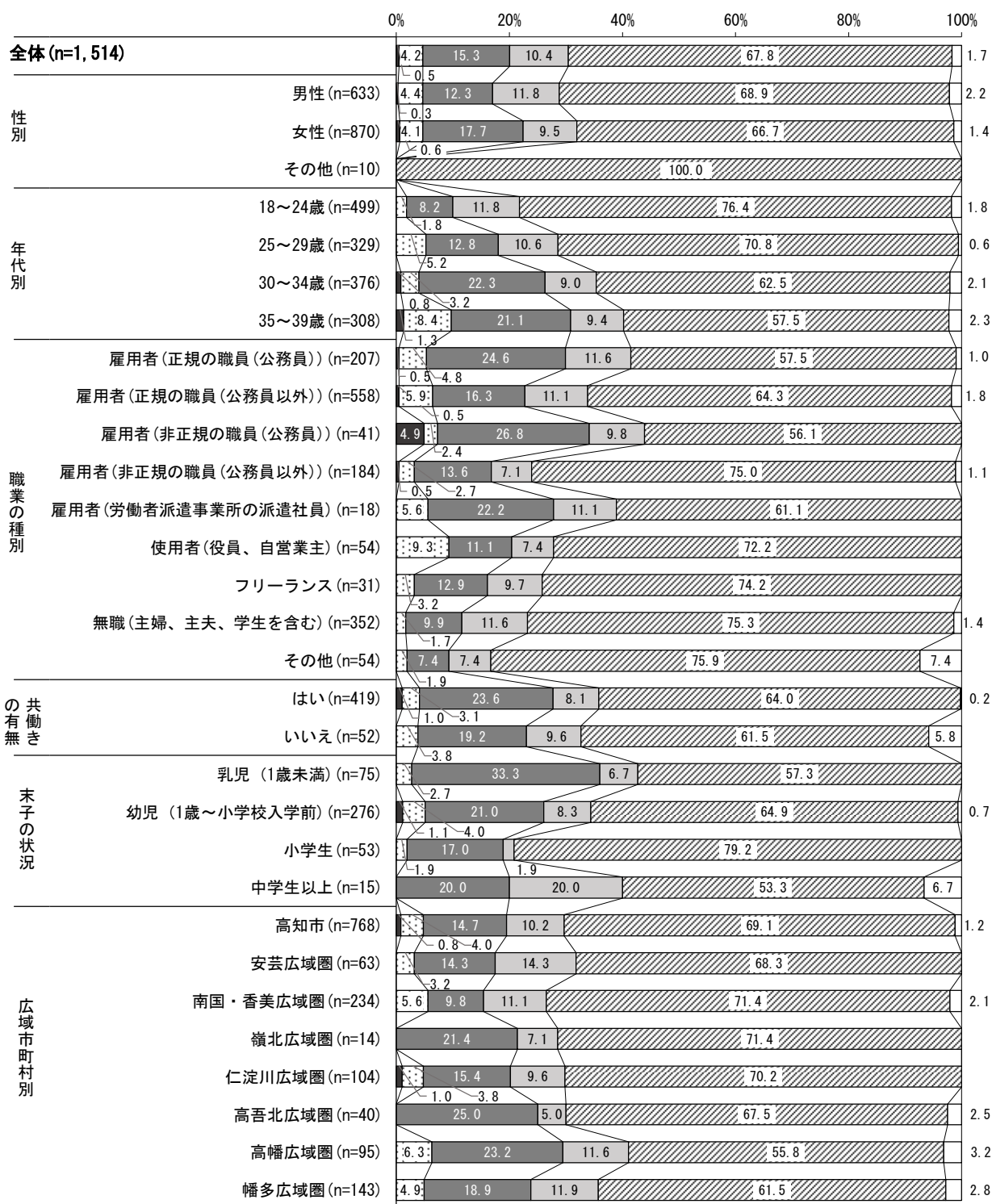
- 男女ともに、“知らない”の割合が“知っている”を大きく上回っている。
- 男女ともに、「知らない（関心がない）」が最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がない）」も同様となっている。

【年代別】

- いずれの年代も、“知らない”の割合が“知っている”を上回っており、18歳～24歳及び25歳～29歳では8割を超えている。
- いずれの年代も、「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。

【地域別】

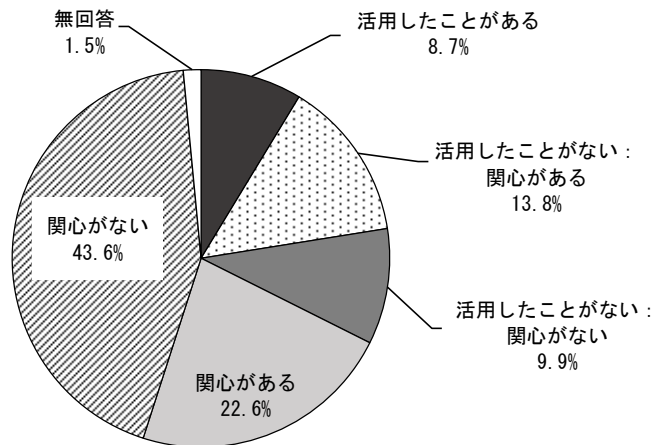
- すべての地域で、“知らない”の割合が“知っている”を大きく上回っている。
- いずれの地域も、「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。



⑤ こうち子育て応援の店

【全体】

- 本事業の認知度は、“知っている”が32.4%、“知らない”が66.2%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が43.6%と最も高く、次いで「知らない（関心がある）」（22.6%）、「知っている（活用したことがない：関心がある）」（13.8%）と続いている。



【性別】

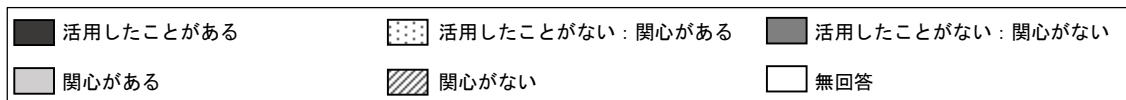
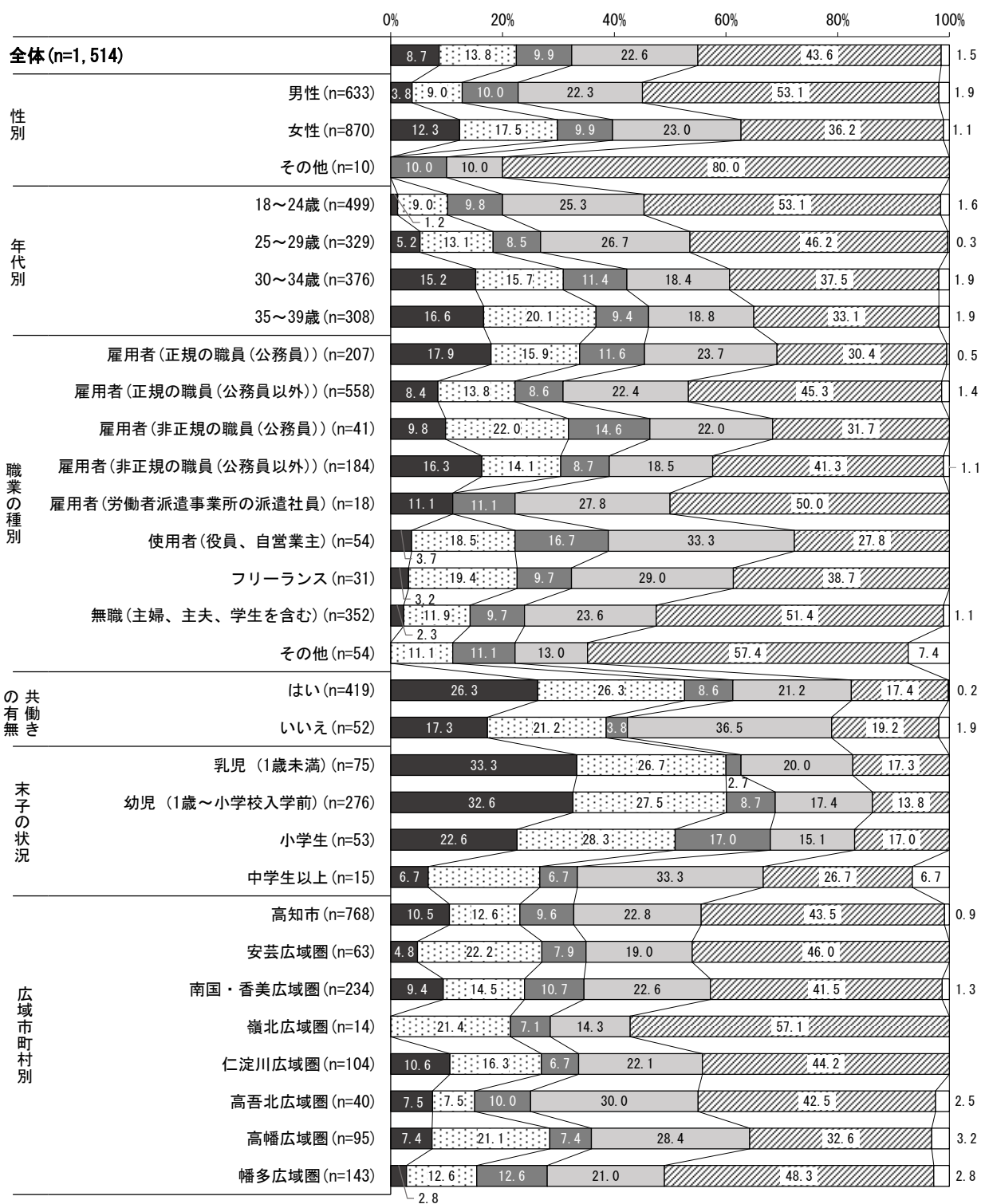
- 男女ともに、“知らない”の割合が“知っている”を上回っている。
- 男女ともに、「知らない（関心がない）」が最も高く、次いで「知らない（関心がある）」も同様となっている。

【年代別】

- いずれの年代も、“知らない”の割合が“知っている”を上回っており、そのなかで「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。

【地域別】

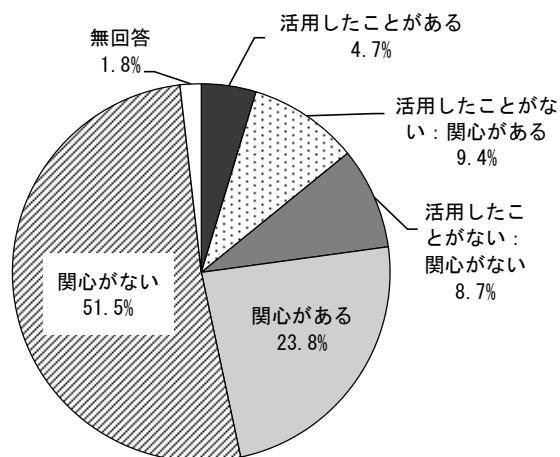
- すべての地域で、“知らない”の割合が“知っている”を上回っている。
- いずれの地域も、「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。



⑥ 高知の子育て応援サイト「こうちプレマ net」

【全体】

- 本事業の認知度は、“知っている”が22.9%、“知らない”が75.3%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が51.5%と最も高く、次いで「知らない（関心がある）」（23.8%）、「知っている（活用したことがない：関心がある）」（9.4%）と続いている。



【性別】

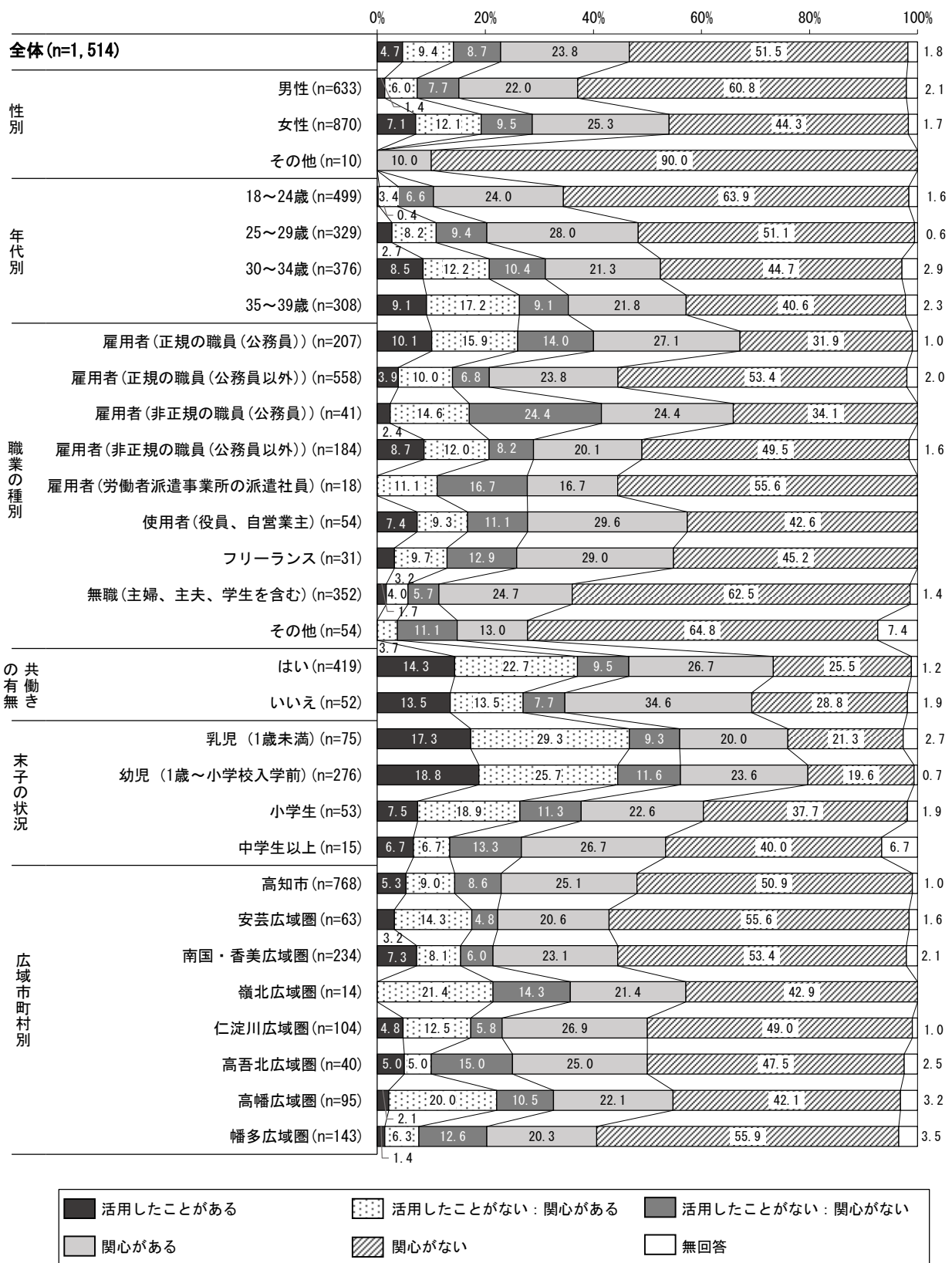
- 男女ともに、“知らない”の割合が“知っている”を上回っており、特に男性は8割以上が“知らない”という結果になっている。
- 男女ともに、「知らない（関心がない）」が最も高く、次いで「知らない（関心がある）」も同様となっている。

【年代別】

- いずれの年代も、“知らない”の割合が“知っている”を上回っており、特に18歳～24歳では88.0%が“知らない”という結果になっている。
- いずれの年代も、「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。

【地域別】

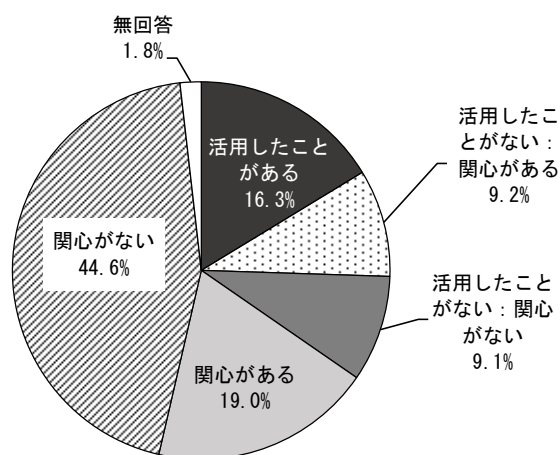
- すべての地域で、“知らない”の割合が“知っている”を上回っている。
- すべての地域で、「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。



⑦ 高知家子育て応援パスポートアプリ「おでかけるんだパス」

【全体】

- 本事業の認知度は、“知っている”が34.7%、“知らない”が63.5%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が44.6%と最も高く、次いで「知らない（関心がある）」（19.0%）、「知っている（活用したことがある）」（16.3%）と続いている。



【性別】

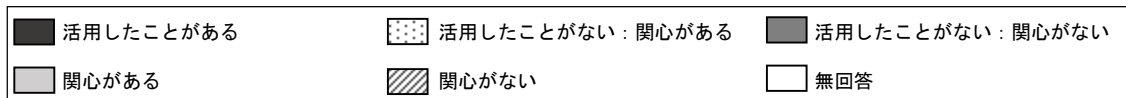
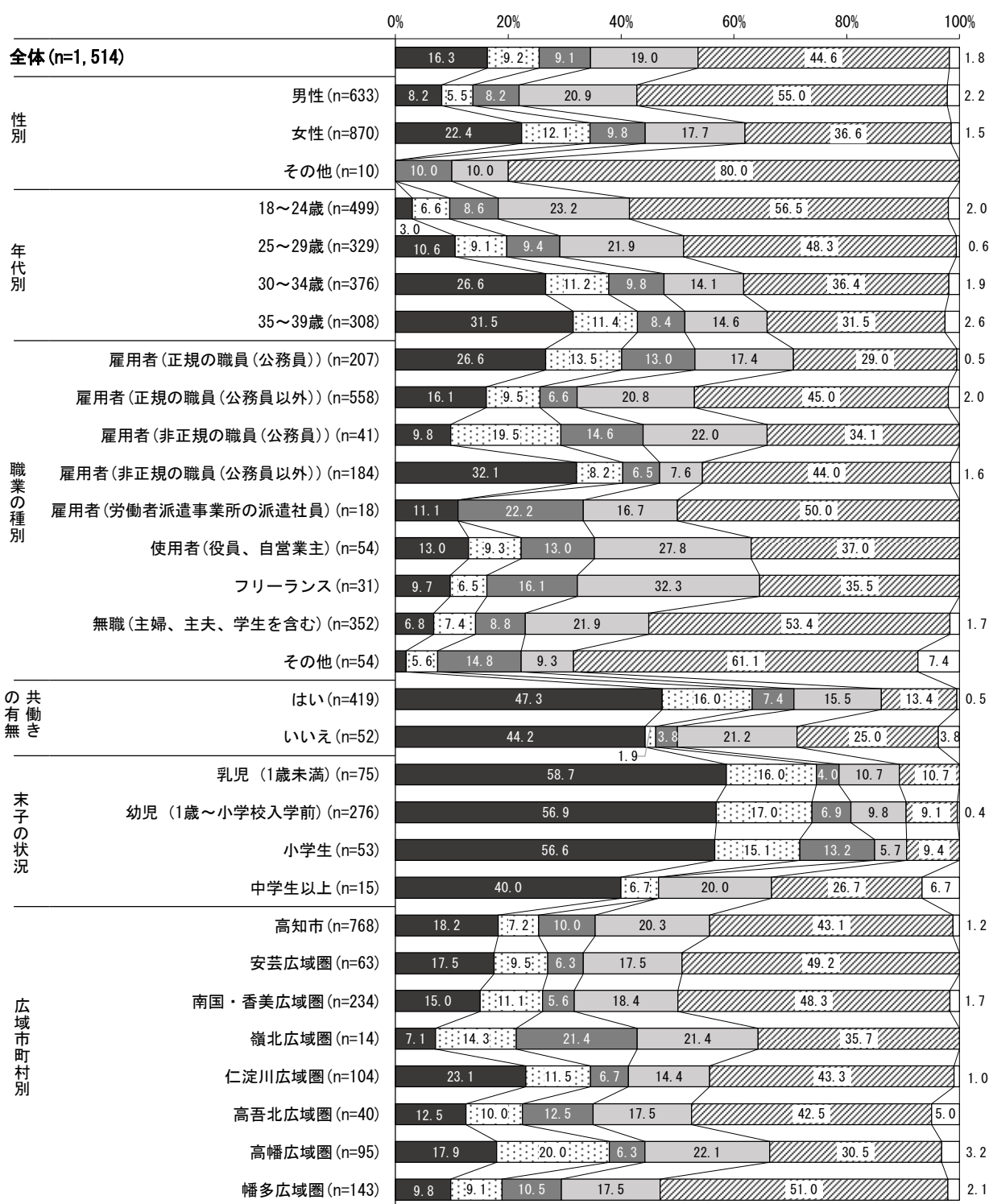
- 男女ともに、“知らない”の割合が“知っている”を上回っており、特に男性は75.8%が“知らない”という結果になっている。
- 男女ともに、「知らない（関心がない）」が最も高く、次いで男性は、「知らない（関心がある）」、女性は、「知っている（活用したことがある）」となっている。

【年代別】

- 35歳～39歳は、“知っている”の割合が“知らない”を上回っているが、そのほかの年代は“知らない”が上回る結果となっている。
- いずれの年代も、「知らない（関心がない）」が最も高くなっている（35歳～39歳は「知っている（活用したことがある）」が同率）。

【地域別】

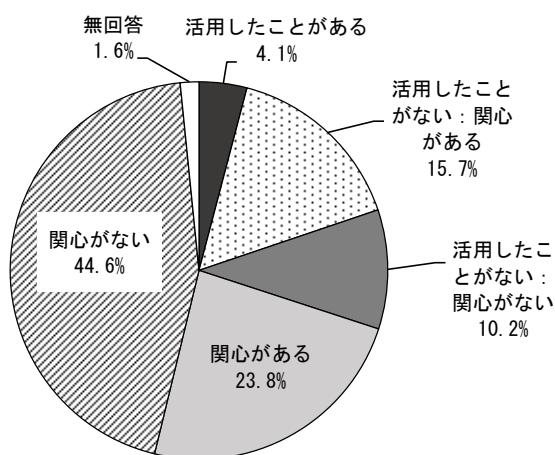
- すべての地域で、“知らない”の割合が“知っている”を上回っている。
- すべての地域で、「知らない（関心がない）」が最も高くなっており、幡多広域圏では唯一半数を超える結果となっている。



⑧ 産後ケア事業（市町村事業）

【全体】

- 本事業の認知度は、“知っている”が30.1%、“知らない”が68.4%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が44.6%と最も高く、次いで「知らない（関心がある）」（23.8%）、「知っている（活用したことがない：関心がある）」（15.7%）と続いている。



【性別】

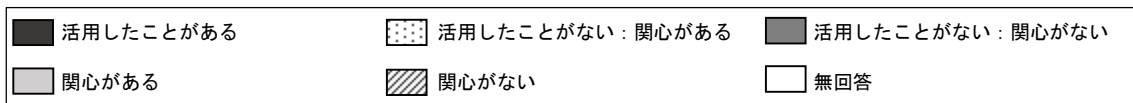
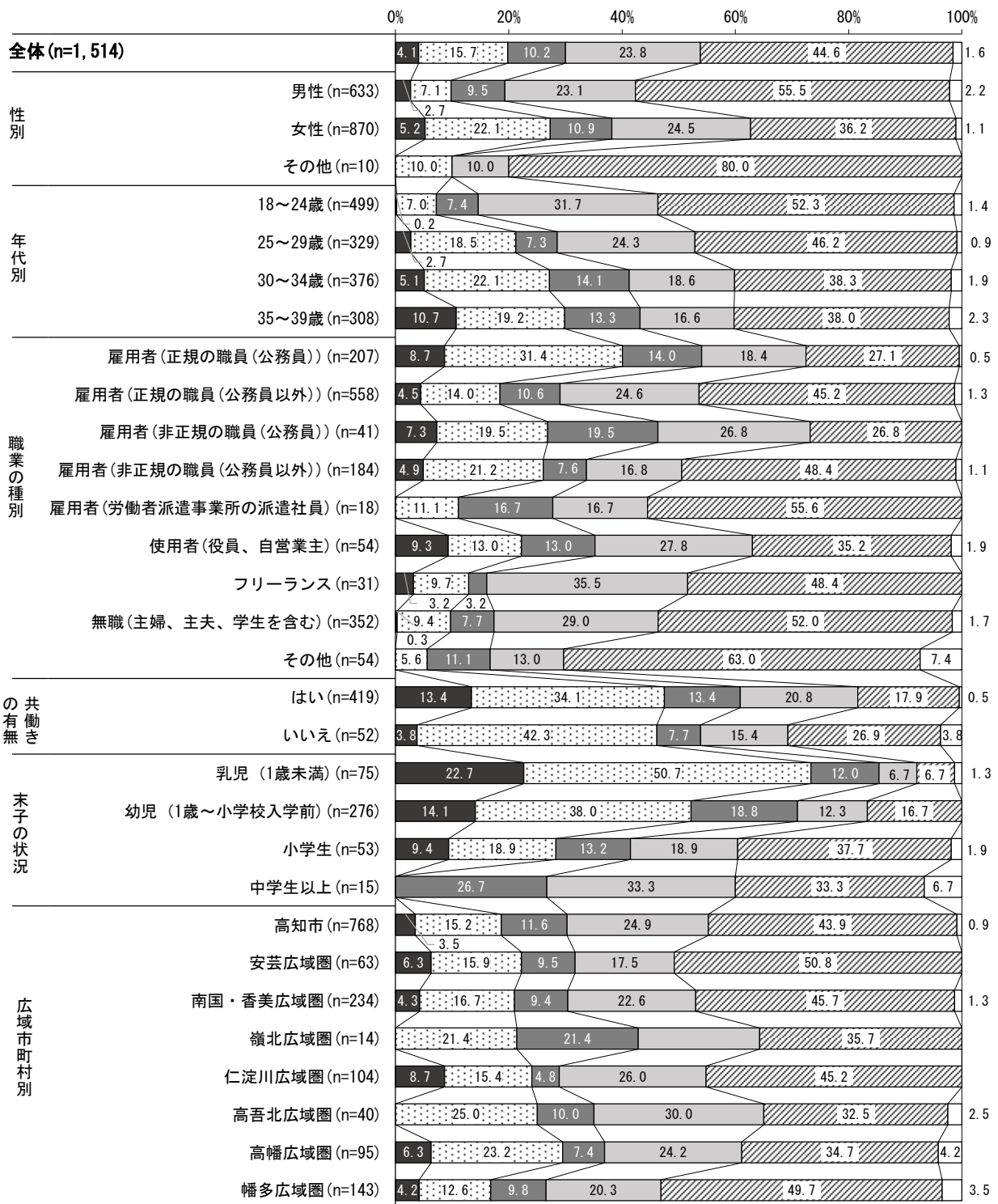
- 男女ともに、“知らない”の割合が“知っている”を上回っており、特に男性は78.5%が“知らない”という結果になっている。
- 男女ともに、「知らない（関心がない）」が最も高く、次いで「知らない（関心がある）」も同様となっている。

【年代別】

- いずれの年代も、“知らない”の割合が“知っている”を上回っており、特に18歳～24歳では84.0%が“知らない”という結果になっている。
- いずれの年代も、「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。

【地域別】

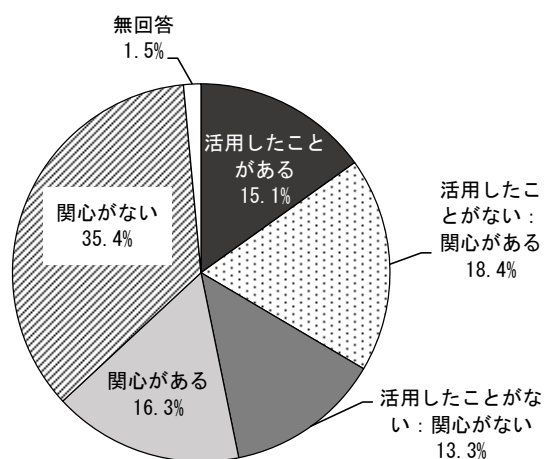
- すべての地域で、“知らない”の割合が“知っている”を上回っている。
- すべての地域で、「知らない（関心がない）」が最も高くなっており、安芸広域圏では唯一半数を超える結果となっている。



⑨ 地域子育て支援センター（市町村事業）

【全体】

- 本事業の認知度は、“知っている”が46.8%、“知らない”が51.7%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が35.4%と最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がある）」（18.4%）、「知らない（関心がある）」（16.3%）と続いている。



【性別】

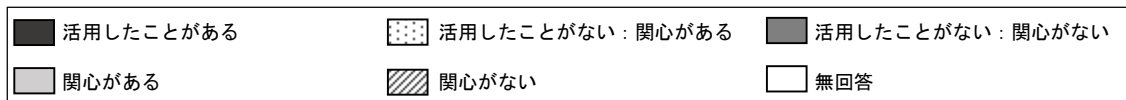
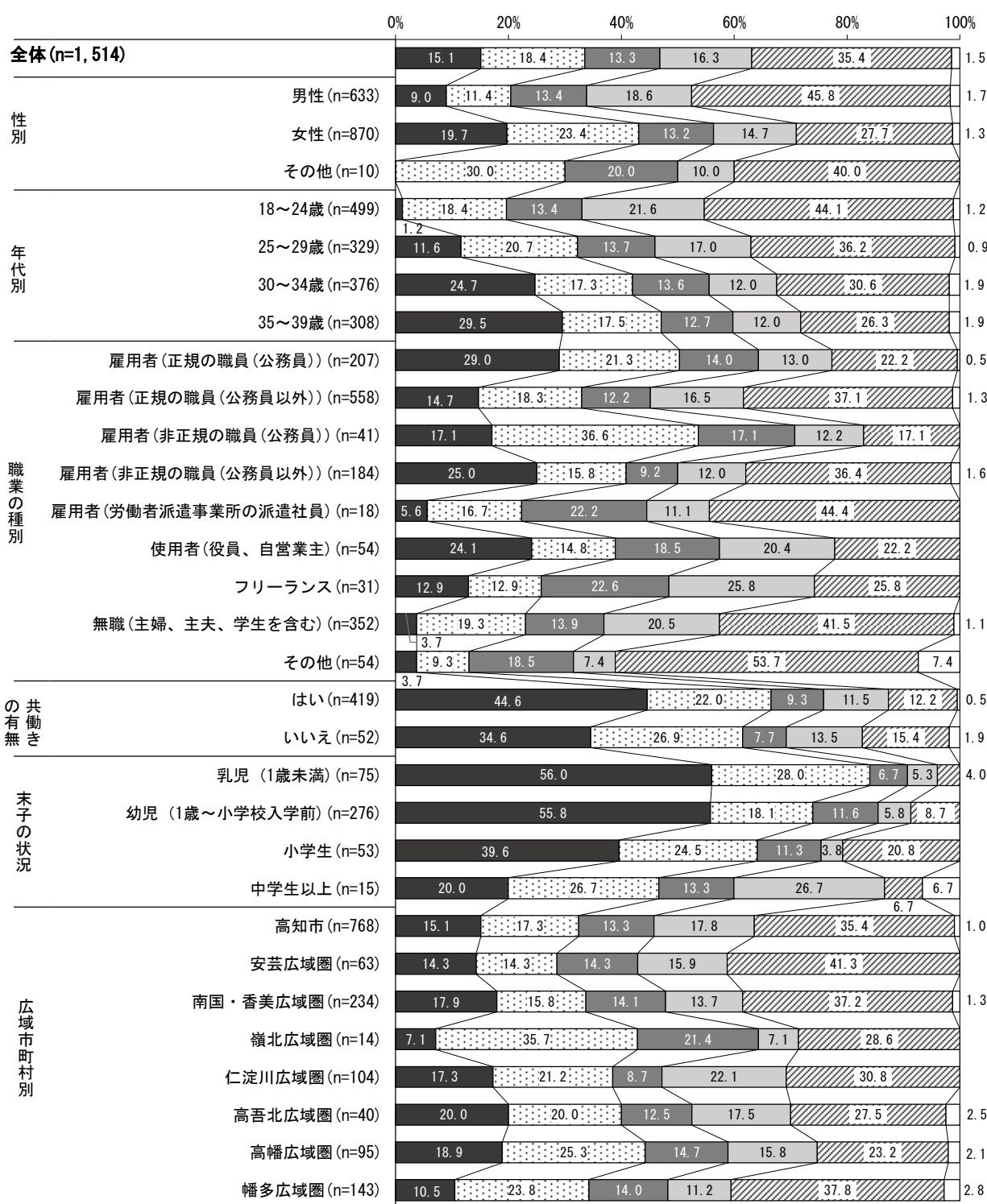
- 男性は、“知らない”の割合が“知っている”を上回っているが、女性は逆に“知っている”の割合が上回る結果となっている。
- 男女ともに、「知らない（関心がない）」が最も高くなっており、次いで男性は、「知らない（関心がある）」、女性は、「知っている（活用したことがない：関心がある）」となっている。

【年代別】

- 18歳～24歳及び25歳～29歳は、“知らない”の割合が“知っている”を上回っているが、30歳～34歳及び35歳～39歳は、“知っている”が上回る結果となっている。
- 35歳～39歳は、「知っている（活用したことがある）」が最も高く、そのほかの年代は、「知らない（関心がない）」が最も高い。

【地域別】

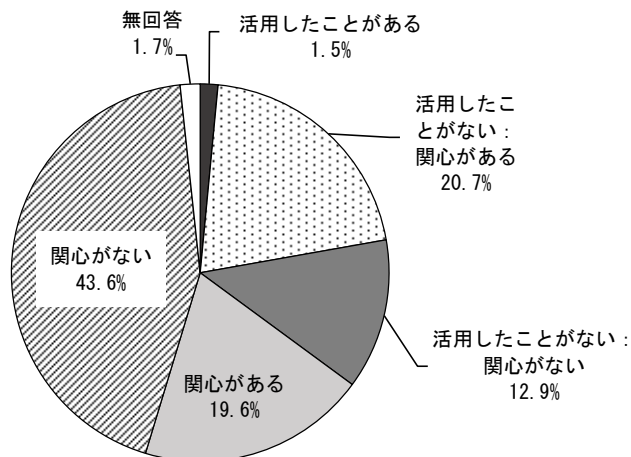
- 嶺北広域圏、高吾北広域圏及び高幡広域圏で、“知っている”の割合が“知らない”を上回り、そのほかの地域では“知らない”が上回る結果となっている。
- 嶺北広域圏及び高幡広域圏は、「知っている（活用したことがない：関心がある）」が最も高く、そのほかの地域は、「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。



⑩ ファミリー・サポート・センター（市町村事業）

【全体】

- 本事業の認知度は、“知っている”が35.1%、“知らない”が63.1%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が43.6%と最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がある）」（20.7%）、「知らない（関心がある）」（19.6%）と続いている。



【性別】

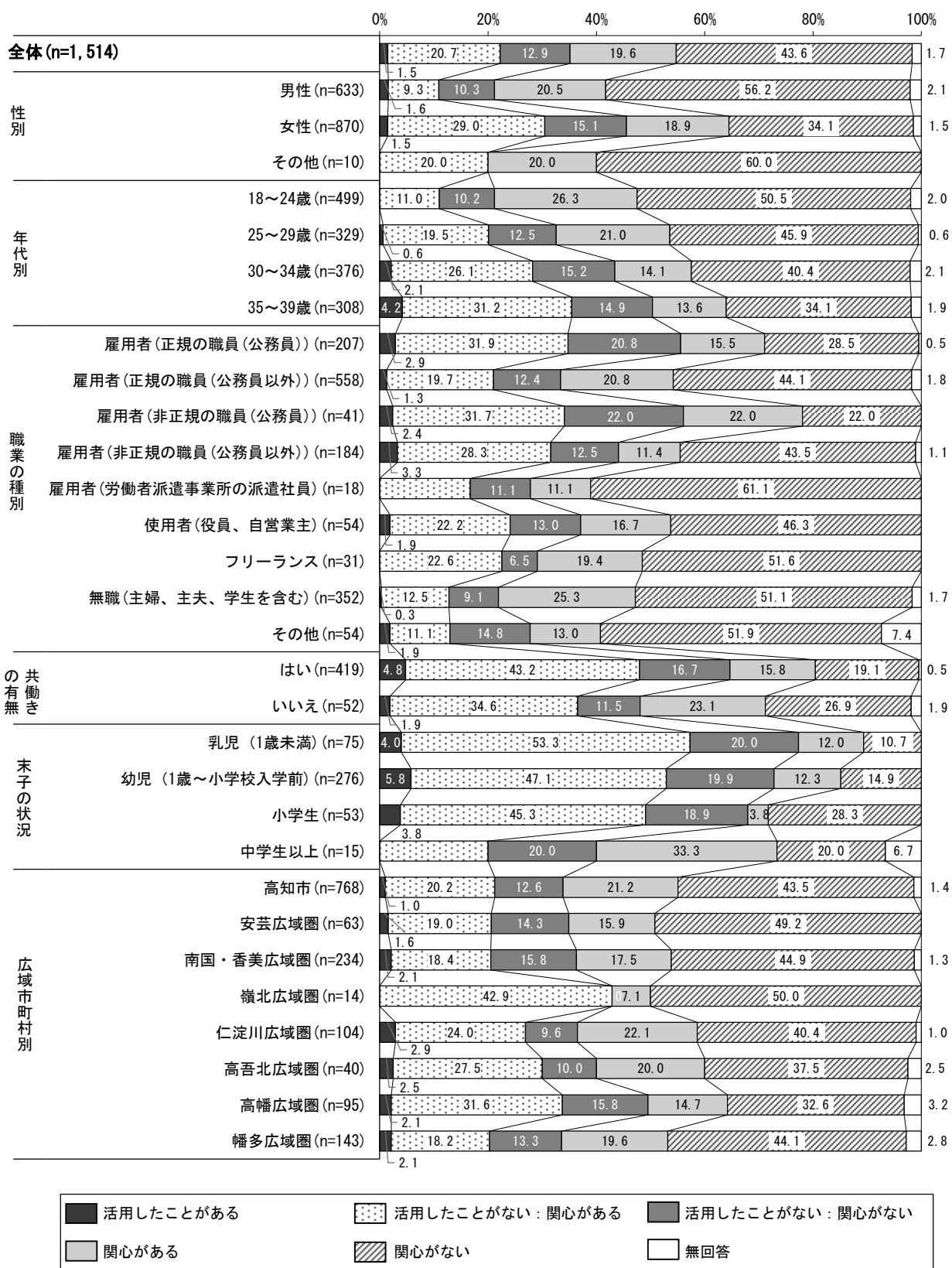
- 男女ともに、“知らない”の割合が“知っている”を上回っており、特に男性は76.8%が“知らない”という結果になっている。
- 男女ともに、「知らない（関心がない）」が最も高く、次いで男性は、「知らない（関心がある）」、女性は、「知っている（活用したことがない：関心がある）」となっている。

【年代別】

- 35歳～39歳は、“知っている”の割合が“知らない”を上回っているが、そのほかの年代は“知らない”が上回る結果となっている。
- いずれの年代も、「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。

【地域別】

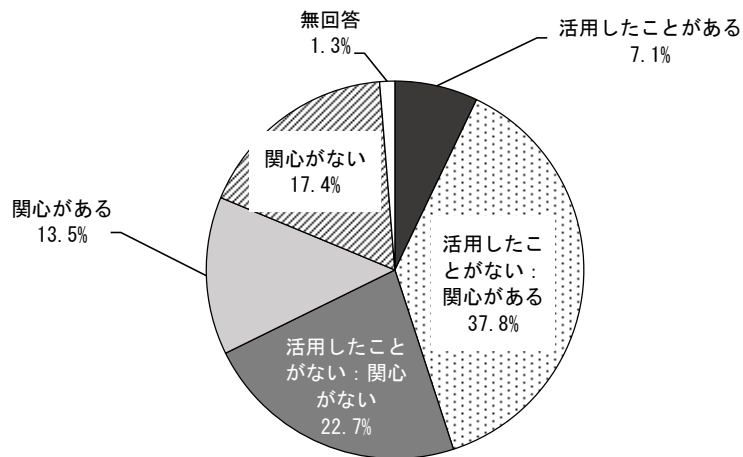
- 高幡広域圏で、“知っている”の割合が“知らない”を上回り、そのほかの地域では“知らない”が上回る結果となっている。
- いずれの地域も「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。



⑪ 子ども食堂

【全体】

- 本事業の認知度は、“知っている”が67.7%、“知らない”が31.0%となっている。
- 「知っている（活用したことがない：関心がある）」が37.8%と最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がない）」（22.7%）、「知らない（関心がない）」（17.4%）と続いている。



【性別】

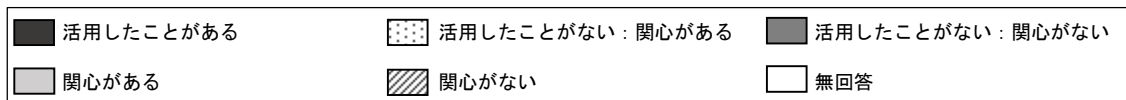
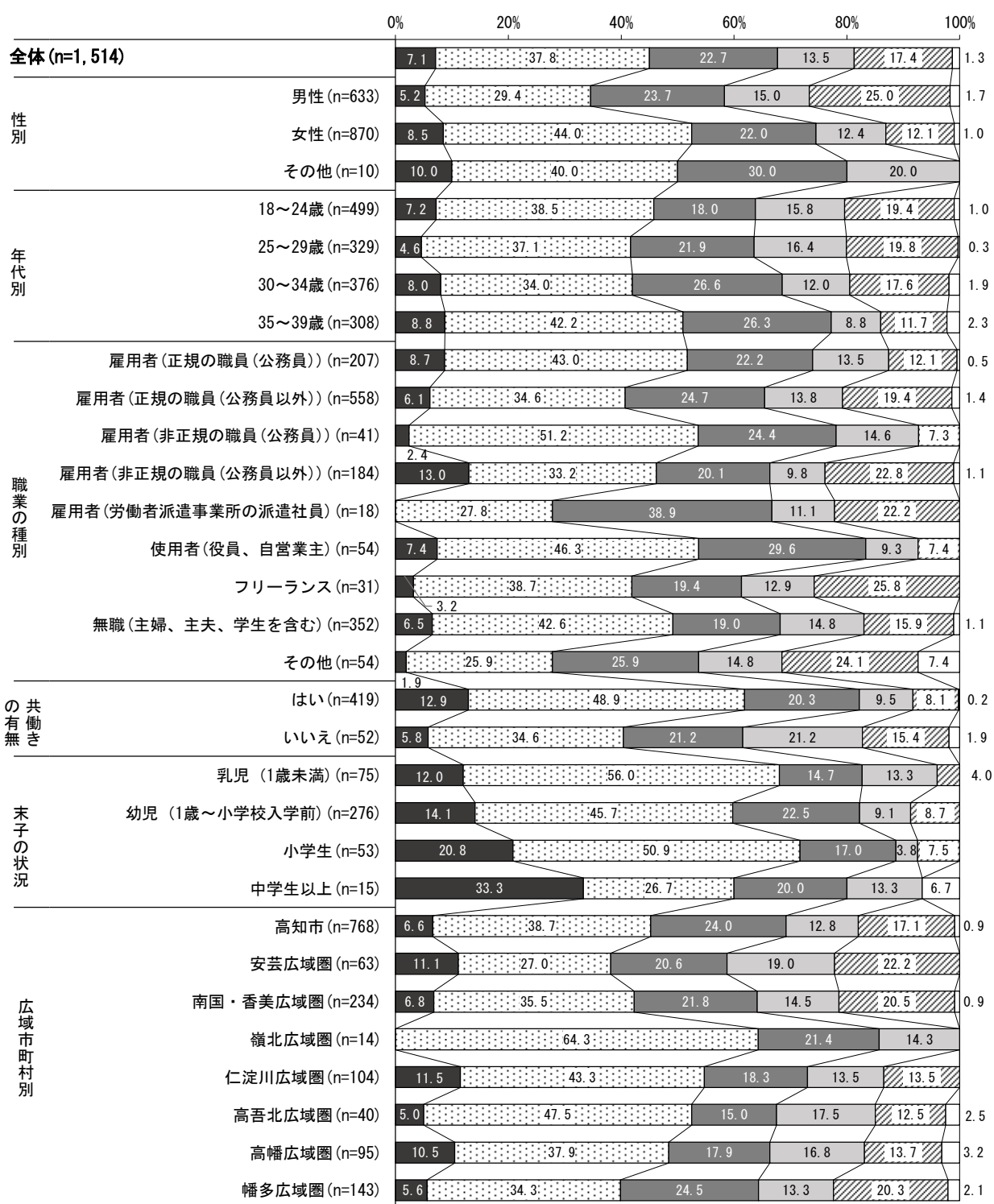
- 男女ともに、“知っている”の割合が“知らない”を上回っており、特に女性は74.5%が“知っている”という結果になっている。
- 男女ともに、「知っている（活用したことがない：関心がある）」が最も高く、次いで男性は、「知らない（関心がない）」、女性は、「知っている（活用したことがない：関心がない）」となっている。

【年代別】

- すべての年代で、“知っている”の割合が“知らない”を上回っており、特に35歳～39歳は77.3%が“知っている”という結果になっている。
- いずれの年代も、「知っている（活用したことがない：関心がある）」が最も高くなっている。

【地域別】

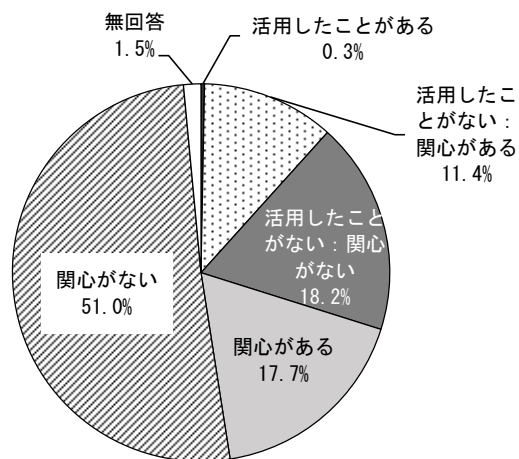
- すべての地域で、“知っている”の割合が“知らない”を上回っている。
- いずれの地域も、「知っている（活用したことがない：関心がある）」が最も高くなっている。



⑫ 高知家の出会い・結婚・子育て応援団

【全体】

- 本事業の認知度は、“知っている”が29.9%、“知らない”が68.7%となっている。
- 「知らない（関心がない）」が51.0%と最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がない）」（18.2%）、「知らない（関心がある）」（17.7%）と続いている。



【性別】

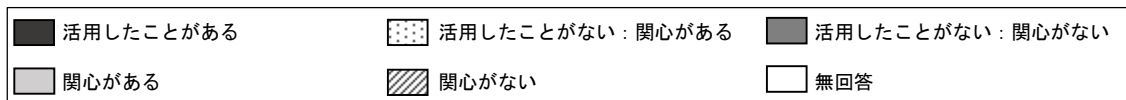
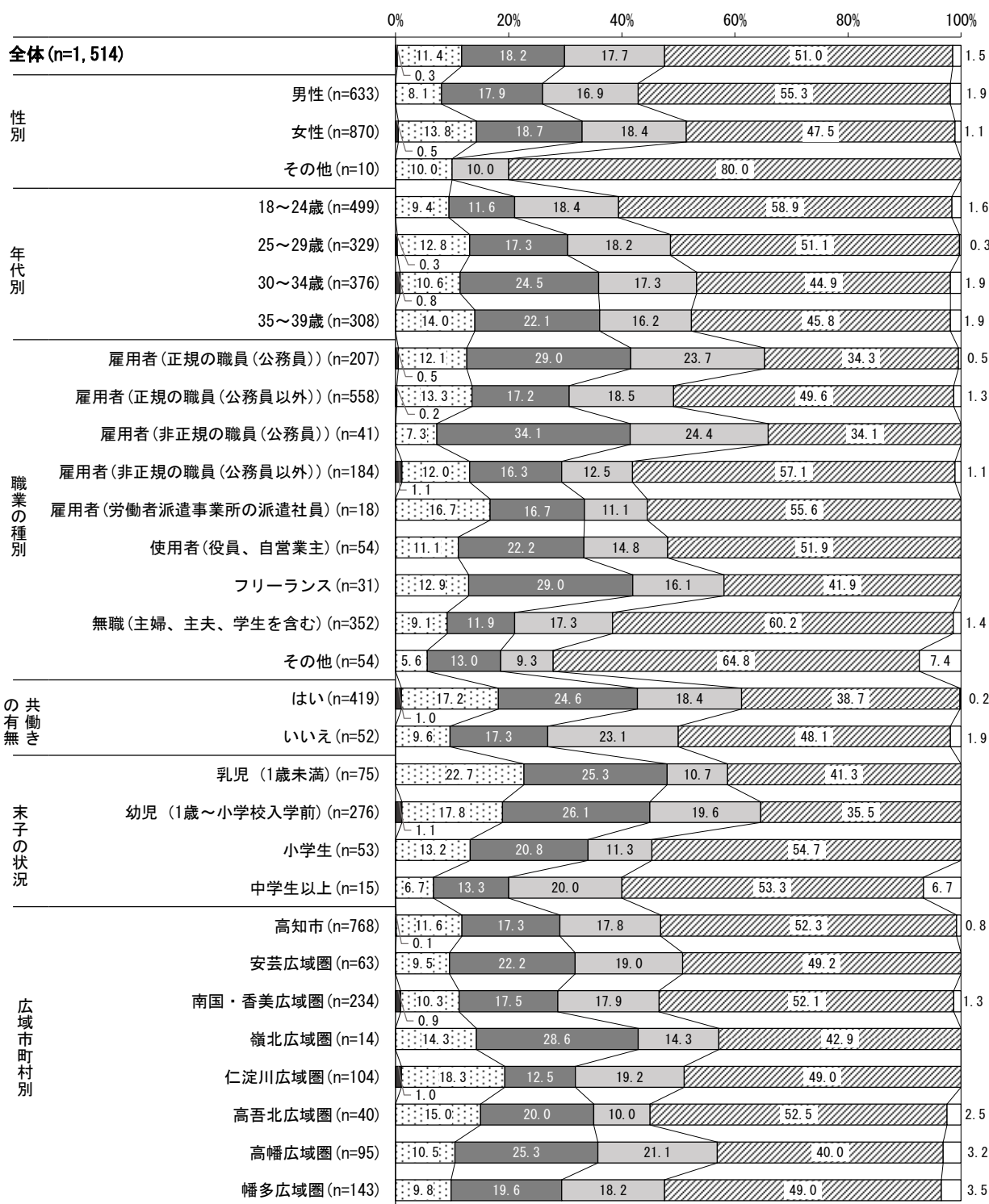
- 男女ともに、“知らない”の割合が“知っている”を上回っている。
- 男女ともに、「知らない（関心がない）」が最も高く、次いで「知っている（活用したことがない：関心がない）」も同様となっている。

【年代別】

- いずれの年代も、“知らない”の割合が“知っている”を上回っており、特に18歳～24歳は77.4%が“知らない”という結果になっている。
- いずれの年代も、「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。

【地域別】

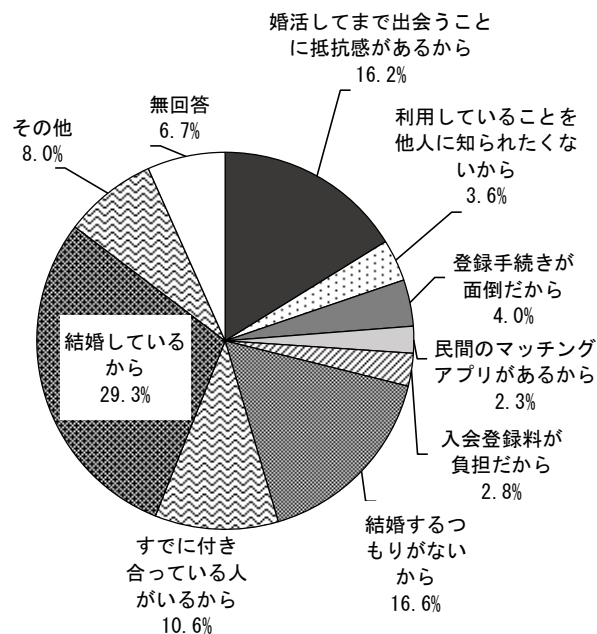
- すべての地域で、“知らない”の割合が“知っている”を上回っており、そのなかでいずれの地域も「知らない（関心がない）」が最も高くなっている。



問5 問4で「2. 高知で恋しよ！！マッチング（県が運営する会員制のお引合せシステム）」について、「知っている（活用したことがない：関心がない）」または「知らない（関心がない）」と回答した方のみお答えください。関心がないとしたのは、どのような理由からですか。あなたの考えに近いものをお選びください。（1つだけ○印）

【全体】

○「結婚しているから」が29.3%と最も高く、次いで「結婚するつもりがないから」（16.6%）、「婚活してまで出会うことに抵抗感があるから」（16.2%）と続いている。



【性別】

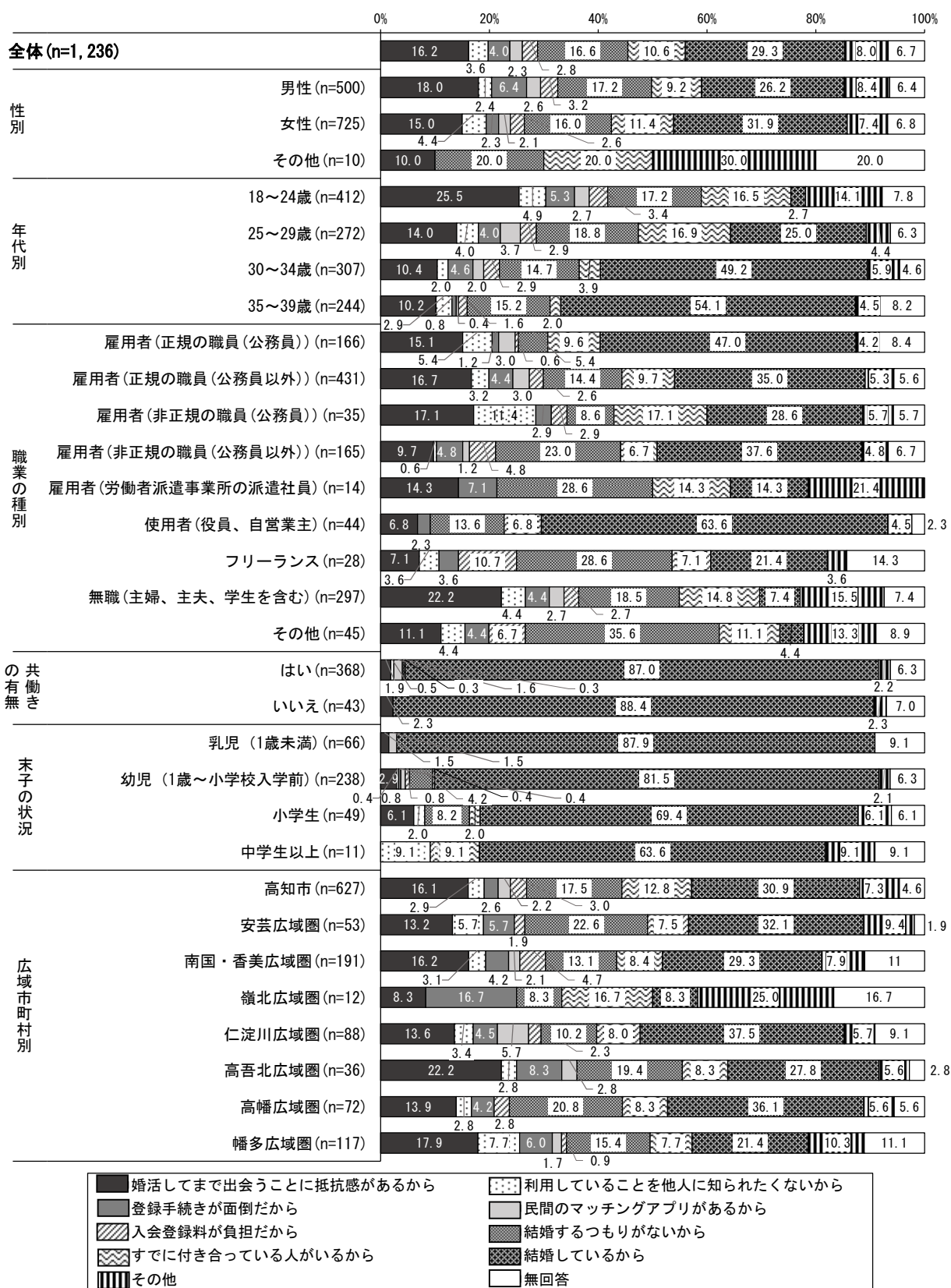
○男女ともに、「結婚しているから」が最も高くなっている。
 ○次いで男性は、「婚活してまで出会うことに抵抗感があるから」、「結婚するつもりがないから」、女性は、「結婚するつもりがないから」、「婚活してまで出会うことに抵抗感があるから」と続いている。

【年代別】

○18歳～24歳は、「婚活してまで出会うことに抵抗感があるから」が最も高く、そのほかの年代は「結婚しているから」が最も高くなっている。
 ○次いですべての年代で、「結婚するつもりがないから」が続いている。

【地域別】

○嶺北広域圏を除く地域はいずれも、「結婚しているから」が最も高くなっている。
 ○次いで、「婚活してまで出会うことに抵抗感があるから」、「結婚するつもりがないから」が拮抗して高い結果となっている。



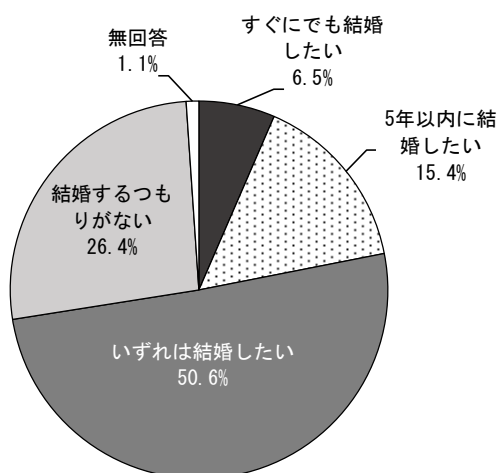
3 出会い・結婚について

問 6 現在未婚の方にお伺いします。

あなたは、将来結婚したいと思いますか。（1つだけ○印）

【全体】

○「いずれは結婚したい」が 50.6%と最も高く、次いで「結婚するつもりがない」(26.4%)、「5 年以内に結婚したい」(15.4%) と続いている。



【性別】

○男女ともに、「いずれは結婚したい」が最も高くなっている。

○次いで男女ともに、「結婚するつもりがない」、「5 年以内に結婚したい」と続いている。

【年代別】

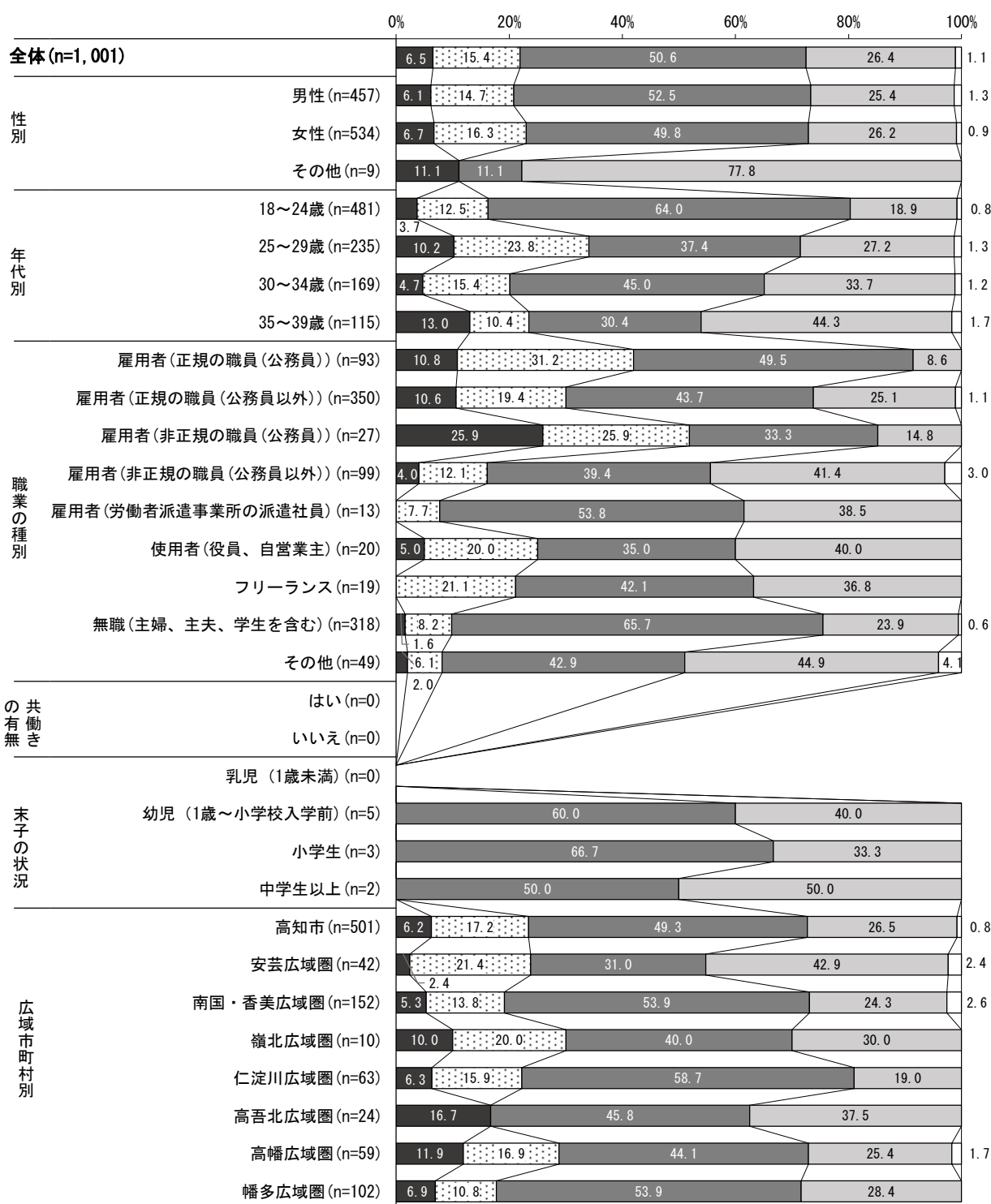
○35 歳～39 歳は、「結婚するつもりがない」が、そのほかの年代は、「いずれは結婚したい」が最も高くなっている。

○次いで 35 歳～39 歳は、「いずれは結婚したい」、そのほかの年代は、「結婚するつもりがない」となっている。

【地域別】

○安芸広域圏は、「結婚するつもりがない」が、そのほかの地域は、「いずれは結婚したい」が最も高くなっている。

○次いで安芸広域圏は、「いずれは結婚したい」、そのほかの地域は、「結婚するつもりがない」となっている。



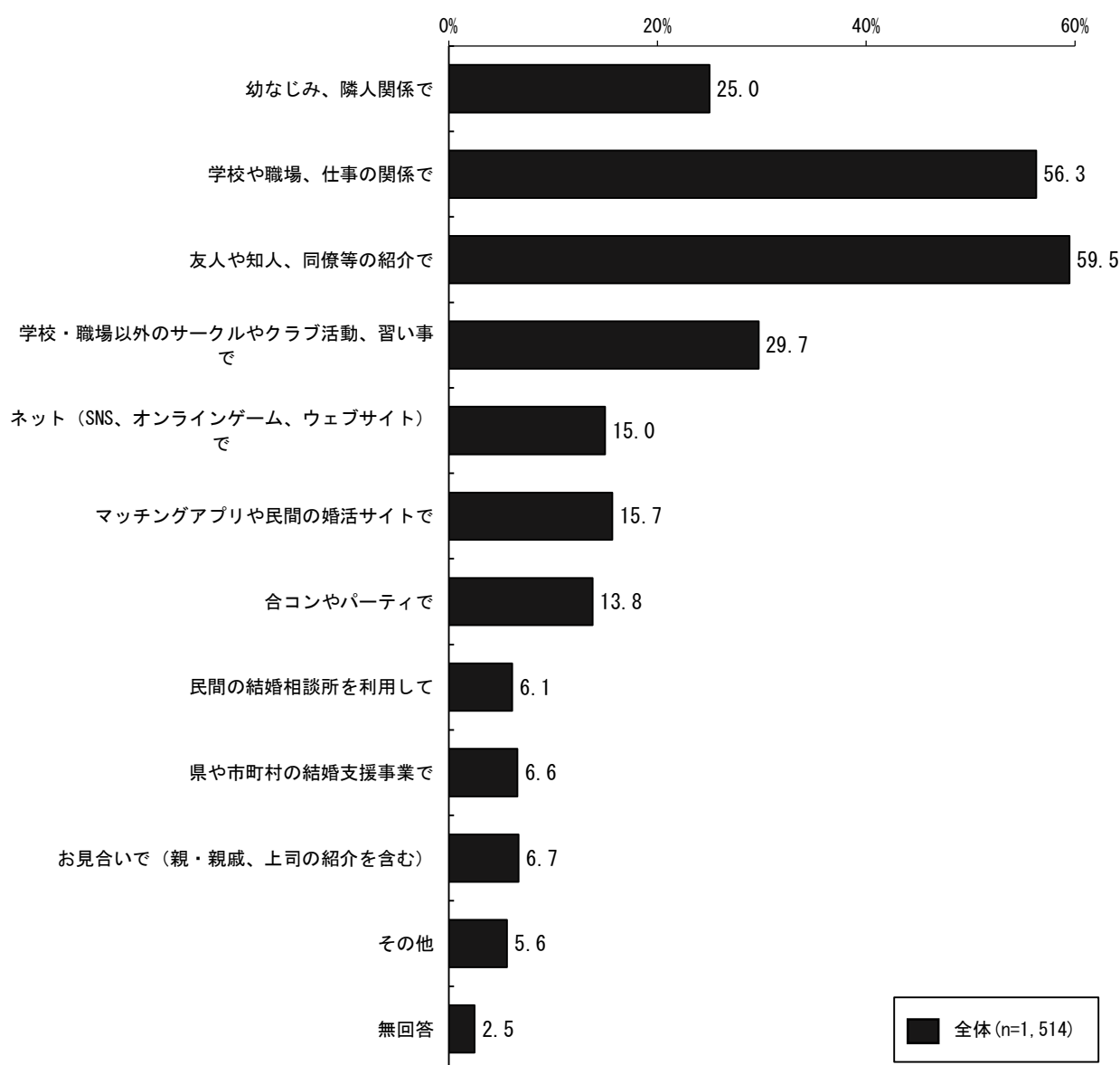
☒ すぐにでも結婚したい
 ☒ 5年以内に結婚したい
 ☒ いずれは結婚したい
 ☒ 結婚するつもりがない
 ☐ 無回答

問7 全ての方にお伺いします。

結婚に向けた出会いを求める場合、どのようなきっかけで知り合いたいと思いますか。（もしくは、結婚相手とはどのようなきっかけで知り合いましたか。）あなたの考え・状況に近いものを全てお選びください。（あてはまるもの全てに○印）

【全体】

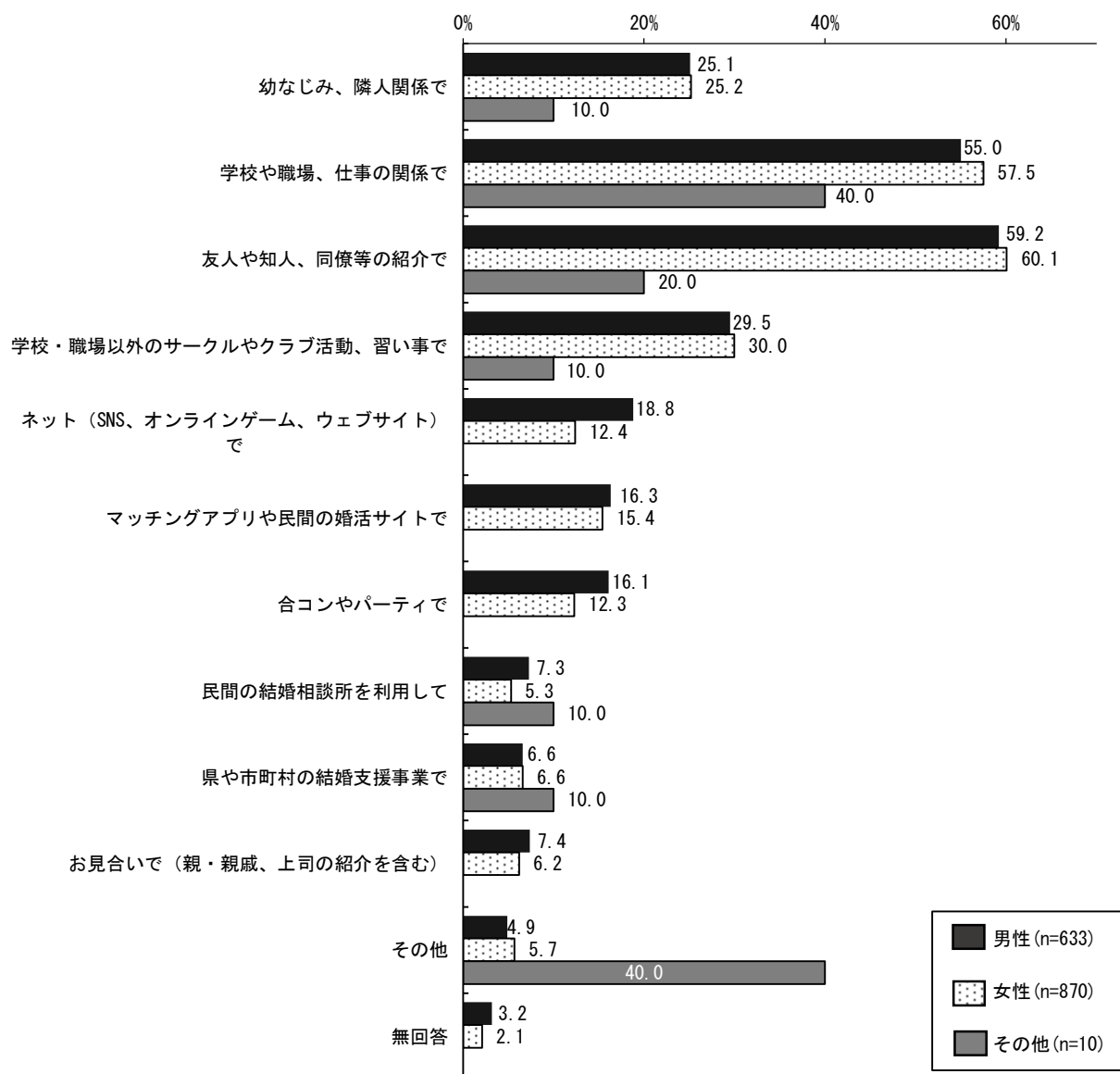
○「友人や知人、同僚等の紹介で」が59.5%と最も高く、次いで「学校や職場、仕事の関係で」(56.3%)、「学校・職場以外のサークルやクラブ活動、習い事で」(29.7%)と続いている。



【性別】

○男女ともに、「友人や知人、同僚等の紹介で」が最も高くなっている。

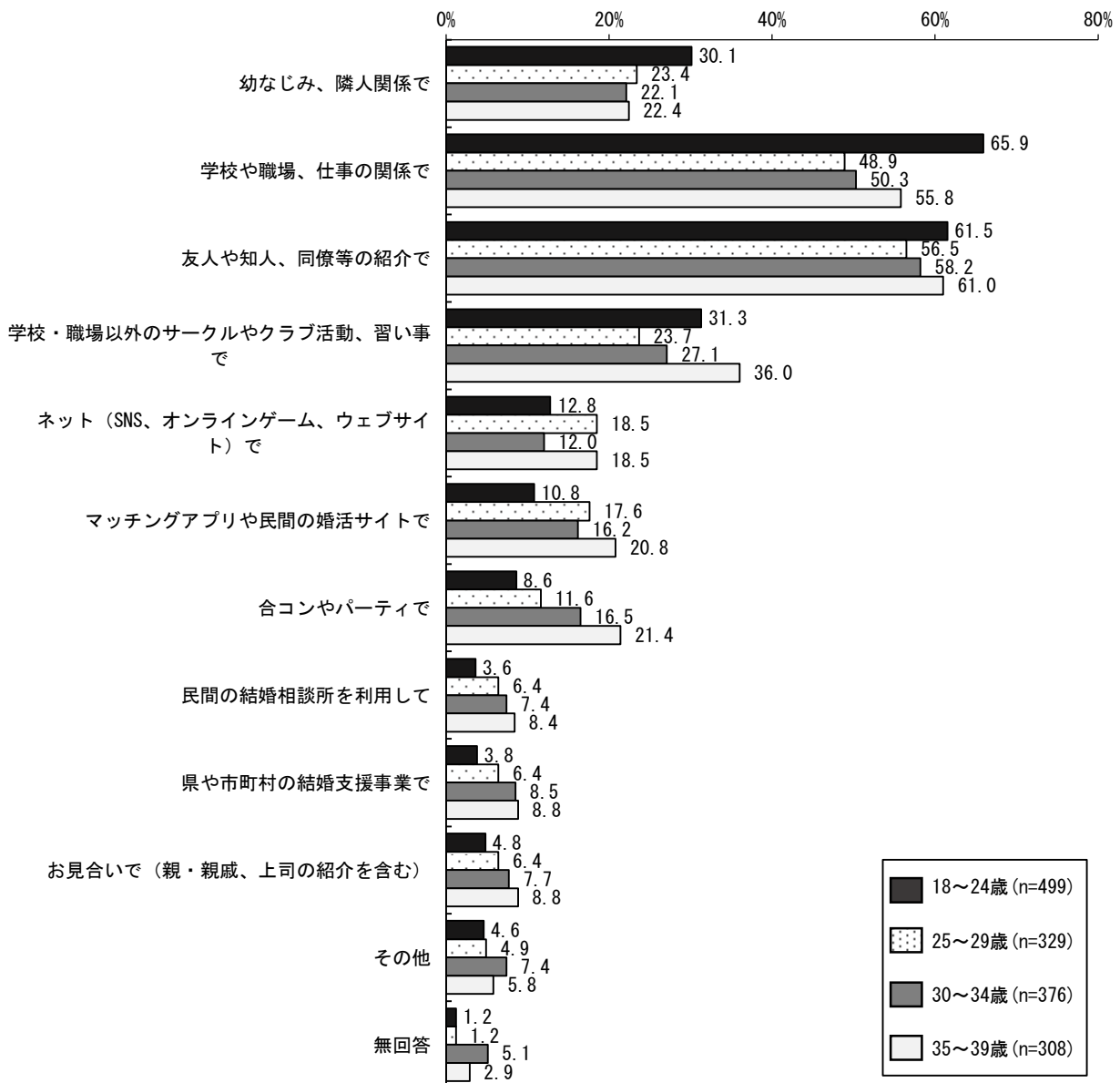
○次いで男女ともに、「学校や職場、仕事の関係で」、「学校・職場以外のサークルやクラブ活動、習い事で」と続いている。



【年代別】

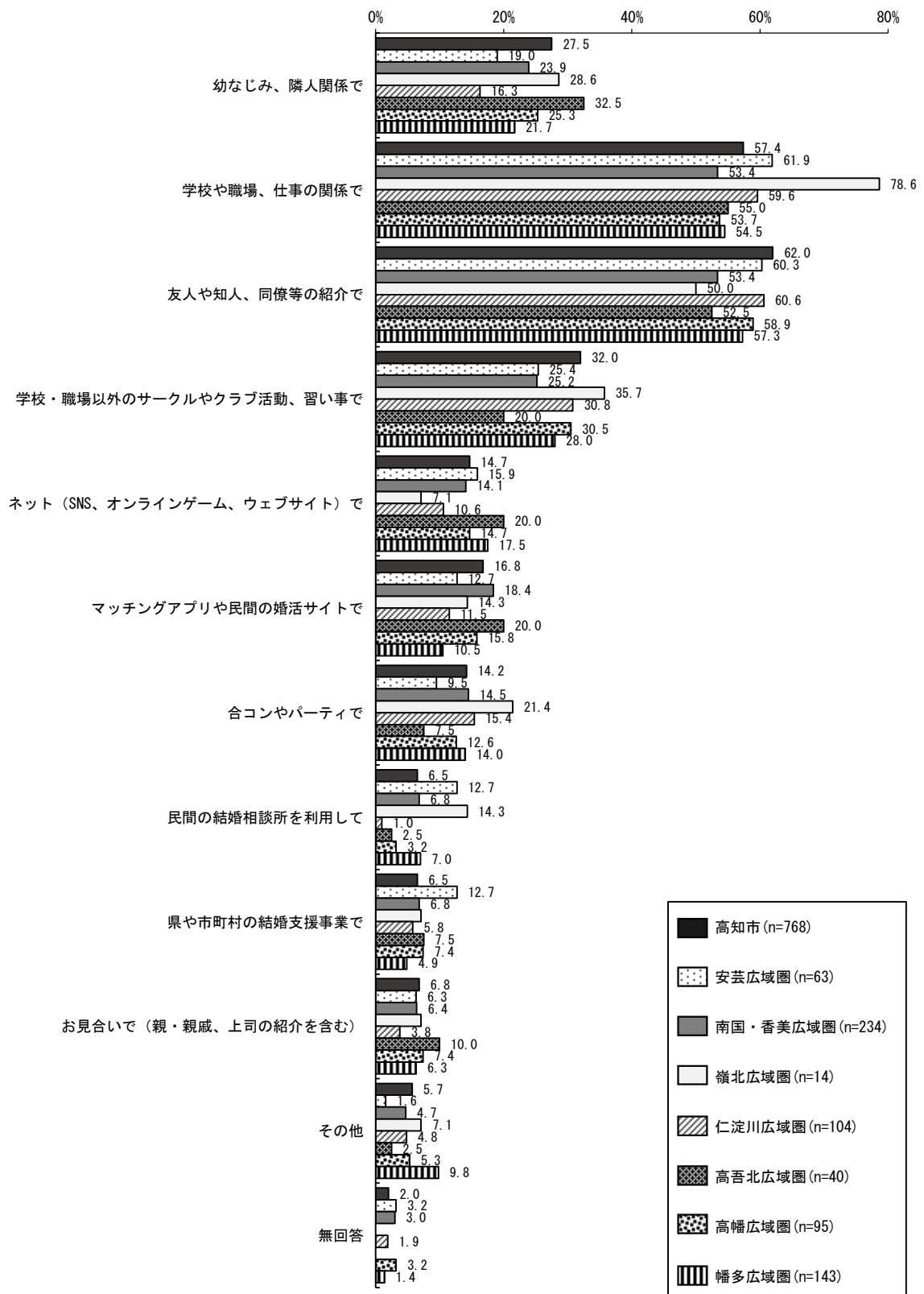
○18 歳～24 歳は、「学校や職場、仕事の関係で」が最も高く、そのほかの年代は、「友人や知人、同僚等の紹介で」が最も高くなっている。

○次いで 18 歳～24 歳は、「友人や知人、同僚等の紹介で」、そのほかの年代は、「学校や職場、仕事の関係で」と続いている。



【地域別】

○すべての地域で、「友人や知人、同僚等の紹介で」及び「学校や職場、仕事の関係で」が突出して高くなっている。

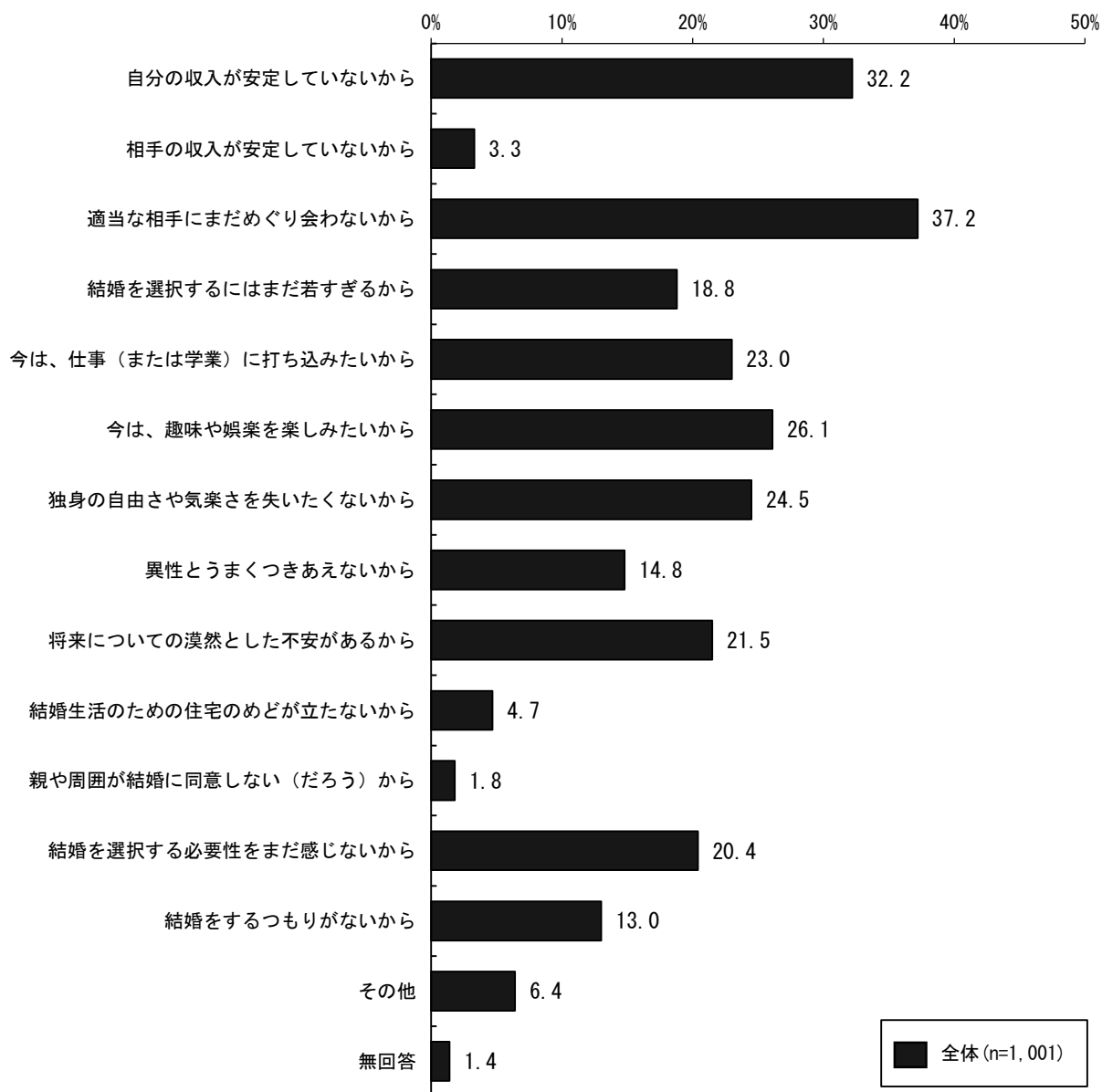


問8 現在未婚の方にお伺いします。

結婚していない理由として、あなたの考えに近いものを3つお選びください。(○印は3つまで)

【全体】

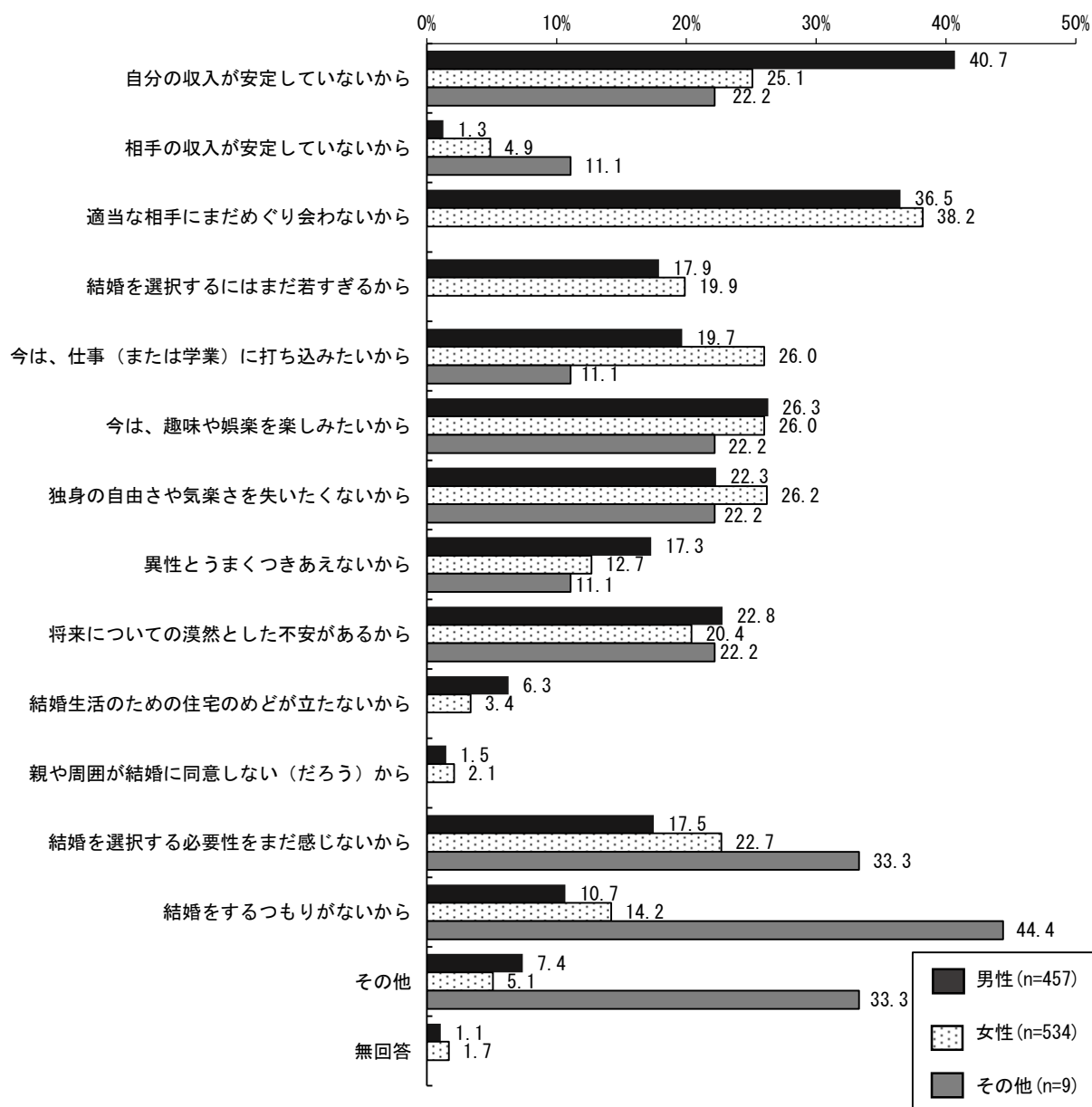
○「適当な相手にまだめぐり会わないから」が37.2%と最も高く、次いで「自分の収入が安定していないから」(32.2%)、「今は、趣味や娯楽を楽しみたいから」(26.1%)と続いている。



【性別】

○男性は、「自分の収入が安定していないから」、女性は、「適当な相手にまだめぐり会わないから」が最も高くなっている。

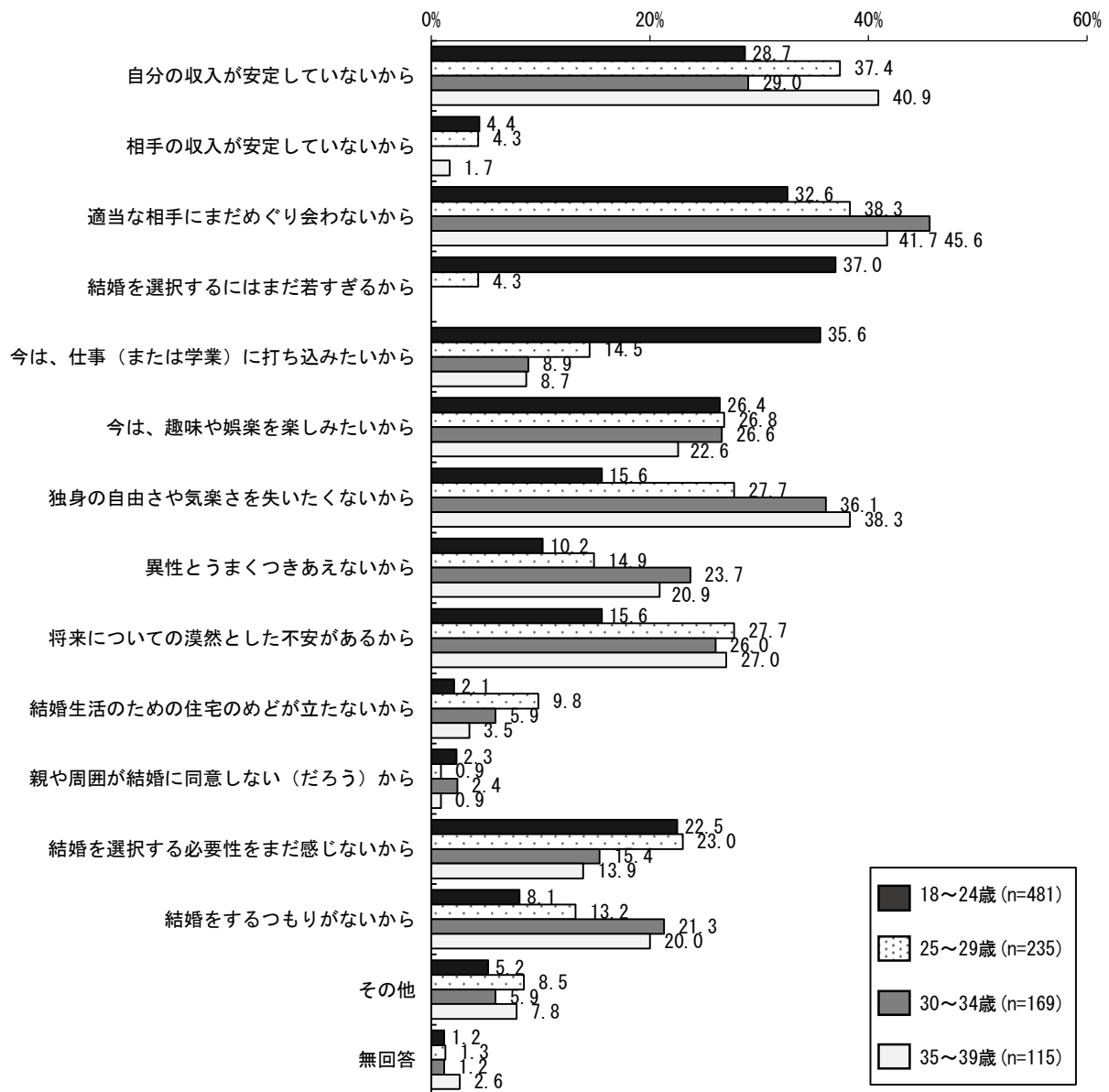
○次いで男性は、「適当な相手にまだめぐり会わないから」、女性は、「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」となっている。



【年代別】

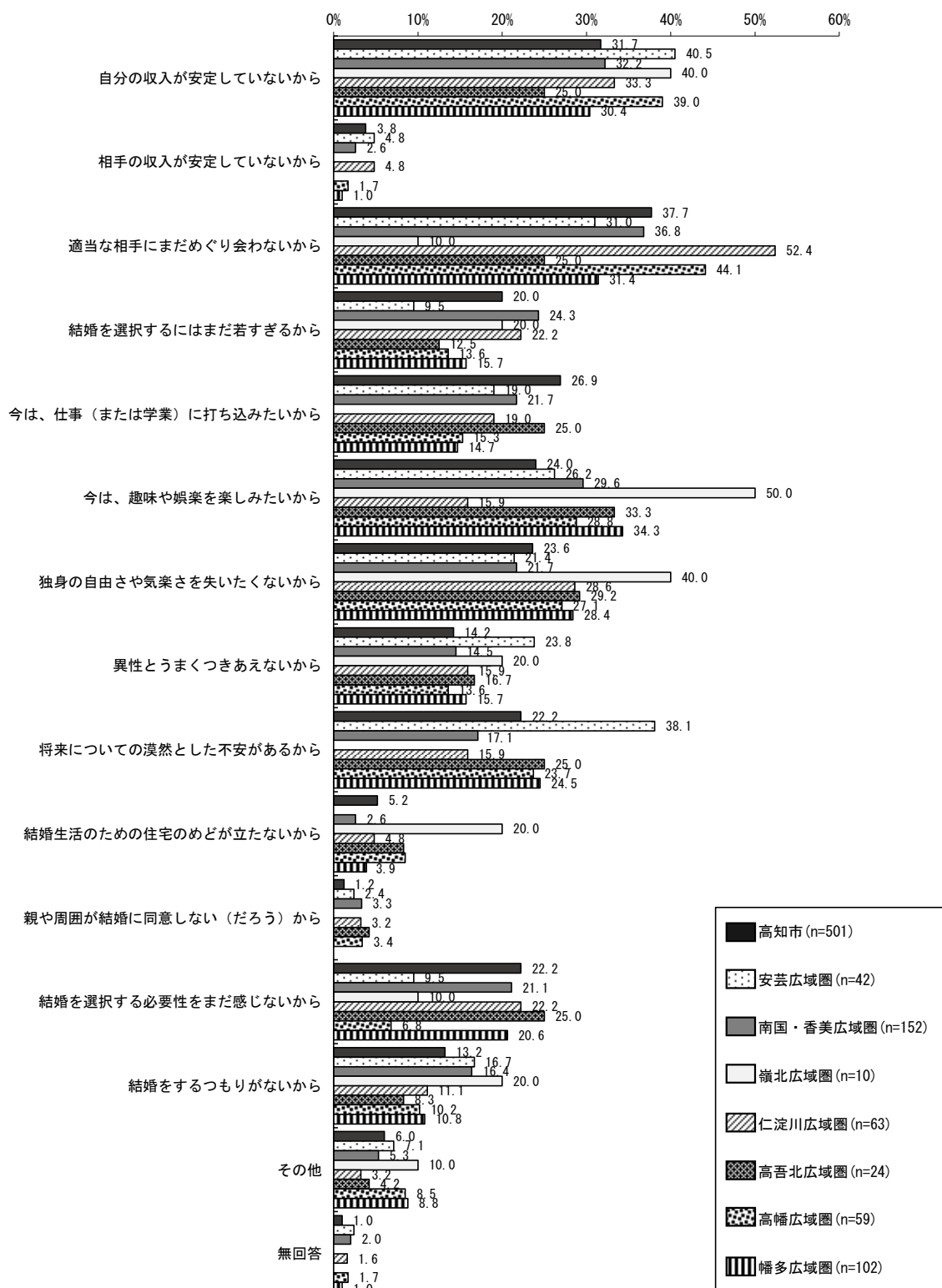
○25 歳～29 歳、30 歳～34 歳及び 35 歳～39 歳は、「適当な相手にまだめぐり会わないから」が最も高くなっている。

○18 歳～24 歳は、「結婚を選択するにはまだ若すぎるから」が最も高く、「今は、仕事（または学業）に打ち込みたいから」と続いている。



【地域別】

- 高知市をはじめ半分の地域で「適当な相手にまだめぐり会わないから」が最も高くなっている。
- 安芸広域圏では、「自分の収入が安定していないから」、嶺北広域圏、高吾北広域圏及び幡多広域圏では、「今は、趣味や娯楽を楽しみたいから」が最も高い。

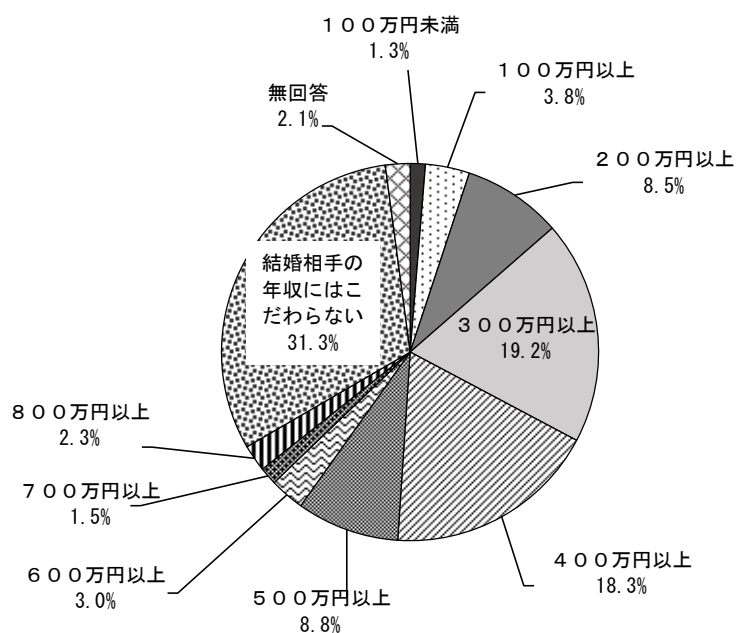


問9 現在未婚の方にお伺いします。

あなたが結婚相手に求める年収（課税前の年間総収入でボーナスを含む）の許容範囲はいくら以上ですか。（1つだけ○印）

【全体】

- 「結婚相手の年収にはこだわらない」が31.3%と最も高く、次いで「300万円以上」（19.2%）、「400万円以上」（18.3%）と続いている。



【性別】

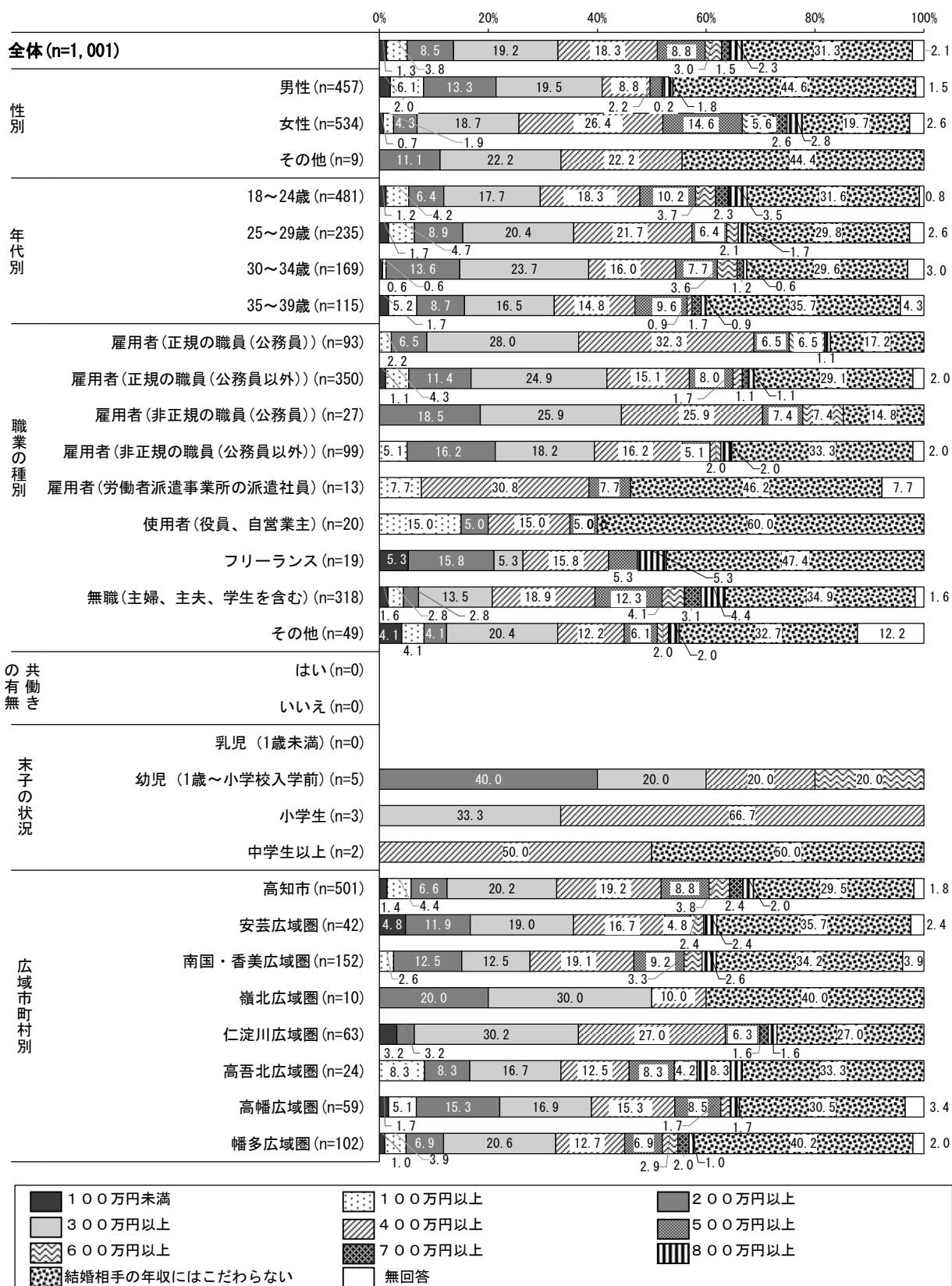
- 男性は、「結婚相手の年収にはこだわらない」が最も高く、次いで「300万円以上」となっている。
- 女性は、「400万円以上」が最も高く、次いで「結婚相手の年収にはこだわらない」となっている。

【年代別】

- すべての年代で、「結婚相手の年収にはこだわらない」が最も高い。
- 次いで、18歳～24歳及び25歳～29歳は、「400万円以上」、30歳～34歳及び35歳～39歳は「300万円以上」となっている。

【地域別】

- 仁淀川広域圏では、「300万円以上」が最も高く、そのほかの地域では、「結婚相手の年収にはこだわらない」が最も高くなっている。

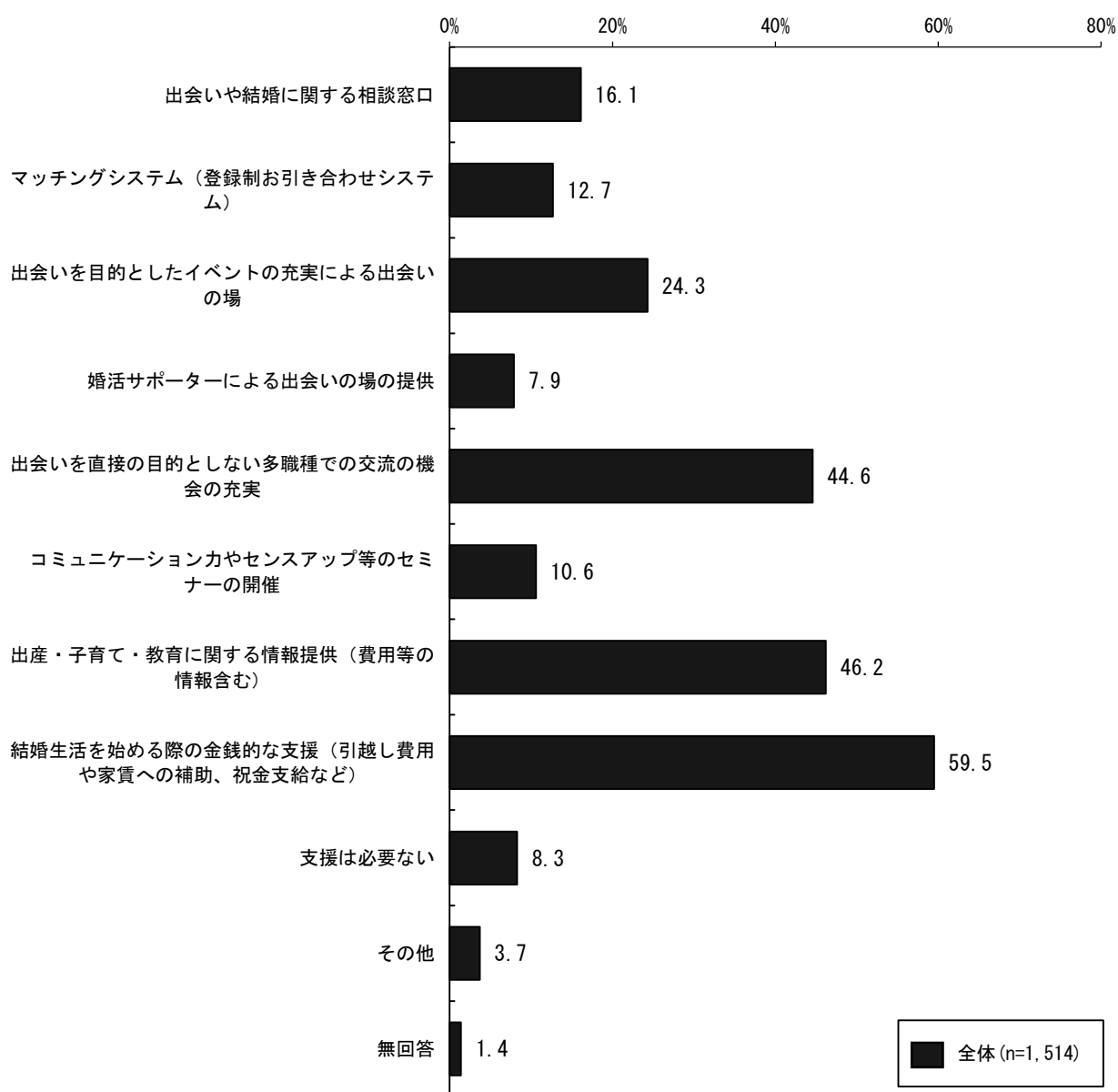


問 10 全ての方にお聞きます。

出会いや結婚に関する行政の支援として、必要だと思うものは何ですか。あなたの考えに近いものを、3つお選びください。（○印は3つまで）

【全体】

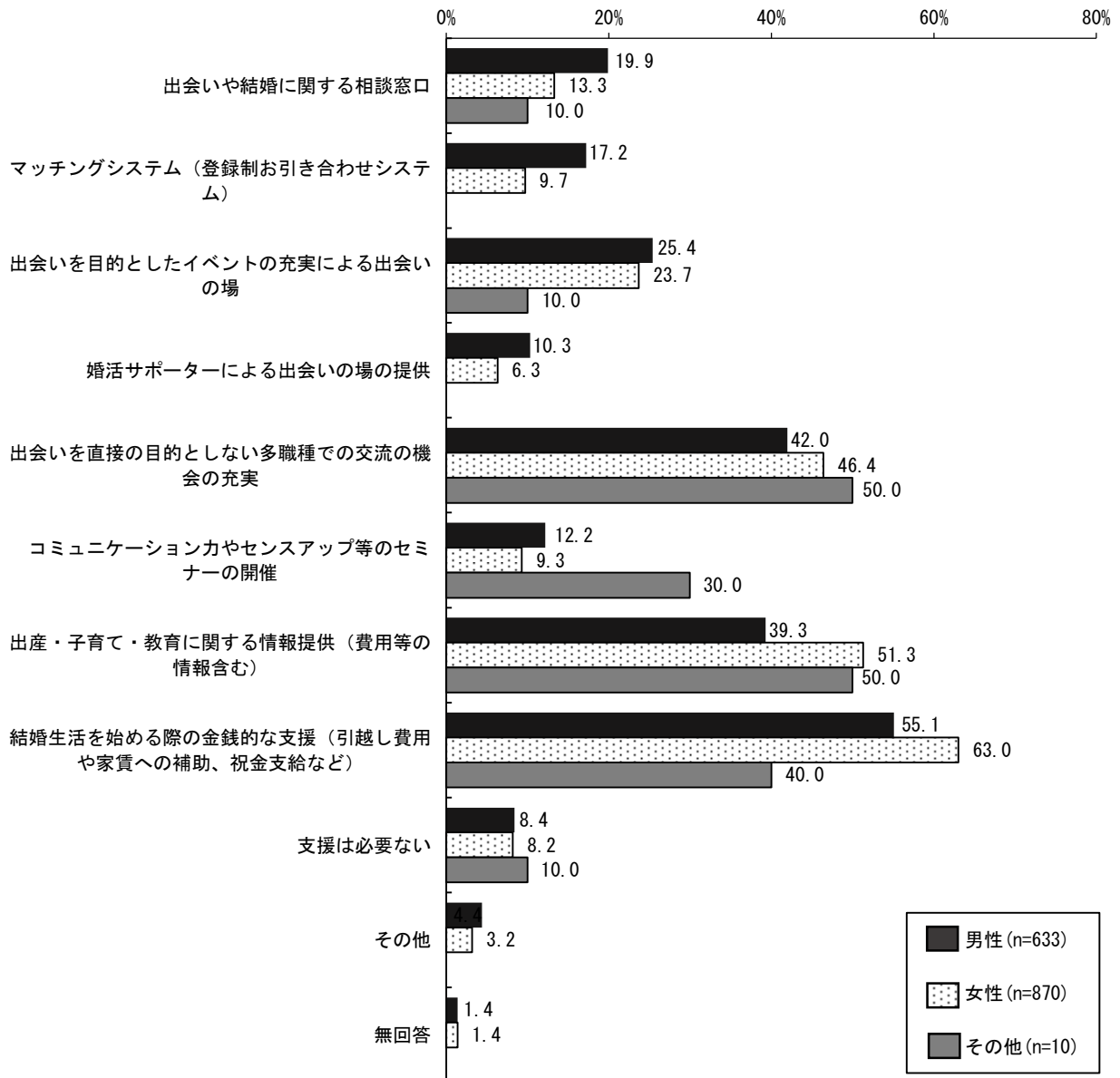
○「結婚生活を始める際の金銭的な支援（引越し費用や家賃への補助、祝金支給など）」が 59.5%と最も高く、次いで「出産・子育て・教育に関する情報提供（費用等の情報含む）」（46.2%）、「出会いを直接の目的としない多職種での交流の機会の充実」（44.6%）と続いている。



【性別】

○男女ともに、「結婚生活を始める際の金銭的な支援（引越し費用や家賃への補助、祝金支給など）」が最も高くなっている。

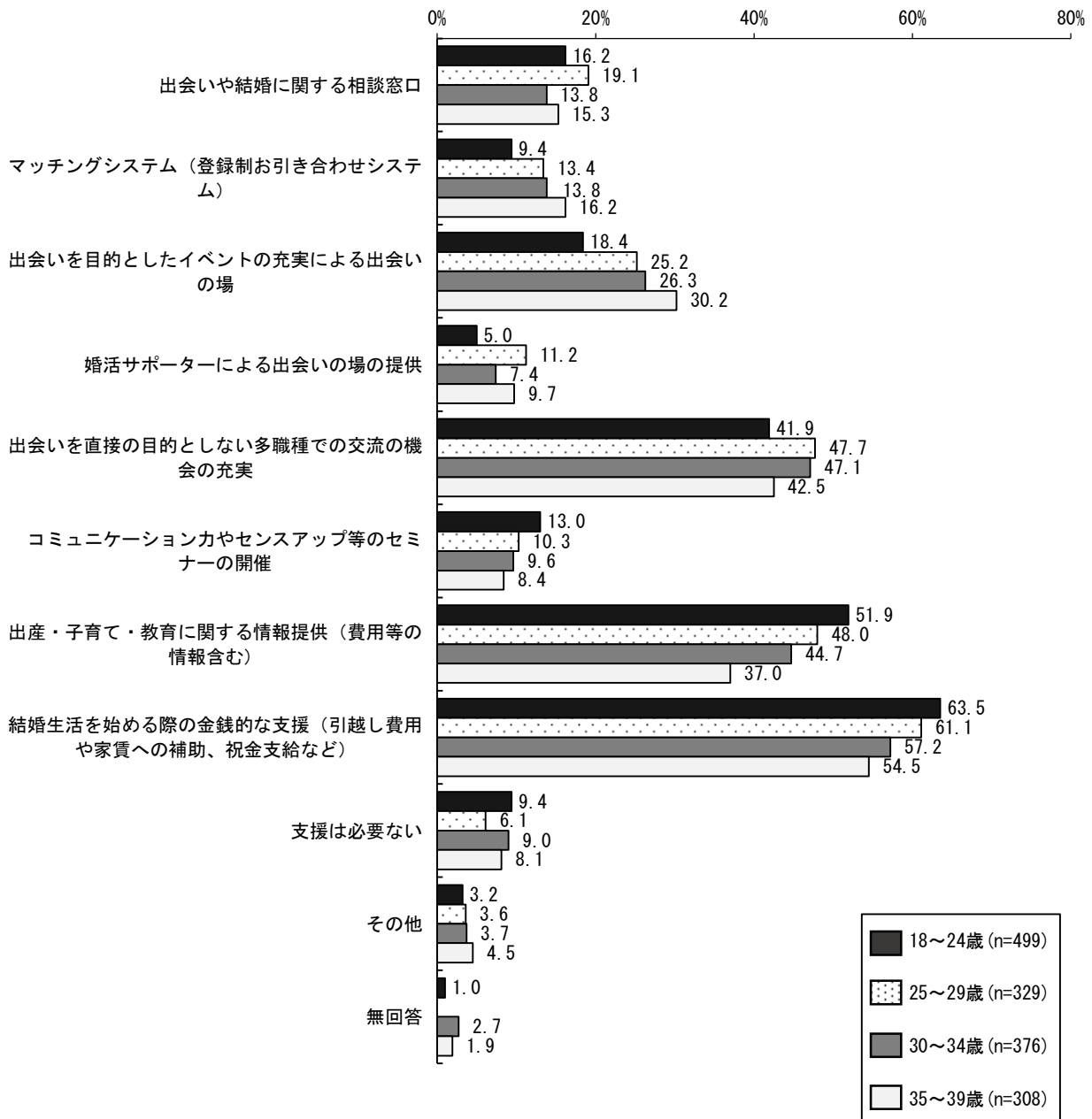
○次いで男性は、「出会いを直接の目的としない多職種での交流の機会の充実」、女性は、「出産・子育て・教育に関する情報提供（費用等の情報含む）」となっている。



【年代別】

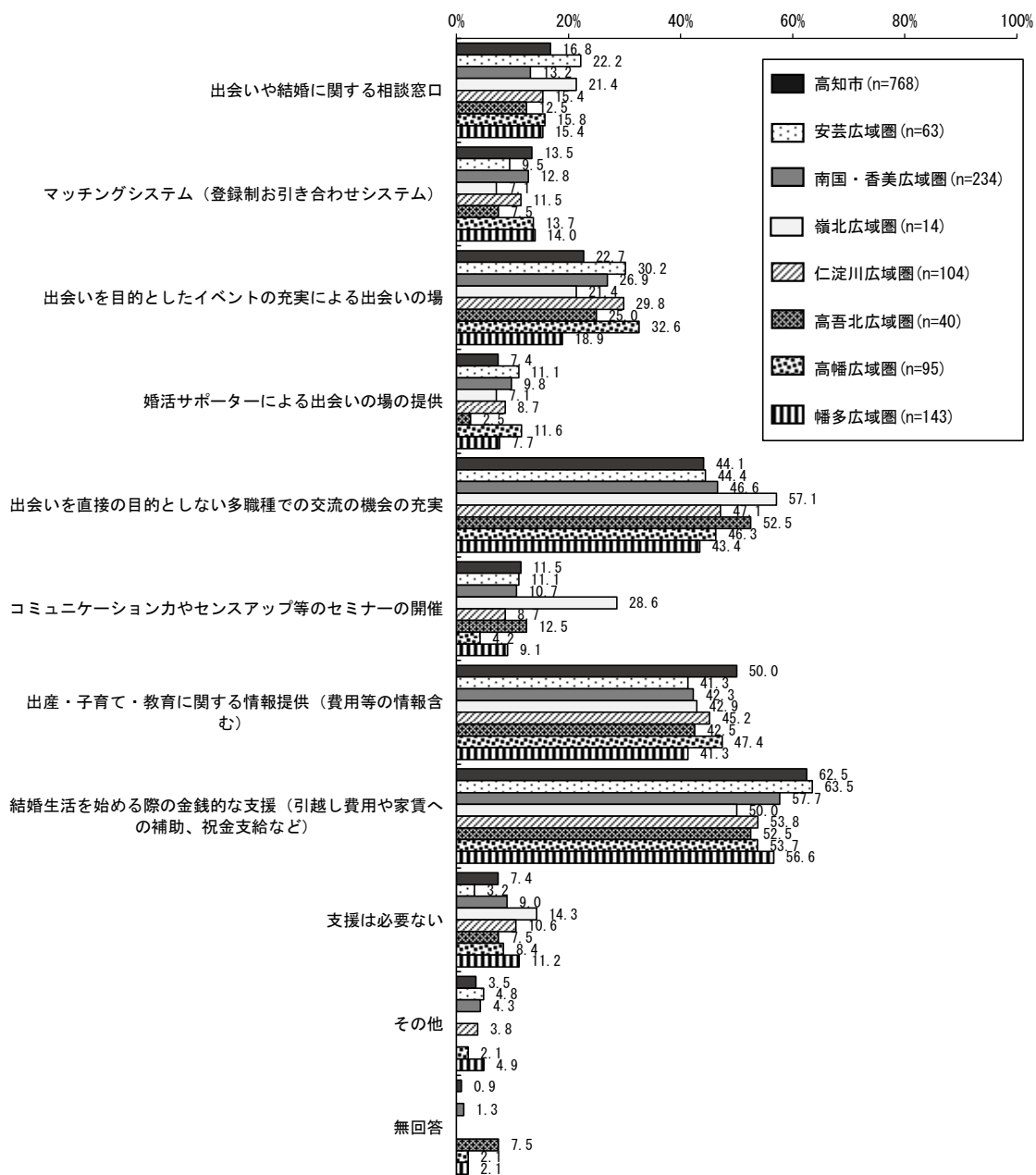
○すべての年代で「結婚生活を始める際の金銭的な支援（引越し費用や家賃への補助、祝金支給など）」が最も高くなっている。

○次いで、18歳～24歳及び25歳～29歳は、「出産・子育て・教育に関する情報提供（費用等の情報含む）」、30歳～34歳及び35歳～39歳は「出会いを直接の目的としない多職種での交流の機会の充実」となっている。



【地域別】

○嶺北広域圏では「出会いを直接の目的としない多職種での交流の機会の充実」が最も高く、その他の地域では「結婚生活を始める際の金銭的な支援（引越し費用や家賃への補助、祝金支給など）」が最も高くなっている。



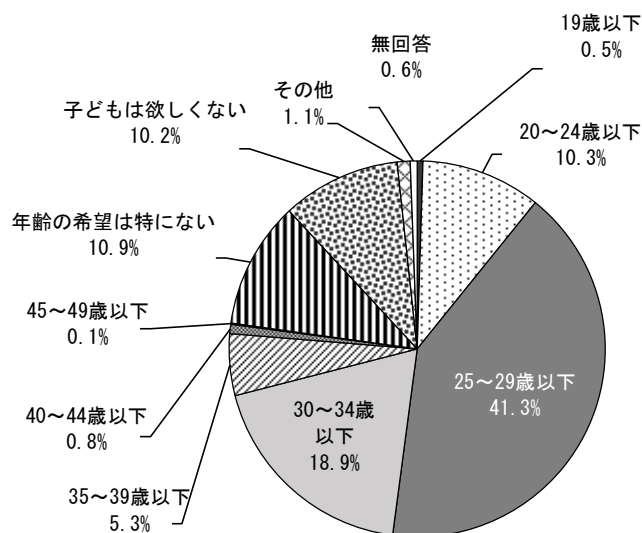
4 子育てについて

問 11 あなたは、何歳までに第 1 子を産みたい（欲しい）と思いますか（もしくは、思っていましたか）。（1 つだけ○印）

※実際の年齢ではなく、あくまで理想とする（希望）年齢をお答えください。

【全体】

○「25～29 歳以下」が 41.3%と最も高く、次いで「30～34 歳以下」（18.9%）、「年齢の希望は特にない」（10.9%）と続いている。



【性別】

○男女ともに、「25～29 歳以下」が最も高くなっている。

○次いで、男女ともに「30～34 歳以下」となっている。

【年代別】

○すべての年代で「25～29 歳以下」が最も高くなっている。

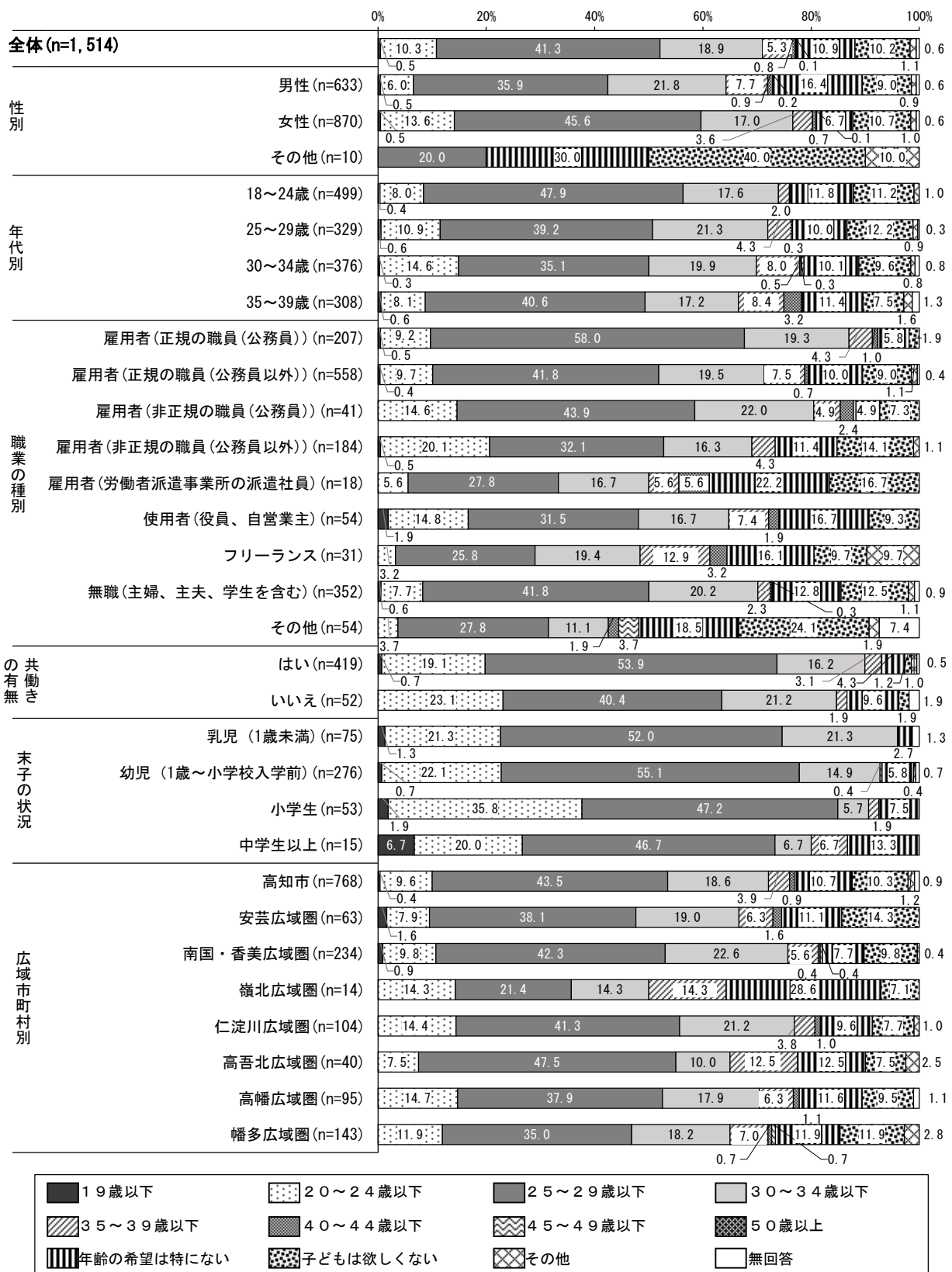
○次いで、いずれの年代も「30～34 歳以下」となっている。

【地域別】

○嶺北広域圏では「年齢の希望は特にない」が最も高く、そのほかの地域では「25～29 歳以下」が最も高くなっている。

【参考】第 1 子を産みたい（欲しい）と思うまたは思っていた年齢（平均）

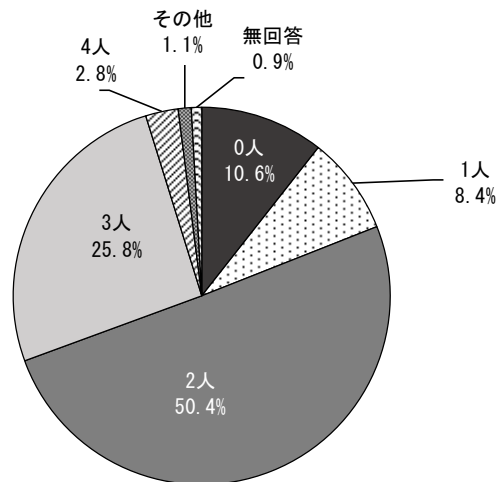
	全体	18 歳～24 歳	25 歳～29 歳	30 歳～34 歳	35 歳～39 歳
全体	28.4 歳	27.9 歳	28.2 歳	28.5 歳	29.2 歳
男性	29.3 歳	28.3 歳	29.5 歳	30.2 歳	29.9 歳
女性	27.8 歳	27.5 歳	27.3 歳	27.6 歳	28.8 歳



問 12 あなたにとって理想的な子どもの数は何人ですか。(1 つだけ○印)

【全体】

○「2 人」が 50.4%と最も高く、次いで「3 人」(25.8%)、「0 人」(10.6%) と続いている。



【性別】

○男女ともに「2 人」が最も高くなっている。

○次いで、男女ともに「3 人」となっている。

【年代別】

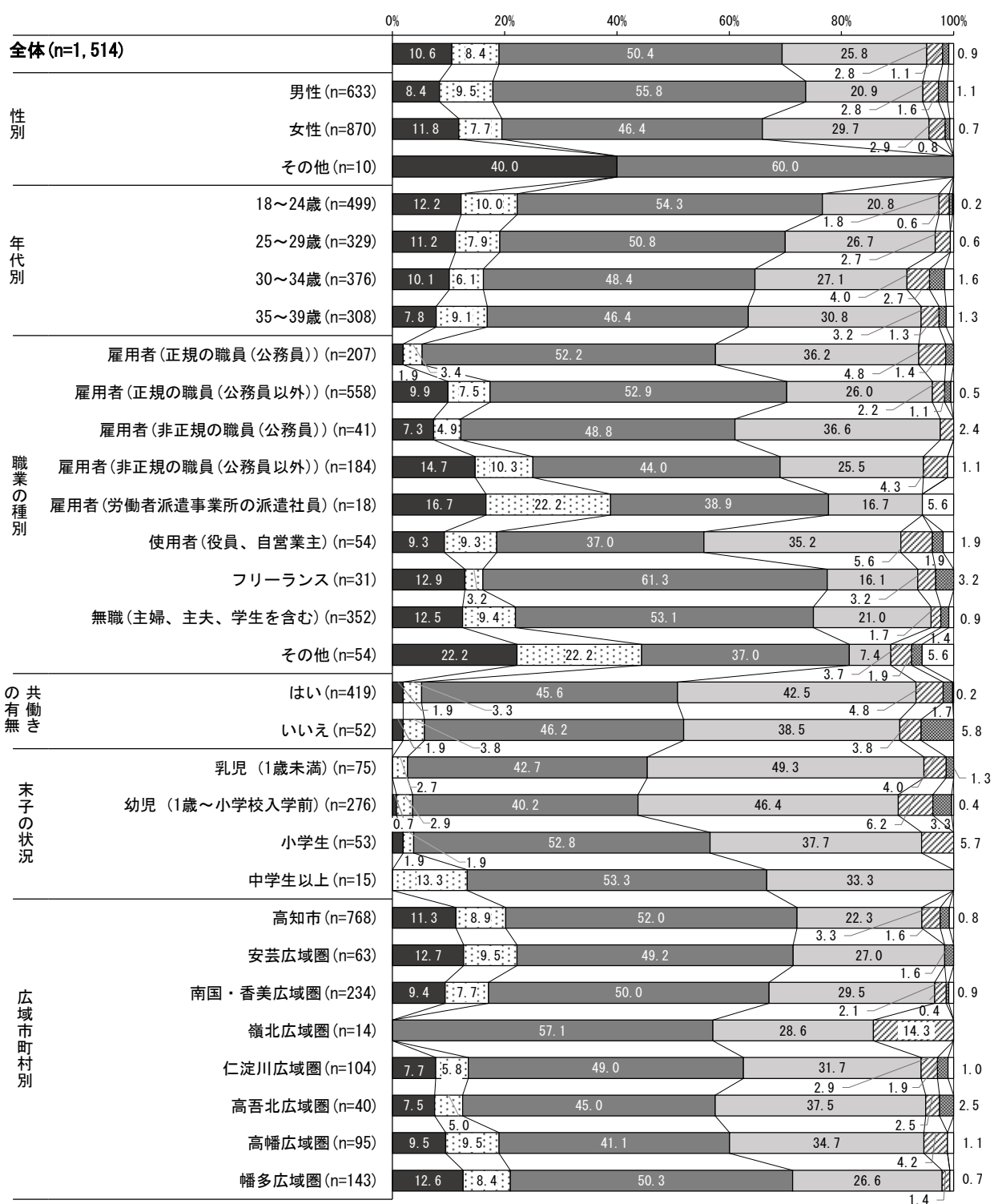
○すべての年代で「2 人」が最も高いが、年齢が上がるにつれてその割合は下がる傾向が見られる。

○次いで、いずれの年代も「3 人」が高くなっているが、「3 人」は年齢が上がるにつれてその割合も上がる傾向にある。

【地域別】

○すべての地域で、「2 人」が最も高くなっている。

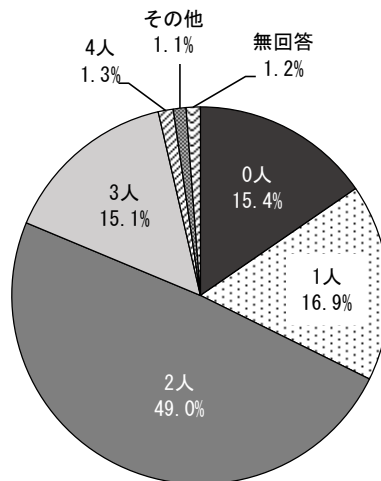
○次いで、いずれの地域も「3 人」が高い。



問 13 あなたが、現実的に持ちたいと考えている子どもの人数は何人ですか。（現在の人数と今後持つつもりの人数の合計）（1 つだけ○印）

【全体】

○「2 人」が 49.0%と最も高く、次いで「1 人」（16.9%）、「0 人」（15.4%）と続いている。



【性別】

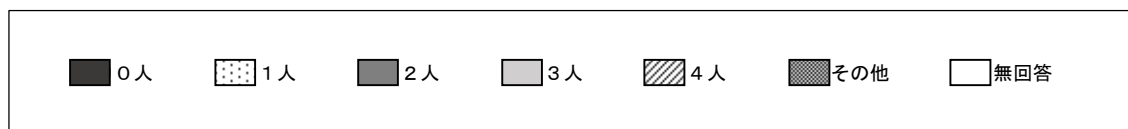
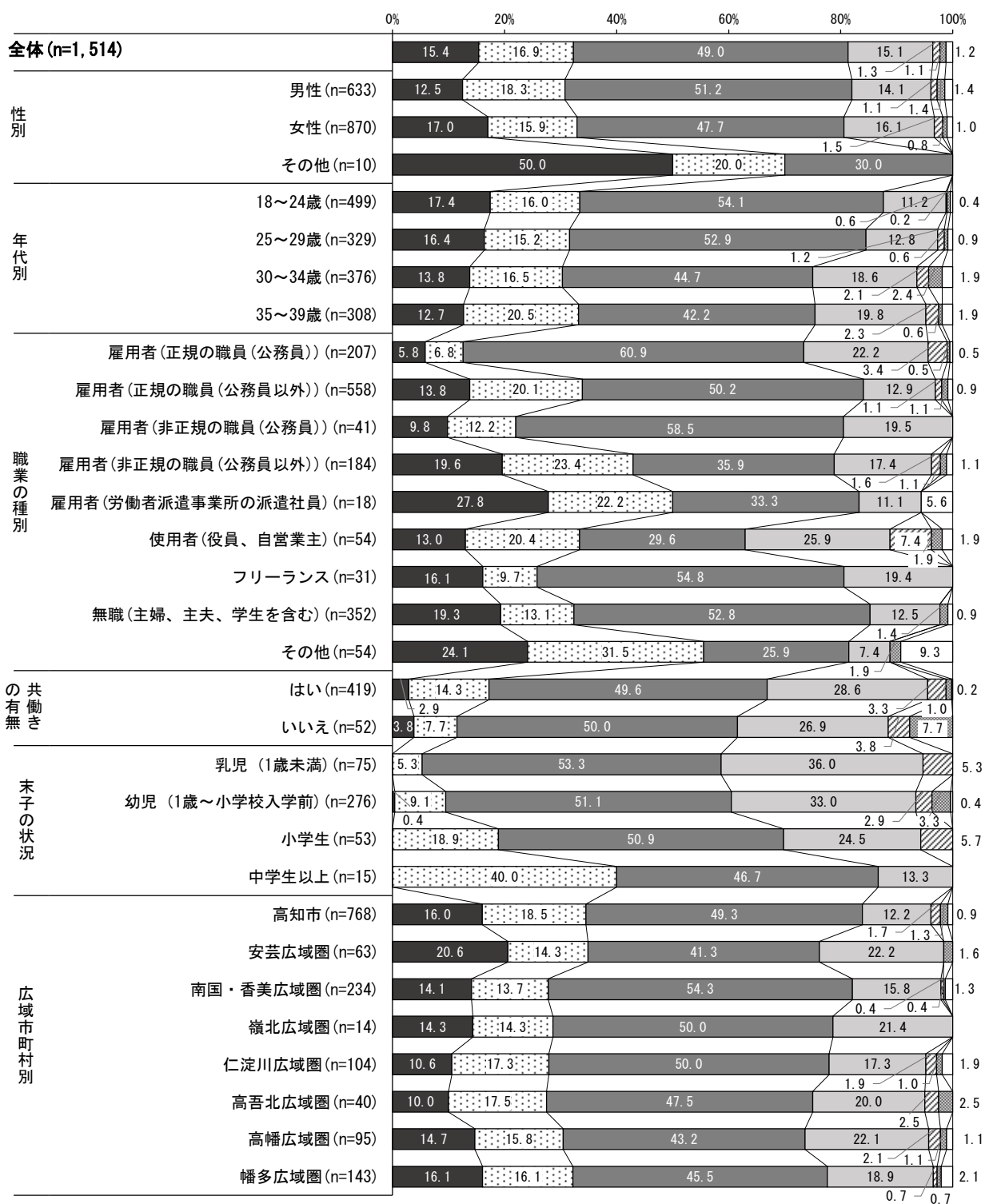
- 男女ともに、「2 人」が最も高くなっている。
- 次いで、男性は「1 人」、女性は「0 人」が高くなっている。

【年代別】

- すべての年代で「2 人」が最も高くなっている。
- 次いで、18 歳～24 歳及び 25 歳～29 歳は「0 人」、30 歳～34 歳は「3 人」、35 歳～39 歳は「1 人」が高くなっている。

【地域別】

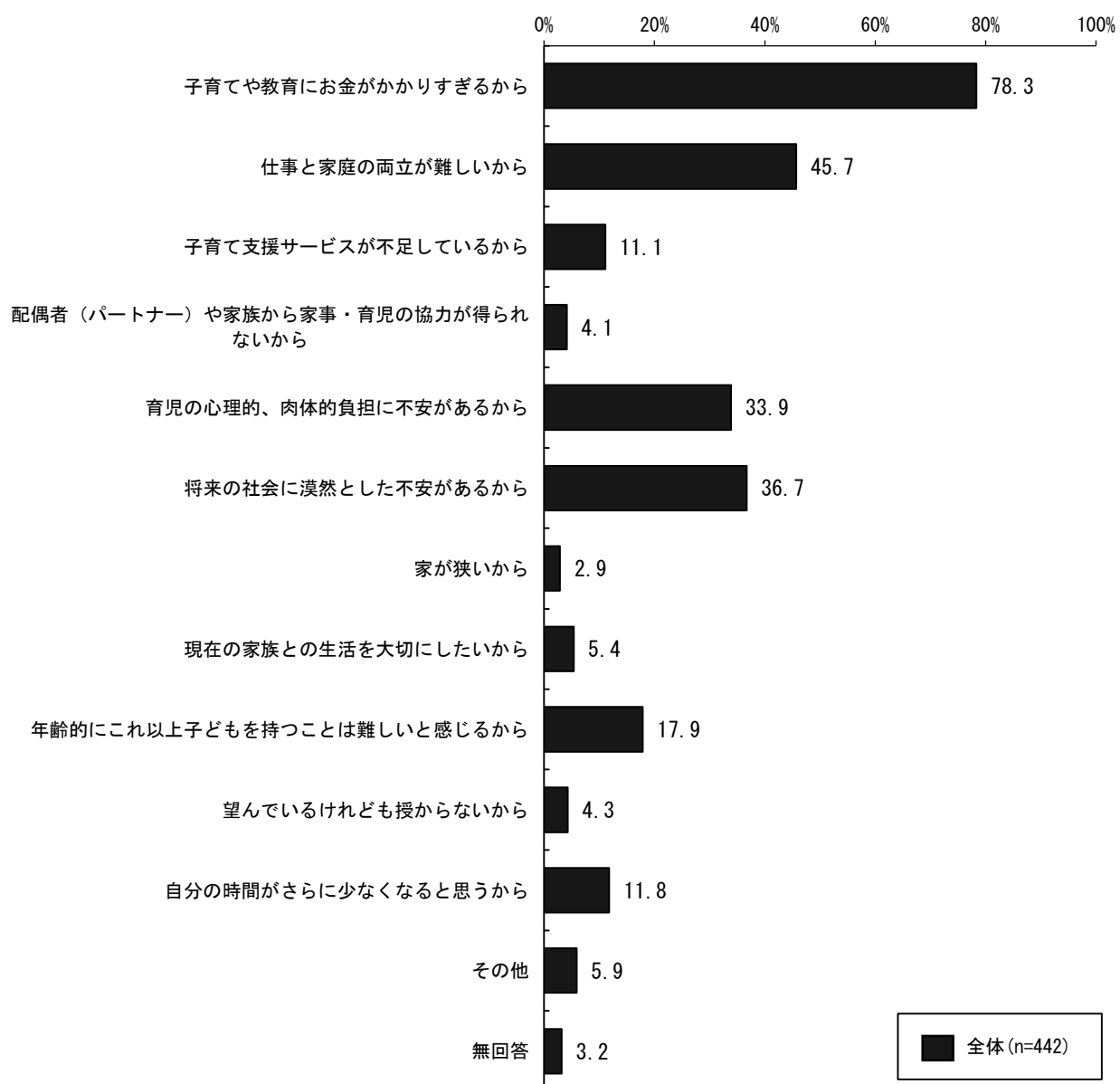
- すべての地域で、「2 人」が最も高くなっている。
- 次いで、高知市は「1 人」、そのほかの地域は「3 人」が高くなっている（仁淀川広域圏は「1 人」と「3 人」が同率）。



問 14 問 13 の人数が問 12 の人数より少ない方のみお答えください。理想的な人数の子どもを持たない理由について、あなたの考えに近いものを 3 つお選びください。(○印は 3 つまで)

【全体】

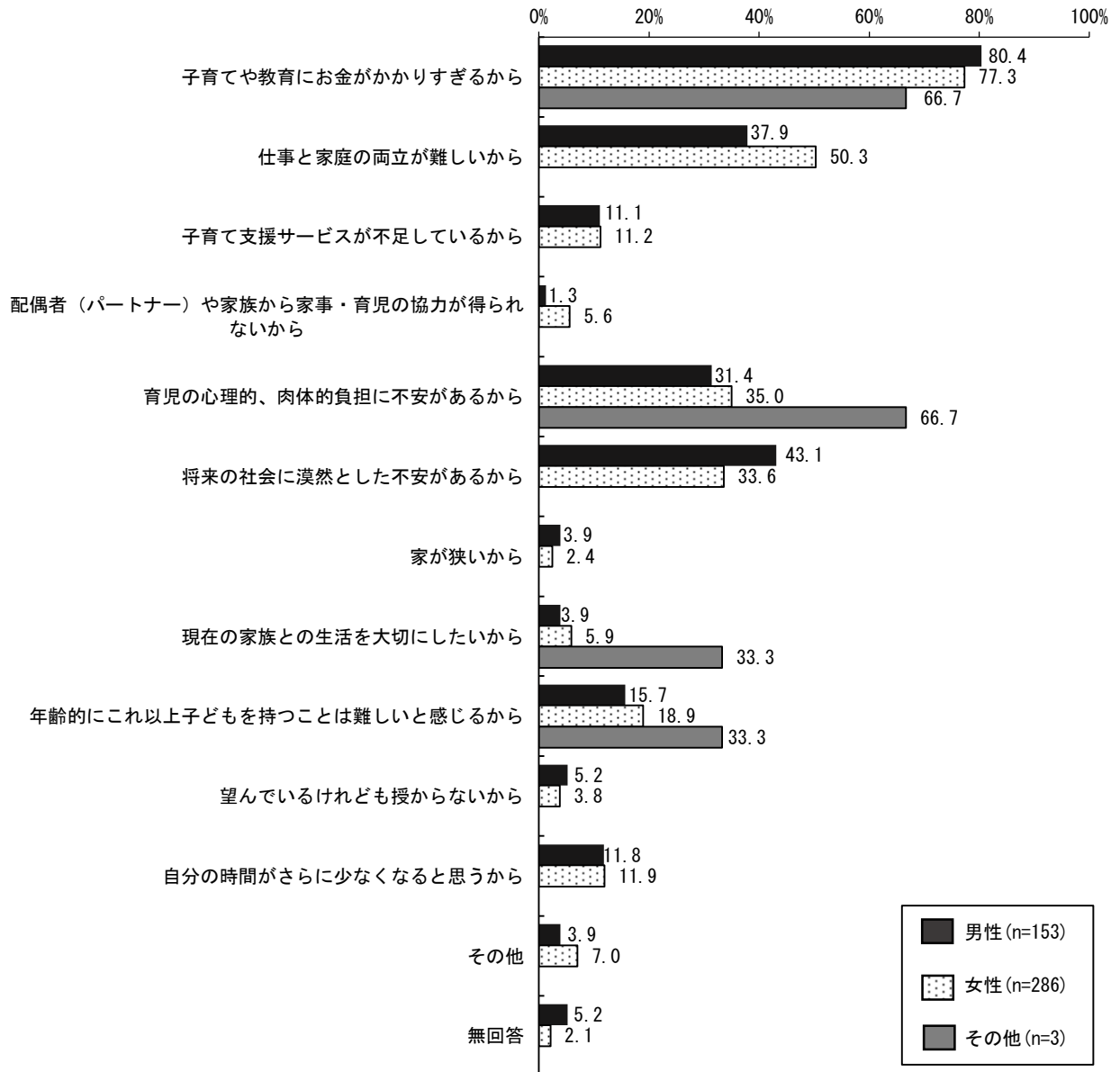
○「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が 78.3%と最も高く、次いで「仕事と家庭の両立が難しいから」(45.7%)、「将来の社会に漠然とした不安があるから」(36.7%)と続いている。



【性別】

○男女ともに、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が最も高くなっている。

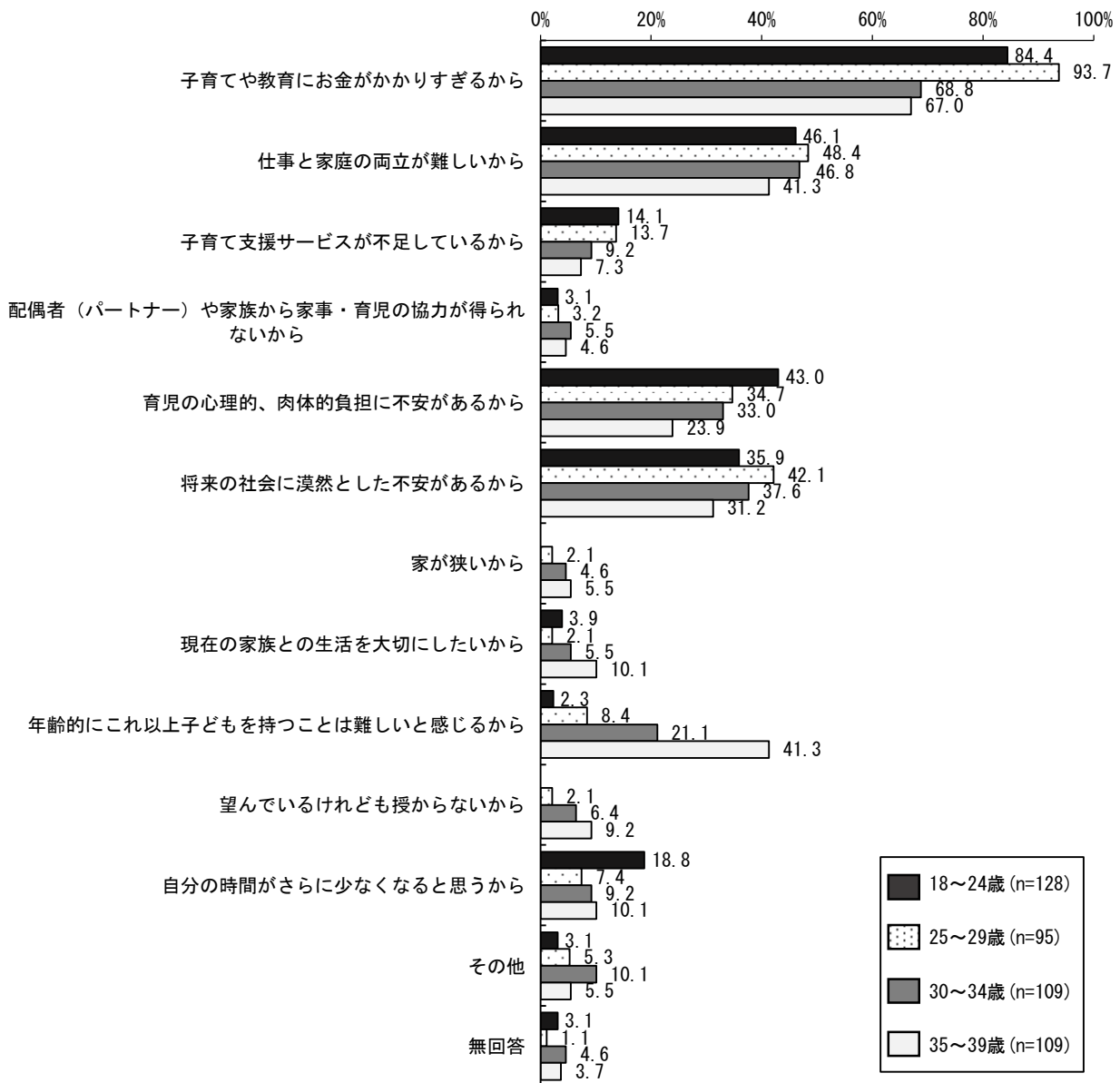
○次いで、男性は「将来の社会に漠然とした不安があるから」、女性は「仕事と家庭の両立が難しいから」となっている。



【年代別】

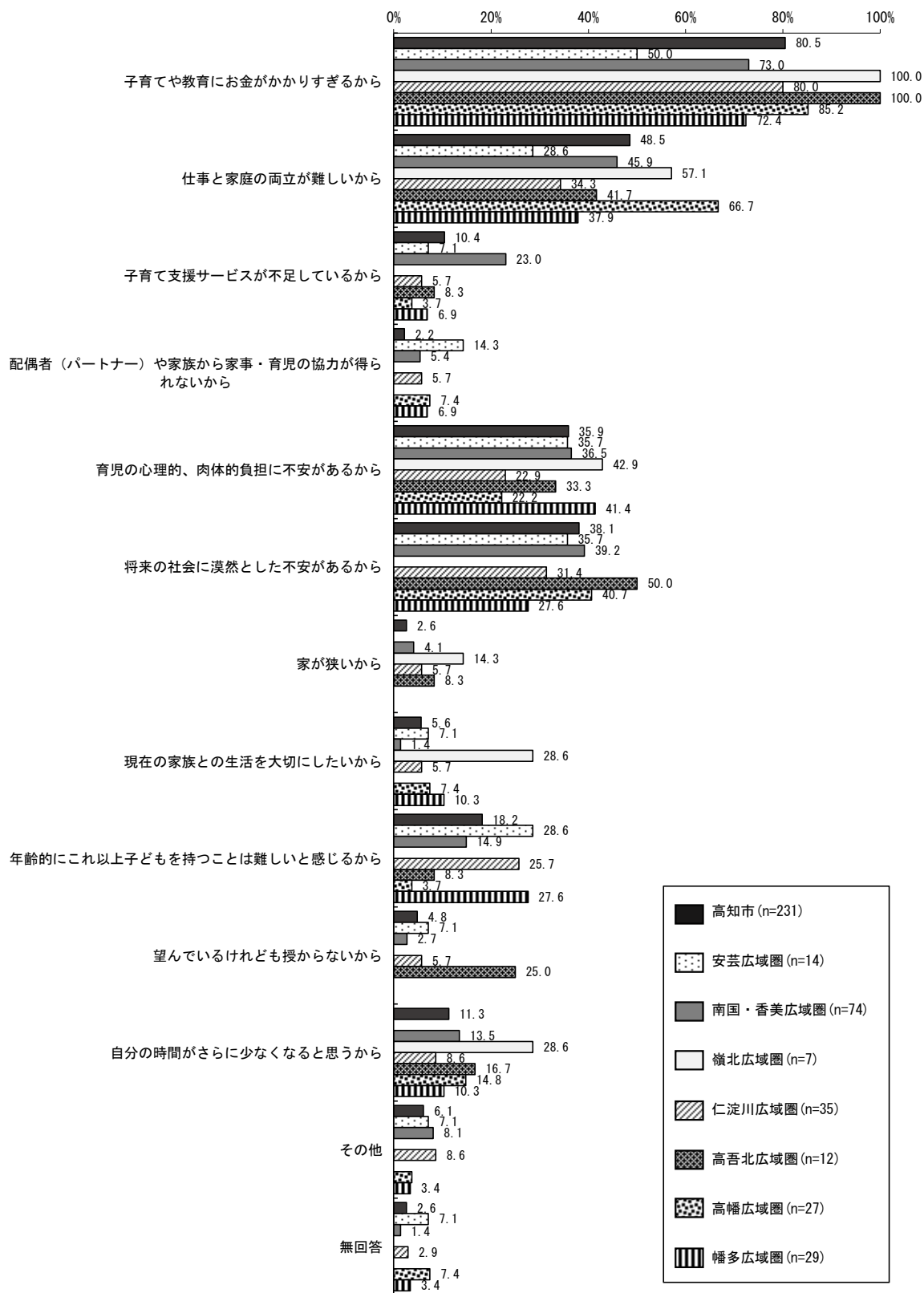
○すべての年代で「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が最も高くなっている。

○次いで、いずれの年代も「仕事と家庭の両立が難しいから」が高くなっている。



【地域別】

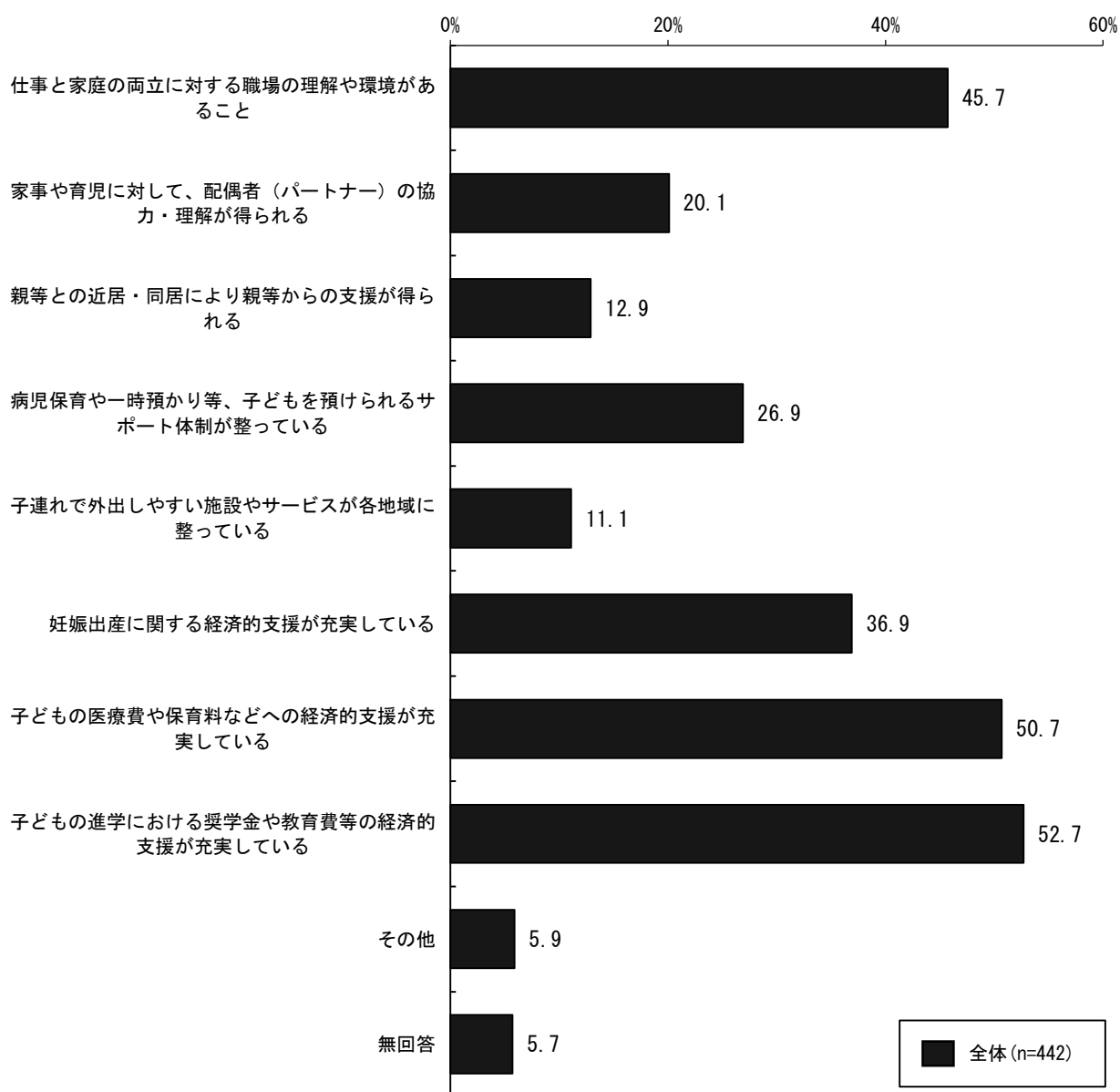
○すべての地域で、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が最も高くなっている。



問 15 問 13 の人数が問 12 の人数より少ない方のみお答えください。どのような環境があれば理想の数だけ子どもを持つことが可能になると思いますか。あなたの考えに近いものを3つお選びください。(○印は3つまで)

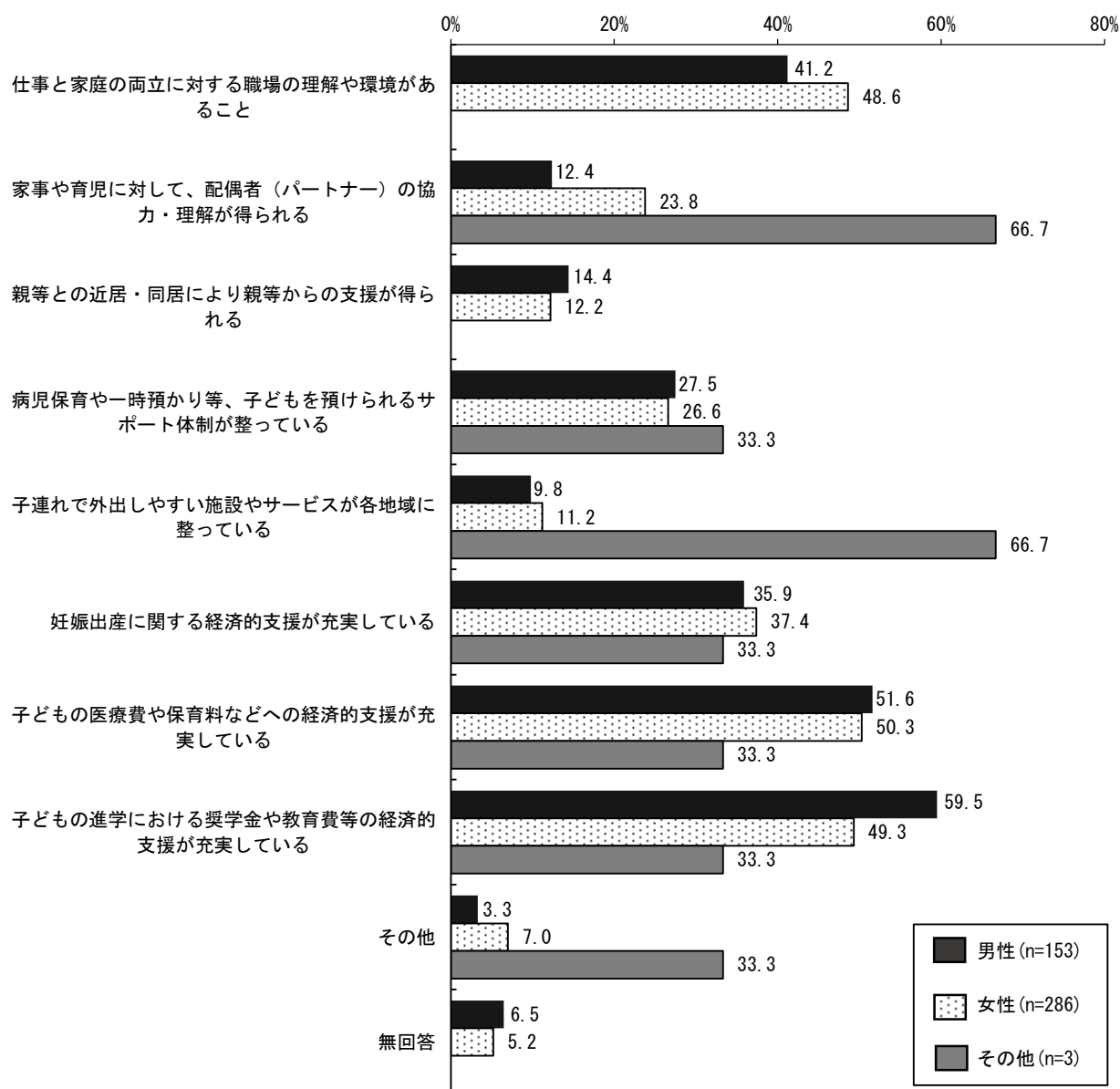
【全体】

○「子どもの進学における奨学金や教育費等の経済的支援が充実している」が 52.7%と最も高く、次いで「子どもの医療費や保育料などへの経済的支援が充実している」(50.7%)、「仕事と家庭の両立に対する職場の理解や環境があること」(45.7%)と続いている。



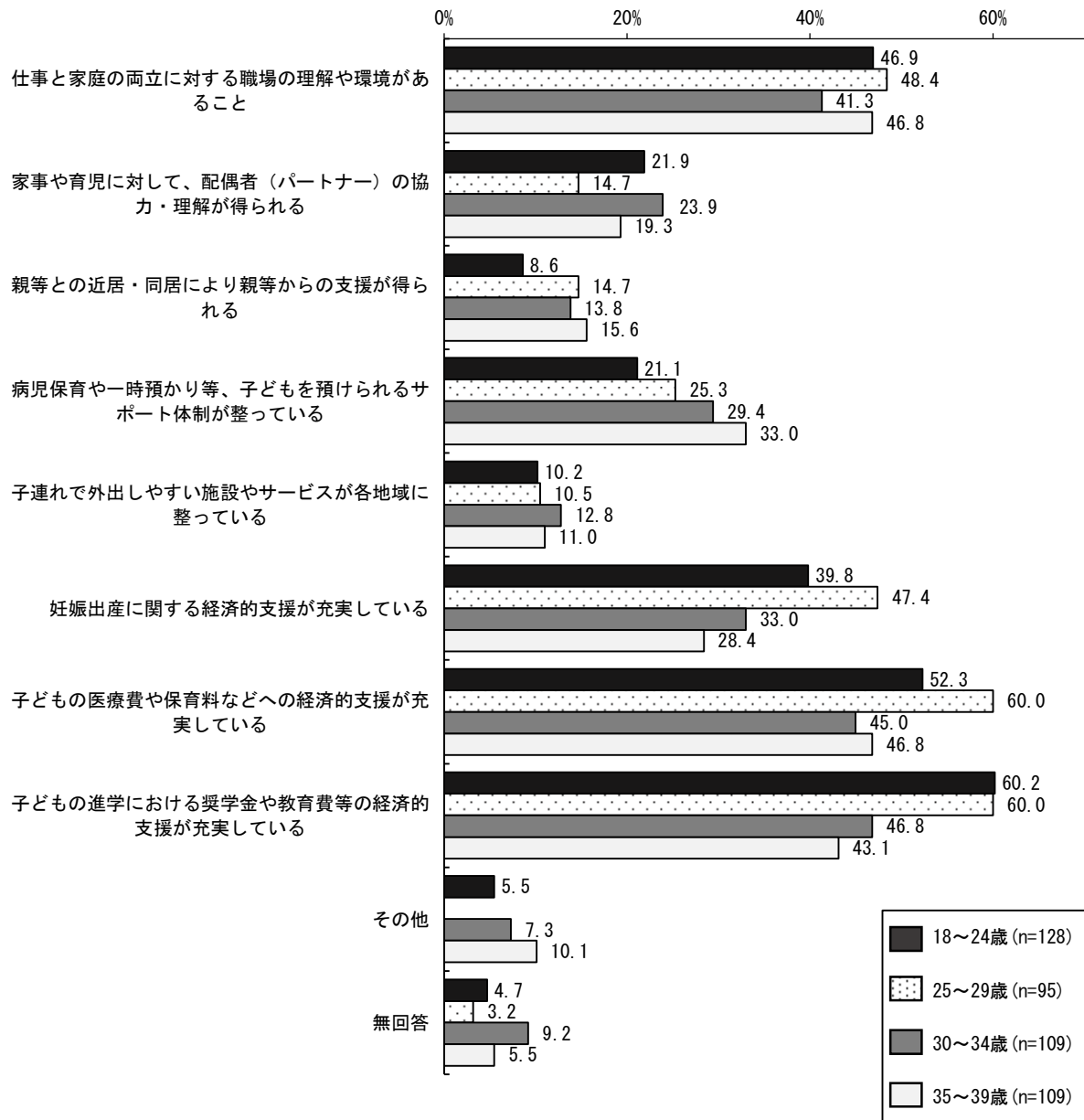
【性別】

○男性は「子どもの進学における奨学金や教育費等の経済的支援が充実している」が最も高く、女性は「子どもの医療費や保育料などへの経済的支援が充実している」が最も高くなっている。
○次いで、男性は「子どもの医療費や保育料などへの経済的支援が充実している」、女性は「子どもの進学における奨学金や教育費等の経済的支援が充実している」となっている。



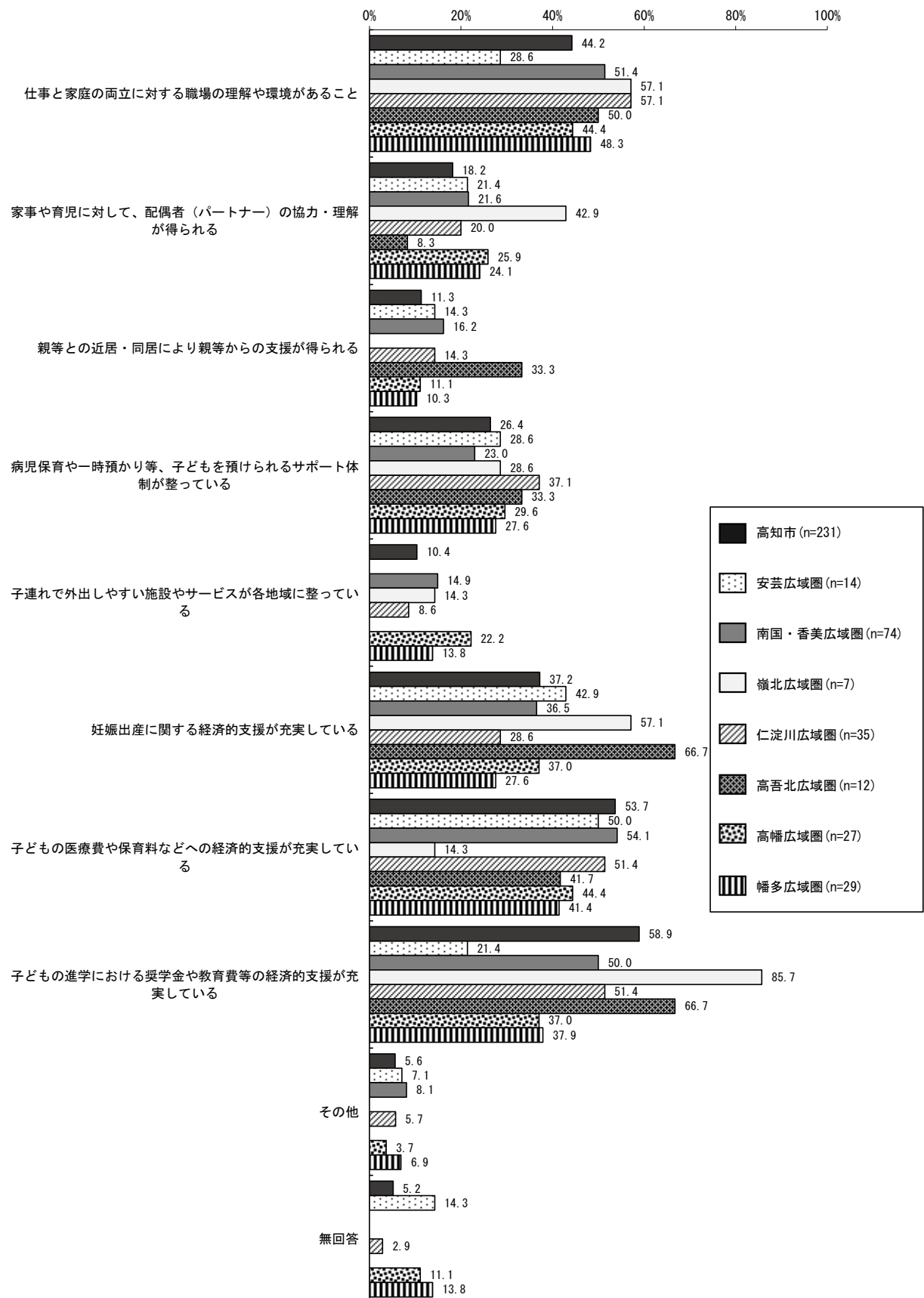
【年代別】

- 35歳～39歳は「仕事と家庭の両立に対する職場の理解や環境があること」及び「子どもの医療費や保育料などへの経済的支援が充実している」が同率で最も高くなっている。
- そのほかの年代は「子どもの進学における奨学金や教育費等の経済的支援が充実している」が最も高い（25歳～29歳は「子どもの医療費や保育料などへの経済的支援が充実している」が同率）。



【地域別】

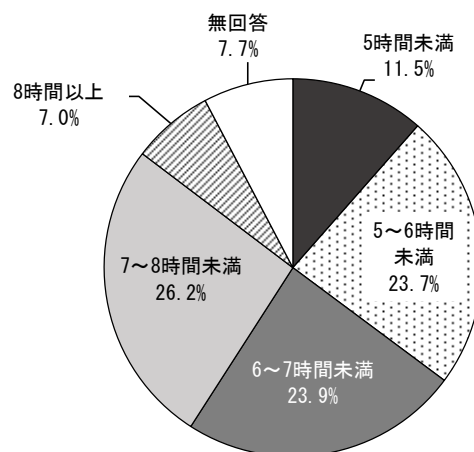
○すべての地域で「仕事と家庭の両立に対する職場の理解や環境があること」、「子どもの医療費や保育料などへの経済的支援が充実している」及び「子どもの進学における奨学金や教育費等の経済的支援が充実している」のいずれかが最も高い結果となっている。



問 16 問 12 で「1 人以上」と回答した方のみお答えください。理想的な人数の子どもを持つためには、自身の労働時間は何時間がよいと思いますか。（1 つだけ○印）

【全体】

- 「7～8 時間未満」が 26.2%と最も高く、次いで「6～7 時間未満」（23.9%）、「5～6 時間未満」（23.7%）と続いている。



【性別】

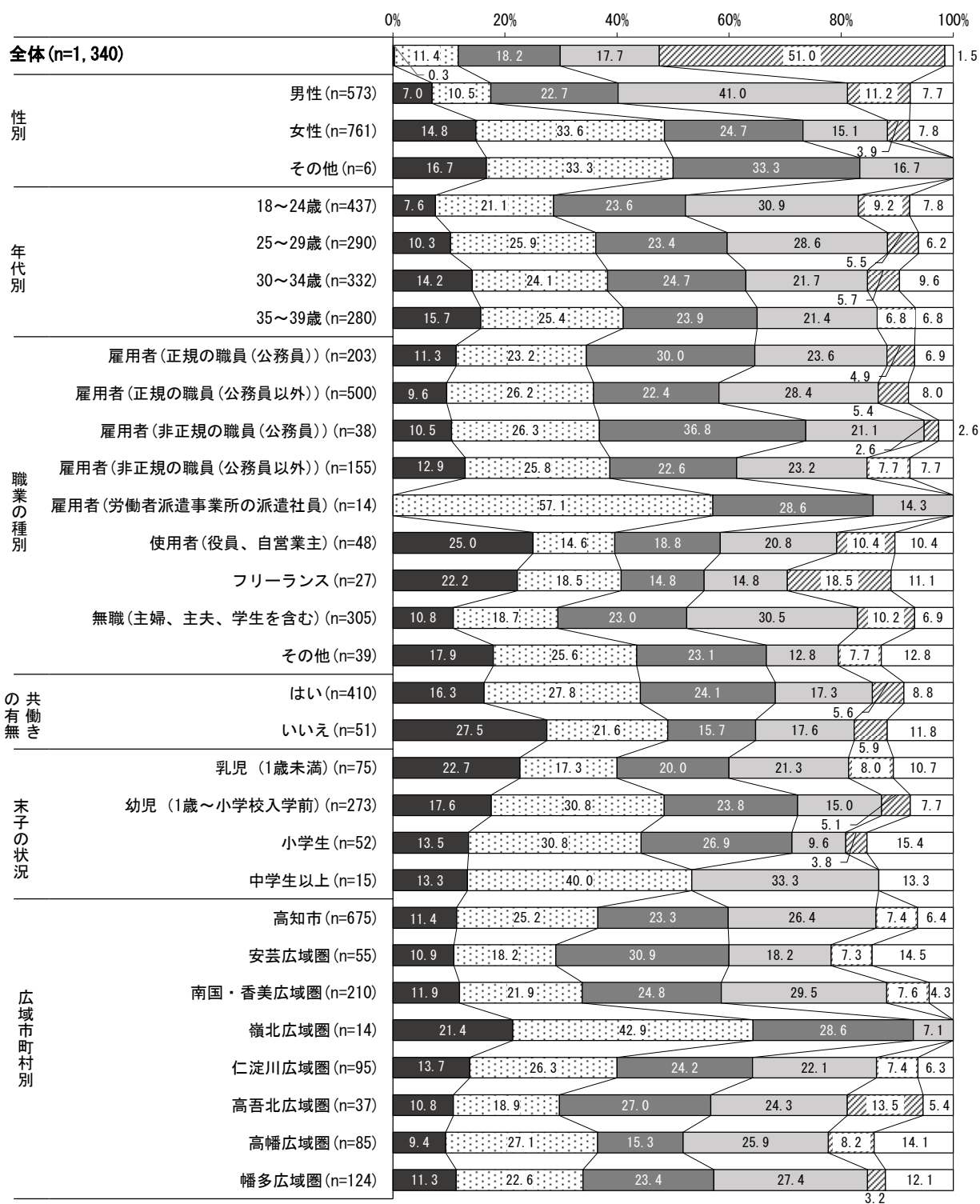
- 男性は「7～8 時間未満」が最も高く、女性は「5～6 時間未満」が最も高くなっている。
○次いで、男女ともに「6～7 時間未満」が高くなっている。

【年代別】

- 18 歳～24 歳及び 25 歳～29 歳は「7～8 時間未満」が最も高く、30 歳～34 歳は「6～7 時間未満」、35 歳～39 歳は「5～6 時間未満」が最も高い結果となっている。
○次いで、いずれの年代も「5～6 時間未満」もしくは「6～7 時間未満」が高くなっている。

【地域別】

- 嶺北広域圏を除いて、いずれの地域も「5～6 時間未満」、「6～7 時間未満」及び「7～8 時間未満」が 3 番目までに入っている。
○嶺北広域圏のみ、3 番目に高いのは「5 時間未満」となっている。

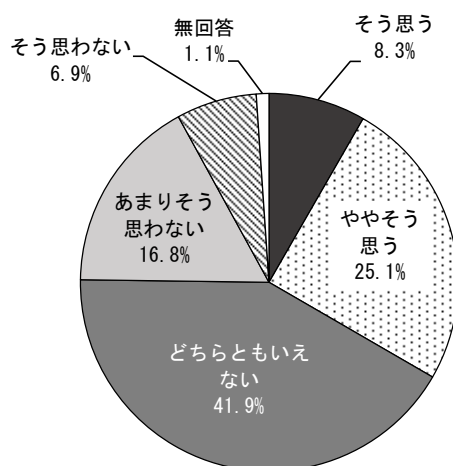


5時間未満
 5～6時間未満
 6～7時間未満
 7～8時間未満
 8時間以上
 無回答

問 17 高知県の保育所・幼稚園・認定こども園など子育てを支える施設は充実していると思いますか。(1 つだけ○印)

【全体】

- 「どちらともいえない」が 41.9%と最も高く、次いで「ややそう思う」(25.1%)、「あまりそう思わない」(16.8%)と続いている。
- “思う”(「そう思う」または「ややそう思う」と回答した方)は、33.4%、“思わない”(「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した方)は、23.6%となっている。



【性別】

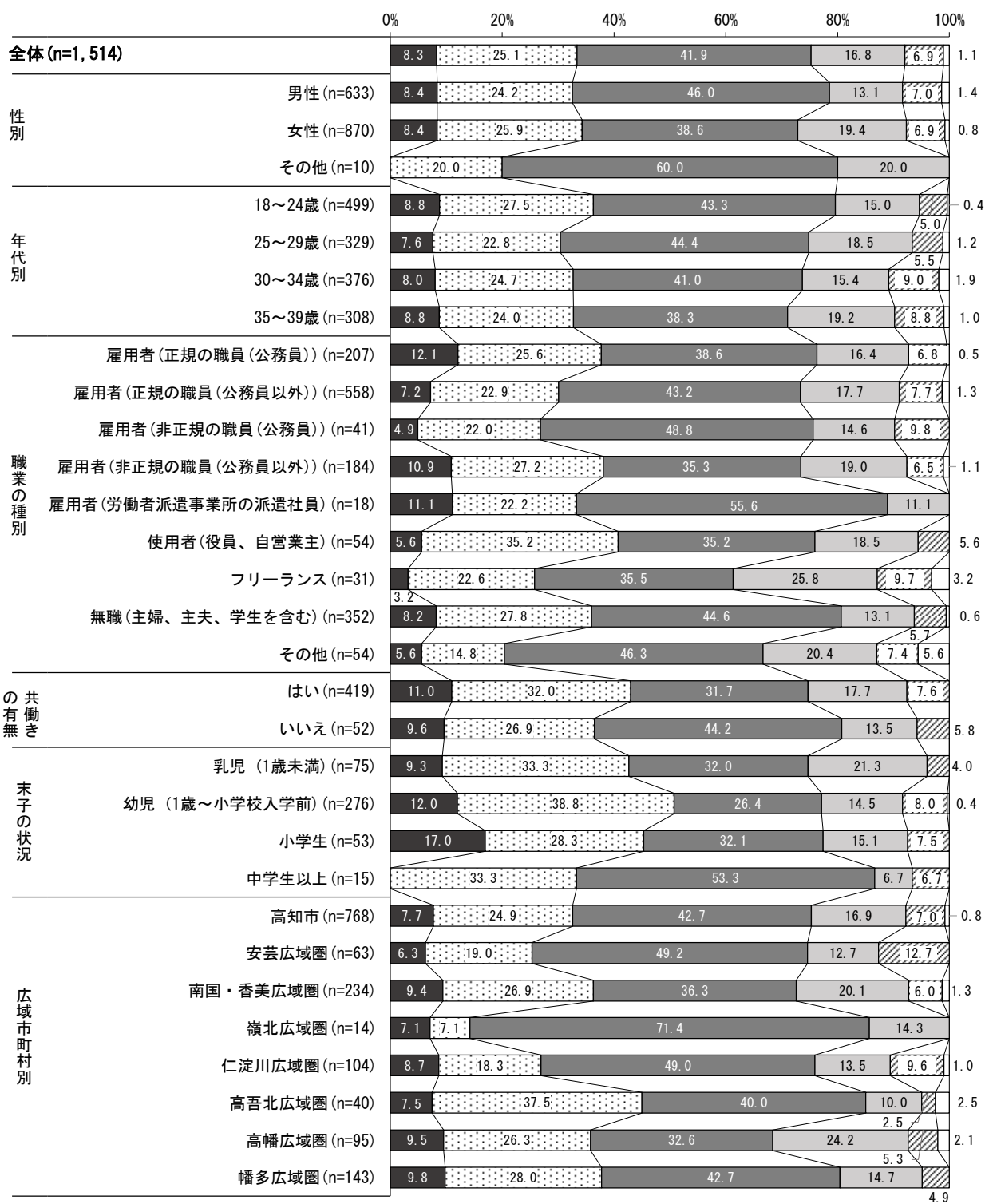
- 男女ともに「どちらともいえない」が最も高くなっている。
- “思う”の割合は、男性が 32.5%、女性が 34.3%と、女性のほうがわずかに高くなっている。

【年代別】

- すべての年代で「どちらともいえない」が最も高く、次いで「ややそう思う」となっている。
- “思う”の割合は、18 歳～24 歳が 36.3%と最も高く、25 歳～29 歳が 30.4%と最も低い結果となっている。

【地域別】

- すべての地域で、「どちらともいえない」が最も高くなっている。
- 安芸広域圏及び嶺北広域圏では“思う”と“思わない”が同率、そのほかの地域は“思う”の割合が上回っている。

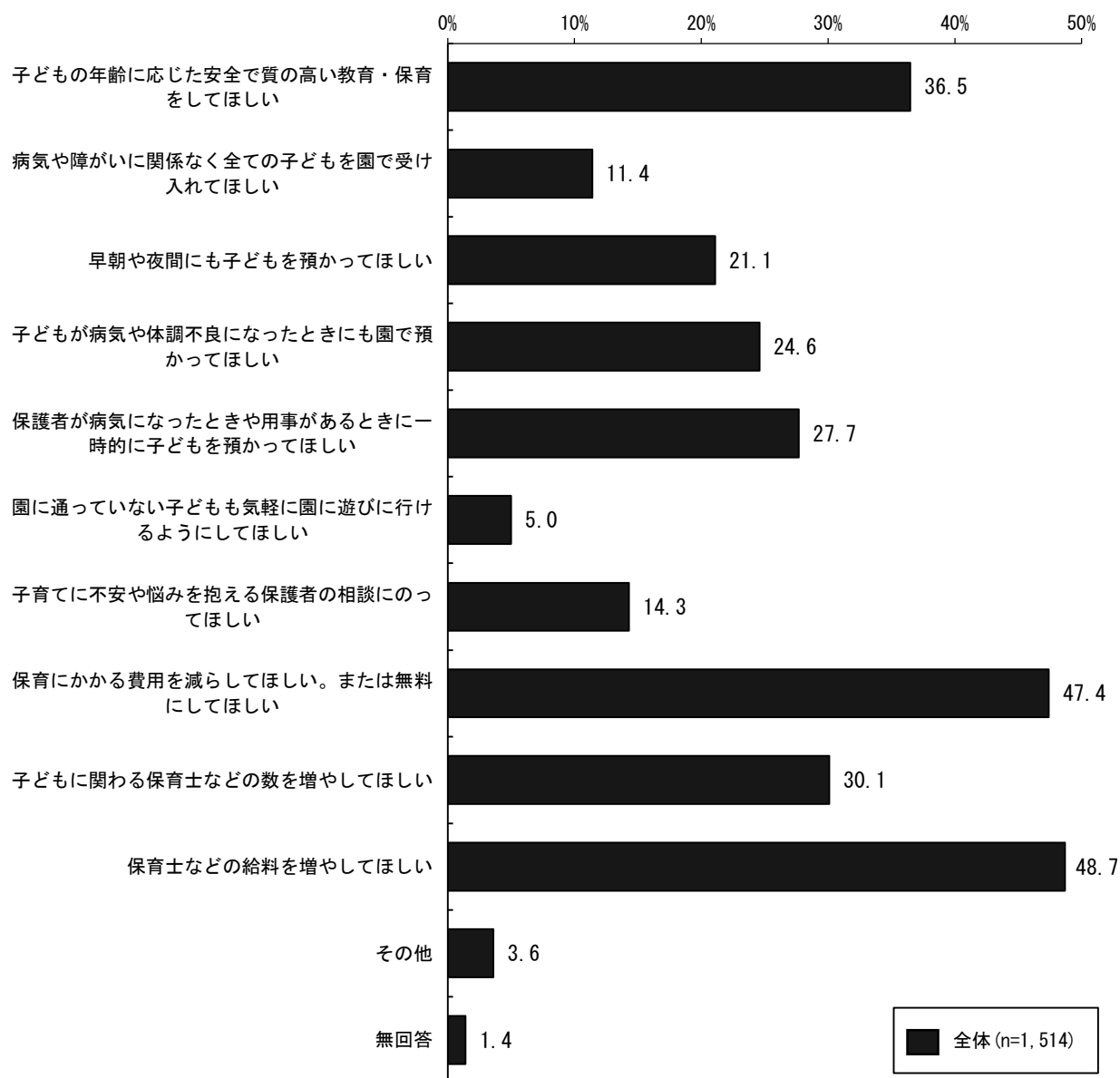


そう思う
 ややそう思う
 どちらともいえない
 あまりそう思わない
 そう思わない
 無回答

問 18 高知県の子育てを支えるため、これらの施設にもっと力を入れてほしいことは何ですか。
あなたの考えに近いものを3つお選びください。(○印は3つまで)

【全体】

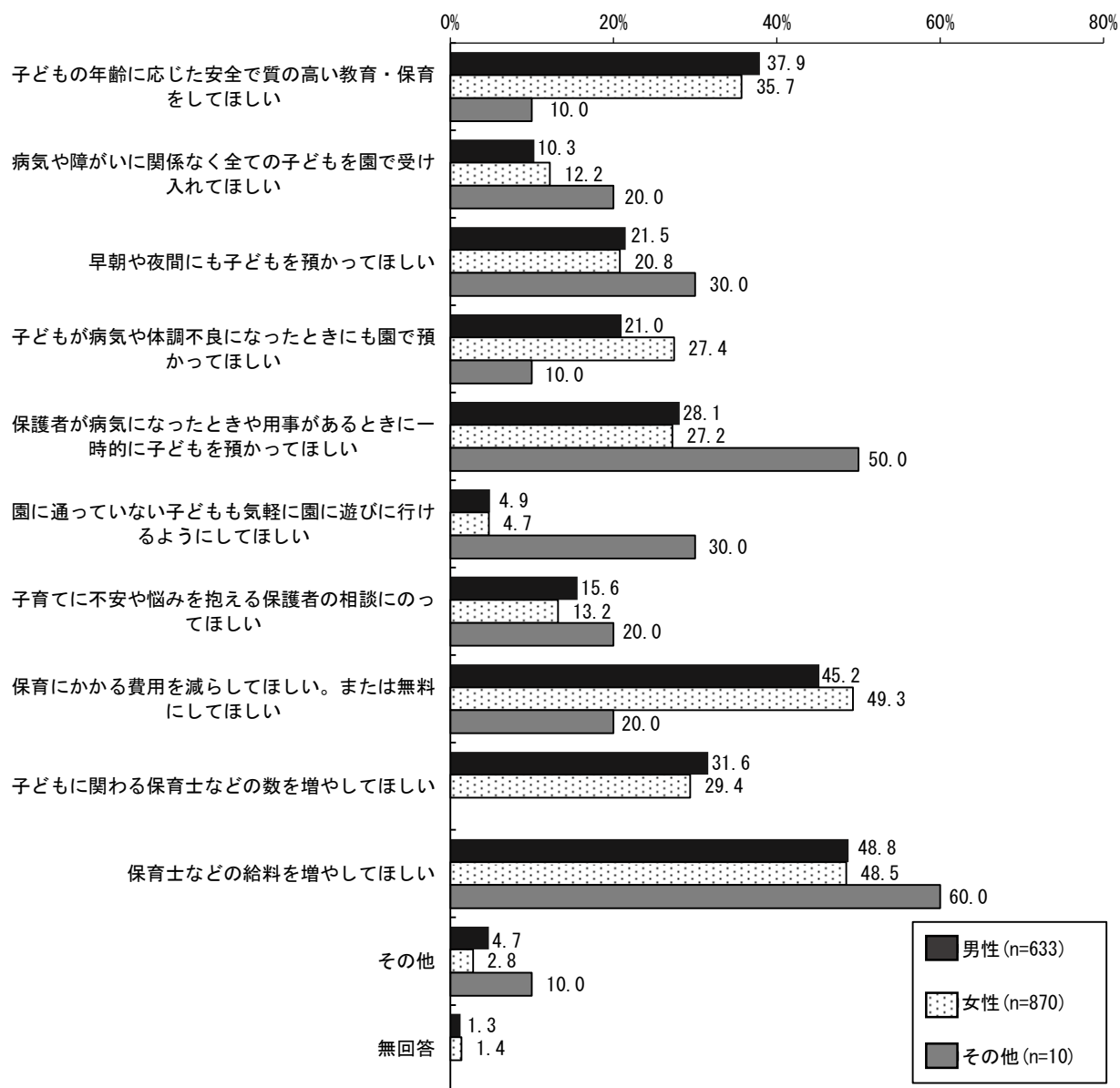
○「保育士などの給料を増やしてほしい」が48.7%と最も高く、次いで「保育にかかる費用を減らしてほしい。または無料にしてほしい」(47.4%)、「子どもの年齢に応じた安全で質の高い教育・保育をしてほしい」(36.5%)と続いている。



【性別】

○男性は「保育士などの給料を増やしてほしい」、女性は「保育にかかる費用を減らしてほしい。または無料にしてほしい」が最も高くなっている。

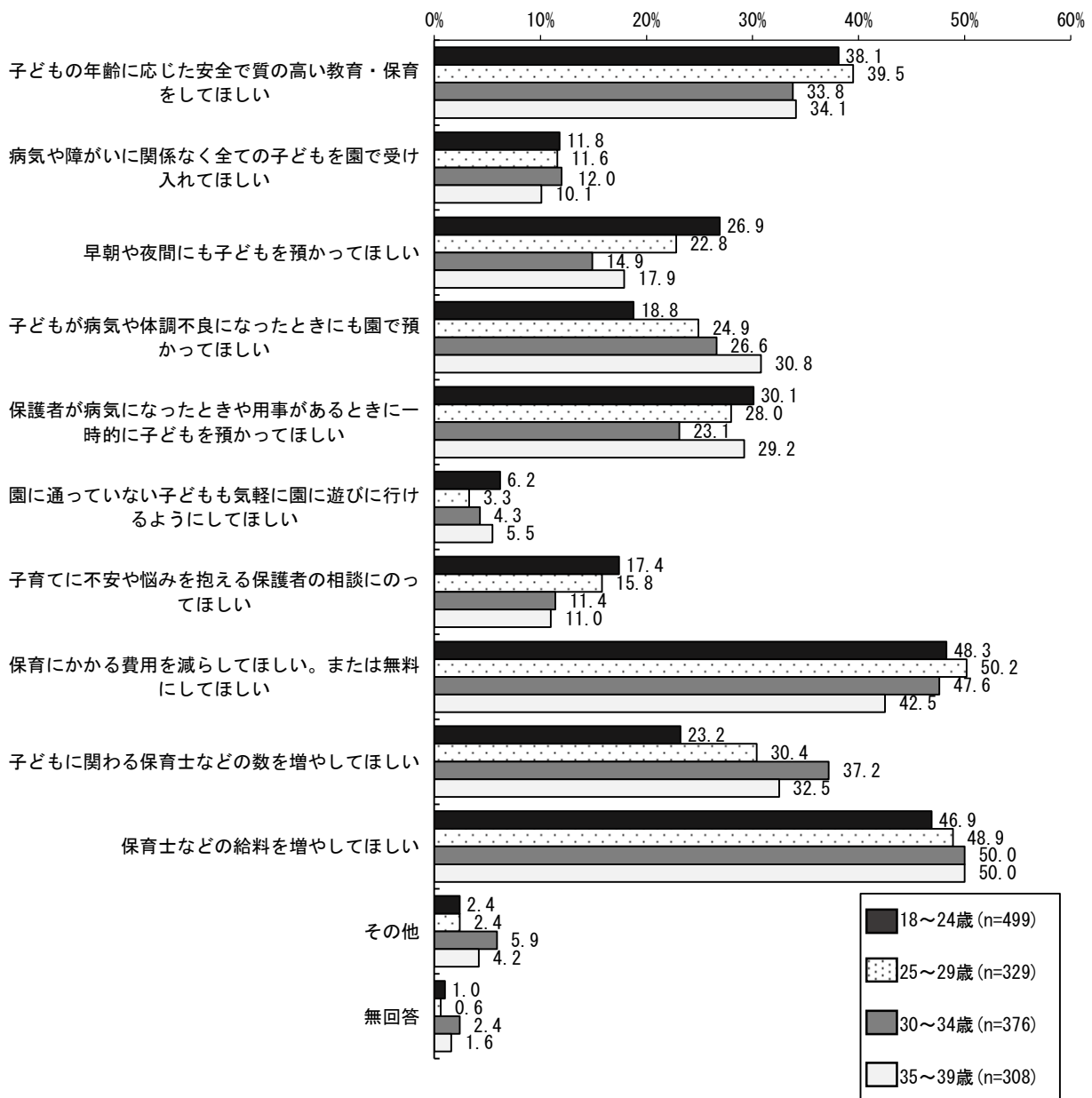
○次いで、男性は「保育にかかる費用を減らしてほしい。または無料にしてほしい」、女性は「保育士などの給料を増やしてほしい」が高くなっている。



【年代別】

○18歳～24歳及び25～29歳では、「保育にかかる費用を減らしてほしい。または無料にしてほしい」が最も高くなっており、30歳～34歳及び35歳～39歳では「保育士などの給料を増やしてほしい」が最も高い。

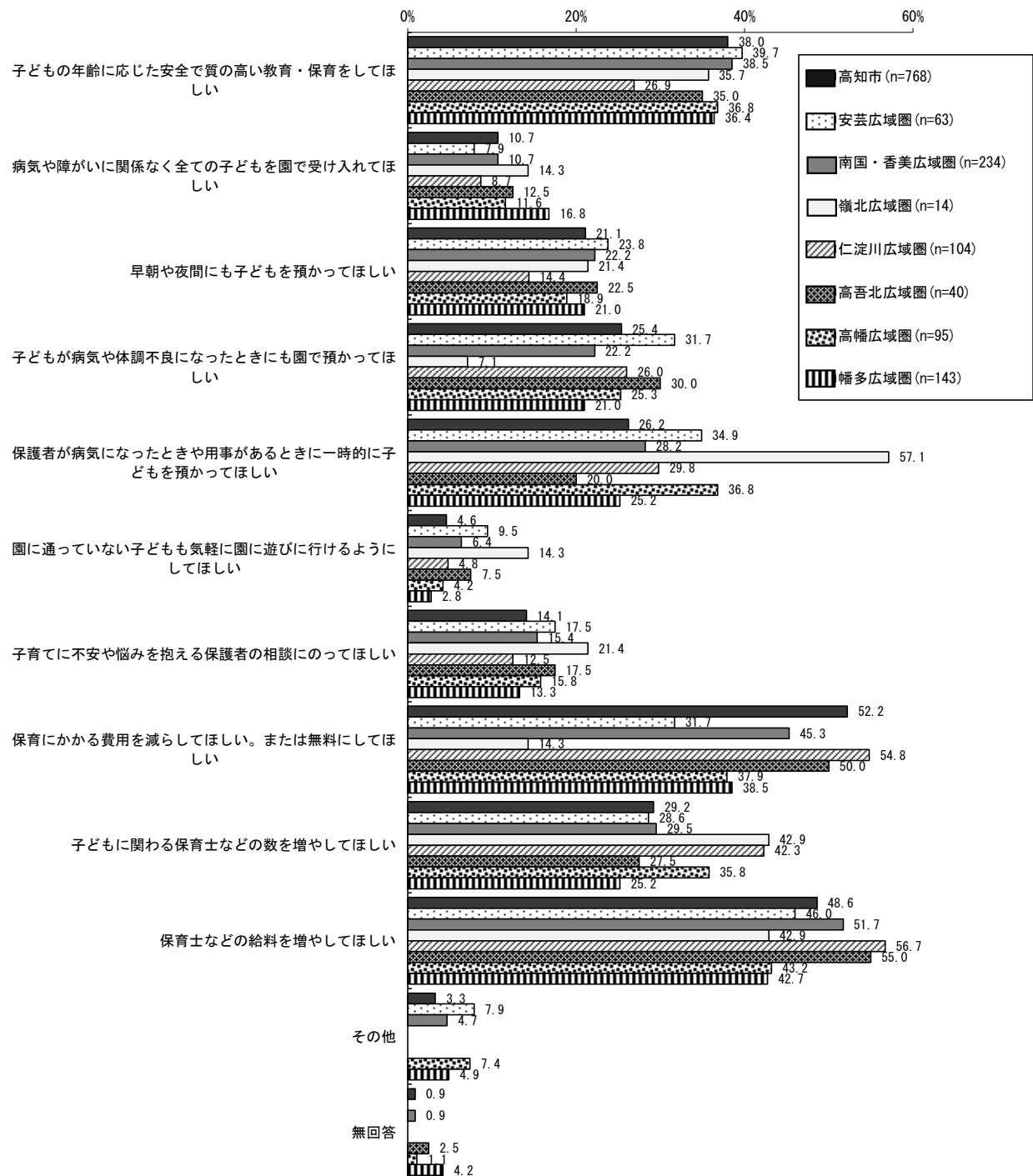
○次いで、18歳～24歳及び25～29歳では、「保育士などの給料を増やしてほしい」、30歳～34歳及び35歳～39歳では「保育にかかる費用を減らしてほしい。または無料にしてほしい」となっている。



【地域別】

○高知市では「保育にかかる費用を減らしてほしい。または無料にしてほしい」、「嶺北広域圏では「保護者が病気になったときや用事があるときに一時的に子どもを預かってほしい」が最も高くなっている。

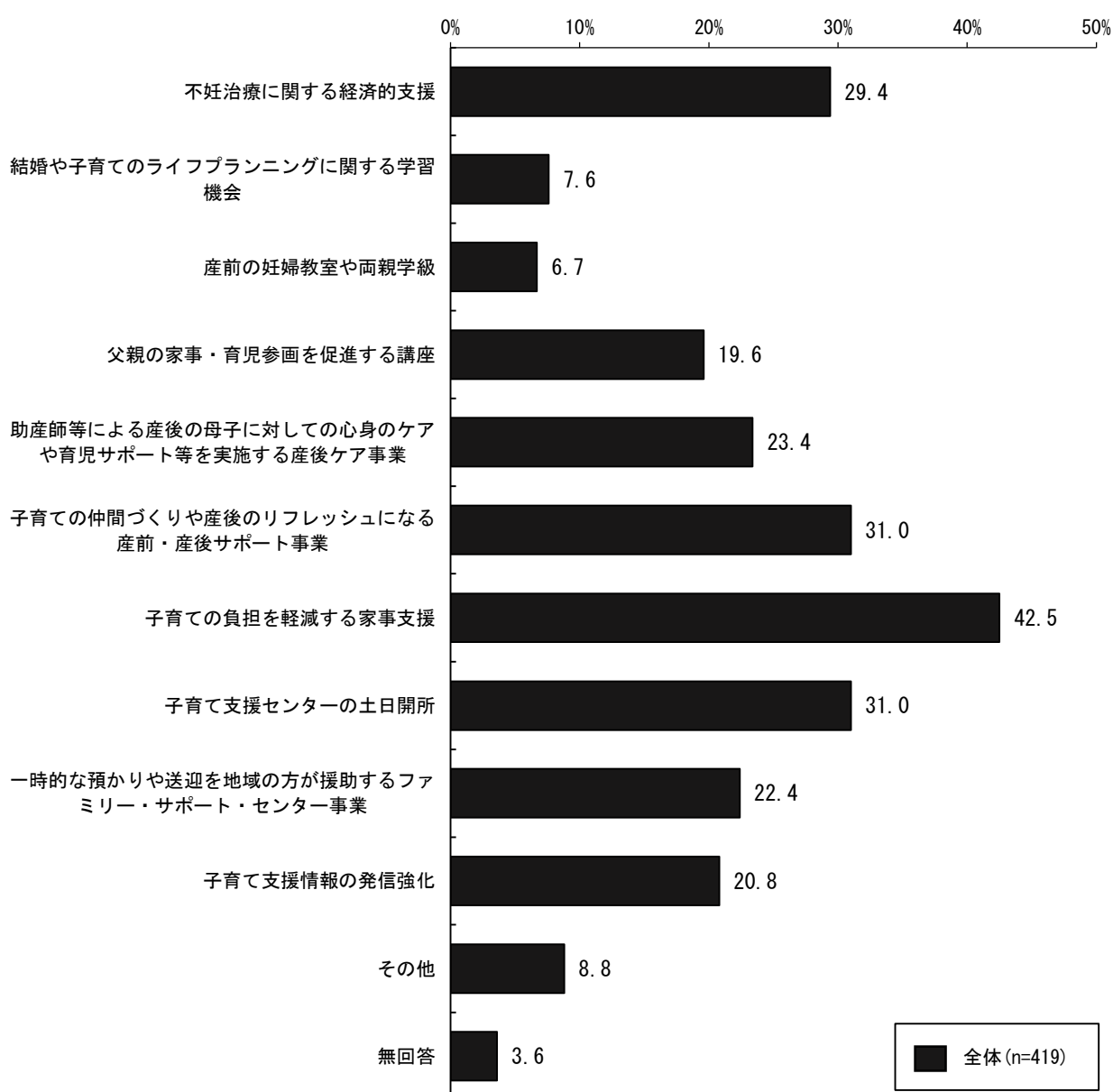
○そのほかの地域では「保育士などの給料を増やしてほしい」が最も高くなっている。



問 19 現在、子育て中の方のみお答えください。妊娠に向けた支援から乳幼児期の子育て支援に関する下記の取り組みのうち、今後、もっと充実してほしい取り組みについて、あなたの考えに近いものを、3つお選びください。（○印は3つまで）

【全体】

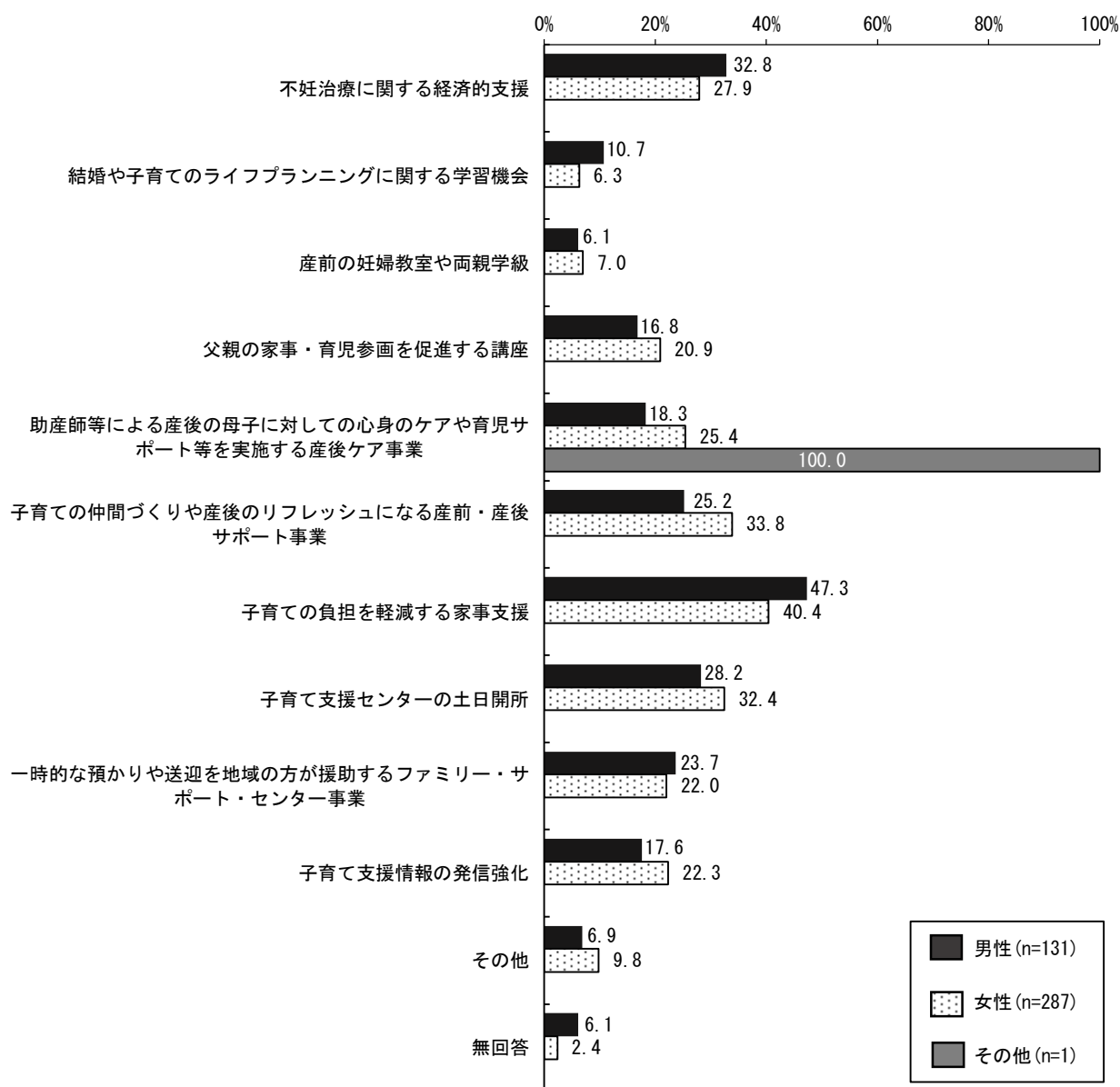
○「子育ての負担を軽減する家事支援」が 42.5%と最も高く、次いで「子育ての仲間づくりや産後のリフレッシュになる産前・産後サポート事業」と「子育て支援センターの土日開所」が同率（31.0%）で続いている。



【性別】

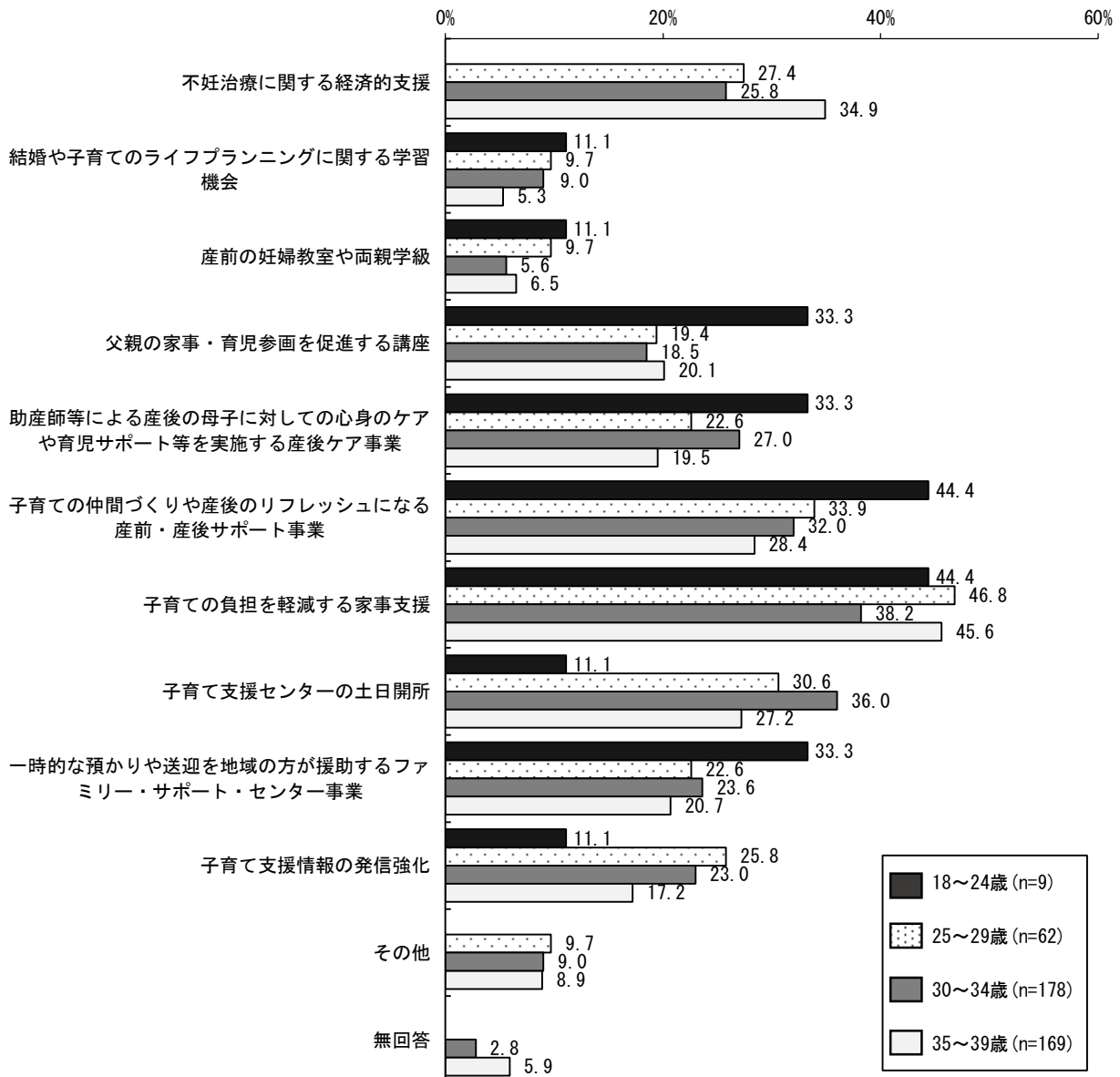
○男女ともに、「子育ての負担を軽減する家事支援」が最も高くなっている。

○次いで、男性は「不妊治療に関する経済的支援」、女性は「子育ての仲間づくりや産後のリフレッシュになる産前・産後サポート事業」となっている。



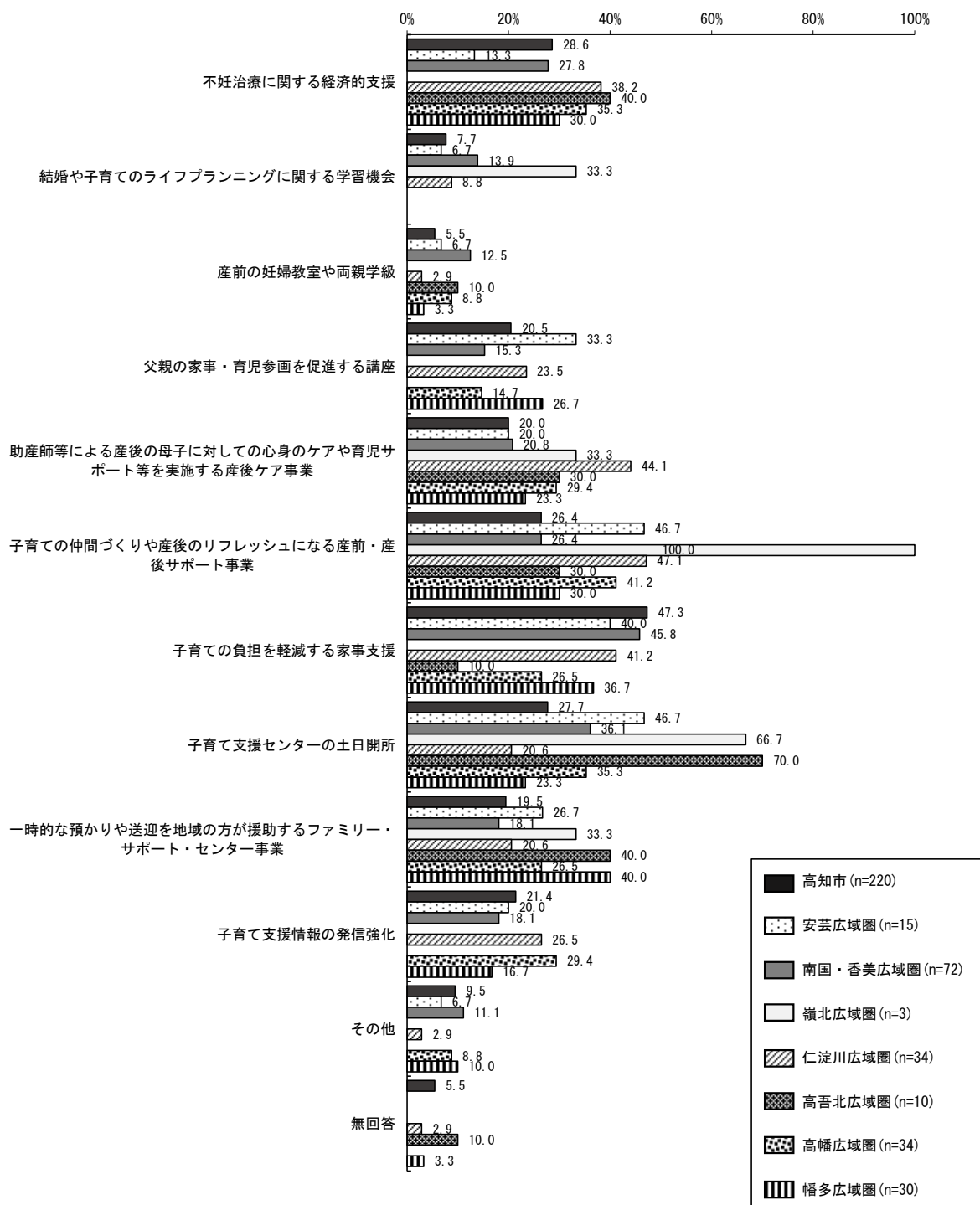
【年代別】

- すべての年代で「子育ての負担を軽減する家事支援」が最も高くなっている（18歳～24歳は「子育ての仲間づくりや産後のリフレッシュになる産前・産後サポート事業」が同率）。
- 次いで、25歳～29歳は、「子育ての仲間づくりや産後のリフレッシュになる産前・産後サポート事業」、30歳～34歳は「子育て支援センターの土日開所」、35歳～39歳は「不妊治療に関する経済的支援」が高くなっている。



【地域別】

○高知市及び南国・香美広域圏は「子育ての負担を軽減する家事支援」、安芸広域圏及び高吾北広域圏は「子育て支援センターの土日開所」（安芸広域圏は「子育ての仲間づくりや産後のリフレッシュになる産前・産後サポート事業」が同率）、嶺北広域圏、仁淀川広域圏及び高幡広域圏は「子育ての仲間づくりや産後のリフレッシュになる産前・産後サポート事業」、幡多広域圏は「一時的な預かりや送迎を地域の方が援助するファミリー・サポート・センター事業」が最も高くなっている。

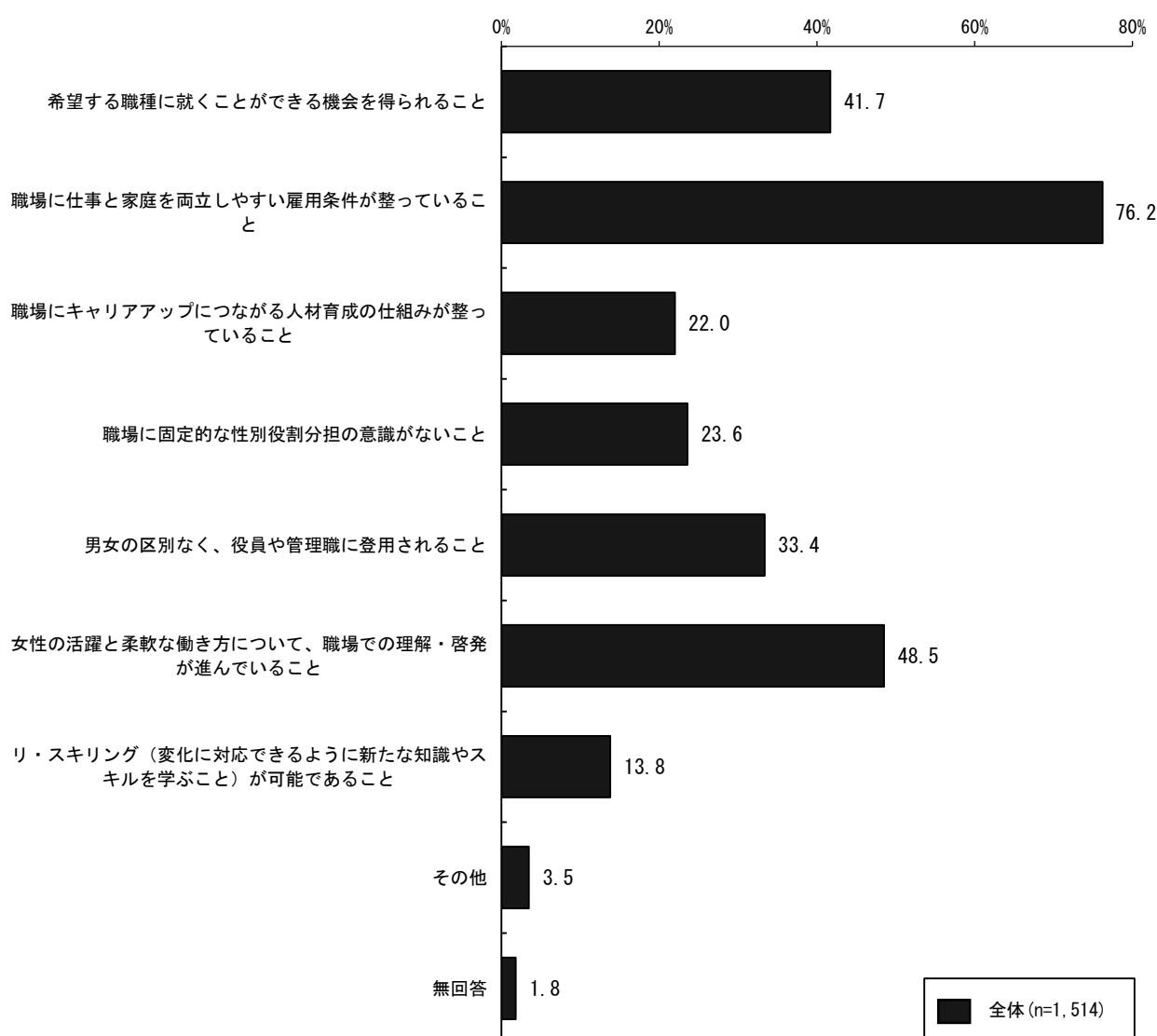


5 女性の活躍とワークライフバランスについて

問 20 女性が職場で活躍していくために、必要だと思うものは何ですか。あなたの考えに近いものを、3つお選びください。（○印は3つまで）

【全体】

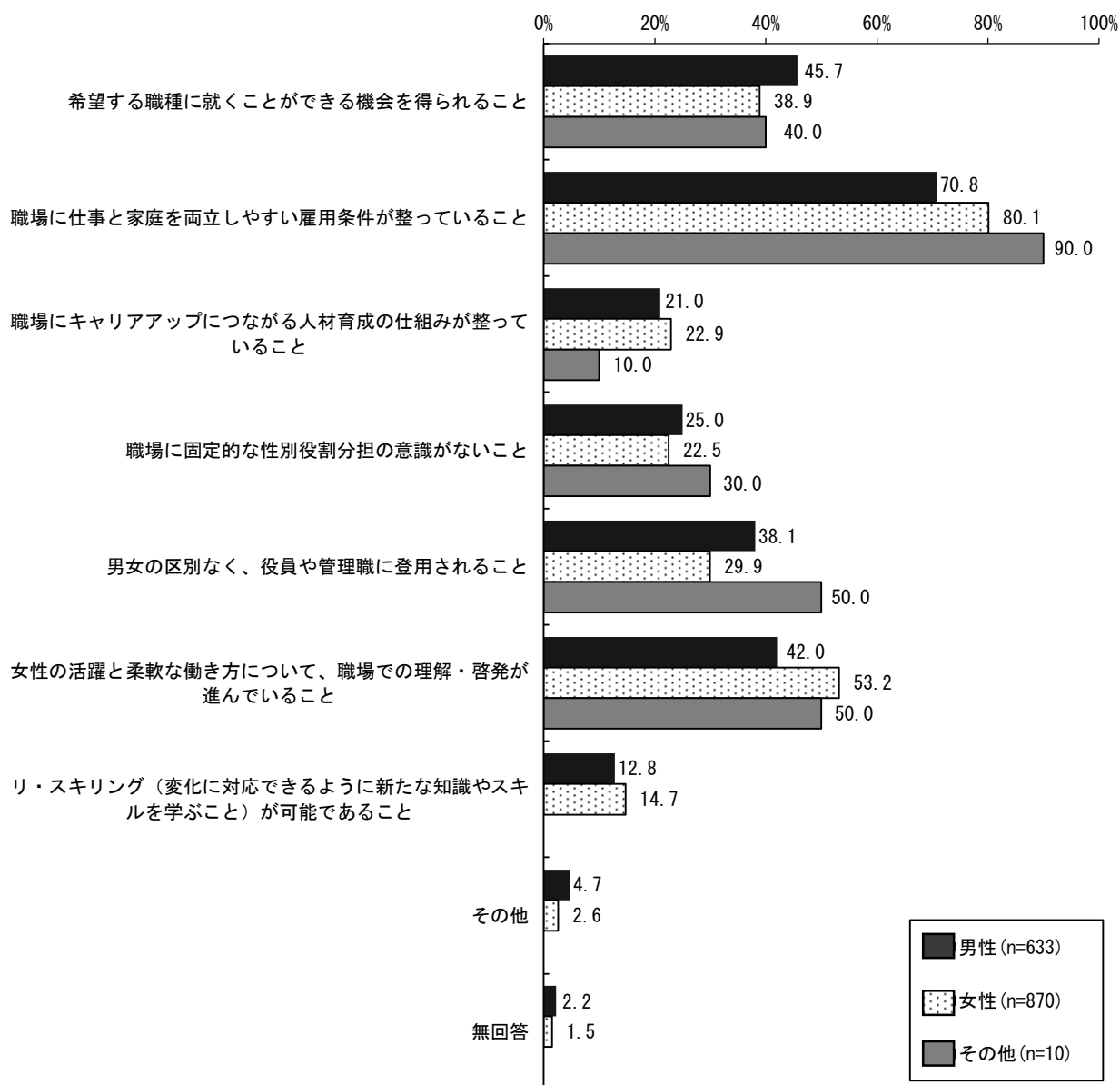
○「職場に仕事と家庭を両立しやすい雇用条件が整っていること」が76.2%と最も高く、次いで「女性の活躍と柔軟な働き方について、職場での理解・啓発が進んでいること」（48.5%）、「希望する職種に就くことができる機会を得られること」（41.7%）と続いている。



【性別】

○男女ともに、「職場に仕事と家庭を両立しやすい雇用条件が整っていること」が最も高くなっている。

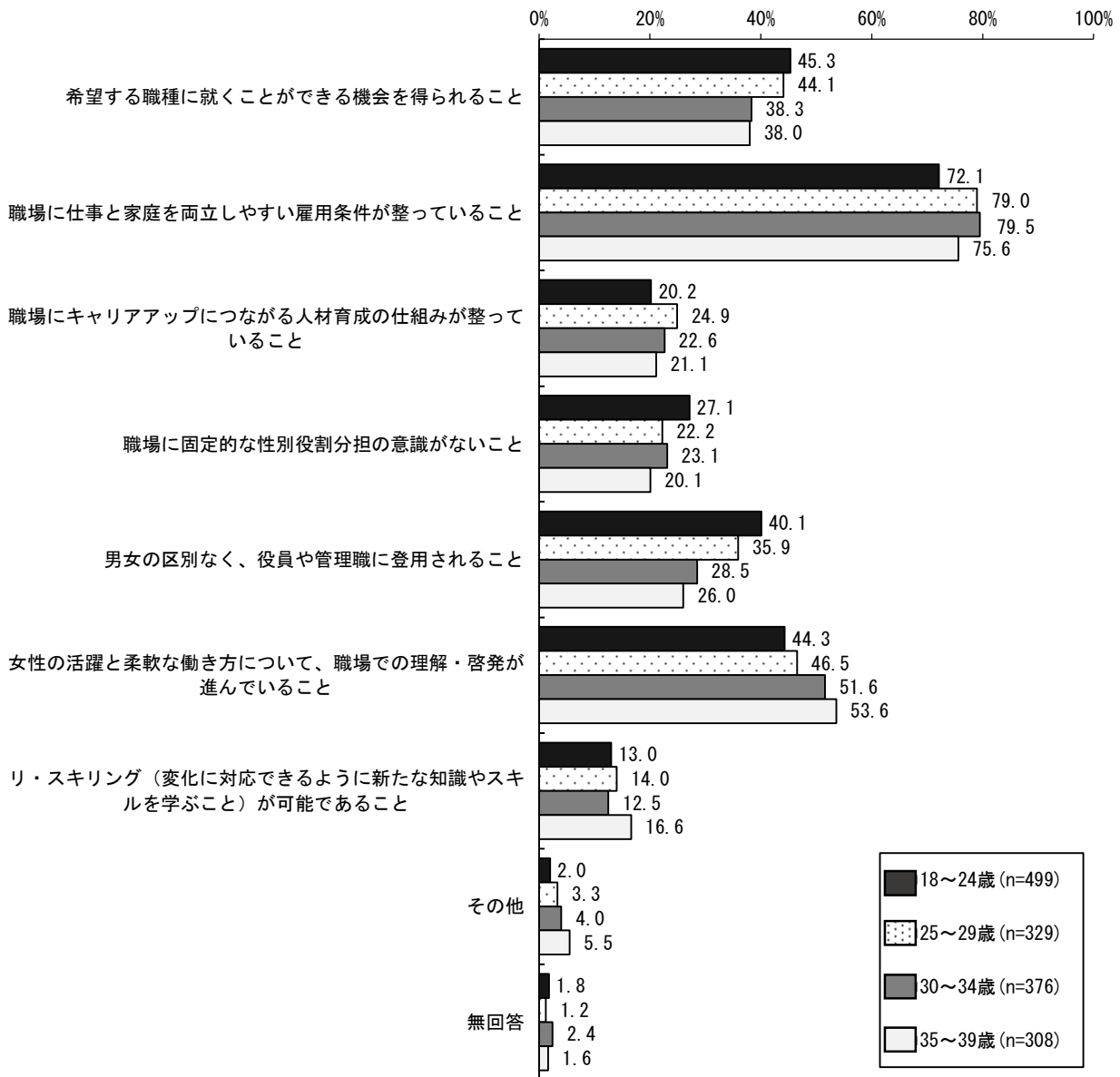
○次いで、男性が「希望する職種に就くことができる機会を得られること」、女性は、「女性の活躍と柔軟な働き方について、職場での理解・啓発が進んでいること」となっている。



【年代別】

○すべての年代で「職場に仕事と家庭を両立しやすい雇用条件が整っていること」が最も高くなっている。

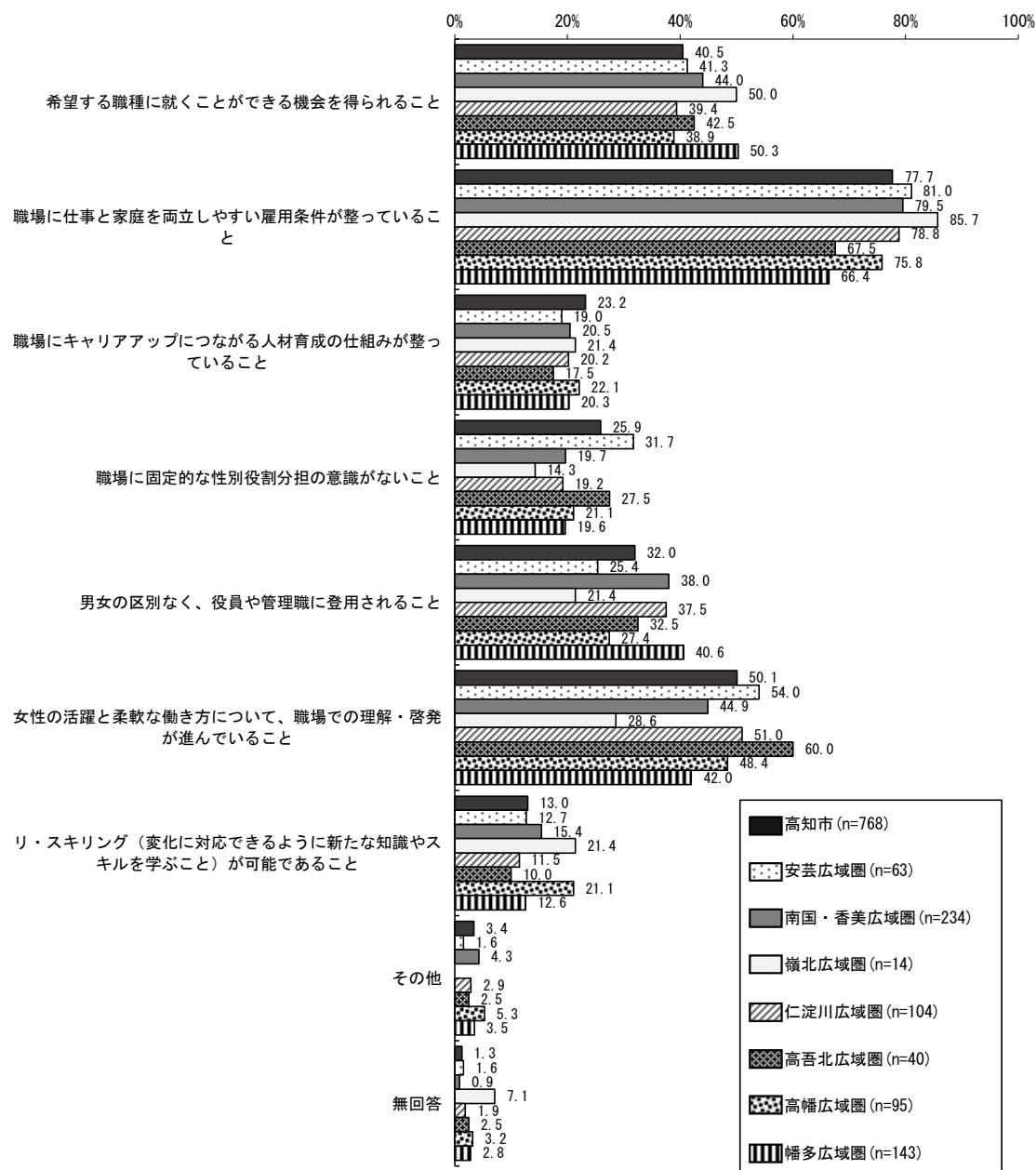
○次いで、18歳～24歳は「希望する職種に就くことができる機会を得られること」、そのほかの年代は「女性の活躍と柔軟な働き方について、職場での理解・啓発が進んでいること」となっている。



【地域別】

○すべての地域で、「職場に仕事と家庭を両立しやすい雇用条件が整っていること」が最も高くなっている。

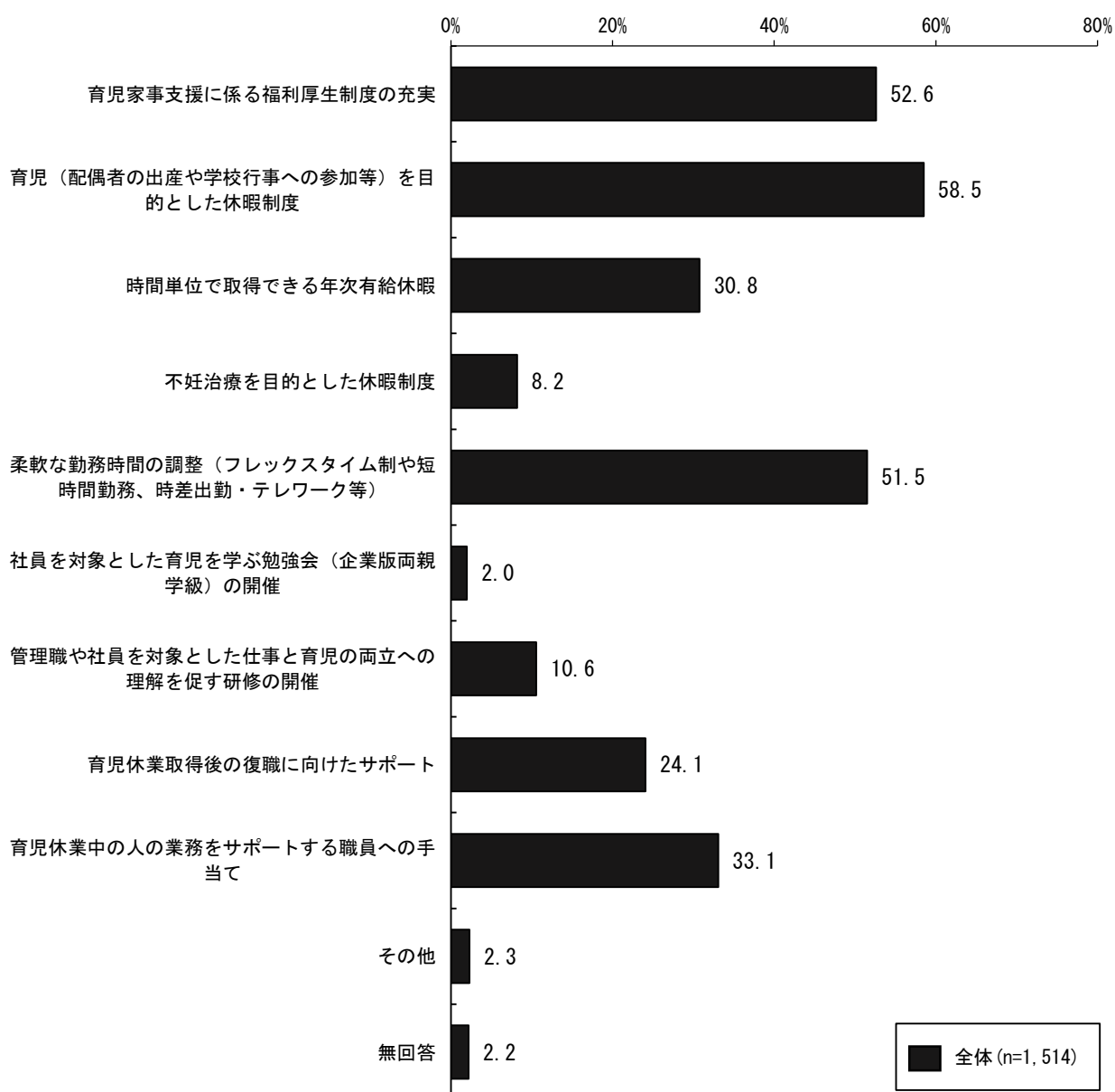
○次いで、嶺北広域圏及び幡多広域圏は「希望する職種に就くことができる機会を得られること」、そのほかの地域は、「女性の活躍と柔軟な働き方について、職場での理解・啓発が進んでいること」となっている。



問 21 男女を問わず、働きながら子育てしやすい職場環境づくりのために、職場にどんな支援があると良いと思いますか。あなたの考えに近いものを、3つお選びください。（○印は3つまで）

【全体】

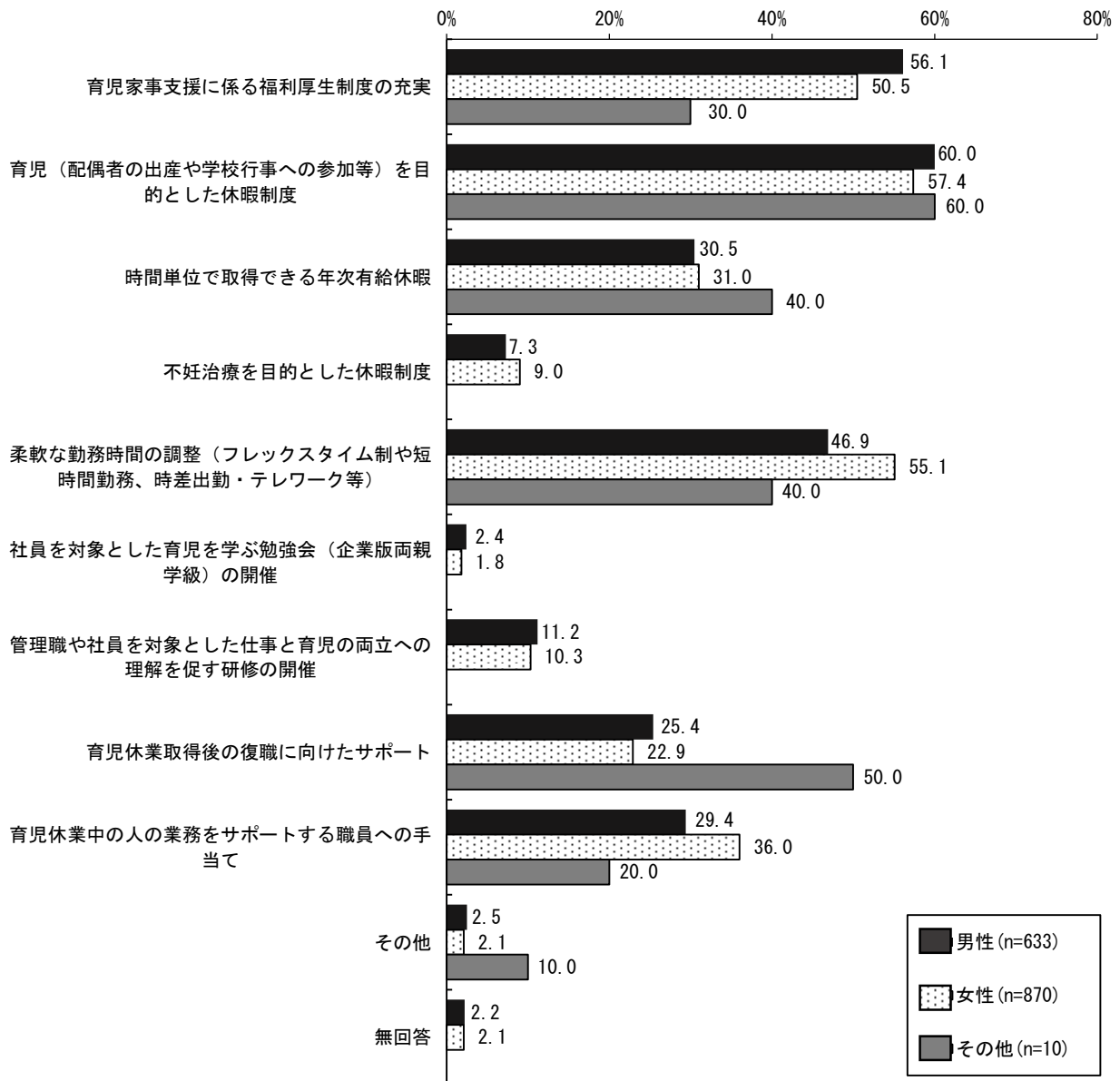
○「育児（配偶者の出産や学校行事への参加等）を目的とした休暇制度」が 58.5%と最も高く、次いで「育児家事支援に係る福利厚生制度の充実」（52.6%）、「柔軟な勤務時間の調整（フレックスタイム制や短時間勤務、時差出勤・テレワーク等）」（51.5%）と続いている。



【性別】

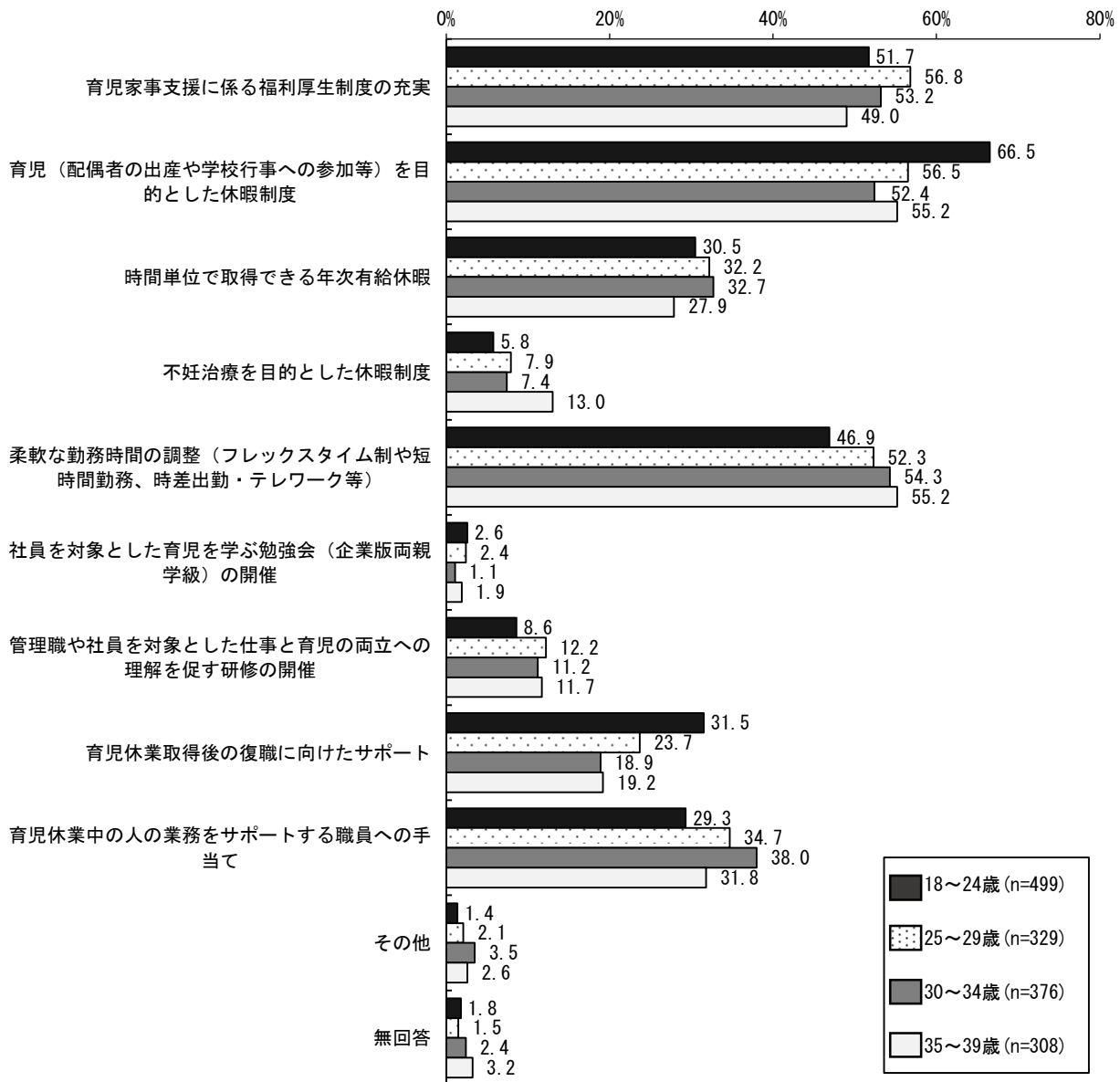
○男女ともに、「育児（配偶者の出産や学校行事への参加等）を目的とした休暇制度」が最も高くなっている。

○次いで、男性が「育児家事支援に係る福利厚生制度の充実」、女性は、「柔軟な勤務時間の調整（フレックスタイム制や短時間勤務、時差出勤・テレワーク等）」となっている。



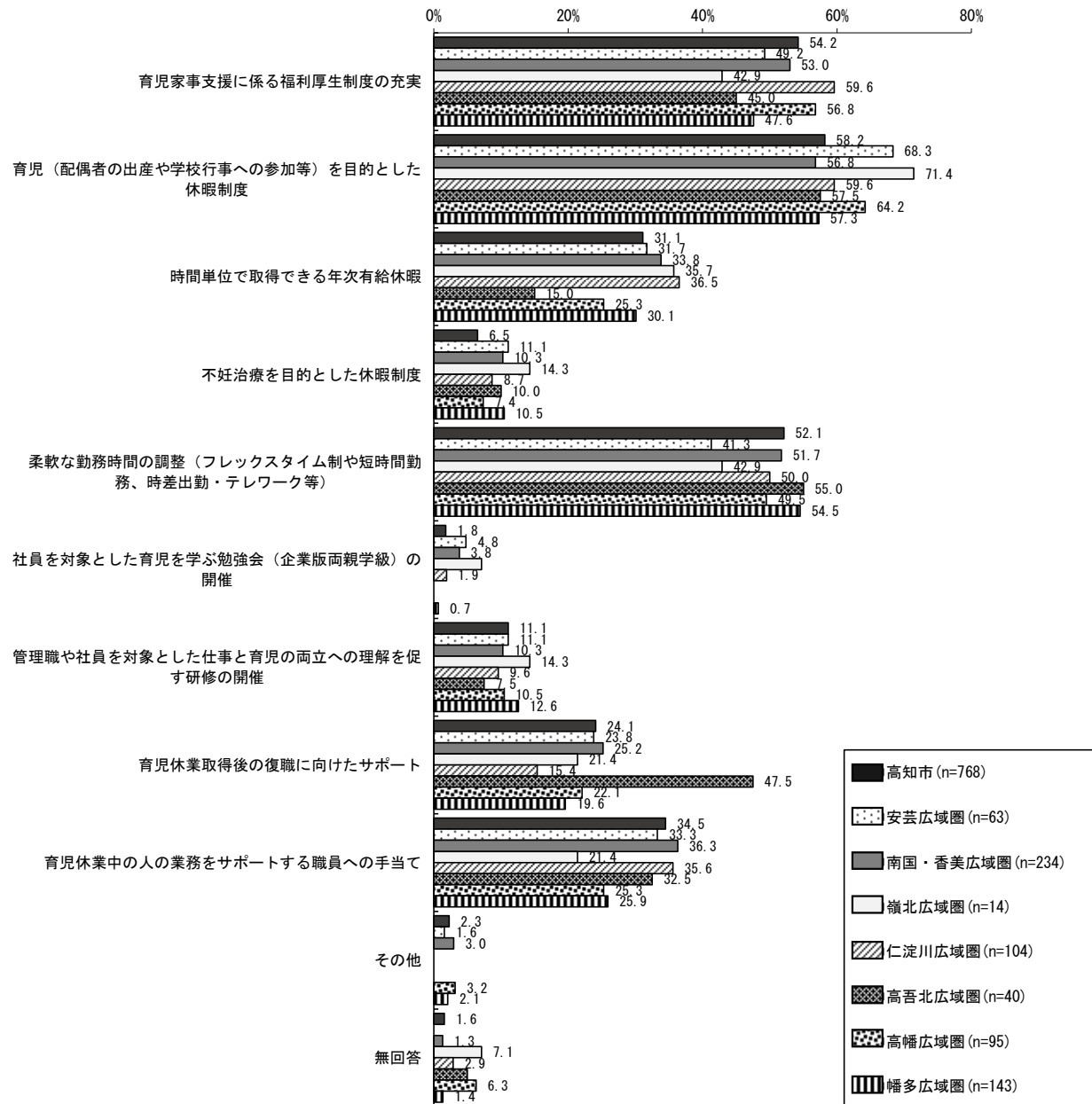
【年代別】

- 18歳～24歳は「育児（配偶者の出産や学校行事への参加等）を目的とした休暇制度」、25歳～29歳は「育児家事支援に係る福利厚生制度の充実」、30歳～34歳は「柔軟な勤務時間の調整（フレックスタイム制や短時間勤務、時差出勤・テレワーク等）」、35歳～39歳は「育児（配偶者の出産や学校行事への参加等）を目的とした休暇制度」と「柔軟な勤務時間の調整（フレックスタイム制や短時間勤務、時差出勤・テレワーク等）」が同率でそれぞれ最も高くなっている。
- 次いで、18歳～24歳及び30歳～34歳は「育児家事支援に係る福利厚生制度の充実」、25歳～29歳は「育児（配偶者の出産や学校行事への参加等）を目的とした休暇制度」となっている。



【地域別】

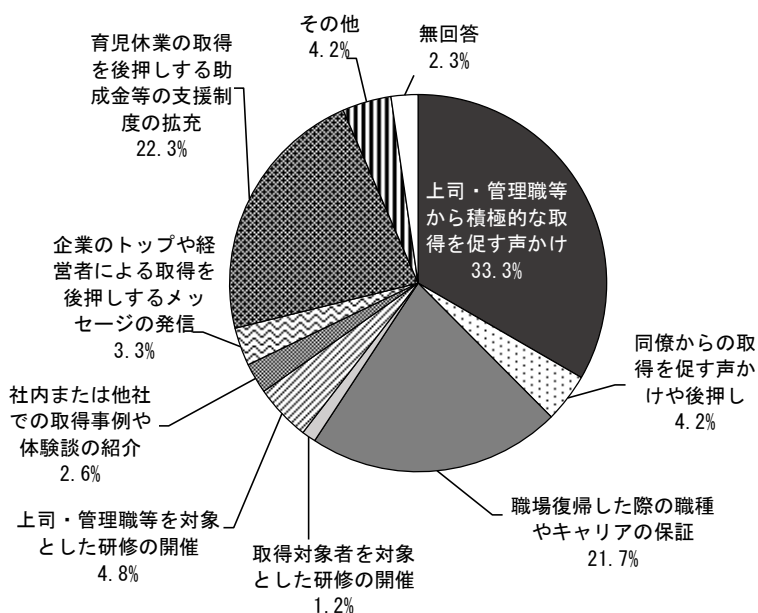
- すべての地域で「育児（配偶者の出産や学校行事への参加等）を目的とした休暇制度」が最も高くなっている。
- 次いで、高吾北広域圏及び幡多広域圏は「柔軟な勤務時間の調整（フレックスタイム制や短時間勤務、時差出勤・テレワーク等）」、そのほかの地域は「育児家事支援に係る福利厚生制度の充実」となっている（嶺北広域圏はこの二つの項目が同率）。



問 22 男性の育児休業取得率を向上させるために、職場でどのような支援があれば良いと思いますか。あなたの考えに近いものを、1 つお選びください。(1 つだけ○印)

【全体】

- 「上司・管理職等から積極的な取得を促す声かけ」が 33.3%と最も高く、次いで「育児休業の取得を後押しする助成金等の支援制度の拡充」(22.3%)、「職場復帰した際の職種やキャリアの保証」(21.7%)と続いている。



【性別】

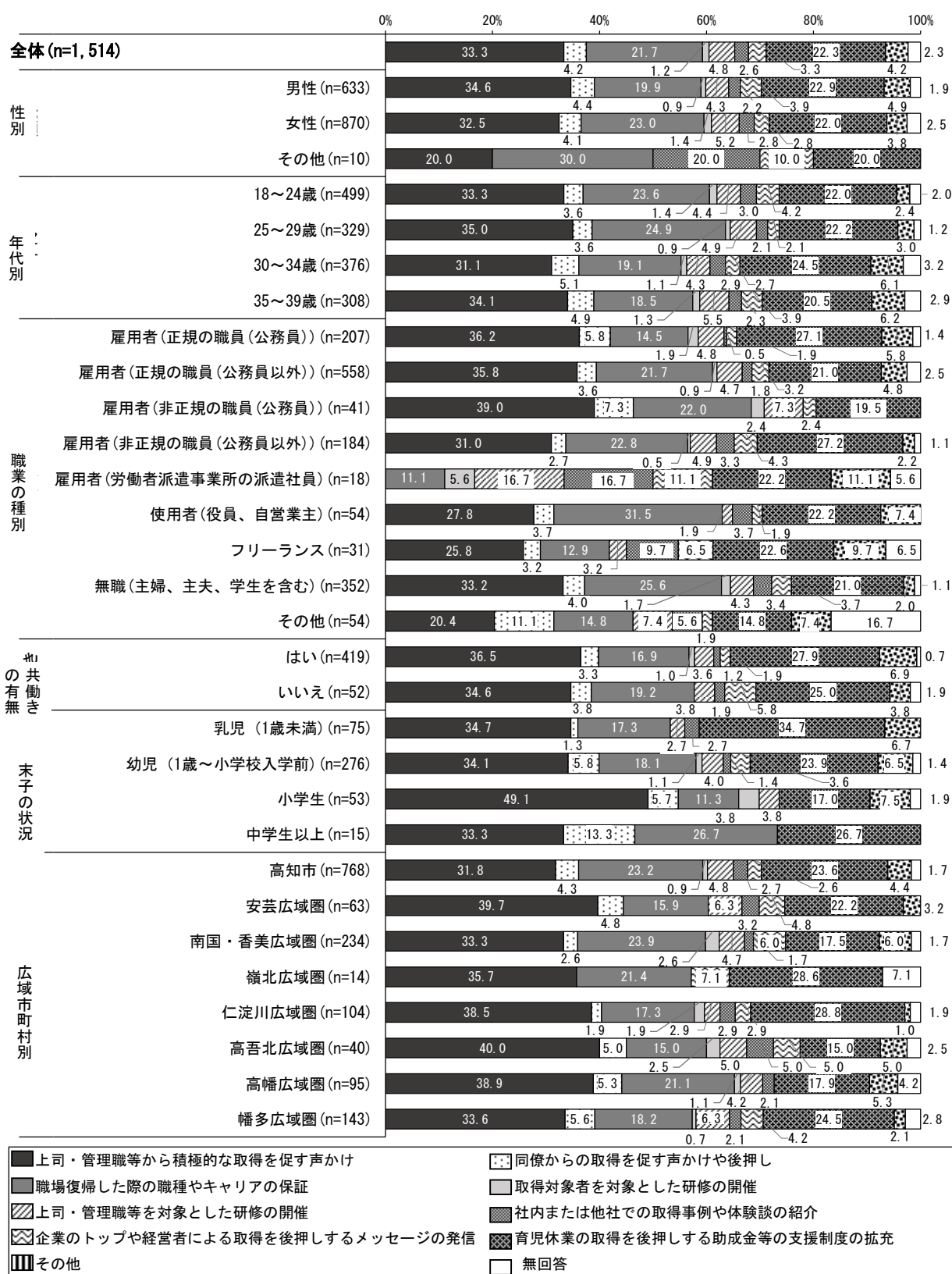
- 男女ともに、「上司・管理職等から積極的な取得を促す声かけ」が最も高くなっている。
 ○次いで、男性が「育児休業の取得を後押しする助成金等の支援制度の拡充」、女性は、「職場復帰した際の職種やキャリアの保証」となっている。

【年代別】

- すべての年代で「上司・管理職等から積極的な取得を促す声かけ」が最も高くなっている。
 ○次いで、18 歳～24 歳及び 25～29 歳が「職場復帰した際の職種やキャリアの保証」、30 歳～34 歳及び 35 歳～39 歳が、「育児休業の取得を後押しする助成金等の支援制度の拡充」となっている。

【地域別】

- すべての地域で「上司・管理職等から積極的な取得を促す声かけ」が最も高くなっている。
 ○次いで、南国・香美広域圏、高幡広域圏及び高吾北広域圏は「職場復帰した際の職種やキャリアの保証」(高吾北広域圏は「育児休業の取得を後押しする助成金等の支援制度の拡充」も同率)、その他の地域は「育児休業の取得を後押しする助成金等の支援制度の拡充」となっている。

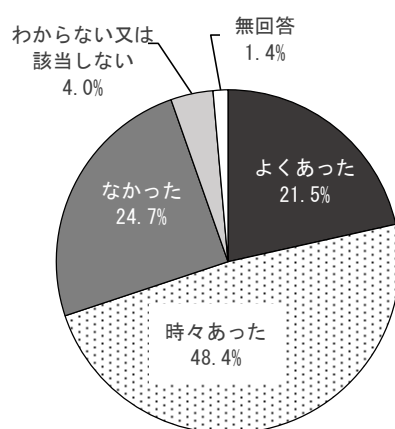


問 23 「男性は仕事、女性は家庭」等のように、個人の能力ではなく性別を理由に役割を分ける性別役割分担意識について、あなたの経験にあてはまるものをお選びください。（それぞれの項目であてはまるものに1つだけ○印）

① 小さい頃から食事や洗濯などの家事の手伝いをしている

【全体】

- 「時々あった」が 48.4%と最も高く、次いで「なかった」(24.7%)、「よくあった」(21.5%)と続いている。
- “あった”（「よくあった」または「時々あった」と回答した方）は、69.9%となっている。



【性別】

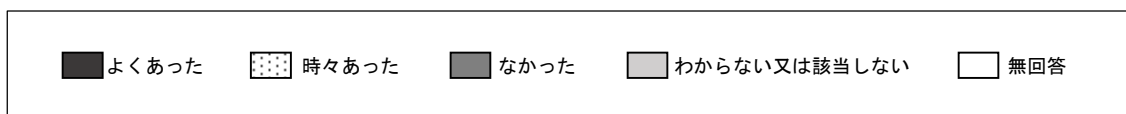
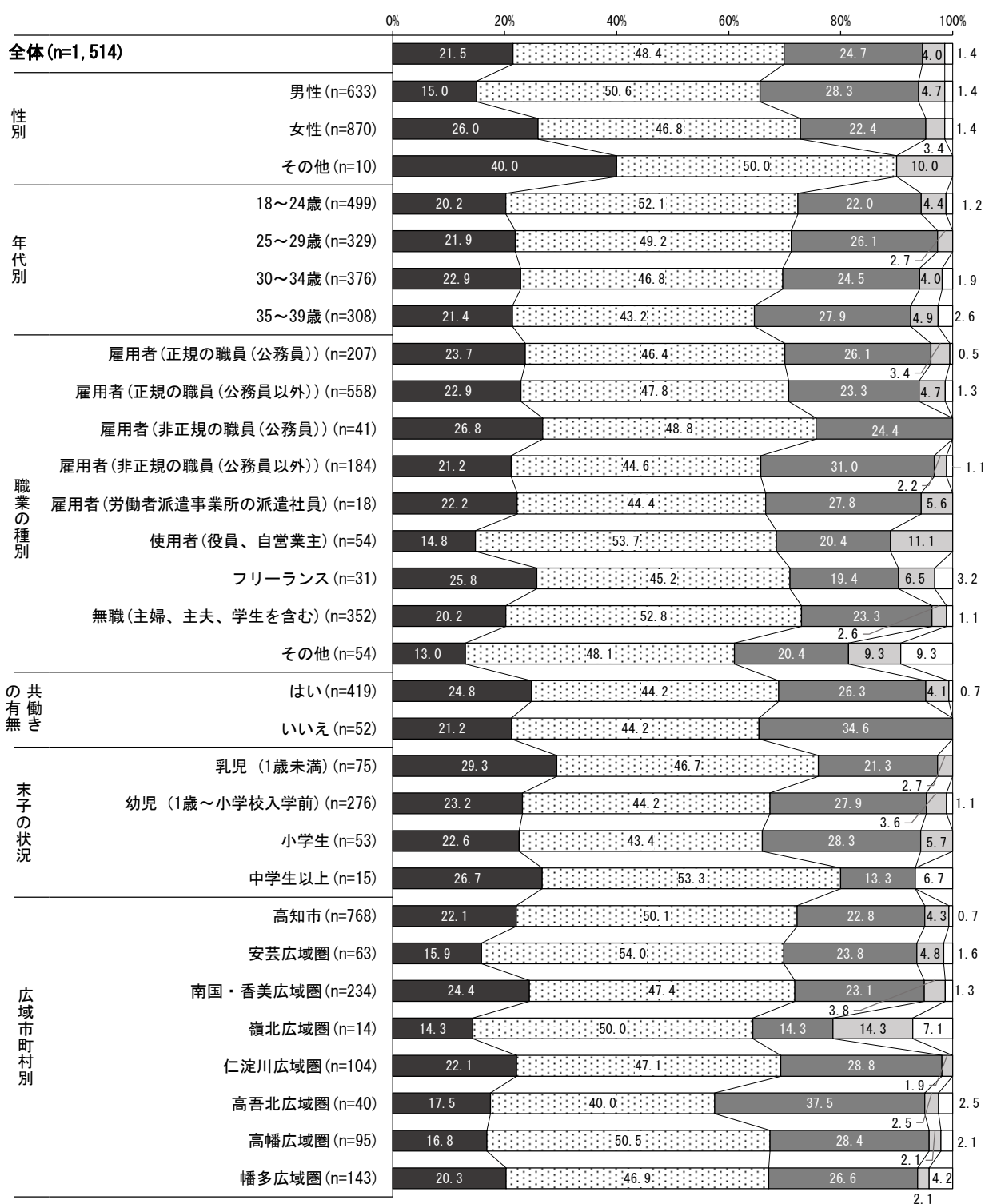
- 男女ともに「時々あった」が最も高くなっている。
- “あった”は、女性が7割を超えている。

【年代別】

- いずれの年代も、「時々あった」が最も高くなっている。
- “あった”は18歳～24歳及び25歳～29歳で7割を超え、年代が高くなるほど少なくなる傾向が見られる。

【地域別】

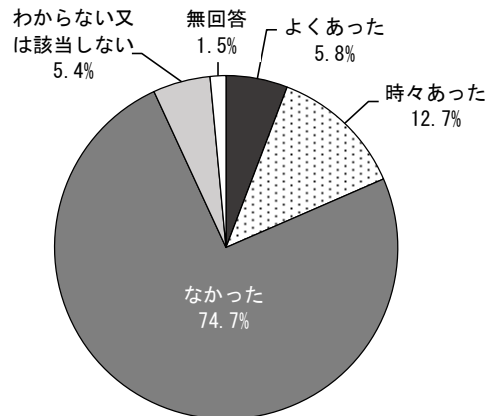
- すべての地域で「時々あった」が最も高くなっている。



② 親や親戚などから進学先について反対されたり制限されたりする

【全体】

- 「なかった」が 74.7%と最も高く、次いで「時々あった」（12.7%）、「よくあった」（5.8%）と続いている。
- “あった”（「よくあった」または「時々あった」と回答した方）は、18.5%となっている。



【性別】

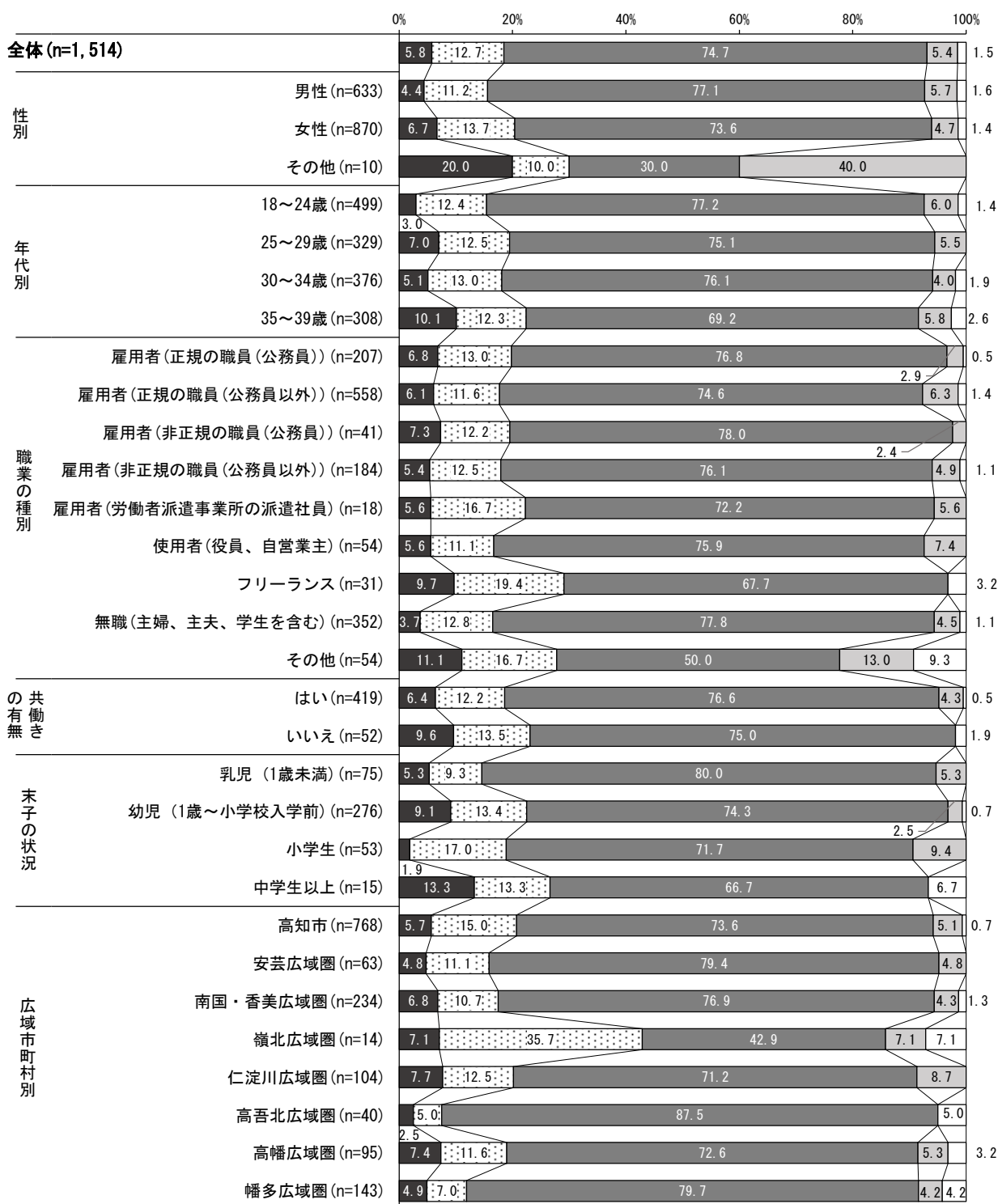
- 男女ともに、「なかった」が最も高くなっている。
- “あった”は、女性が2割を超え、男性に比べてやや高くなっている。

【年代別】

- いずれの年代も、「なかった」が最も高くなっている。
- “あった”は、35歳～39歳が2割を超え、ほかの年代に比べてやや高くなっている。

【地域別】

- すべての地域で、「なかった」が最も高くなっている。

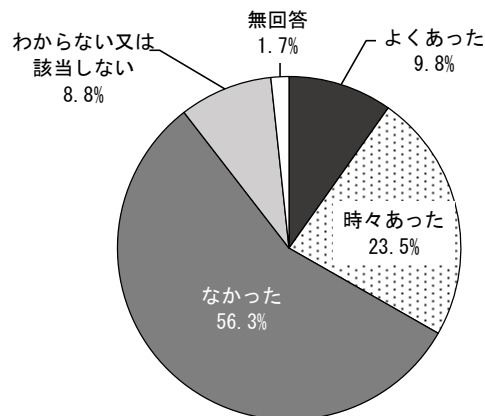


よくあった
 時々あった
 なかった
 わからない又は該当しない
 無回答

③ 親戚や地域の宴会で食事の支度やお酌をする

【全体】

- 「なかった」が 56.3%と最も高く、次いで「時々あった」(23.5%)、「よくあった」(9.8%)と続いている。
- “あった”(「よくあった」または「時々あった」と回答した方)は、33.3%となっている。



【性別】

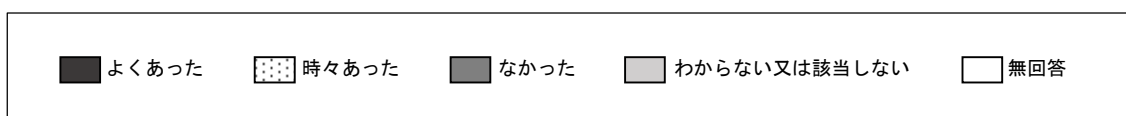
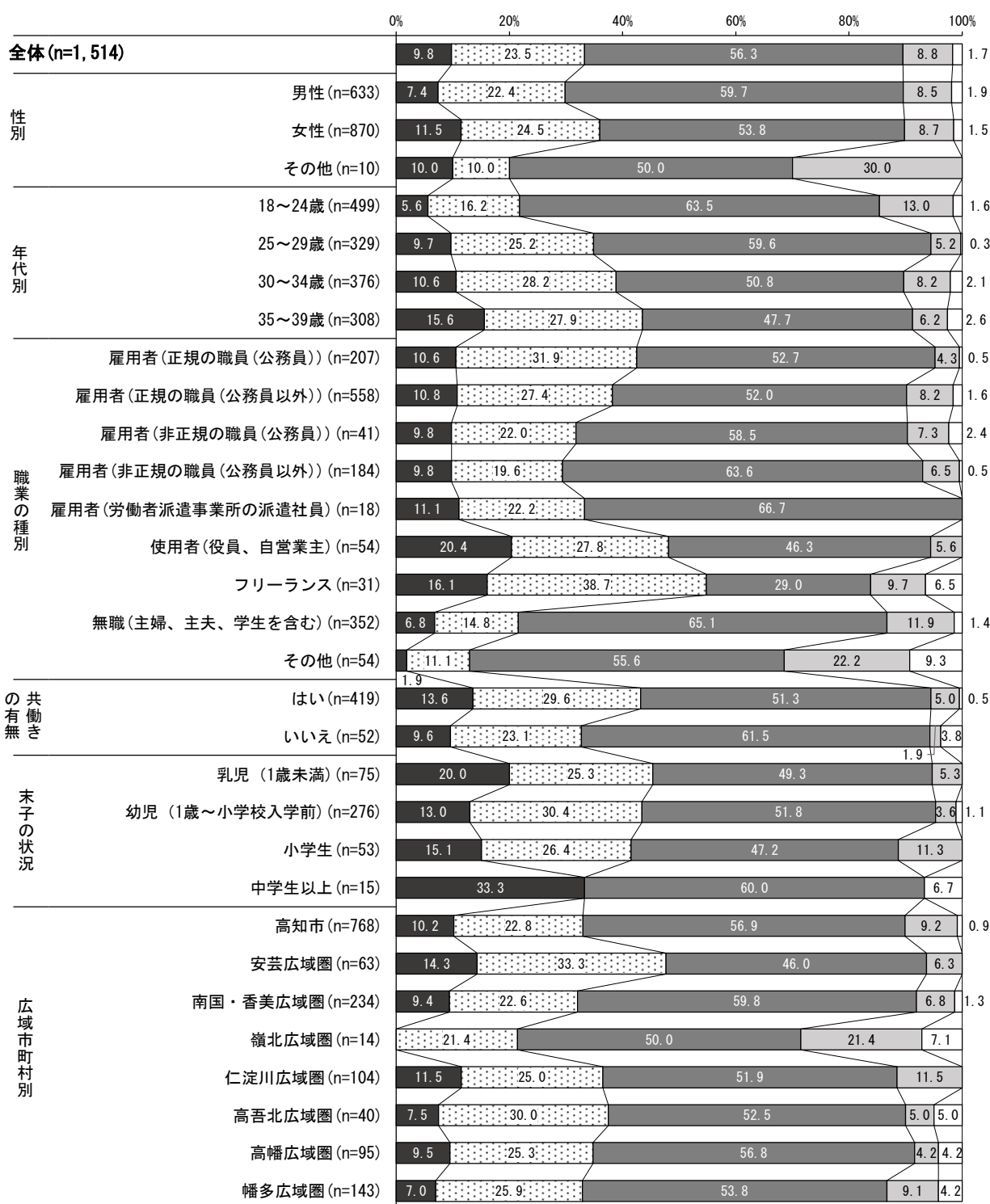
- 男女ともに「なかった」が最も高くなっている。
- “あった”は、男性よりも女性のほうが高くなっている。

【年代別】

- すべての年代で「なかった」が最も高くなっているが、その割合は年齢が上がるにつれて低くなっている。
- 35歳～39歳は、“あった”が4割を超えている。

【地域別】

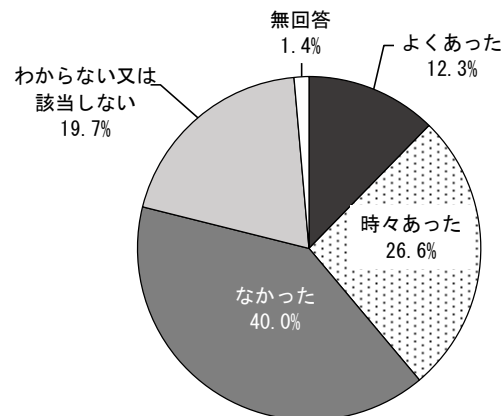
- すべての地域で「なかった」が最も高くなっている。
- 安芸広域圏で唯一“あった”が4割を超えている。



④ 恋人とのデート代を相手の分も負担する

【全体】

- 「なかった」が40.0%と最も高く、次いで「時々あった」（26.6%）、「わからない又は該当しない」（19.7%）と続いている。
- “あった”（「よくあった」または「時々あった」と回答した方）は、38.8%となっている。



【性別】

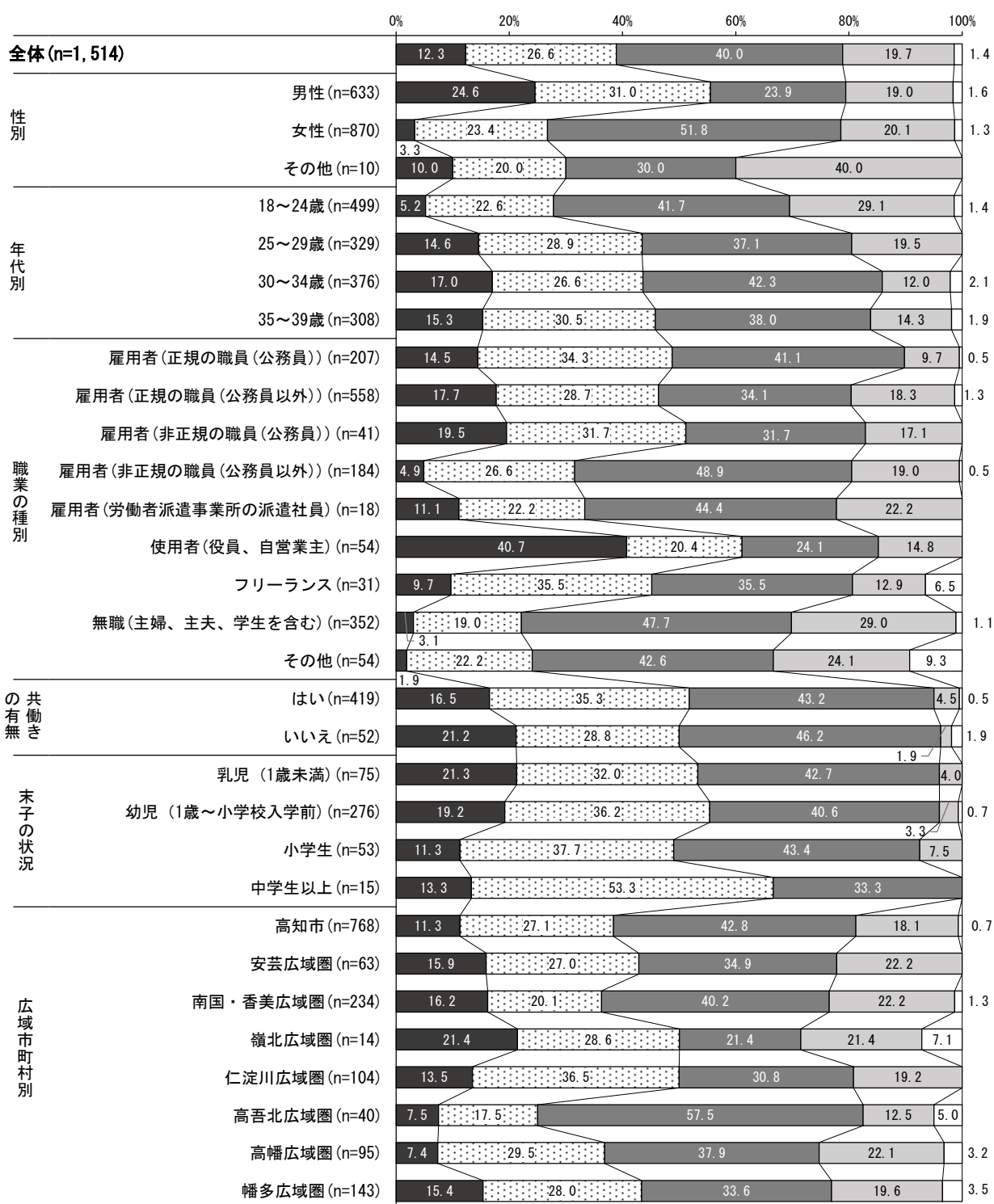
- 男性は、「時々あった」が最も高く、“あった”は55.6%となっている。
- 女性は、「なかった」が最も高くなっている。

【年代別】

- いずれの年代も、「なかった」が最も高くなっているが、18歳～24歳を除き、“あった”の割合が「なかった」よりも高くなっている。

【地域別】

- 嶺北広域圏及び仁淀川広域圏は「時々あった」が最も高く、そのほかの地域は「なかった」が最も高くなっている。

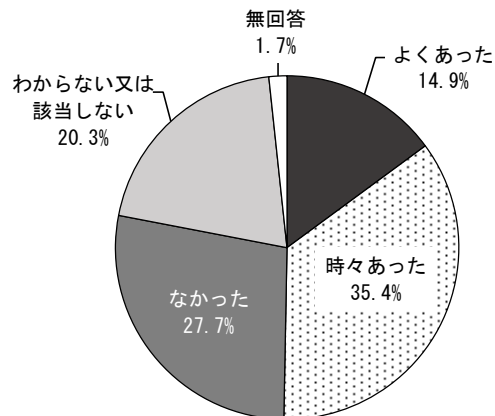


よくあった
 時々あった
 なかった
 わからない又は該当しない
 無回答

⑤ 職場の飲み会で料理の取り分けやお酌をする

【全体】

- 「時々あった」が 35.4%と最も高く、次いで「なかった」(27.7%)、「わからない又は該当しない」(20.3%)と続いている。
- “あった”(「よくあった」または「時々あった」と回答した方)は、50.3%となっている。



【性別】

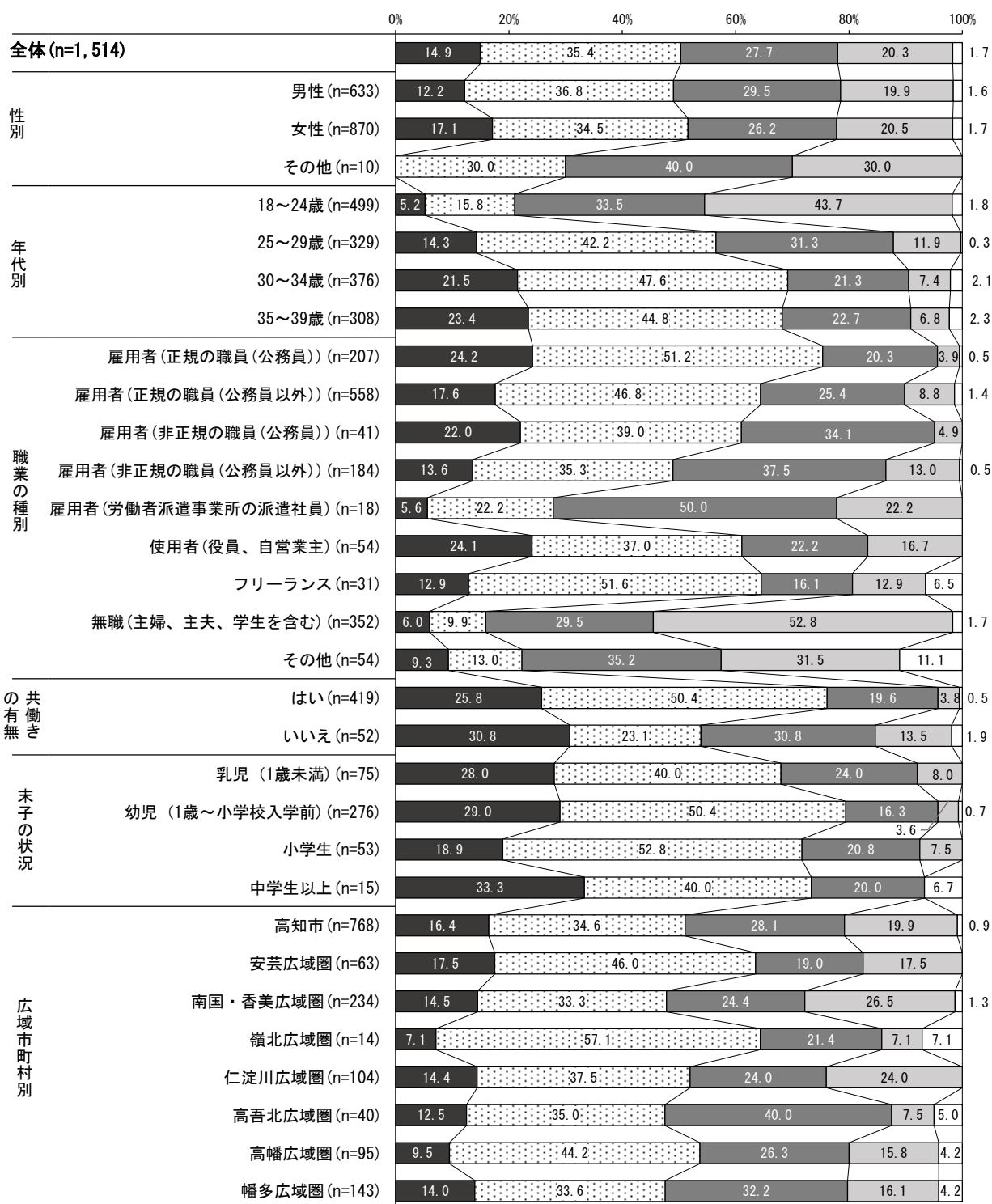
- 男女ともに「時々あった」が最も高く、“あった”は男女ともに約半数を占める結果となっている。

【年代別】

- 18歳～24歳は「わからない又は該当しない」が最も高く、そのほかの年代は「時々あった」が最も高くなっている。
- “あった”は30歳～34歳及び35歳～39歳で7割に迫っている。

【地域別】

- 高吾北広域圏は「なかった」が最も高く、そのほかの地域は「時々あった」が最も高くなっている。
- “あった”は、安芸広域圏及び嶺北広域圏で6割を超えている。

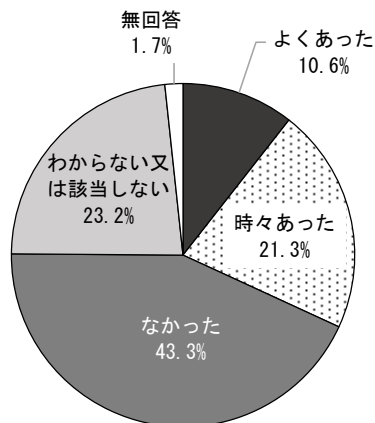


☒ よくあった
 ☒ 時々あった
 ☒ なかった
 ☒ わからない又は該当しない
 ☒ 無回答

⑥ 職場で社員の食器類の片付けをする

【全体】

- 「なかった」が43.3%と最も高く、次いで「わからない又は該当しない」(23.2%)、「時々あった」(21.3%)と続いている。
- “あった”（「よくあった」または「時々あった」と回答した方）は、31.9%となっている。



【性別】

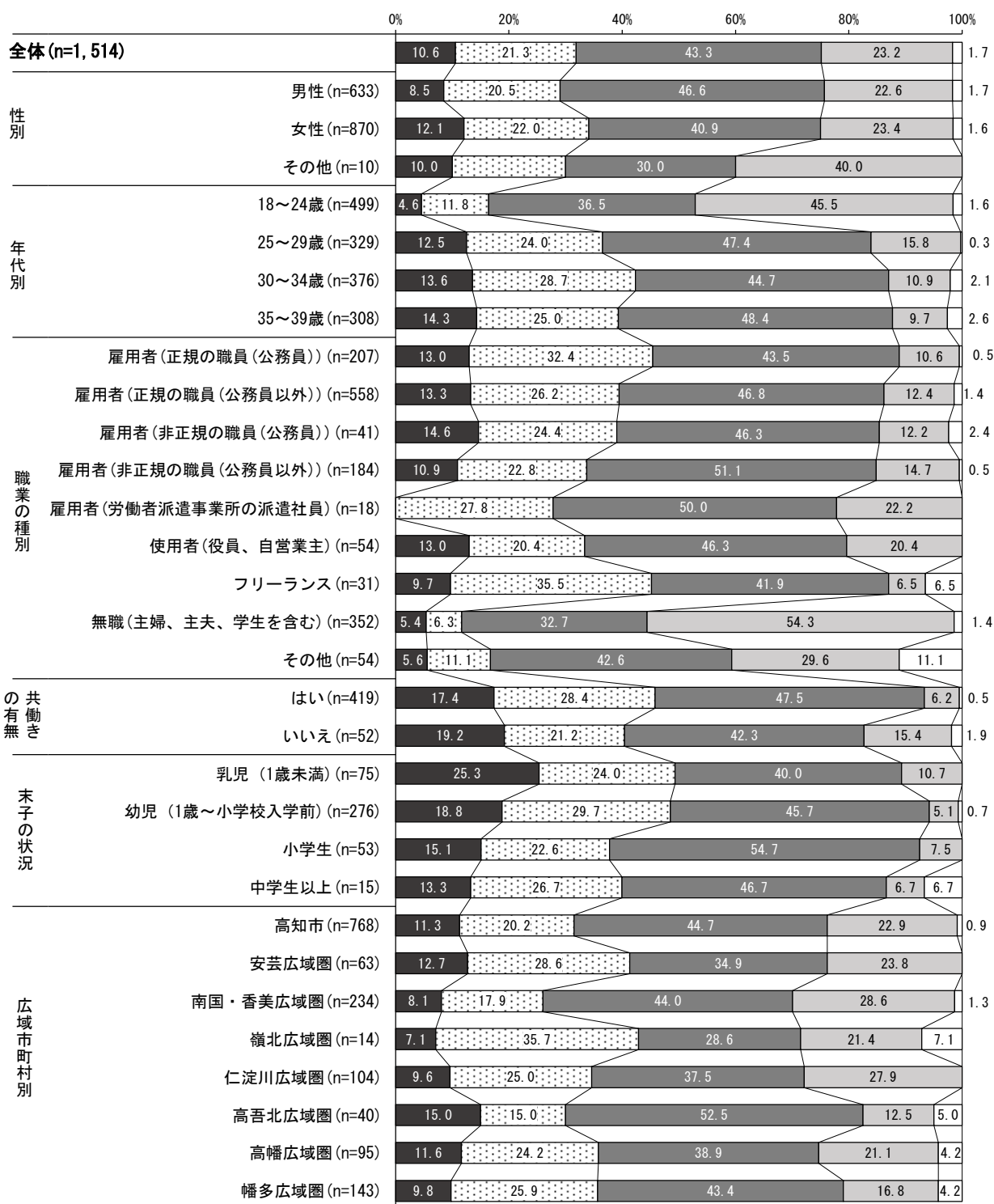
- 男女ともに「なかった」が最も高くなっている。
- “あった”の割合は、男性よりも女性のほうがやや高くなっている。

【年代別】

- 18歳～24歳は、「わからない又は該当しない」(45.5%)が最も高くなっている。
- そのほかの年代は「なかった」が最も高いが、30歳～34歳は“あった”が4割を超えている。

【地域別】

- 嶺北広域圏は「時々あった」が最も高く、そのほかの地域は「なかった」が最も高くなっている。
- “あった”は、安芸広域圏及び嶺北広域圏が4割を超える結果となっている。

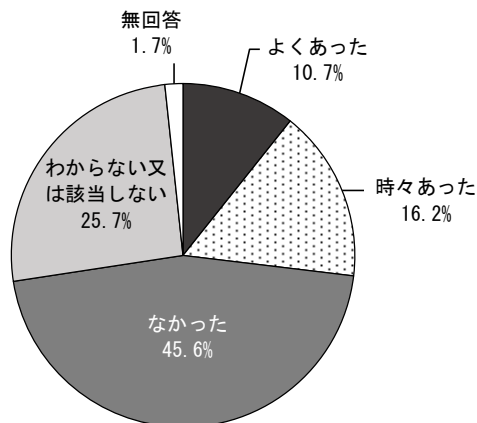


よくあった
 時々あった
 なかった
 わからない又は該当しない
 無回答

⑦ 職場で来客にお茶を出す

【全体】

- 「なかった」が45.6%と最も高く、次いで「わからない又は該当しない」(25.7%)、「時々あった」(16.2%)と続いている。
- “あった”（「よくあった」または「時々あった」と回答した方）は、26.9%となっている。



【性別】

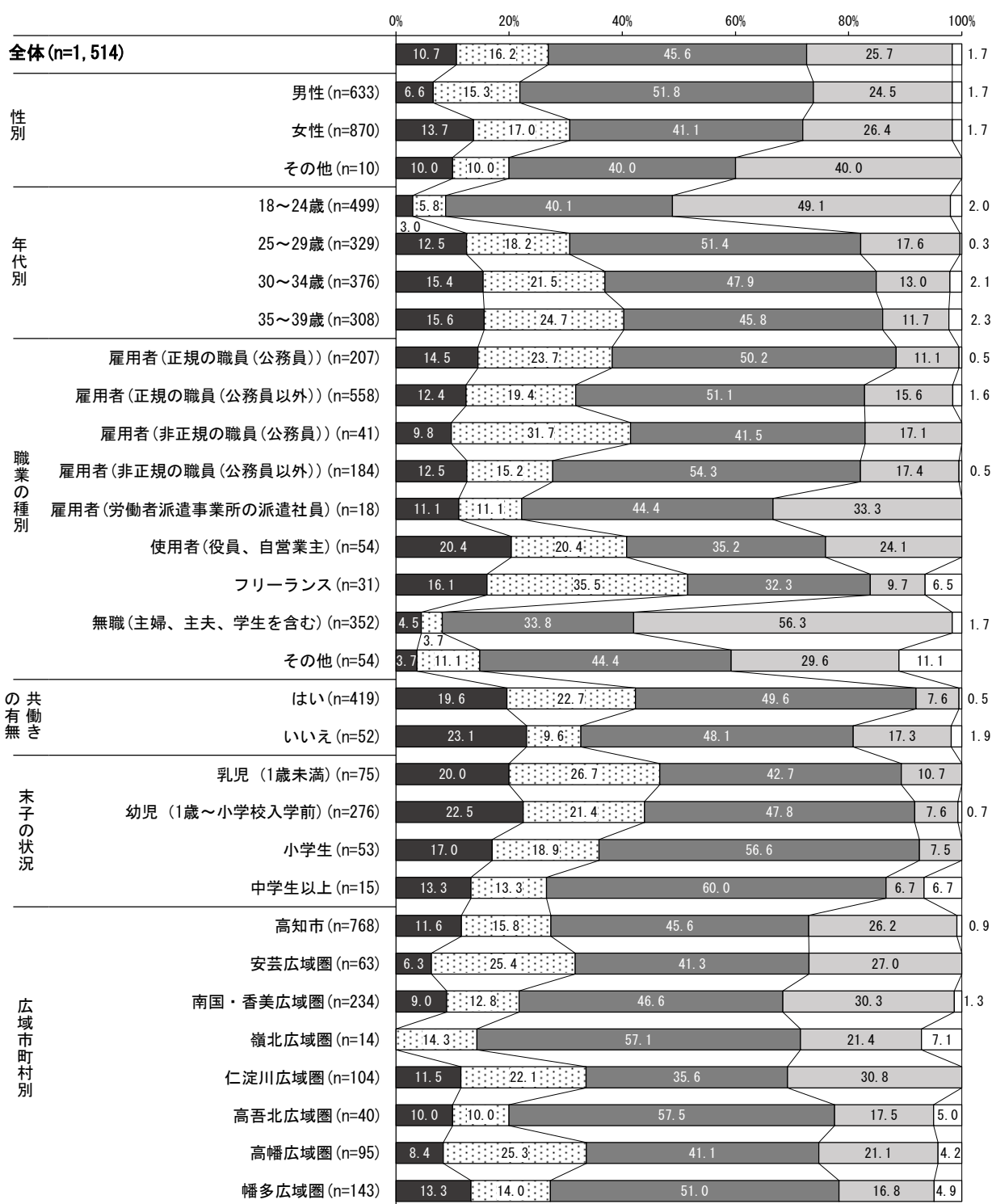
- 男女ともに「なかった」が最も高くなっている。
- “あった”は男性よりも女性のほうがやや高くなっている。

【年代別】

- 18歳～24歳は、「わからない又は該当しない」が最も高く、そのほかの年代は「なかった」が最も高い。
- “あった”は年代が上がるにつれて高くなる傾向が見られ、35歳～39歳では4割を超えている。

【地域別】

- すべての地域で「なかった」が最も高くなっている。

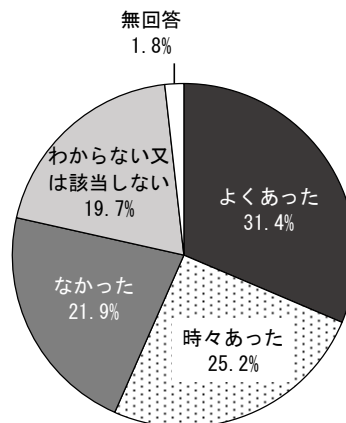


よくあった
 時々あった
 なかった
 わからない又は該当しない
 無回答

⑧ 職場の掃除をする

【全体】

- 「よくあった」が31.4%と最も高く、次いで「時々あった」(25.2%)、「なかった」(21.9%)と続いている。
- “あった”(「よくあった」または「時々あった」と回答した方)は、56.7%となっている。



【性別】

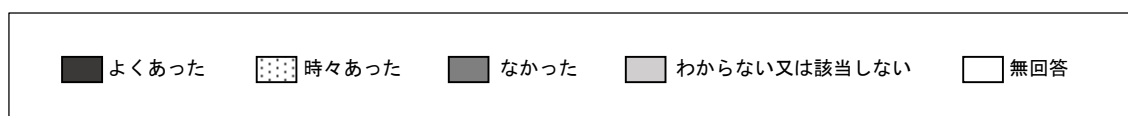
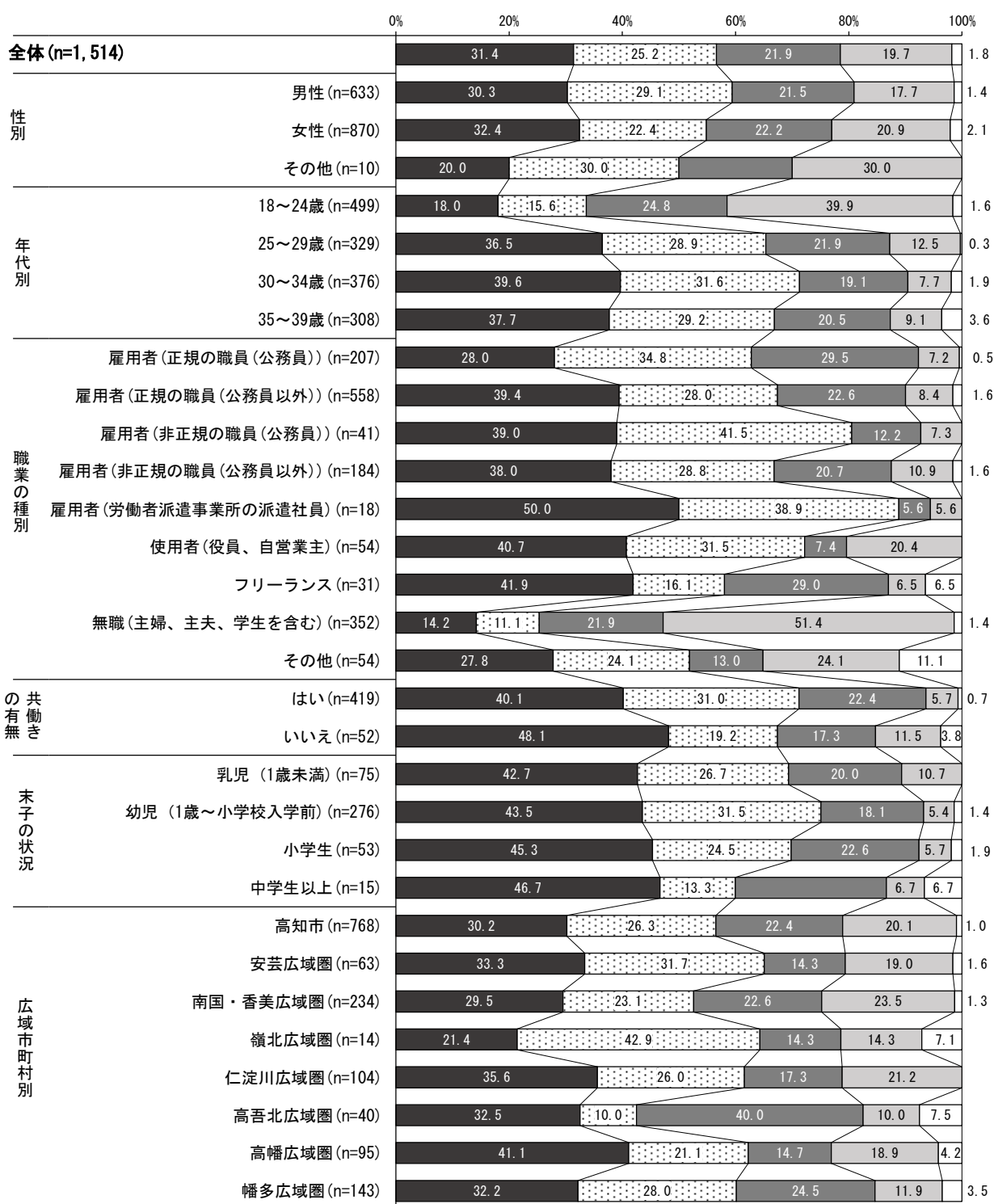
- 男女ともに「よくあった」が3割を超えて最も高くなっている。
- “あった”は、男女ともに半数を超え、男性のほうが女性よりもやや高くなっている。

【年代別】

- 18歳～24歳は、「わからない又は該当しない」が最も高く、そのほかの年代は「よくあった」が最も高い。
- “あった”は30歳～34歳で7割を超えている。

【地域別】

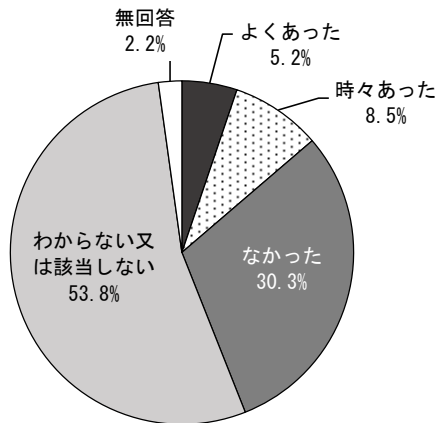
- 嶺北広域圏は「時々あった」、高吾北広域圏は「なかった」、そのほかの地域は「よくあった」が最も高い結果となっている。
- 高吾北広域圏を除く地域で、“あった”が50%以上となっている。



⑨ 職場で、育児中であることを理由に早く帰宅した方が良いと言われる

【全体】

- 「わからない又は該当しない」が 53.8%と最も高く、次いで「なかった」(30.3%)、「時々あった」(8.5%)と続いている。
- “あった”（「よくあった」または「時々あった」と回答した方）は、13.7%となっている。



【性別】

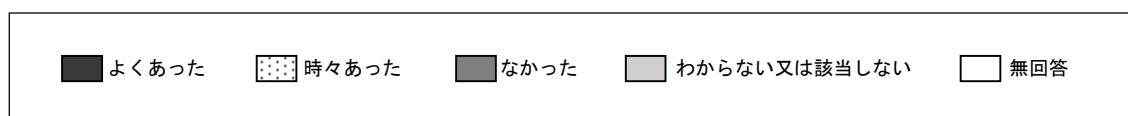
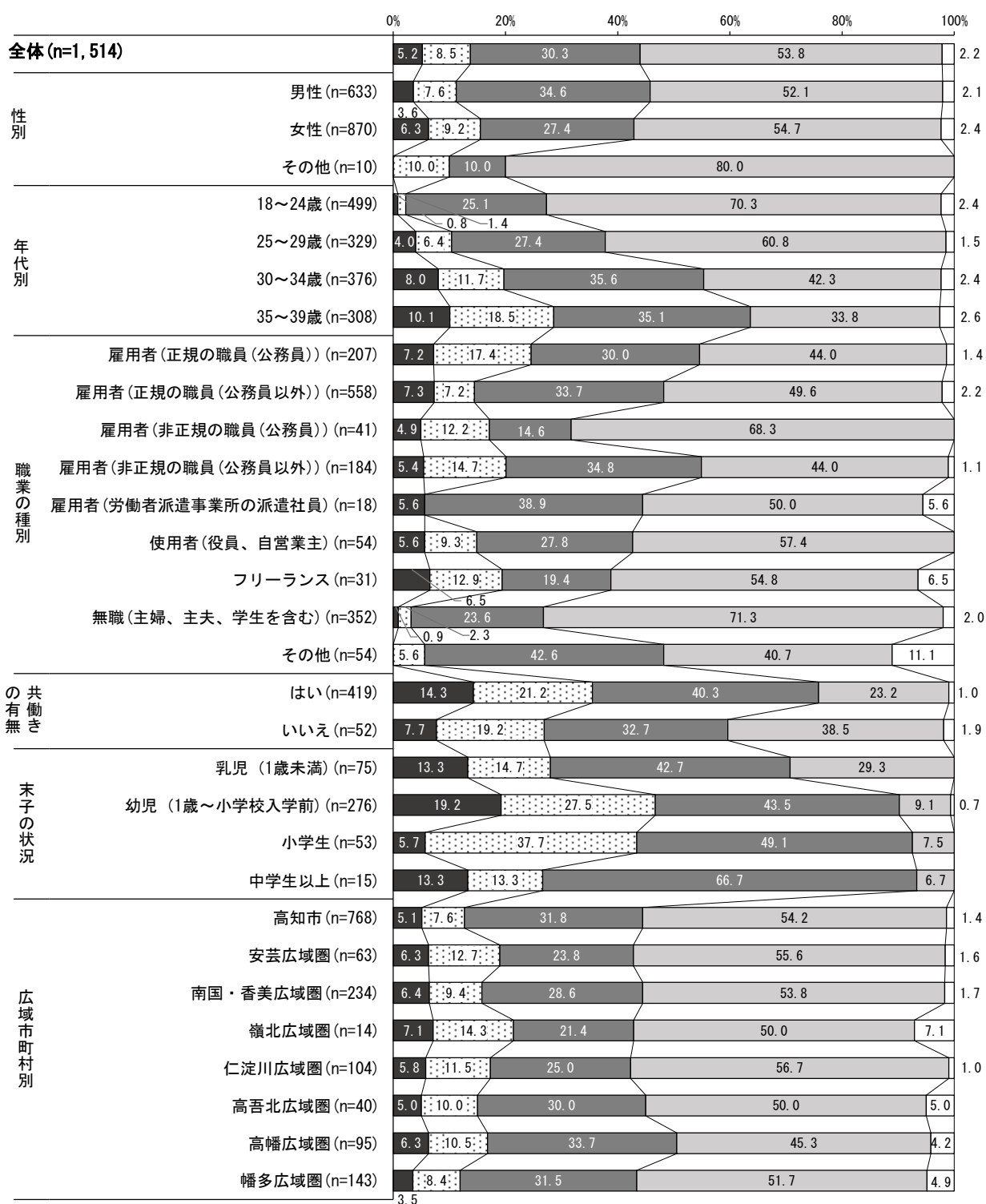
- 男女ともに「わからない又は該当しない」が最も高くなっている。
- “あった”は、女性が男性をやや上回る結果となっている。

【年代別】

- 35歳～39歳は「なかった」が最も高く、そのほかの年代は「わからない又は該当しない」が最も高くなっている。
- “あった”は、年代が上がるにつれて高くなっており、35歳～39歳は3割に迫っている。

【地域別】

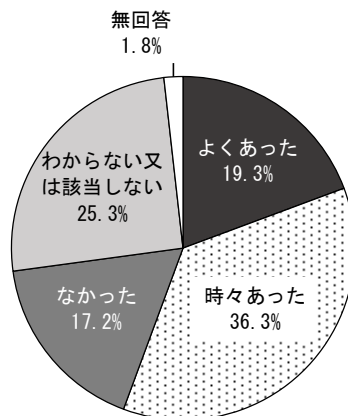
- すべての地域で、「わからない又は該当しない」が最も高くなっている。



⑩ 職場で成長できるような機会や助言をもらえる

【全体】

- 「時々あった」が 36.3%と最も高く、次いで「わからない又は該当しない」(25.3%)、「よくあった」(19.3%)と続いている。
- “あった”（「よくあった」または「時々あった」と回答した方）は、55.6%となっている。



【性別】

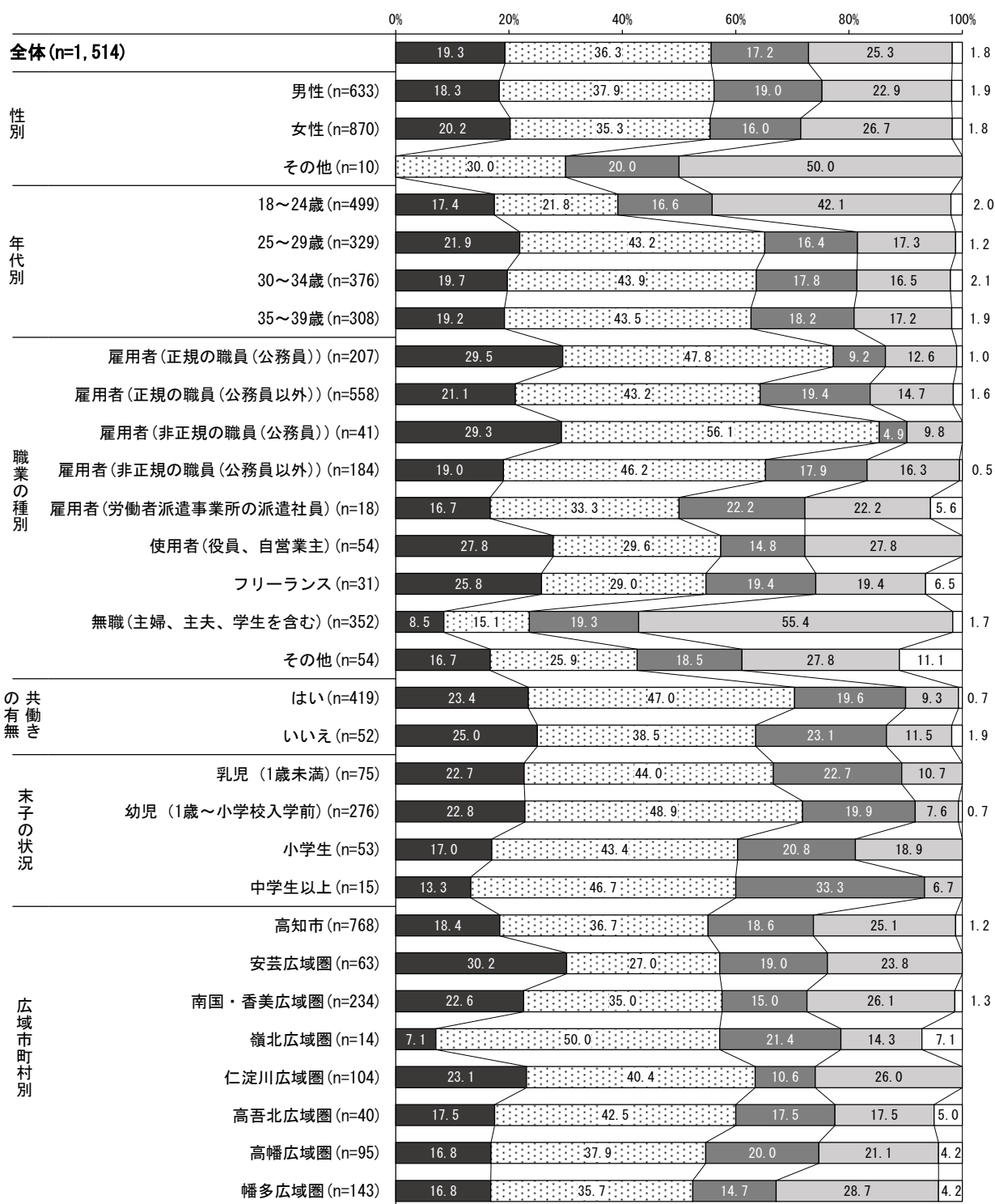
- 男女ともに、「時々あった」が最も高くなっている。
- “あった”は男女ともに半数を超えている。

【年代別】

- 18歳～24歳は、「わからない又は該当しない」が最も高く、そのほかの年代は「時々あった」が最も高くなっている。
- 18歳～24歳を除いて“あった”は6割を超えている。

【地域別】

- 安芸広域圏は「よくあった」が最も高く、そのほかの地域は「時々あった」が最も高くなっている。
- すべての地域で“あった”が半数を超えている。



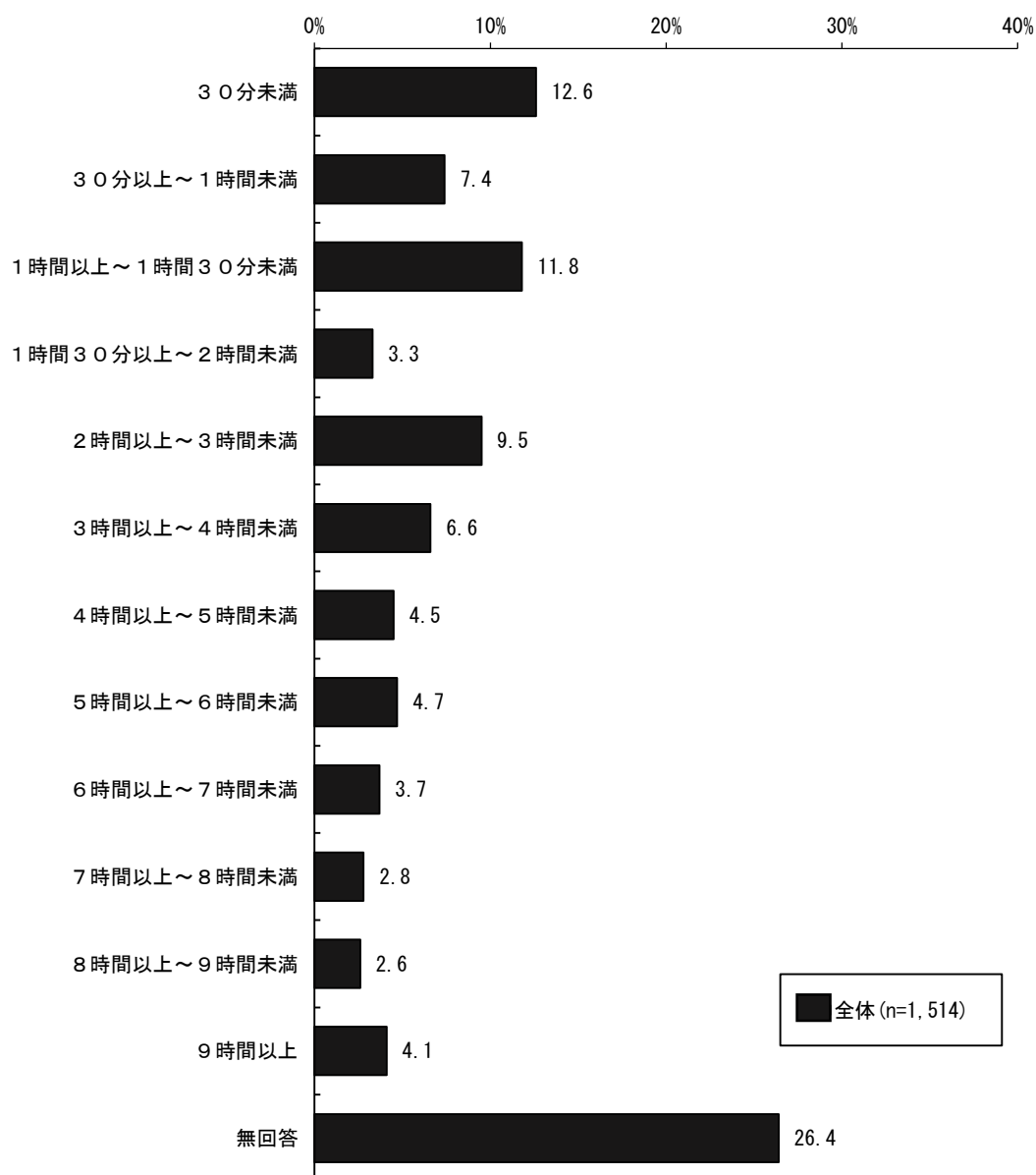
よくあった
 時々あった
 なかった
 わからない又は該当しない
 無回答

問 24 「令和 3 年社会生活基本調査」(総務省)によると、全国の 6 歳未満の子どもがいる夫婦の 1 日あたりの家事・育児時間の平均は、女性が 7 時間 28 分、男性が 1 時間 54 分となっています。あなたの 1 日あたりの家事・育児にかかるおおよその時間を記入してください。

① 平日

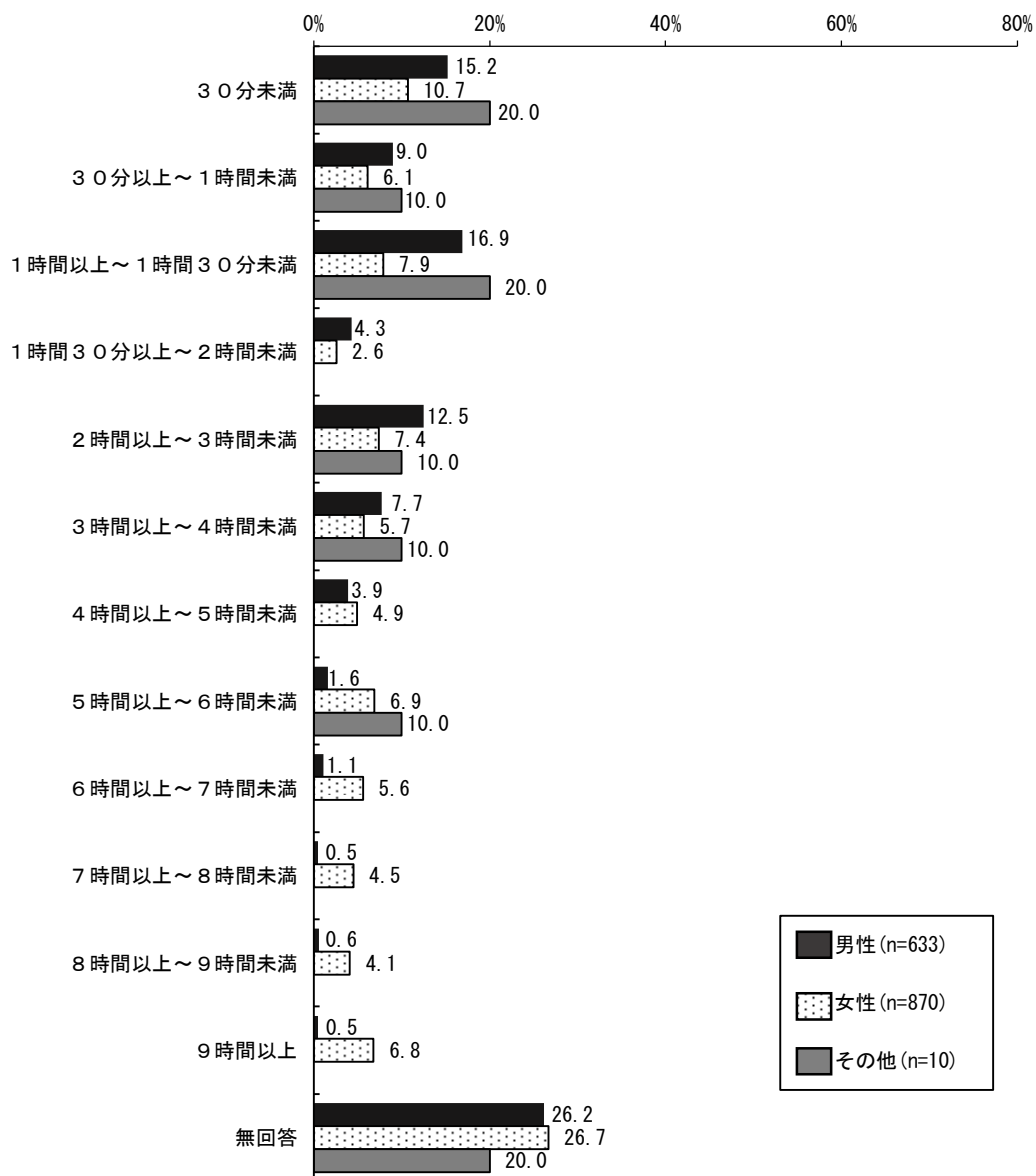
【全体】

○無回答を除き、「30 分未満」が 12.6%と最も高く、次いで「1 時間以上～1 時間半未満」(11.8%)、「2 時間以上～3 時間未満」(9.5%) と続いている。



【性別】

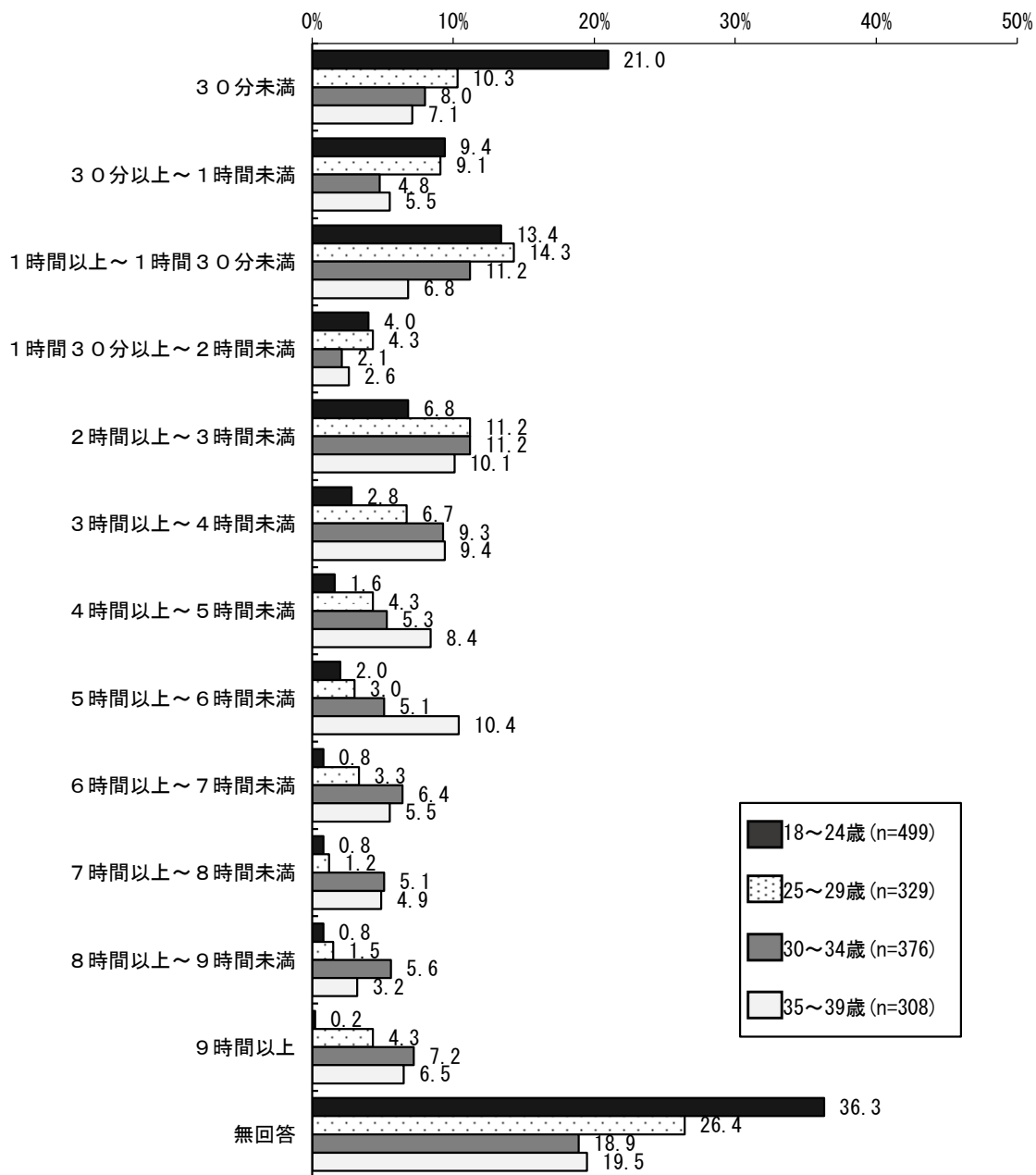
○無回答を除き、男性は「1 時間以上～1 時間 30 分未満」、女性は「30 分未満」が最も高くなっている。



【年代別】

○無回答を除き、18歳～24歳は「30分未満」、25～29歳及び30歳～34歳は「1時間以上～1時間30分未満」が最も高くなっている（30歳～34歳は「2時間以上～3時間未満」が同率）。

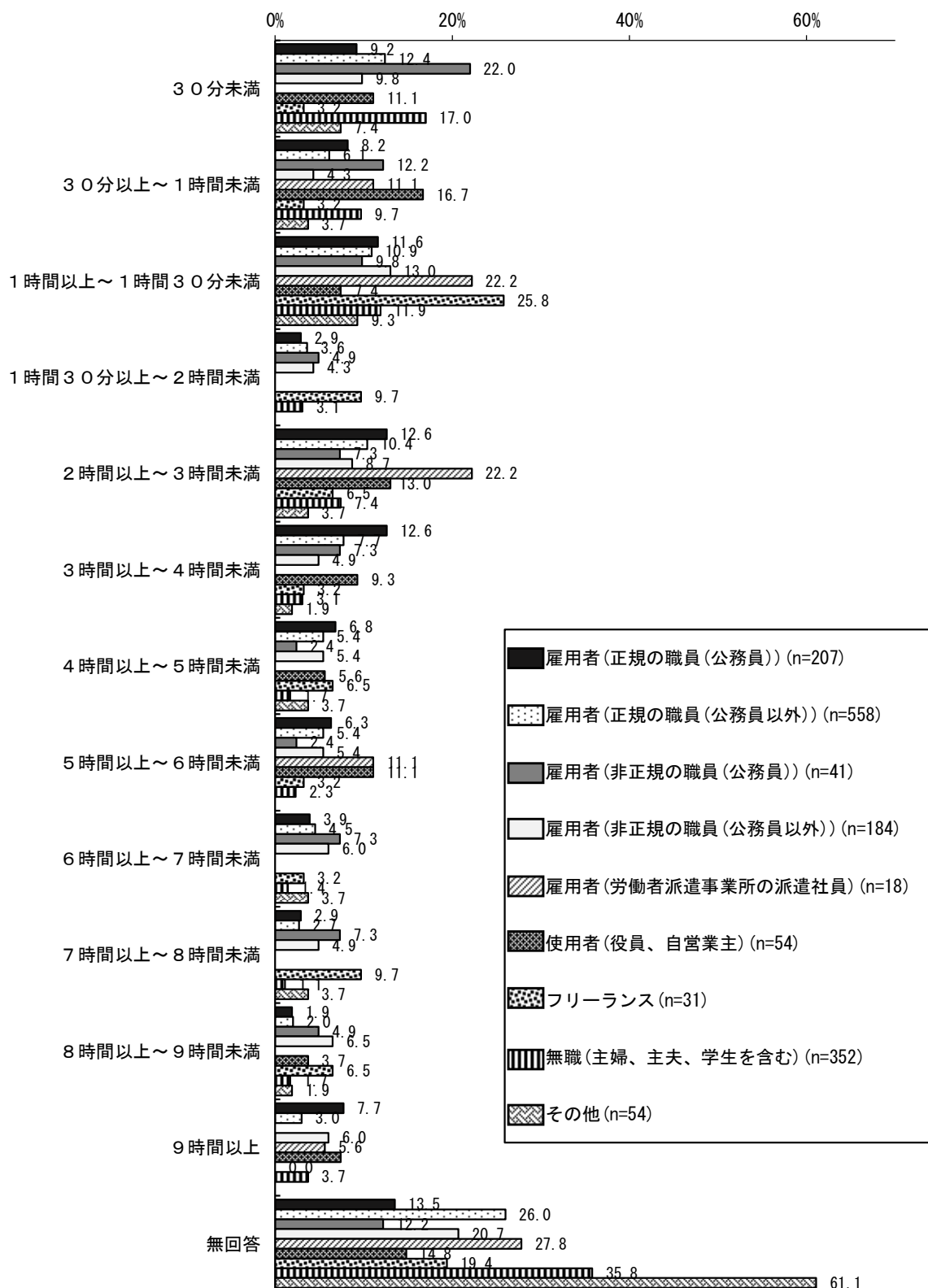
○35歳～39歳は、「5時間以上～6時間未満」が最も高い。



【職業の種別】

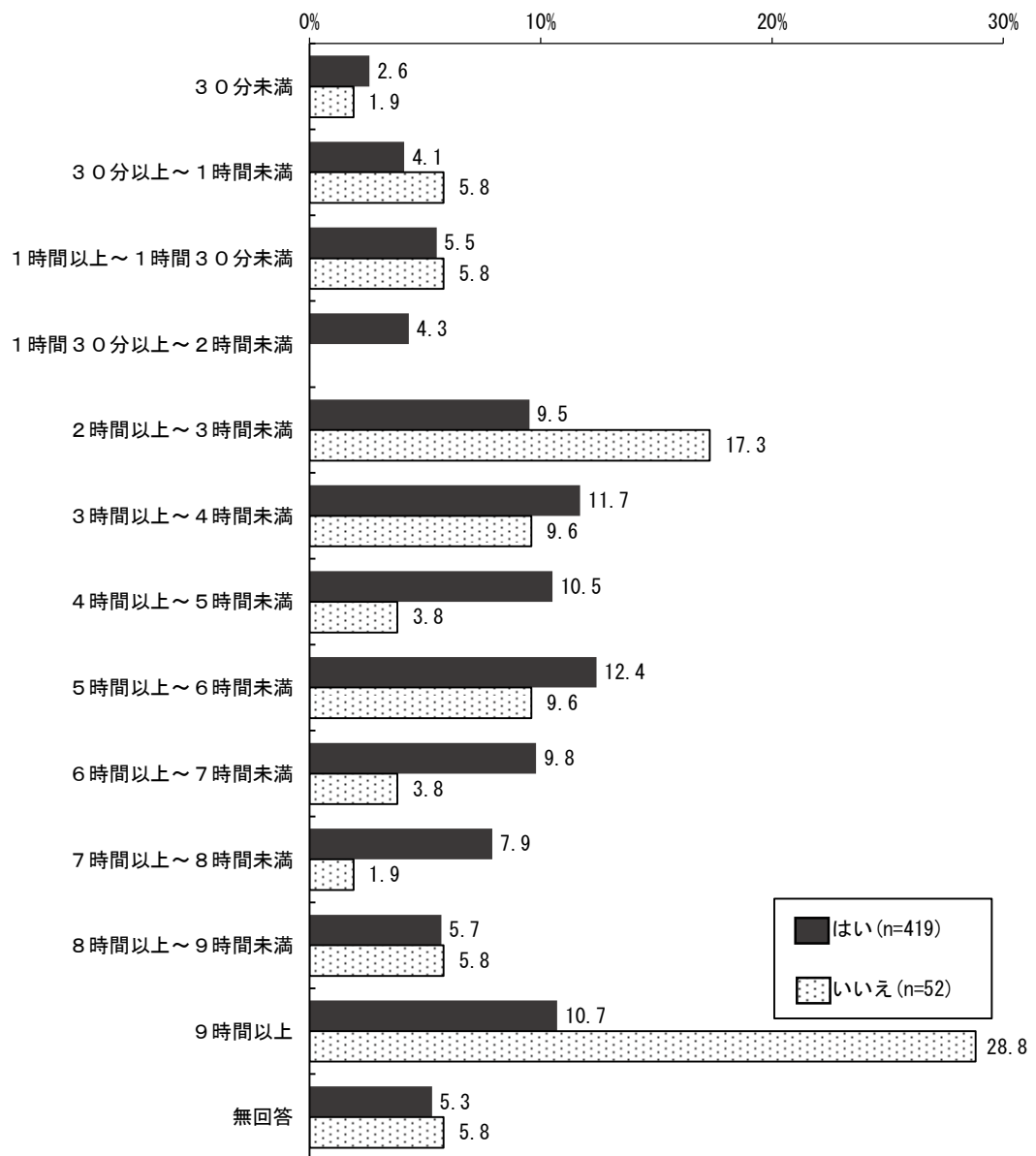
○無回答を除き、雇用者（正規の職員（公務員））及び雇用者（労働者派遣事業所の派遣社員）は「2 時間以上～3 時間未満」、雇用者（正規の職員（公務員以外））、雇用者（非正規の職員（公務員））及び無職（主婦、主夫、学生を含む）は「30 分未満」が最も高くなっている（雇用者（労働者派遣事業所の派遣社員）は「1 時間以上～1 時間 30 分未満」が同率）。

○雇用者（非正規の職員（公務員以外））、フリーランス及びその他は「1 時間以上～1 時間 30 分未満」、使用者（役員、自営業主）は「30 分以上 1 時間未満」が最も高い。



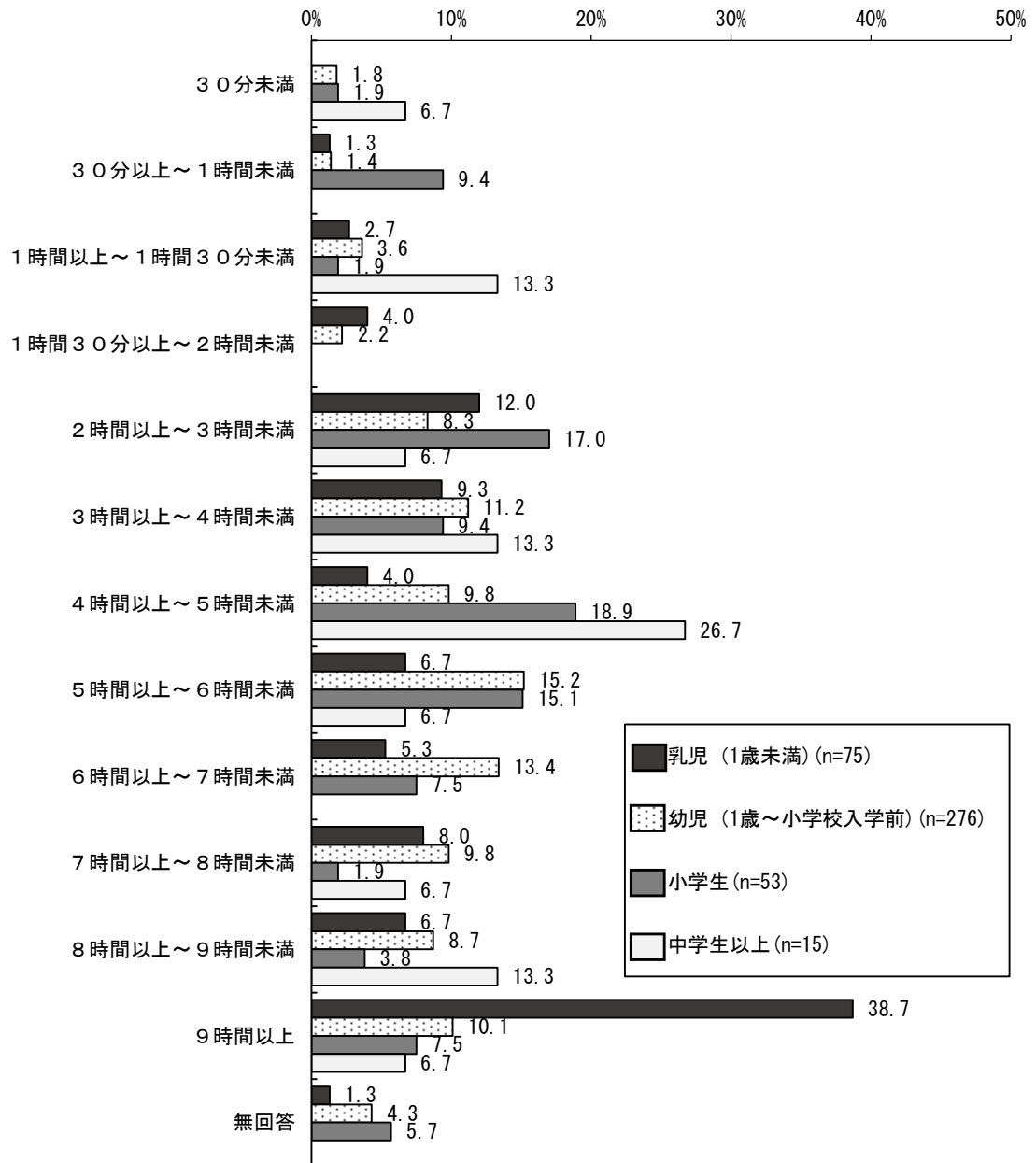
【共働きの有無別】

○共働き世帯は「5 時間以上～6 時間未満」が最も高く、共働きではない世帯は「9 時間以上」が最も高くなっている。



【末子の状況別】

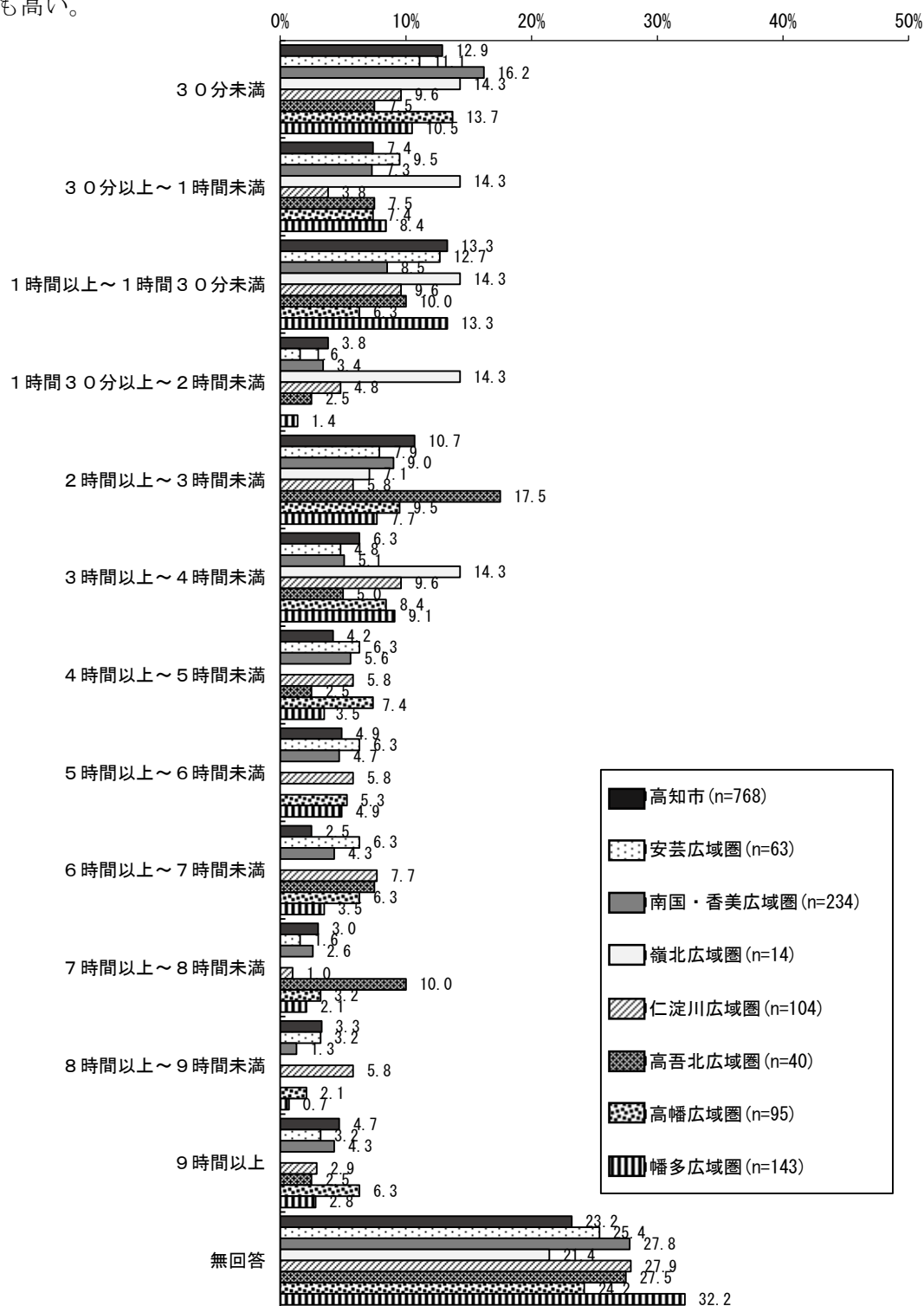
○乳児（1歳未満）は、「9時間以上」、幼児（1歳～小学校入学前）は、「5時間以上～6時間未満」、小学生及び中学生以上は「4時間以上～5時間未満」が最も高くなっている。



【地域別】

○無回答及びサンプル数が少ないため、同率が多くなった嶺北広域圏を除き、高知市、安芸広域圏、仁淀川広域圏及び幡多広域圏は「1 時間以上 1 時間 30 分未満」が最も高くなっている（仁淀川広域圏は「30 分未満」及び「3 時間以上～4 時間未満」が同率）。

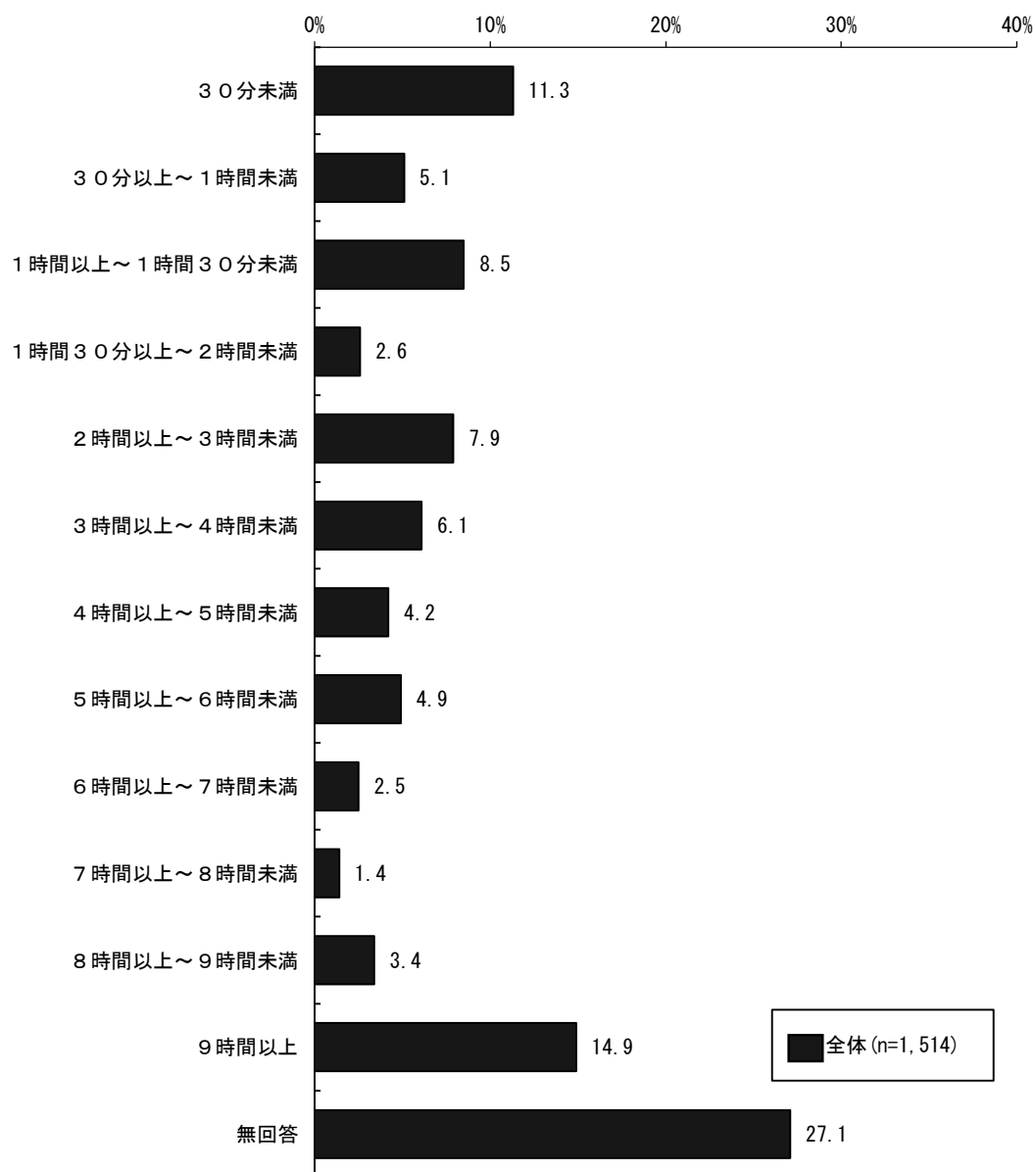
○南国・香美広域圏及び高幡広域圏は「30 分未満」、高吾北広域圏では「2 時間以上～3 時間未満」が最も高い。



② 休日

【全体】

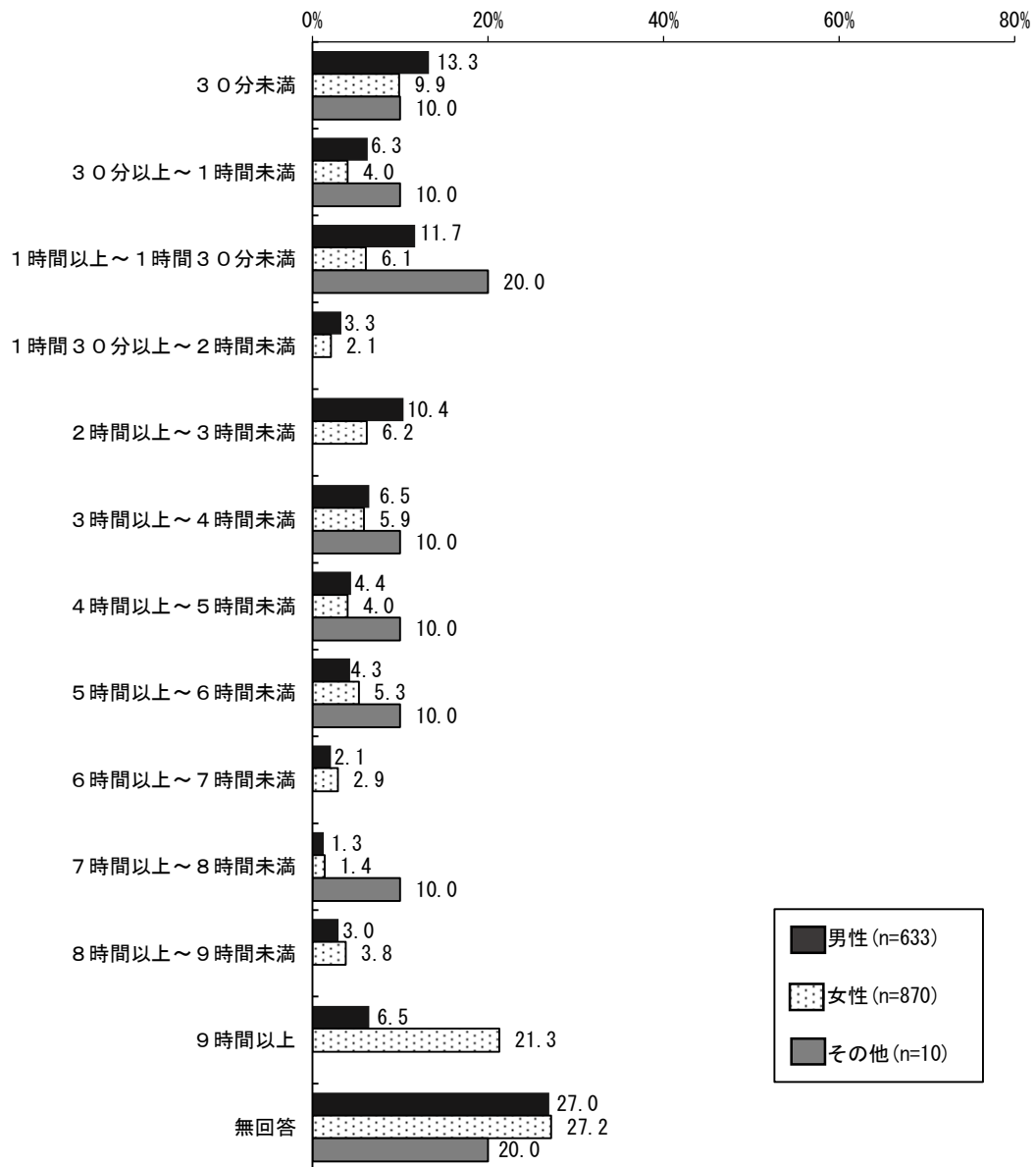
○無回答を除き、「9 時間以上」が 14.9%と最も高く、次いで「30 分未満」（11.3%）、「1 時間以上～1 時間 30 分未満」（8.5%）と続いている。



【性別】

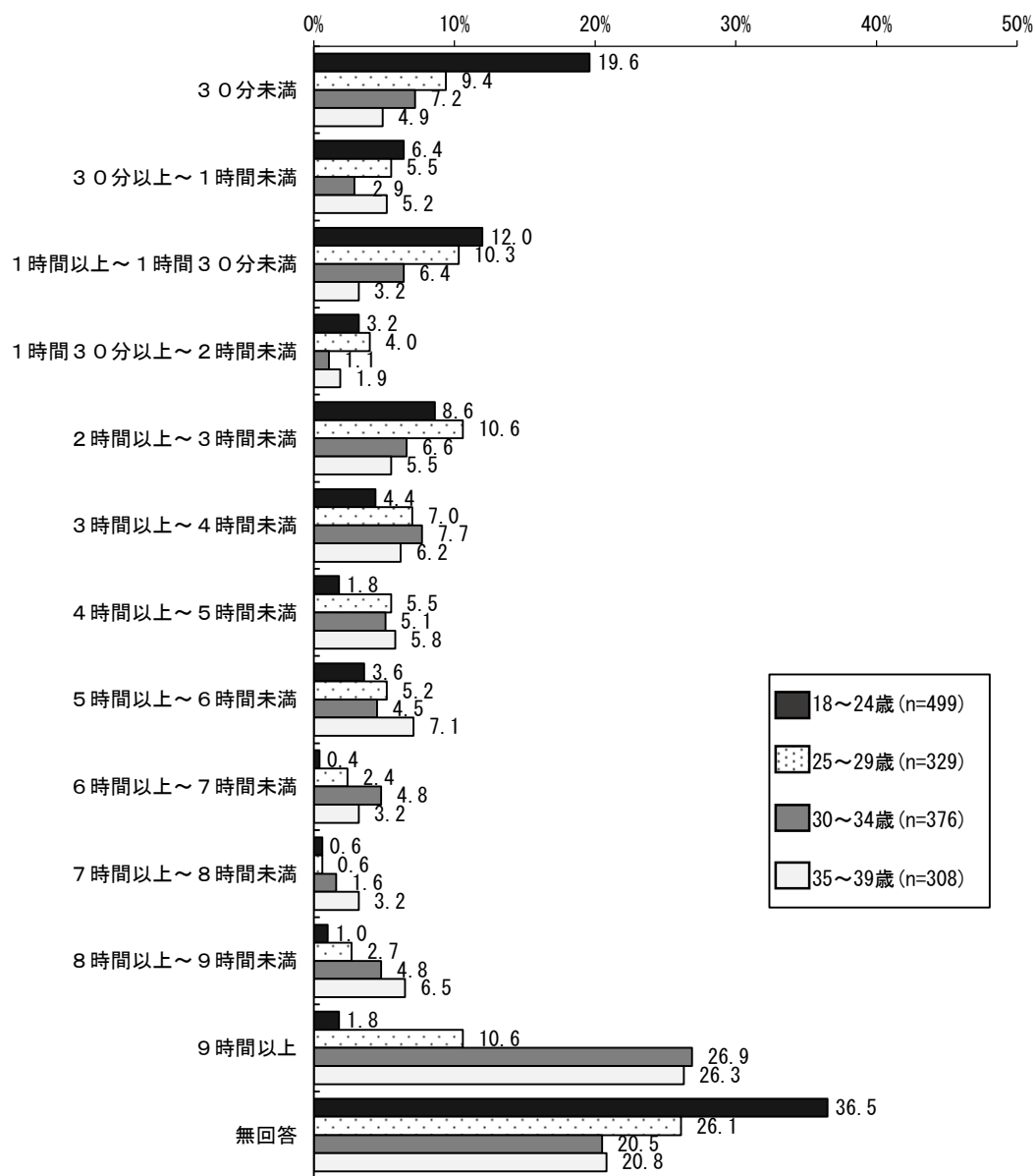
○無回答を除き、男性は「30分未満」、女性は「9時間以上」が最も高くなっている。

○次いで、男性は「1時間以上～1時間30分未満」、女性は「30分未満」が高くなっている。



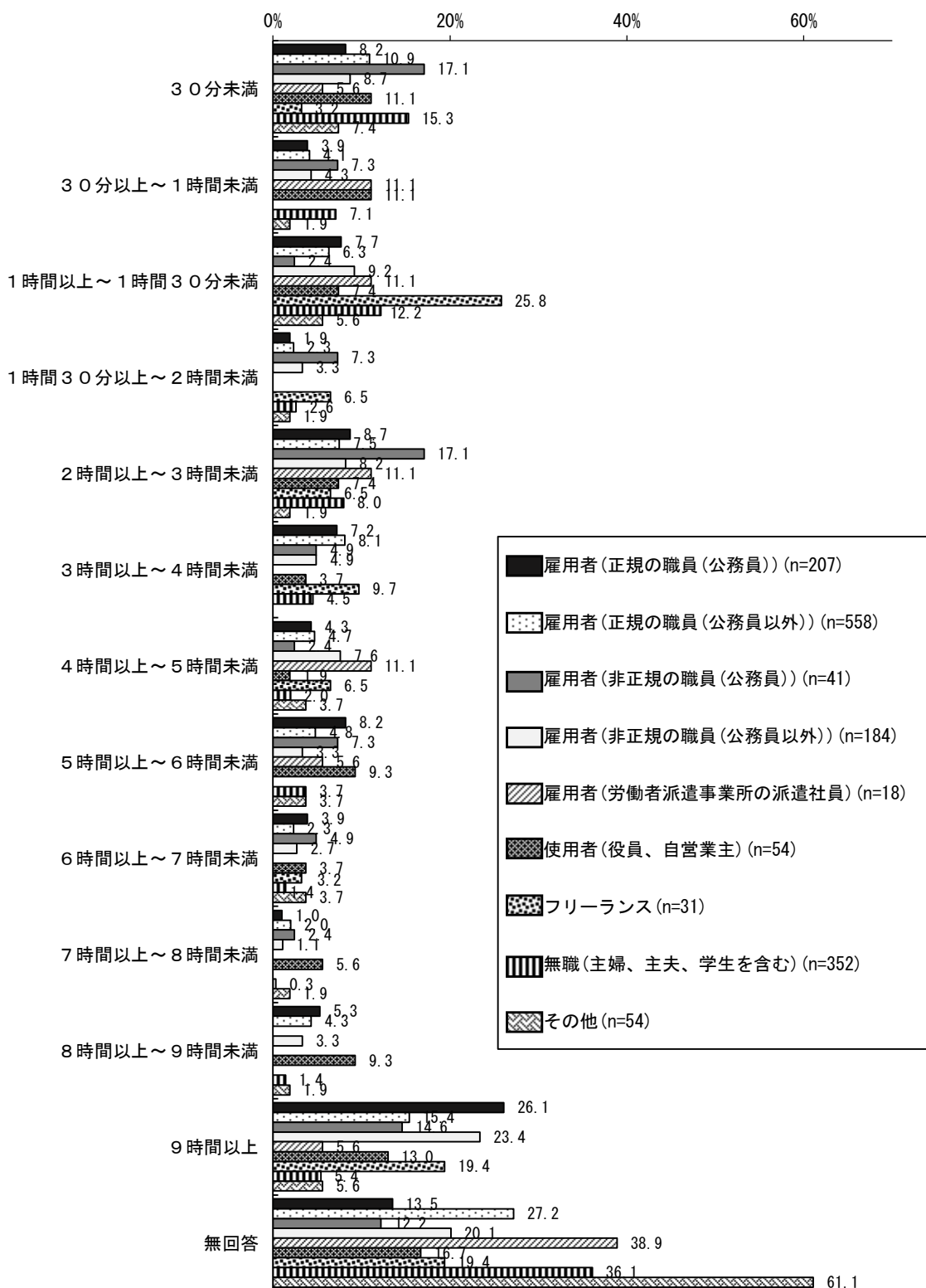
【年代別】

○無回答を除き、18歳～24歳は「30分未満」、そのほかの年代は「9時間以上」が最も高い（25歳～29歳は「2時間以上～3時間未満」が同率）。



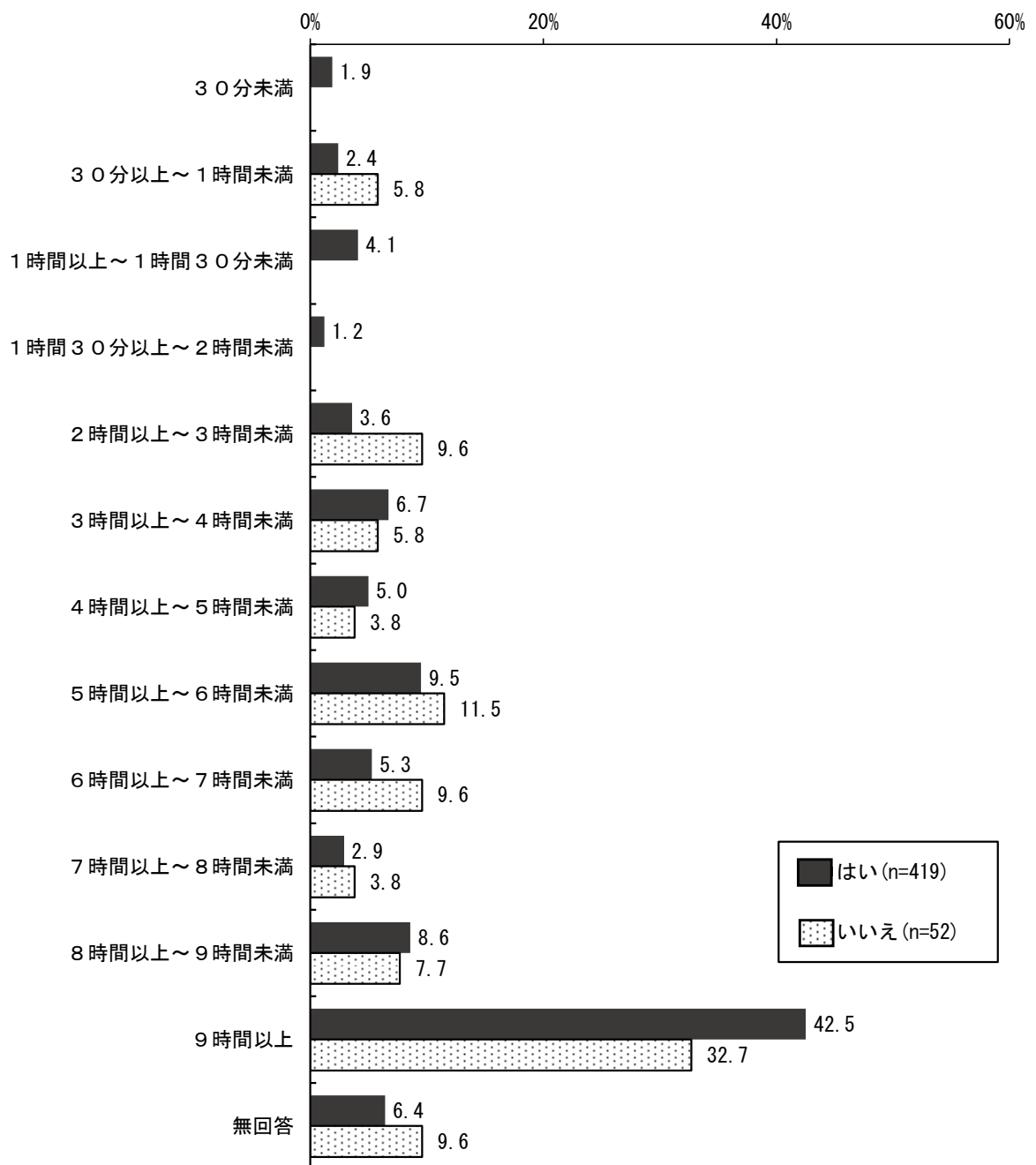
【職業の種別】

- 無回答及びサンプル数が少ないため、同率が多くなった雇用者（労働者派遣事業所の派遣社員）を除き、雇用者（非正規の職員（公務員））、無職（主婦、主夫、学生を含む）及びその他は「30分未満」が最も高く（雇用者（非正規の職員（公務員））は2時間以上～3時間未満）が同率）、フリーランスは「1時間以上～1時間30分未満」が最も高くなっている。
- 上記以外は「9時間以上」が最も高い。



【共働きの有無別】

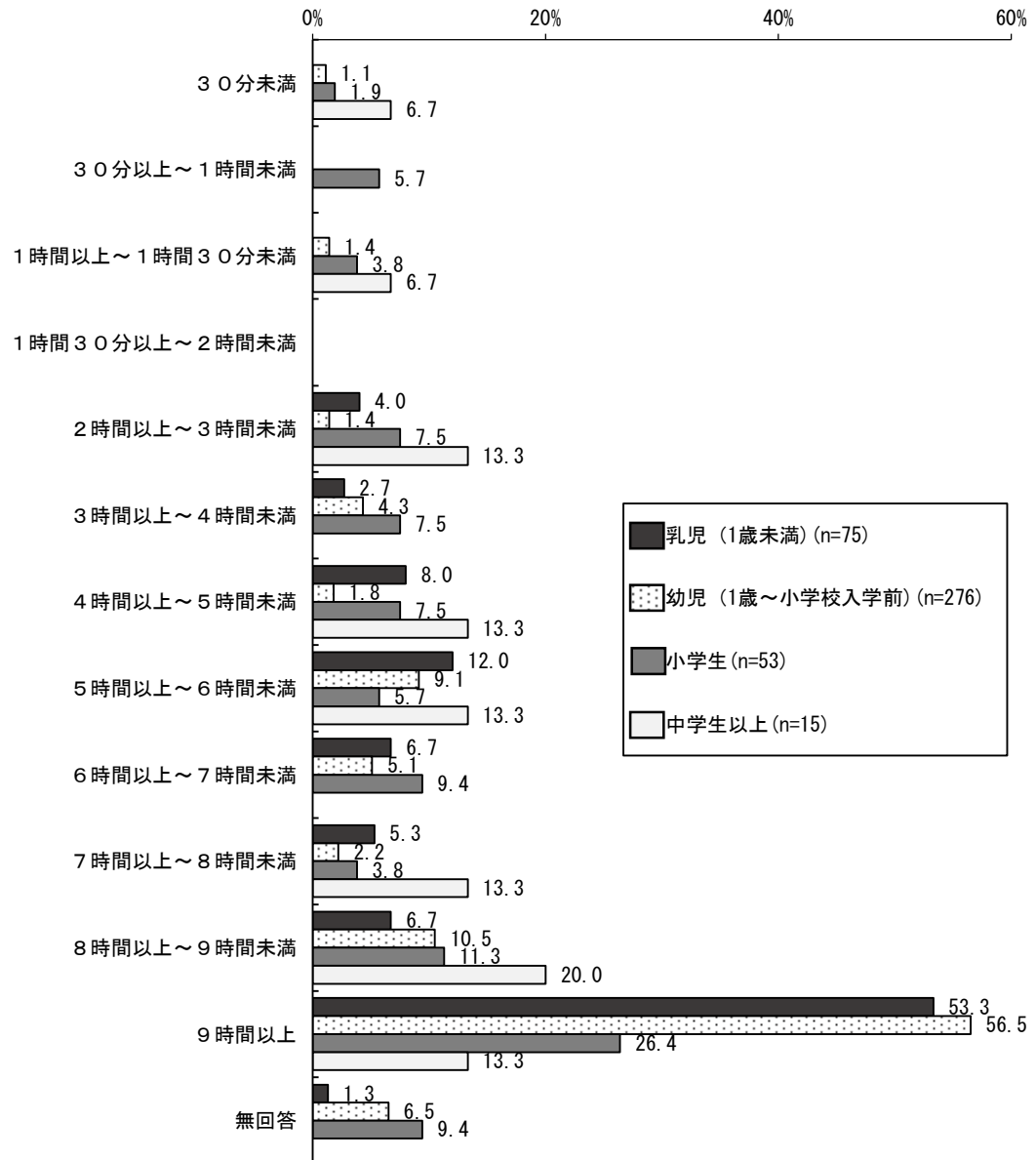
○共働き世帯、共働きではない世帯ともに「9 時間以上」が最も高くなっている。



【末子の状況別】

○乳児（1歳未満）、幼児（1歳～小学校入学前）及び小学生は「9時間以上」が最も高くなっている。

○中学生以上は「8時間以上～9時間未満」が最も高い。



【地域別】

○無回答を除き、嶺北広域圏、高吾北広域圏及び幡多広域圏は「1 時間以上～1 時間 30 分未満」が最も高くなっている。

○そのほかの地域は「9 時間以上」が最も高くなっている。

